TOKYO DENKI UNIVERSITY

2016

東京電機大学理工学部

平成28年度　理工学部主要行事予定

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
4月						1	2	・4/2　入学式 ・4/1,4,5　オリエンテーション ・4/6　前期授業開始 ・4/22,23　新入生研修行事 （学部の授業は行いません）
	3	4	5	6 ①	7 ①	8 ①	9 ①	
	10	11 ①	12 ①	13 ②	14 ②	15 ②	16 ②	
	17	18 ②	19 ②	20 ③	21 ③	22	23	
	24	25 ③	26 ③	27 ④	28 ④	29	30 ③	
5月	1	2 ④	3	4	5	6 ③	7 ④	・5/12学生大会に伴い、午後の授業のみ休講 ・5/15合同体育祭
	8	9 ⑤	10 ④	11 ⑤	12 ⑤午前	13 ④	14 ⑤	
	15	16 ⑥	17 ⑤	18 ⑥	19 ⑥	20 ⑤	21 ⑥	
	22	23 ⑦	24 ⑥	25 ⑦	26 ⑦	27 ⑥	28 ⑦	
	29	30 ⑧	31 ⑦					
6月				1 ⑧	2 ⑧	3 ⑦	4 ⑧	・太線上：前前期 ・太線下：前後期
	5	6 ⑨	7 ⑧	8 ⑨	9 ⑨	10 ⑧	11 ⑨	
	12	13 ⑩	14 ⑨	15 ⑩	16 ⑩	17 ⑨	18 ⑩	
	19	20 ⑪	21 ⑩	22 ⑪	23 ⑪	24 ⑩	25 ⑪	
	26	27 ⑫	28 ⑪	29 ⑫	30 ⑫			
7月						1 ⑪	2 ⑫	・7/23,27　特定日 ・7/1～8/1　学期末試験期間 ・7/28　午前の授業のみ休講 ・7/30、31 オープンキャンパス ・7/30　前期授業終了
	3	4 ⑬	5 ⑫	6 ⑬	7 ⑬	8 ⑫	9 ⑬	
	10	11 ⑭	12 ⑬	13 ⑭	14 ⑭	15 ⑬	16 ⑭	
	17	18	19 ⑭	20 ⑮	21 ⑮	22 ⑭	23 特定	
	24	25 ⑮	26 ⑮	27 特定	28 ⑯午後	29 ⑮	30 ⑮	
	31							
8月		1 特定	2 予備	3	4	5	6	・8/1　特定日 ・8/2　授業予備日 ・8/3～9/14　夏季休業
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
9月					1	2	3	・8/3～9/14　夏季休業 ・9/11　創立記念日 ・9/12　前期成績発表
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14				

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
9月					15 ①	16 ①	17 ①	・9/15　後期授業開始
	18	19	20 ①	21 ①	22	23 ②	24 ②	
	25	26 ①	27 ②	28 ②	29 ②	30 ③		
10月							1 ③	・10/12　授業置換日（月曜日授業）
	2	3 ②	4 ③	5 ③	6 ③	7 ④	8 ④	
	9	10	11 ④	12 月③	13 ④	14 ⑤	15 ⑤	
	16	17 ④	18 ⑤	19 ④	20 ⑤	21 ⑥	22 ⑥	
	23	24 ⑤	25 ⑥	26 ⑤	27 ⑥	28 ⑦	29 ⑦	
	30	31 ⑥						
11月			1 ⑦	2 ⑥	3	4	5	・11/4～11/8 鳩山祭に伴う休講 ・11/5,6　鳩山祭 ・太線上：後前期 ・太線下：後後期
	6	7	8	9 ⑦	10 ⑦	11 ⑧	12 ⑧	
	13	14 ⑦	15 ⑧	16 ⑧	17 ⑧	18 ⑨	19 ⑨	
	20	21 ⑧	22 ⑨	23	24 ⑨	25 ⑩	26 ⑩	
	27	28 ⑨	29 ⑩	30 ⑨				
12月					1 ⑩	2 ⑪	3 ⑪	・12/24　年内授業終了日 ・12/26～1/6　冬季休業
	4	5 ⑩	6 ⑪	7 ⑩	8 ⑪	9 ⑫	10 ⑫	
	11	12 ⑪	13 ⑫	14 ⑪	15 ⑫	16 ⑬	17 ⑬	
	18	19 ⑫	20 ⑬	21 ⑫	22 ⑬	23	24 ⑭	
	25	26	27	28	29	30	31	
1月	1	2	3	4	5	6	7 ⑮	・1/7 授業再開 ・1/7～1/30 学期末試験期間 ・1/13～14 センター試験に伴う休講 ・1/21　授業予備日 ・1/24,26,28 特定日 ・1/30 後期授業・試験終了
	8	9	10 ⑭	11 ⑬	12 ⑭	13	14	
	15	16 ⑬	17 ⑮	18 ⑭	19 ⑮	20 ⑭	21 予備	
	22	23 ⑭	24 特定	25 ⑮	26 特定	27 ⑮	28 特定	
	29	30 ⑮	31					
2月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28					
3月				1	2	3	4	・3/3　卒業発表、進級発表 ・3/17 卒業式（予定）
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		

◯　授業置換日（他の曜日の授業を行います）

□　特定日（授業・補講は行われません。学期末試験等を行います）

授業を行わない日

※　長期休業期間は、集中講義・補講を実施する場合があります。

※　予定のため変更の可能性があります。変更の場合は「DENDAI-UNIPA」等でお知らせします。

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧　2016

【（公財）大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について】

認証評価制度は、2002（平成 14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7 年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成 16）年に導入されました。

本学は、2009（平成 21）年度に（公財）大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2010（平成 22）年 4 月 1 日～ 2017（平成 29）年 3 月 31 日）されました。

また、2013（平成 25）年 5 月には、本学の教育・研究の現状について、産業界を含む外部学識者委員による客観的な視点による「外部評価」を受審し、好評価を得られました。

そして、2016（平成 28）年度に第 2 回目となる（公財）大学基準協会（認証評価機関）による認証評価を受審する予定です。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学 理工学部

この学生要覧は卒業するまで使用しますので、大切に取扱いください。

学生要覧　目次

第１章 はじめに

学長より …… 2
理工学部長より …… 3
東京電機大学の沿革と理工学部・理工学研究科の構成 …… 4
大学・大学院英文名 …… 6
知っておいて欲しいこと …… 7
気をつけて欲しいこと …… 14

第２章 学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ …… 18
彩の国大学コンソーシアム …… 19
ホームページ …… 20
授業科目 …… 21
授業 …… 24
履修 …… 29
再履修 …… 38
試験 …… 39
成績 …… 42
学生アドバイザーによる学修指導 …… 45
単位認定 …… 46
進級と留年 …… 50
卒業要件 …… 52
学生ポータルサイト「ＤＥＮＤＡＩ－ＵＮＩＰＡ」…… 57
・学生ポータルサイト「ＤＥＮＤＡＩ－ＵＮＩＰＡ」…… 59
・「ＤＥＮＤＡＩ－ＵＮＩＰＡ」へのアクセス・ログイン …… 62
・掲示の確認方法 …… 68
・シラバスの閲覧 …… 75
・Ｗｅｂによる履修登録方法 …… 79
・出席の確認方法 …… 94
・成績の確認方法 …… 96
・アンケート回答 …… 99
・連絡先の変更 …… 102
・クラスプロファイル（授業資料・課題提出等）…… 106
人間形成科目群・英語科目群・学部共通科目群 …… 115
履修モデル
授業科目配当表
専門教育科目（履修モデル・科目配置図・進級条件・授業科目配当表）
理学系 …… 137
生命理工学系 …… 159
情報システムデザイン学系 …… 173
電子・機械工学系 …… 201
建築・都市環境学系 …… 217
資格 …… 233

第３章 教職課程

教職課程とは …… 240
大学入学から免許状取得まで …… 241
取得できる免許状の種類・教科と取得しやすい学系 …… 242
履修要件 …… 242
教職課程の履修手続 …… 251
教育実習 …… 253
免許状の申請・交付 …… 255
教職課程授業科目配当表 …… 256

第４章 学籍と学費

学籍について …… 258
コース制とコースの選択 …… 260
学費について …… 262

第 5 章 学生生活について

事務取扱事項と取扱時間 …… 266
連絡・呼出し …… 267
届け出・願い出 …… 268
証明書の交付 …… 270
保険制度 …… 272
奨学金制度 …… 274
学生相談 …… 278
学習サポートセンター …… 280
健康管理 …… 281
スポーツ施設 …… 283
学生生活支援 …… 284
課外活動 …… 285
学割証（学生旅客運賃割引証） …… 286
アルバイト …… 287
留学・海外語学研修 …… 289
ハラスメント防止宣言 …… 291

第 6 章 総合メディアセンター

総合メディアセンター …… 296

第 7 章 就職・進学

就　職 …… 310
進　学 …… 318
科目等履修生 …… 319
編入学者 …… 319
卒業後の各種証明書の申請について …… 320
後援会 …… 321
校友会 …… 322

第 8 章 大学院

大学院入学のすすめ …… 327
修士課程
理学専攻 …… 328
生命理工学専攻 …… 330
情報学専攻 …… 332
電子・機械工学専攻 …… 334
建築・都市環境学専攻 …… 336
・内容と特色　・教員一覧

第 9 章 埼玉鳩山キャンパス案内図

埼玉鳩山キャンパス案内図 …… 340
埼玉鳩山キャンパス教員室一覧 …… 350
教員一覧 …… 352

第 10 章 学則および諸規程

東京電機大学学則 …… 358
東京電機大学理工学部規則 …… 372
学生生活についての規程 …… 375
部室使用に関する内規 …… 378
試験に関する細則 …… 380
特別奨学生規程 …… 383
理工学部学生の車両通学に関する取扱細則 …… 385
東京電機大学　校歌・学生歌・理工学部讃歌 …… 388

本学の建学の精神

「実学尊重」

1907 年（明治 40 年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

本学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949 年（昭和 24 年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

東京電機大学の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

本学に所定の期間（※）在学して、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位を授与します。

(1) 専門分野の科学技術の知識と技術をもつこと。
(2) 課題に挑戦し、解決する実践力をもつこと。
(3) 理工系の幅広い基礎知識をもつこと。
(4) 科学技術と人間・社会との関わりを理解すること。
(5) グローバルな視野をもつこと。

（※）4 年

東京電機大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

教育課程を、学位授与の方針（1）～（3）を実現する専門教育と（3）～（5）を実現する大学教育に分け、以下のように教育課程を編成・実施します。

（1）専門教育として、各学部・学科・学系ごとに、その教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。

（2）課題解決型学習を取り入れ、課題解決能力を涵養します。

（3）理工系の基礎知識を涵養する科目を配置します。

（4）豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的とした科目を配置します。

（5）グローバルな環境で意思疎通できる能力を涵養します。

理工学部理工学科の人材養成に関する目的ならびに教育研究上の目的

１．人材養成に関する目的

本理工学部は、人材養成の基本目標（教育理念）として、「未来型科学技術者の養成」と「人間性豊かな社会人の育成」を掲げています。

『未来型科学技術者の養成』

急速に進展する科学技術に先駆け、創造的かつ自由な発想と自発性・自律性、複眼的思考力による問題の発見・解決力、科学技術と人間・社会との調和を考える力を有する「科学技術に関わる個性と資質・活力を有する未来型科学技術者」を育成します。

『人間性豊かな社会人の育成』

社会をリードする良識ある人間性、環境と共生への倫理性、福祉への眼差し、ボーダレス的実行力、対人的及び国際的コミュニケーション能力、リテラシー駆動力、健康な心身などを備えた「21 世紀を生きる人間としての資性・感性を有する人間性豊かな社会人」を育成します。

２．教育研究上の目的

時代に即した効果的な教育研究を推進するため、「理工学科」の基軸となる部門を理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系の 5 つの学系とし、従来の教育研究分野の相乗的融合を図り、創造性豊かな技術者を育成します。さらに、相互の学系間の連携を図ることにより、異なった研究分野の交流を活発にしながら、幅広い専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成していくことを目標とします。

大学科制により、学問分野を横断した基礎教育科目を設置し、現代社会を支える科学技

術とその根源にある理学を軸とした基礎的な知識と技術の習得を図るとともに、社会が必要とする高度専門技術者・科学者を養成するため、5 学系（部門）を編成し、多数の専門コースで学系を構成します。

理工学部理工学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部は、人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけ、理工学分野における幅広い視野と専門力を兼ね備えた科学技術者を輩出し、科学技術社会の永続的発展に寄与するため、本学部に所定の期間在学し（※）、所要科目 124 単位以上を修得して、以下の能力を身につけた者に対して、学士の学位を授与します。

(1) 国際的に通用する人材としての基本的な語学力と広い教養、理工学に関する基礎学力を身につけていること。

(2) 専門分野の基礎知識に加え、より専門的な知識と技術、さらには関連する周辺領域や学際領域の素養を身につけていること。

(3) 課題と問題の内容を理解し、その課題・問題を解決するための考える力を有し、文章並びに口頭でわかりやすく表現できること。

※標準修業年限は 4 年。

理工学部理工学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部は、豊かな教養と確かな基礎学力、体系的な専門知識の修得を基本とし、さらには、単一の学問体系にとらわれない柔軟な思考力、多様な問題に対処できる能力の育成を目指し、以下に基づき教育課程を編成し、実施します。

(1) 技術者に必要とされる英語力や、人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけるため、「英語科目」及び「人間形成科目」を配置します。

(2) 理工学に関する基礎学力、すなわち専門を深く学ぶ際の素地となる科目を「学部共通科目」として、学部全体に配置します。

(3) 専門分野の基礎知識と学力を身につけるための科目を「学系共通科目」として、各学系に配置します。

(4) 各学系における、より専門的な区分（コース）に沿って、より専門的な知識と技術、問題解決能力、周辺領域及び学際領域に関する知識を身につけるための科目として、「コース専門科目」を配置します。

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集
   個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。
2. 個人情報の利用
   個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。
3. 個人情報の提供
   個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。
4. 個人情報の管理
   個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。
5. 個人情報に関する請求への対応
   個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。
6. 個人情報保護の推進等
   個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

個人情報の取扱いについて

「個人情報保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

(イ) 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
(ロ) 正課授業および正課外活動のため。
(ハ) 学籍（進級・休学・退学・除籍）管理、学生証発行、履修関連業務、試験の実施、成績処理、学位（申請・審査・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
(ニ) 学生の健康管理、学園祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行なうため。
(ホ) 学生に対するキャリア･就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
(ヘ) 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送（成績通知書の送付を含む）、電話・メールなどでの連絡のため。
(ト) 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
(チ) 官公庁等の調査依頼に対する回答のため。
(リ) 学生本人および保証人に対して、本学（本学組織含む）ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
(ヌ) その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
(ル) その他法令に基づく場合。

第１章

はじめに

科学技術により社会貢献を果たしてください

学長　安田　　浩

東京電機大学は、社会が必要とする科学技術に関わる「実学」を尊重することを建学の精神として、1907 年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が、「技術で社会に貢献する人材を養成し国を発展させること」を目指して、神田に創立した電機学校が母体となっています。東京電機大学は、さらに初代学長の丹羽保次郎先生の名言である、「技術は人なり」を教育・研究の理念とし、建学の精神を連綿と受け継ぎ、学園の使命を果たしてまいりました。

本学は現在、工学部、工学部第二部、理工学部、情報環境学部、未来科学部の 5 学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の 4 研究科（大学院修士課程）、および先端科学技術研究科（大学院博士課程後期）を擁しています。すでに学園創立 100 周年を超え、卒業生は 20 万人以上にのぼり、社会から高い評価を得ております。

現代は、社会活動、産業活動のすべての活動において、科学技術の知識を必要とする時代であり、知識自体が価値を持ち、さらに知識に基づく創案が付加価値を生み出す、「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術知識の修得さらには新たな科学技術知識の創案が、現代の「実学」であることは明らかです。本学は、この「実学」に長じて社会を支える科学技術者を養成することと、新たな科学技術知識を創案してより社会に貢献すること、により重要な役割を果たしてきました。

これから皆さんは、科学技術の基礎と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献されることを期待しています。大学時代は、人生で一番効率良く多くの知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。本学卒業後、最新知識と技術を駆使するために、まずは数学のような基礎学問の修得、さらにこれに加えて専門学問の修得に励んでください。

科学技術者として社会で活躍するためには、上で述べたように自分の専門に関する知識を修得するだけでなく、それを活用する能力も身につけてください。これに加えて、専門以外の種々の関連分野にも興味を持ってください。あなた方が社会にでて直面する課題のほとんどは、環境、資源、エネルギー、情報等、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されないからです。

ほとんどの活動現場において、起案、研究、実用化、生産、販売を一つの国ないし地域の中でのみ行うことはまれになり、科学技術者も国際的な活動が求められる時代となり、国際的なコミュニケーション能力は必須になってきています。このような状況から、専門の修得は当然ですが、これに加えて、外国語に堪能になりかつ異文化を理解する能力を持つことが必要なことも、しっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。本学卒業後、国際的な技術者として活躍できるように、意欲を持って大学生活に取り組んでください。

理工学部で学ぶということ

理工学部長　柏﨑　尚也

皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが新たなステップを志して東京電機大学理工学部に入学されて、私たちと巡り会えたことを心より祝福いたします。皆さんが大学院に進学する時、または就職する時に「ああ、本当に私は運が良かった。」と思えるように、私たちは皆さんをサポートしていきたいと思いますし、皆さんも充実したキャンパスライフを送ってもらいたいと思います。特に私も東京電機大学の卒業生ですから、皆さんが、東京電機大学理工学部を踏み台にして大きく世界に羽ばたいて欲しいと願います。

折角の機会ですので、ここでは皆さんがキャンパスライフを過ごす上でのいくつかについて話してみたいと思います。

論語の衛霊公第 15 に以下のような一節があります。

子曰、不曰如之何、如之何者、吾未如之何也已矣。
（子曰わく、之をいかんせん、之をいかんせんといわざる者は　吾、之を未だいかんすることなきのみ）
（孔子は言った、これをどうしたらいいだろう、どういうことだろうと思案し工夫しない人に、
私は、未だ手助けをしてあげられたためしがないのだ）

大学で学ぶという事の第一は、この論語の一節に尽きます。今まで高校の先生が丁寧なプリントを用意されて、皆さんは受け身の授業を受けていたかもしれません。大学でも授業は似たように進みますが、大学では、自分で学び解釈し理解していく姿勢が大切です。「一を聞いて十を知る」ことができるのも、一の前に百も悩んでいるからです。目の前の問題に対峙できる人材が望まれています。悩み自ら学べる習慣を身につけてください。

よく、将来の目標が定まらないので勉学に意欲がわかないとか、将来が保証されていないので勉学が無意味に感じるとかと悩む学生さんがいます。多かれ少なかれ五月病というのも漠然とした不安をもつものですが、次のように考えてみたらどうでしょう。

天命に安んじて　人事を尽くす　（清沢満之　1863 － 1903）
（私の天命はなにか分からないけれども、今私にできることを私なりに精一杯しよう）

将来、何になりたいと思う事は大切ですが、思い当たるものがなかったとしても、今できることをひとつひとつすることが、きっとあなたの天命に繋がるのですよ、というのです。今の時間を大切に、不平を言わず一歩ずつ歩んで行くことを願います。きっと、あなたらしい道が見えてくると思います。

さて、高校までと違い大学は自由です。一人暮らしを始める方もいるでしょう。そして、比較的開放的で自由になりますから遊ぶ機会も増えるでしょう。是非、仲間をつくって大いに遊んでください。大学時代の友人は一生の友になります。就職した後でも仕事で助け合うことも少なくありません。学内に限らず他大学の友人をつくるのもいいでしょう。できれば異性の友だちもつくってください。みなさんは、もう大人として異性の気持ちをわかるようにならなくてはなりません。積極的に留学生とも友達になってください。民族の違いを受け止めることができるようになるのは大切です。そして、いつかはみなさんも留学してみる機会があるといいですね。皆さんが良い友だちとめぐり逢えますように願っています。

それでも、いろいろなトラブル、悩みがあると思います。事務室の職員、学系の教員が相談にのってくれますので、臆せずに話してみてください。本館３階の学部長室もドアを開けておきますので、気軽に話にきてください。メールでも結構です。[deans@ml.dendai.ac.jp]

東京電機大学の沿革と理工学部・理工学研究科の構成

1907.9.11(明治40年)	・東京・神田に電機学校創立
1949.4（昭和24年）	・東京電機大学開設＜工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置＞
1950.4（昭和25年）	・東京電機大学短期大学部開設＜電気科第二部設置＞
1952.4（昭和27年）	・工学部第二部開設＜工学部第二部電気工学科設置＞
1956.2（昭和31年）	・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958.4（昭和33年）	・東京電機大学大学院（夜間）開設＜工学研究科電気工学専攻（修士課程）設置＞
1960.4（昭和35年）	・工学部第一部電子工学科設置
1961.4（昭和36年）	・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
1961.4（昭和36年）	・工学部第二部電気通信工学科設置
1962.4（昭和37年）	・大学院工学研究科博士課程開設＜電気工学専攻（博士課程）設置＞
1962.4（昭和37年）	・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965.4（昭和40年）	・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975.4（昭和50年）	・工学研究科電気工学専攻（修士課程）（昼間）設置
1977.4（昭和52年）	・鳩山キャンパス開設・理工学部開設＜数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置＞
1981.4（昭和56年）	・理工学研究科開設＜数理学専攻（修士課程）・システム工学専攻（修士課程）・建設工学専攻（修士課程）・機械工学専攻（修士課程）設置＞
	・総合研究所開設
1983.4（昭和58年）	・理工学研究科博士課程開設＜応用システム工学専攻（博士課程）設置＞
1984.4（昭和59年）	・理工学研究科数理学専攻（博士課程）設置
1986.4（昭和61年）	・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990.4（平成 2 年）	・千葉ニュータウンキャンパス開設
	・工学研究科情報通信工学専攻（修士課程）・電子工学専攻（修士課程）設置
	・理工学研究科情報科学専攻（修士課程）・応用電子工学専攻（修士課程）設置
1991.4（平成 3 年）	・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程）・物質工学専攻（修士課程）設置
1992.4（平成 4 年）	・工学研究科情報通信工学専攻（博士課程）・電子工学専攻（博士課程）、建築学専攻（修士課程）設置
	・理工学研究科数理学専攻（博士課程）を数理科学専攻（博士課程）に名称変更
1993.4（平成 5 年）	・工学研究科機械システム工学専攻（博士課程）、物質工学専攻（博士課程）設置
	・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
1995.4（平成 7 年）	・工学研究科建築学専攻（博士課程）設置
1997.4（平成 9 年）	・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
	・産官学交流センター設立
1997.6（平成 9 年）	・ハイテク・リサーチ・センター設立
1999.4（平成11年）	・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
	・フロンティア共同研究センター設立
2000.4（平成12年）	・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001.4（平成13年）	・情報環境学部開設＜情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置＞
2001.4（平成13年）	・大学院工学研究科機械工学専攻（博士課程･修士課程）、精密システム工学専攻（博士課程･修士課程）設置
2002.4（平成14年）	・工学部第一部情報メディア学科設置
	・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
	・理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置
	・理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理･情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を知能機械工学専攻（修士課程）に名称変更
2003.4（平成15年）	・理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更
2004.4（平成16年）	・情報環境学研究科（修士課程）開設＜情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置＞
	・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置
	・理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置
	・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
2005.7（平成17年）	・東京電機大学短期大学廃止
	・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止
2006.4（平成18年）	・先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）
	・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
	・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）
2007.4（平成19年）	・学園創立 100 周年（9 月 11 日）
	・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞
	・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）

・理工学部理工学科設置＜4学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）

2008.4（平成20年）
・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）

2009.4（平成21年）
・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞
・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学部理工学科学系再編＜5学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞

2010.4（平成22年）
・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の廃止

2010.9（平成22年）
・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程）の廃止

2011.3（平成23年）
・建設技術研究所の廃止

2011.4（平成23年）
・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修士課程）の廃止
・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止

2012.4（平成24年）
・東京千住キャンパス（100周年記念キャンパス）開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）
・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止

2012.10（平成24年）
・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立

2013.4（平成25年）
・理工学研究科電子・機械工学専攻（修士課程）、建築・都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・工学研究科建築学専攻（修士課程）の廃止
・工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
・理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止

2013.9（平成25年）
・工学部第一部環境物質化学科の廃止

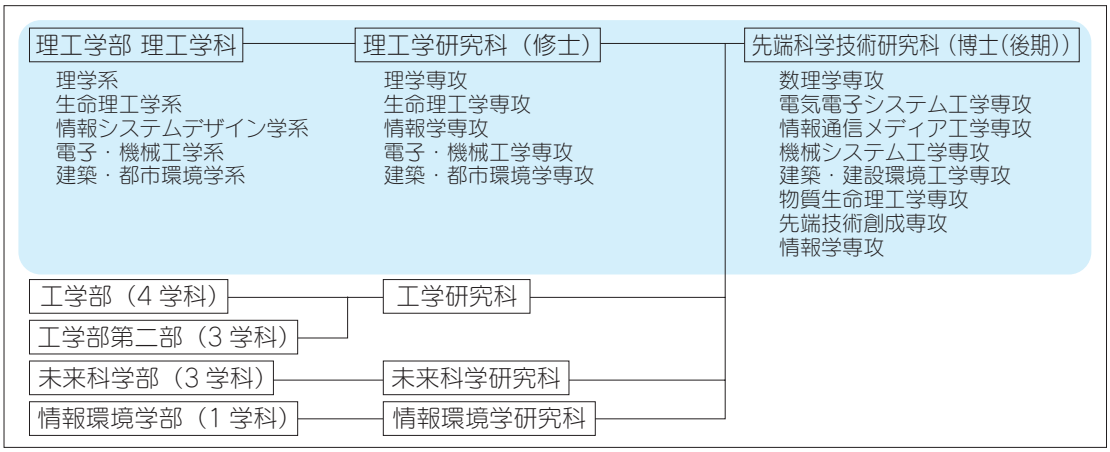
2014.4（平成26年）
・工学部第一部電気工学科の廃止
・理工学部生命工学科の廃止

2014.8（平成26年）
・インスティテューショナル　リサーチ　センター設立

2014.9（平成26年）
・工学部第一部建築学科の廃止
・理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の廃止

2015.4（平成27年）
・工学部第一部情報メディア学科の廃止
・工学部第二部電気工学科の廃止

2015.9（平成27年）
・工学部第一部機械工学科の廃止



大学・大学院英文名

東京電機大学	Tokyo Denki University
理工学部	School of Science and Engineering
理工学科	Department of Science and Engineering
理学系	Division of Science
生命理工学系	Division of Life Science and Engineering
情報システムデザイン学系	Division of Information System Design
電子・機械工学系	Division of Electronic and Mechanical Engineering
建築・都市環境学系	Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering

東京電機大学大学院	Graduate School of Tokyo Denki University
先端科学技術研究科	Graduate School of Advanced Science and Technology
博士課程（後期）	Doctoral Programs
数理学専攻	Mathematical Sciences
電気電子システム工学専攻	Electrical and Electronic Systems Engineering
情報通信メディア工学専攻	Information, Communication and Media Design Engineering
機械システム工学専攻	Mechanical System Engineering
建築・建設環境工学専攻	Architecture, Civil and Environmental Engineering
物質生命理工学専攻	Materials and Life Sciences
先端技術創成専攻	Advanced Multidisciplinary Engineering
情報学専攻	Informatics
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering
修士課程	Master's Programs
理学専攻	Science
生命理工学専攻	Life Science and Engineering
情報学専攻	Informatics
電子・機械工学専攻	Electronic and Mechanical Engineering
建築・都市環境学専攻	Architectural, Civil and Environmental Engineering

知っておいて欲しいこと

1．DENDAI-UNIPA 及び掲示板を毎日確認してください

みなさんへの告示、通知、呼び出しなどは、DENDAI-UNIPA で行われます。

授業教室の臨時変更あるいは休講の連絡などもあります。したがって、DENDAI-UNIPA を見ることは自己責任として自覚しておいてください。

（P 267 参照）

2．学生証について

学生証は、みなさんの身分証明書です。常に携帯してください。 特に、試験時に忘れると受験できませんので注意してください。 その他にも学生証は、授業時の出席確認、通学定期券の購入、各種証明書の発行、総合メディアセンターの利用（図書の貸出、プリントアウトなど）、体育施設など諸施設を利用する際に必要です。 卒業するまで使用することになりますので大切に取り扱ってください。 万一学生証を紛失したときは、直ちに近くの警察署や交番へ届けるとともに、学生厚生担当へ申し出て、すみやかに学生証再発行（有料）の手続きを取ってください。

（P 270 参照）

また、学生証を 2 枚持つことはできません。再発行後に古い学生証が見つかった場合には、速やかに学生厚生担当へ届けてください。

なお、退学、除籍の場合は学生証を直ちに返納してください。

学生証イメージ

3．学籍番号について

学生証に記入された 7 桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの卒業後も生きつづけます。

学籍番号のしくみ

16 R U 9 9 9

個人番号

所属学系記号

入学年度（西暦下二桁）

所属学系記号

学内においては、各学系を簡単にアルファベット記号で表しています。

平成 28 年度（’16）

理学系 ……RU
生命理工学系 ……RB
情報システムデザイン学系 ……RD
電子・機械工学系 ……RT
建築・都市環境学系 ……RG

4．ストライキ等による交通機関の運休時及び自然災害発生時等の授業措置について

(1) 東武東上線がストライキ等により運休の場合

東武東上線がストライキ等により運休した場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

①午前 6 時において

・運休あり ⇒ 第 1・2 時限目の授業は休講

・運休なし ⇒ 平常どおり授業

②午前 9 時において

・運休あり ⇒ 終日休校（第 1 時限目～夜 1 時限目の授業まで休講）※

・運休なし ⇒ 第３時限目以降は平常どおり授業

(2) 台風・大雪等による暴風警報、暴風雪警報または大雪警報が発令された場合

秩父地方を除く埼玉県内に暴風警報、暴風雪警報または大雪警報（以下、警報という）が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

①午前 6 時において

・警報発令あり ⇒ 第 1・2 時限目の授業は休講

・警報発令なし ⇒ 平常どおり授業

②午前 9 時において

・警報発令あり ⇒ 終日休校（第 1 時限目～夜 1 時限目の授業まで休講）※

・警報発令なし ⇒ 第３時限目以降は平常どおり授業

注】午前 6 時を過ぎてから警報が発令されて、午前 9 時においても警報が発令されている場合は、終日休校 (第 1 時限目～夜 1 時限目の授業まで休講) となりますので、通学途中の場合は、自身の安全を確保するように行動してください。

なお、警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及び DENDAI-UNIPA で授業措置の情報を発信します。

(3) その他の緊急事態の場合

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

(4) 上記⑴～⑶の措置を行う場合、大学ホームページ（https://www.cse.dendai.ac.jp/）及び DENDAI-UNIPA へ掲載するので、各自確認してください。

※終日休校の場合は、スクールバスの運行停止、または運行ダイヤの変更を行う場合があります。

5．呼び出し、連絡、照会について

家族・知人などから大学への電話等で、学生の呼び出しを依頼されることがありますが、呼び出しには応じていません。大学では、学生の居場所については明確に把握しかねますので、あらかじめ承知しておいてください。

また、電話等による学生の住所、成績などの問い合わせにも一切応じないことになっています。

6．通学定期乗車券について

通学のために電車・バス等を利用する場合の通学定期乗車券の購入方法は、次のとおりです。

(1) ＪＲ・私鉄の場合

通学途中の主要駅で、駅備付の「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証を添えて駅窓口に提出すれば購入できます。

(2) バス

バス会社によっては大学の通学証明書を必要とする場合があります。その場合には学生厚生担当で証明書を発行しますので申し込んでください。（P 270 参照）

(3) 実習用通学定期

卒業研究、教育実習等により埼玉鳩山キャンパス以外の場所へ一定の期間通学する必要が

生じた場合は実習用通学定期を申請することができます（通常の通学定期と同様に１ヶ月単位での購入になります）。

購入するには学生厚生担当窓口で手続きを行い、各鉄道会社へ申請し、発行許可を受ける必要があります。**鉄道会社から発行の許可が下りるまでは１ヶ月程度かかります**ので早めに（1ヶ月以上前に）手続きを行うようにしてください。

7．スクールバスについて

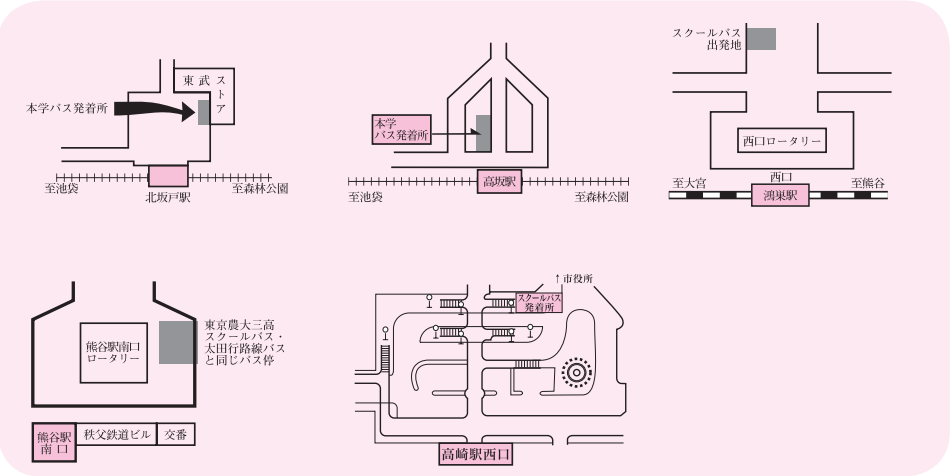
東武東上線高坂駅・北坂戸駅～大学間に、平日・土曜のみ授業時間にあわせてスクールバスを運行しています。運行時刻は大学本館前バス停、高坂駅・北坂戸駅の発着場所に掲示されています。なお、北坂戸駅発着のスクールバスは北坂戸に住んでいる学生を主な対象としています。便数が少ないため、できるだけ高坂駅発着のスクールバスを利用してください。

また、ＪＲ熊谷駅･鴻巣駅･高崎駅（有料）～大学間にもスクールバスを運行しています（原則的に熊谷便は平日･土曜､鴻巣便･高崎便は授業期間の平日のみ）。ただし便数が少ないため、運行時間には注意してください。熊谷便・鴻巣便・高崎便のスクールバスは、道路事情や天候により所要時間や時刻が大幅に変わる場合があるので、利用する学生はその点をよく理解した上、利用してください。

なお、高崎便の利用には乗車券が必要となります。乗車券は、片道 500 円、学期ごとに 30,000 円（募集時期：4 月・9 月）です。乗車券の購入については学生厚生担当窓口で手続きを行ってください。

（※高崎便のスクールバスは、利用状況により、運行が変更になる場合があります。）

スクールバスは、日曜・祝日、大学の休業日は運行しておりません。また運行時刻が変更になることがあります。その場合には DENDAI － UNIPA でお知らせしますので、DENDAI － UNIPA をよく確認するようにしてください。



スクールバスの他、高坂駅から路線バス（有料）も大学まで運行されています。路線バスはスクールバスの運行がない日曜・祝日も運行されています。

路線バス

運行時間帯　：高坂駅発 6：30 頃～大学発 22：50 頃（平日）
土・日・祝日は始発が遅くなり、終発が早くなります。
詳しくは路線バスのバス停で時刻表を確認してください。

運　　賃　：片道￥210（IC カード　￥206、平成 28 年 2 月現在）

8．車両通学

本学では「駐車許可証」の発行を受けていない者の自動車等による通学（一時的な来校を含む）は一切認めていません。

自動車等での通学を希望する場合は、年 2 回（5 月、10 月）行われる「安全運転講習会」を受講し、「車両通学願」を学生厚生担当に提出して許可を受けてください。

なお、「駐車許可証」の発行を受けるには、保証人と連名の「車両通学願」、該当車両の「任意保険証等の写し」、「免許証」の写し等が必要です。

※車両とは、ここでは「四輪」「軽四輪」「自動二輪」「原動機付自転車」を指します。「駐車許可証」の発行を受けていない学生は、車両を運転して大学に来ることは（例え一度でも）できません。

(1) 許可条件

1．公共の交通機関を利用しての通学が困難な者
2．運転免許取得後 6 ヶ月以上経過している者
3．道路運送車両法による 12 ヶ月定期点検整備の適用を受けられる者
4．自動車損害賠償責任および次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000 万円以上	100 万円以上	500 万円以上
自動二輪	5,000 万円以上	100 万円以上	200 万円以上

(2) 駐車許可証

車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。学内に駐車する場合には、この駐車許可証を、四輪車の場合には常にダッシュボード上に提示し、自動二輪・原付の場合には常に携帯していなければなりません。

(3) 自動車・バイク・自転車は指定の置き場に

自動車・バイク・自転車などの車両は必ず学生駐車場（第一・第二・第三・体育館前）・駐輪場に駐車してください。特に来客用駐車場は来訪者にも迷惑をかけ、みなさんの就職にも影響しますので絶対に駐車しないでください。また、バイク・自転車は盗難防止のため錠前をつけるなど各自で防犯対策をとりましょう。

学生駐車場・駐輪場以外の場所に駐車した場合には罰せられますので注意してください。

(4) 違反者の処置

無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令および学内諸規程に違反し、大学の指示に従わない場合は、学則第 50 条に則り退学を含む厳しい処分や処置を行います。

(5) 車両通学は安全運転を心がけましょう

電車やバスなど公共交通機関を利用しての通学が困難な場合には車両通学を認めています。しかしながら、ここ数年、車両事故による残念な報告が後を断ちません。

みなさんは、通学中に尊い生命を失ったり、重傷を負い長期間学業を中断せざるをえなくなったり、また、周囲の方々にも多大な迷惑をかけることをしてはなりません。また、交通ルールを守り、他人の駐車場を使ったり、マナー違反をしないでください。できるだけ車両通学をひかえて電車やスクールバスを利用することを勧めます。

9．無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得なければなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、ビラなどを配布したい場

合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に学生厚生担当に届けてください。

10. 良識をもって行動しましょう

・授業中の私語、居眠り
・授業中の携帯電話・スマートフォン・タブレット等の使用
・カンニング・レポートの丸写し
・遅刻、早退
・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て

これらの行動は、クラスメイトのみならず教職員に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

また、学内に設置してある設備は教室も含め皆さん一人一人の協力のもとに大学側で管理しているものです。こわしたり、盗んだり、汚したりしないよう気をつけてください。

11. キャンパス内は禁煙です

指定の喫煙場所以外では禁煙です。**灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です。**健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

12. 落とし物には気を付けましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるのは約半数に過ぎません。これらの落とし物は、学生厚生担当で保管（期間は物によって異なりますが、最大でも１年間）していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも学生厚生担当に届け出てください。自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にする気持ちを養ってください。

なお、落とし物の保管等は次のとおりです。

・持ち主不明の物　　▶事務室前ロビーの陳列棚の中
・持ち主が明らかな物▶ DENDAI － UNIPA にて呼び出し
・現金等貴重品　　▶学生厚生担当にて保管

気をつけて欲しいこと

1．盗難に注意

大学キャンパスは公共性の高い施設です。学外者も比較的自由に出入りすることができ、盗難事件の発生も懸念されます。各自所持品は常に身近に携帯するよう心掛けてください。

特に校舎や体育館のロッカー等に貴重品や高価な物を留め置くことは絶対に止めてください。各自で利用するロッカーには鍵式の錠前をつけるなどして、防犯対策をとるようにしてください。もし盗難にあった場合には速やかに学生厚生担当に申し出てください。特にキャッシュカードなどを紛失した場合には、カード発行元への連絡も忘れないでください。貴重品の所持には、くれぐれも注意を払ってください。

また、バイクや自転車を学内の駐輪場にとめる際には、錠前をつけるなど各自で盗難防止対策をとるようにしてください。

2．「金融ローン」の利用は注意してください

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高い利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりではなく、両親（保証人）にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親（保証人）などによく相談してください。

3．悪徳商法に注意してください

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話学習用教材の割賦販売、換気扇のフィルター販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者かしっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討したうえで判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

なお、解約に関しては無条件で解約できる**「クーリング・オフ制度」**があることも知っておいてください。（契約書や領収書は解約の際必要になる場合があるので、必ず保管してください。）

このほか悪徳商法には次のようなものがありますので、おかしいと思ったら、まずはっきりと断ってください。

マルチ（連鎖販売取引）商法

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となります。また、最近は投資用ＤＶＤを販売するマルチまがい商法（あと出しマルチ）の被害も発生していますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。

点 検 商 法

「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。

アポイントメント商法

「あなたが選ばれました」と言う電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。

資格取得（士（さむらい））商法

講座を受けるだけで「〇〇資格が取れます。」と言う手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

不安になったり、おかしいな、困ったなと思ったらお近くの消費生活センター等に相談してください。

消費者ホットライン（お近くの消費生活センター等を案内します）

3 桁の電話番号 188 番

独立行政法人国民生活センター

http://www.kokusen.go.jp/

クーリング・オフについて

クーリング・オフとは違約金を払わずに無条件解約のできる制度のことです。

クーリング・オフの期間は、訪問販売…… 8日間
電話勧誘…… 8日間
マルチ商法……20日間
特定継続的役務……8日間
いわゆるエステティックサロン
いわゆる語学教室
いわゆる家庭教師
いわゆる学習塾

通知の方法は、口頭ではなく文書を内容証明郵便または簡易書留郵便等で送付してください。はがきでも可能です。詳しくは国民生活センターのWebサイト（「国民生活センター クーリングオフ」で検索）を見るか、お近くの消費生活センター等へご相談ください。

第２章

学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ

理工学部のカリキュラムは、科学技術の基礎を系統立てて学べるように構成されています。

優れた科学技術者となるためには、幅の広い人間性が必要となります。優れた科学技術者もひとりの人間として優れていなければなりません。そのためには、人文・社会科学の科目や、これからの国際社会を担う人材となるための語学にも、時間をとって勉強することが必要となります。したがって、“幅広く、より専門的に”を心がけて学習することが重要となります。

本学部では今までの教育・研究の実績をもとに、さらには、今後の科学技術の動向、社会からの要望を考慮し、以下のようなカリキュラムになっています。

ガイダンス・教員のオフィスアワー・学習サポートセンター等（P280 参照）を積極的に利用して各自で目標をさだめて履修計画をたててください。

1．卒業単位数を 124 単位としています。
2．多くの科目が選択科目であり、必修科目を少なくしてあります。
3．開講科目の科目名称においては、時代と授業内容にあった科目名称となっています。
4．単位数の計算方法が、学習の負担に応じたものとなっています。
5．人間形成科目・英語科目・学部共通科目・学系共通科目・コース専門科目に関係なく、自由に履修できる単位を 20 単位設けてあります。
6．学部共通科目群では、理工学部において体系的、段階的な勉学を可能にする最も基礎となる入門的知識と技法、さらに基礎知識修得のため、基礎教育科目を特に充実させています。
7．高精細映像システムを幅広く活用した授業を開講しています。

このように、皆さんの履修に関する自由度を大幅に認める一方で、皆さんが履修計画をたてやすいように、「履修モデル」を作成し公表しています。

本章では、主に学修に関する事項を掲載しています。履修に関する注意事項や進級・卒業の条件、科目配当表（科目名・単位数・配当学年・配当期・担当者・履修条件等）が掲載されています。これらは、「履修モデル」や「授業時間割」とともに履修計画をたてる際には、非常に重要ですので、熟読してから計画を作成してください。

もっと詳しい授業計画（シラバス）を知りたい場合は、学生ポータルサイト「DENDAI ー

UNIPA」にあるシラバスで知ることができます。

また、教員免許を取得するための教職課程については、第 3 章で説明してあります。

さらに理工学部には、より高度な学習を学部に引き続き行えるように、大学院理工学研究科が併設されており、修士課程さらには先端科学技術研究科博士課程（後期）に進むことができます。

近年の社会では、理工系の科学者・技術者に大学院修了程度の知識を求める傾向にあるため、進学者が年々増加しています。より高度な科学技術の知識修得を目指すことを期待しています。

彩の国大学コンソーシアム

本学は平成 13 年 10 月 15 日に埼玉県の下記私立大学（18 大学）において「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結びました。この中では単位互換・公開講座を平成 14 年度より実施しており、今後は大学同士協力しあい教育活動・研究活動・学生交流等を行っていく予定です。詳細については掲示でお知らせしますので掲示板を確認してください。

協定大学

跡見学園女子大学・埼玉医科大学・埼玉工業大学・十文字学園女子大学・城西大学・尚美学園大学・女子栄養大学・駿河台大学・西武文理大学・大東文化大学・東京家政大学・東京国際大学・東邦音楽大学・東洋大学・文京学院大学・明海大学・立正大学・東京電機大学

ホームページ：http：//www. saicon. jp/

ホームページ

理工学部のホームページ内にある在学生のページでは、授業関係、学生生活関係、図書・情報サービス等に関する連絡事項等を掲載しております。

ただし、各種の連絡事項は、学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」での確認を必ず行ってください。

アドレス：http：//www. cse. dendai. ac. jp/**（東京電機大学理工学部）**

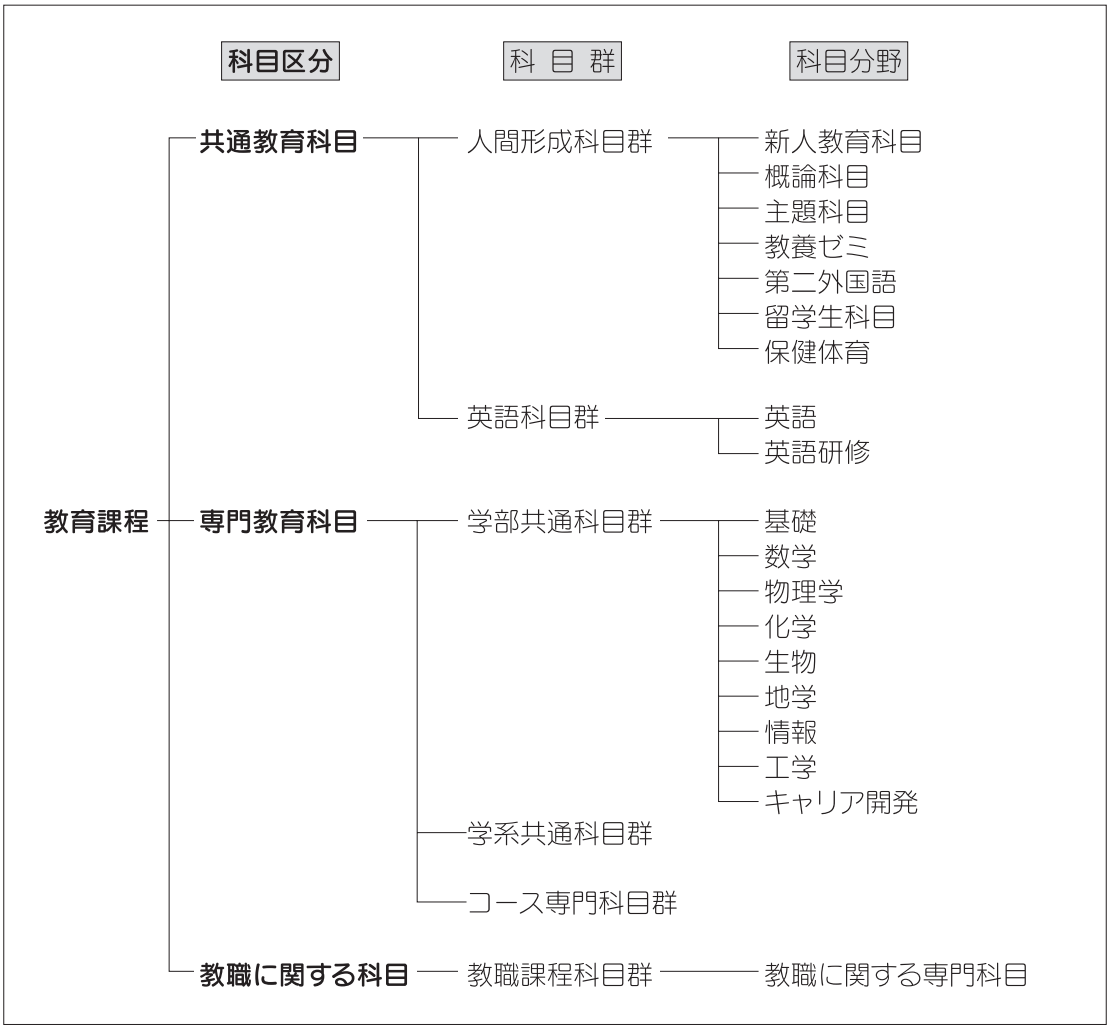
http：//www. cse. dendai. ac. jp/students/**（理工学部在学生のページ）**

※デザインや項目は変更される可能性がありますのでご了承ください。

授 業 科 目

1．教育課程（カリキュラム）

理工学部では教育課程（カリキュラム）を次のように構成しています。



(1) 人間形成科目群

人間形成科目群は、社会の一員としての基礎的な教養を身につけ、人間および社会に対する広い視野と柔軟な思考力を養うために開講されています。将来社会に出て各方面で活躍するためには、専門分野についての知識のほかに、正しい人生観・社会観を培っておくことが必要となります。

(2) 英語科目群

英語科目群は、TOEFL・TOEIC での高得点及び英検等の資格を取得することに力をいれています。また、集中講義として、アメリカのアイオワ大学、コロラド大学、オーストラリアのシドニー大学等での海外英語研修も開催されています。

(3) 学部共通科目群

学部共通科目群は、理工学部で勉学を開始する際に必要な入門的な知識と基礎知識を修得することを目的としています。基礎科目や数学、物理学、化学、生物、地学、情報、工学、キャリア開発の科目が開講されています。

(4) 学系共通科目群・コース専門科目群

学系共通科目群・コース専門科目群は、専門の職業人となるために、専門知識を身につけ、その原理と応用を把握することを目的としています。各学系に配当された専門の授業科目は、学系・コースの個性に応じ、上記の目的をもとに設けられています。

(5) 教職課程科目群

教職課程科目群は、将来高校又は中学校の教育職員になるための教職課程が設けられています。

2．単位数

授業科目の 1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。各授業科目の単位は、授業形態・授業時間外に必要な学修を考慮し、以下の基準により計算します。

① 講義および演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とします。

② 実験･実習･製図および実技については、30 時間の授業をもって 1 単位としています。

③ 卒業研究については、前期・後期を併せ 6 単位（前期 3 単位・後期 3 単位）と定めています。

なお、 1 単位は、45 時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間での学修（予習・復習・課題等）が必要となります。

【講義および演習の場合（1 週間に 1 時限開講の 2 単位科目)】

〔 2 時間（講義 90 分）＋ 4 時間（授業時間外学習)〕× 15 週＝ 90 時間

【実験・実習・製図および実技の場合（1 週間に 1 時限開講の 1 単位科目)】

〔 2 時間（講義 90 分）＋ 1 時間（授業時間外学習)〕× 15 週＝ 45 時間

3．必修科目・選択科目・自由科目（必選区分）

授業科目は、必修科目と選択科目および自由科目に分かれます。

必修科目	単位修得が義務づけられている科目です。卒業するためには必ず単位の修得をしなければなりません。
選択科目	各人の意思により選択履修する科目です。ただし、選択科目の中でも、進級・卒業条件に関わる科目もあるので、各学系の「進級条件」や「卒業条件」および「履修モデル」に従って履修する必要があります。
自由科目	単位修得しても、進級・卒業に必要な単位数には算入されない科目です。

4．配当学年

授業科目には、配当される学年が定められています。履修できる科目は、原則として所属する学年と下級年次に配当されている授業科目（自分のカリキュラム年度の科目）のみとなります。

5．配当期

授業科目の開講される期間（配当期）により、以下のように分けられます。

通年科目	1年間30週にわたって開講される科目です。
前期科目	前学期半年間15週にわたって開講される科目です。
後期科目	後学期半年間15週にわたって開講される科目です。
四半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目	1/4年間7.5週（実際には7週又は8週）にわたって開講される科目です。 学期の開始と終了日は主要行事予定で確認してください。
集中講義科目	開講曜日・時限が定期ではなく、特別な期間に集中して開講される科目です。

授　業

1．学年と学期

学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終ります。

学年は、次の 2 つの学期に分けられます。

前学期・・・・・4 月 1 日から 9 月 14 日まで

後学期・・・・・9 月 15 日から翌年 3 月 31 日まで

（ただし、必要に応じこの期間を変更する事がありますので、その年度の学事日程で確認してください。）

2．授業時間

授業時間は、以下のように定められています。

	1 時限	休憩	2 時限	休憩	3 時限	休憩	4 時限	休憩	5 時限	休憩	夜 1 限
時間	9：30 ～ 11：00	10 分	11：10 ～ 12：40	50 分	13：30 ～ 15：00	10 分	15：10 ～ 16：40	10 分	16：50 ～ 18：20	10 分	18：30 ～ 20：00

※他キャンパスとの遠隔講義等においては、上記とは異なる時間帯で講義を行うことがあります。

※夜 1 限は、補講時限として実施する場合があります。（学部の通常授業は、原則実施しません。）

3．授業時間割

授業は、週単位で決められた**授業時間割**に従って行われます。

(1) 種類

授業時間割表には「共通教育・教職科目時間割」「学部共通科目時間割」「学系配当科目時間割」の 3 種類があり、冊子体（紙）、DENDAI － UNIPA、又は、ホームページにおいて見ることができます。

- **「共通教育・教職科目授業時間割表」**（全学系共通）
  人間形成科目群・英語科目群・教職課程科目群の科目が記載されています。
- **「学部共通科目授業時間割表」**（全学系共通）
  学部共通科目群の科目が記載されています。
- **「学系配当科目授業時間割表」**
  学系共通科目群およびコース専門科目群の科目が記載されています。

(2) カリキュラム年度

カリキュラム年度とは、入学した年度に配当されるカリキュラムのことです。

2016 年度に 1 年次に入学した学生のカリキュラムは、2016 年度カリキュラムとなります。（卒業するまで同じカリキュラム年度になります。万一留年してもカリキュラム年度は変わりません）

授業時間割表では略して「‘16」と記載し、該当する学生の履修可能である科目を「●」印で表しています。

(3) 内容と注意

① 3 種類の授業時間割表をあわせて、その年度に履修できる全ての科目を網羅することになります。

②授業時間割表には、科目名・カリキュラム年度・担当教員名・教室番号が曜日・時限・配当期ごとに記載されています。

③科目名に学年・学系の記載がある科目については、その対象学生の履修が優先されますが、対象外の学生も人数に余裕がある場合は履修することができる場合があります。

④集中講義科目については授業時間割表の月～土曜日の次に記載してあります。

⑤カリキュラム年度は入学した年度です。カリキュラム年度により履修できる科目は異なります。

4．休　　講

以下の場合、休講となります。

(1) 学校行事を行う場合。（主要行事予定表・DENDAI － UNIPA により連絡します）

(2) 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。（DENDAI － UNIPA 等により連絡します）

(3) 休講のお知らせがなく、授業開始時間から 30 分を経過しても授業科目担当教員がやむを得ない理由で講義を開始できない場合。（自然休講と呼びます）

ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。

(4) 東武東上線が運休の場合。（P 8 参照）

(5) 地震、台風、大雪などの自然災害により不測の事態が発生した場合。（P 8 参照）

5．補　　講

休講等で授業回数が不足した場合は、必要に応じて補講を行います。補講の有無は授業科目担当教員によって指示され、原則として**月～金曜日の夜 1 限**に行うことになっています。

ただし、月～金曜日の 5 時限、又は土曜日に、授業担当教員が通常授業および、大学・学部行事に支障がないと判断した場合に限り補講を実施する場合があります。日程は、授業中又は DENDAI － UNIPA によりお知らせします。

6．授業の出席確認

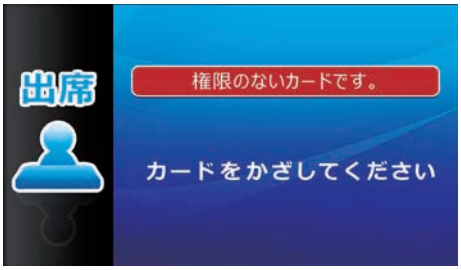
授業の出席確認は、授業教室においてタブレット端末に、学生証をタッチして行います。担当教員の出席確認の指示に従って行ってください。授業によっては、遅刻・早退等の確認をするため、複数回の出席を取る場合もあります。タブレット端末にて出席確認を行った場合は、DENDAI － UNIPA で確認することができます。また、出席確認の方法は、授業によってはタブレット端末によらない場合もありますので、教員の指示に従ってください。学生証を忘れた場合は、授業時に担当教員に申し出てください。

学生証タッチイメージ

(1) 学生証を正常に読み込めた場合の画面

画面中央に学籍番号が表示されていれば、正常に読み取りが完了です。次の人がタッチできます。

(2) 学生証を正常に読めなかった場合の画面



画面中央に赤の枠でエラーメッセージが表示されます。もう一度、学生証をタッチしてください。

何回行っても学生証を読み込めない場合は、出席していることを担当教員に申し出るとともに、学生厚生担当で学生証の確認を受けてください。出席、遅刻、早退以外の画面が表示されている場合は、担当教員にお知らせください。

7．授業の欠席

病気・ケガ等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受けとり、必要事項を記入の上、診断書等欠席を証明出来る物を添えて提出してください。ただし、公欠制度はありません。届出に対して大学（科目担当教員等）が判断を行います。

	欠席日数（連続した欠席日数）　※土日祝を含む	
	6 日以内	7 日以上
保証人記入欄の記入	不要	必要
提出先	各科目担当教員	教務担当窓口

8．提出物期限の厳守

履修登録・レポート・製図等の提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと成績評価を受けられないことになりますので、期限・提出場所は厳守するように注意してください。

本館 1 階事務室内にある教務担当レポート BOX は、提出期限になったら撤去します。撤去後の扱いは行っていません。（事務室ではホチキス等の貸出しを行っていません）

提出先レポート BOX の入れ間違いについても、対応しません。

9．授業評価アンケートについて

目的：授業評価アンケートは、授業の充実度・専門性の向上など、より優れた授業の実現のために実施します。

種類：授業評価アンケートには大別すると 2 つの種類があります。一つは、理工学部の共通フォーマットにて行われるもの。また、もう一つは学系および共通教育群などの独自のフォーマットにて行われるもの。どちらの場合においても、科目担当教員の指示により行ってください。

注意：授業評価アンケートは授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。ただし、一時的な感情やいい加減な考えではなく、授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにしてください。

集計結果の閲覧：授業評価アンケートの集計結果については、Web（キャンパス内のみ）、事務室窓口等で閲覧出来ます。

10．その他授業について

(1) 授業等のガイダンス

授業科目のガイダンスは、初回の授業等に必要に応じて行われますので、必ず出席してください。特に、実験・演習・体育等については、グループ分け等の説明がある場合が多いので、出席しないと履修に支障が出る場合があります。

(2) テストによるクラス分け

「英語」「数学」「物理」「化学」の科目では、プレースメントテスト等によりクラス分けを行います。

(3) e-Campus 科目

東京電機大学の 4 学部（理工学部・工学部・情報環境学部・未来科学部）では、平成 18 年度より遠隔授業を行っています。遠隔授業で行う科目は別途 DENDAI − UNIPA で確認してください（開講しない場合もあります）。

＊1　他学部履修の扱いになる科目もあります。
＊2　授業時間は、別途 DENDAI − UNIPA で確認してください。なお、他キャンパスにて履修者がいない場合、授業時間等の変更がある場合もあります。
＊3　その他変更等のお知らせは DENDAI − UNIPA で行います。

履　　修

1．履修計画

以下の点を充分に考慮して履修計画を立ててください。

① 各学系・共通教育群のページにある「履修モデル」を参考にして、履修科目の見通しを立ててください。

② 授業科目配当表と学期始めに配布する授業時間割表を参考にし、シラバスを読んで、授業科目の内容をつかむようにしてください。

③ **必修科目の履修登録**を忘れないようにしてください。

④ 各学系で定められている、**進級条件・卒業要件**をクリアできるように充分に考慮し、余裕をもって履修してください。

⑤ 履修上限単位数（48単位／年）を超えないように注意してください。

⑥ 同時限に開講する科目を重複して履修することはできないので注意してください。

⑦ 履修できる科目は、各自のカリキュラム年度の科目のうち、所属する学年又は原則として下級年次に配当された授業科目のみとなります。

⑧ 理工学部以外（他学部、他大学、短期大学、大学以外の教育施設）の科目も一定の条件内で履修できます。なお修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、卒業要件に含めることができます。

2．履修登録

(1) 履修登録の意味

各自がどの授業に出席し、どの科目を修得しようとしているのかについて、大学へ届け出ることを履修登録といいます。（必修科目も履修登録する必要があります）

履修登録していない科目は、授業に出席することも、学期末試験を受験することもできません。

(2) 履修登録の期間

履修登録は、定められた期間に学生自身が行います。

(1) 履修登録期間（1年間分の履修登録）・・・・4月

(2) 履修登録修正期間（1年間分の履修登録）・・4月

(3) 履修登録修正期間（後期分の履修登録）・・・9月

※詳細の日程等については、DENDAI－UNIPAによりお知らせします。

(3) 履修登録の方法

履修登録は、履修期間内に学生自身がDENDAI－UNIPAで入力します。（学内設置のパソコン、教務担当窓口に置いてあるパソコン、その他の場所でもインターネット接続可能なパソコンから行う事ができます。なお、一部Web以外での申請科目もあります）

履修登録期間中であれば何回でも修正することができます（学内に設置してあるパソコンは使用できる時間が決まっています）。履修登録を行う際には、あらかじめ自分の履修したい科目を決定してからパソコンに向かい、すみやかに作業を終了するようにしてください。

また、**パソコンの操作ミスを含む入力ミスや、勘違い等による履修登録漏れがあった場合でも、履修登録期間及び履修登録修正期間以外では一切認められません**ので、履修登録の確認期間には各自で責任を持って確認してください。

なお、科目によっては**科目担当教員が履修制限する科目**があります。DENDAI－UNIPAや授業等で履修可能者やクラス分け結果をお知らせします。

履修登録結果は、後日、DENDAI－UNIPAで公開します。各自で必ず確認し、修正（追加及び取消等）の必要があるときは所定期間内に手続をしてください。

詳細は適宜DENDAI－UNIPAで確認するようにしてください。

3．履修上限について

1年間に履修することができる単位数（履修上限単位数）は**48単位**と定められています。従って進級条件および卒業要件に注意しながら、しっかりと4年間の履修計画を立てることが必要となります。

なお、以下に該当する場合もしくは以下の科目については**履修上限48単位**の制限を受けません。

(1) 履修上限の制限を受けない場合

以下の基準に適用する成績優秀者に対して、学系の判断により認める。(1・4年次生は除く)

※ **対象学生**：全成績評価（自由科目および「R」評価は除く）の85%以上がS又はA評価であり、かつGPAが3.4以上の学生（1・4年次生は除く)。

追加履修を認める単位数：教育的配慮の上、学系長の判断とする。

(2) 履修上限の制限を受けない科目

①自由科目

②海外英語研修・学外体育研修

③「インターンシップ」「海外事情」

4．重複履修の禁止

(1) 同一時限における重複履修の禁止

原則として同一の配当期・曜日・時限の科目を重複して履修することはできません。

(2) 同一科目の重複履修の禁止

同一科目が複数開講されていても、一科目のみしか履修することはできません。

(担当教員や開講学系が異なっていても履修することはできません)

5．上級年次科目の履修について

上級年次に配当されている科目は通常履修できないことになっていますが、下記の場合については履修が可能となります。(履修上限単位に含まれます)

上級年次科目の成績評価は、正規履修科目と同様に、成績表に表記されます。

【上級年次科目の履修】

1) 成績優秀者において、上級年次配当の科目を履修する場合は、学生の所属する学系の承認の他、定められた手続きを行い、学部長の決済を得る。

2) 各学系の別途定める基準を満たしていること。

全成績評価の85%以上がS又はA評価であり、(自由科目および「R」評価は除く）かつ、GPAが3.4以上の学生。

6．他学系・他コース科目の履修

下記の科目以外の専門教育科目は、「自主選択科目」となります。

・学部共通科目

・選択した主コース・副コースの属する学系の学系共通科目

・主コース専門科目

・副コース専門科目

7．他学部科目の履修

未来科学部・工学部・工学部第二部・情報環境学部科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学系長、又は専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することが出来ます。

8．他大学科目の履修

(1) 東京理工系 4 大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学の 4 大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の 3 大学の科目を履修することが出来ます。

(2) 東洋大学との単位互換について

本学部は東洋大学と単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、東洋大学の科目を履修することが出来ます。

(3) 彩の国大学コンソーシアムについて

本学部では、埼玉県に所在する 18 大学と「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結んでおり、その中で以下の 9 大学と単位互換協定を行っています。

跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、文京学院大学

(4) 山村学園短期大学との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

本学部では山村学園短期大学との間に単位互換協定を結んでいます。本協定により、希望者は特別科目等履修生として、山村学園短期大学の科目を履修することができます。

9．他学部・他大学科目の履修手続

他学部・他大学科目履修を希望する学生は、所属する学系長又は専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得ることが必要です。

これらの履修を行う際に許可をもらう人及び履修費については、以下の表を確認してください。

	許可をもらう人	履　修　費
東京理工系 4 大学	所属する学系長	無　料
東洋大学	所属する学系長	無　料
彩の国大学 コンソーシアム	所属する学系長	1 大学 2,000 円
山村学園短期大学	所属する学系長	1 単位 500 円
他学部科目	所属する学系長又は専任教員、科目担当教員	無　料

また、履修するにあたっては以下の点に注意してください。

① 理工学部配当表の科目と内容が重複する科目は認められません。（特に修得済みの科目や履修中の科目と内容の重複する科目は認められません）

② 自分の所属する学年又は原則として下級年次配当の科目でなければなりません。

③ 他の履修科目と時限が重複しないように気をつけてください。特に他大学、他学部の科目を履修する場合は、移動時間を含め、本学部の授業と重複しないように注意してください。（試験の日程が重なった場合も特に便宜はありません）

④ 履修上限単位数に含まれます。

⑤ 通学定期券の発行はできません。

他大学・他学部・他学系で修得した単位について

卒業所要単位として算入できる単位数は、編入学・転入学をのぞき、他大学・他学部・他学系等において修得した単位と、入学前の既修得単位等を合せて 60 単位を超えることは出来ない。

10. その他履修について

(1) 履修人数の制限

履修登録は DENDAI − UNIPA 等で受け付けますが、科目によっては履修登録を受け付けた結果 1 つの時限に履修者が集中し、その履修人数が教室等の関係で一定人数を超えた場合に限り、履修人数の制限をかける場合があります。

履修人数は抽選又は科目担当教員の判断により制限をかけ、それらの結果によっては、希望する科目を履修できない場合があります。

履修登録に関する詳細や履修登録期間・具体的な履修登録方法等は DENDAI − UNIPA によりお知らせします。

(2) 科目名の最後についているⅠ・Ⅱ、A・Bについて

Ⅰ・Ⅱというのは、Ⅰを履修してからⅡを学ぶことを原則としている科目です。

A・Bというのは、Aを履修してからBを学ぶほうが望ましいという科目です。

いずれも半期制の科目ではありますが、通年科目のつもりで履修計画を立ててください。

(3) 卒業研究の履修登録について

卒業研究は自分の所属する学系（主コース）で履修登録をしてください（必修科目です）。

(4) 体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

この科目は、授業時間割表の表記と履修登録システムの表記が異なっています。

授業時間割表の表記は「体育（種目名）」として記載され、DENDAI − UNIPA の履修登録システムの表記は「体育Ⅰ～Ⅵ」となっています。

履修登録の際には自分の履修したい教員名で選択し、体育ⅠからⅥの順番になるように履修登録を行ってください。

(5) 履修登録をしなくても良い科目

・海外英語研修

・学外体育研修

・インターンシップ

・海外事情

これらの科目は、参加の申し込みを行った後、参加が許可されることにより履修登録した事になります。(参加が許可されない場合もあります)

なお、実施の時期により**年度内に成績(単位)がつかない**場合がありますので、年度末に実施される研修については必ず事前に確認してください。

(6) インターンシップ科目

インターンシップは、履修及び履修登録の取り扱いが他の科目と以下の点において異なりますので注意してください。

ア　インターンシップについて

インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことであり、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」としてとらえられています。(労働報酬はありません)

本学部でのインターンシップに関する科目は、全学系に開講され、講義科目の「情報と職業入門」及び実習科目の「インターンシップ」にて構成されています。

実習科目の「インターンシップ」を履修する学生は、その前提科目として「情報と職業入門」の単位を修得しなくてはなりません。

イ　履修の取り扱い

インターンシップは科目配当表に記載されている複数の「インターンシップ」のうち、在籍学年に配当されている科目のみが履修可能であり、下級年次科目としての履修や再履修はできませんので、授業科目配当表を確認の上注意してください。

ウ　インターンシップ科目の運用

インターンシップ科目の運用は以下のようになります。

・履修の希望を学系へ申し出て企業を決定します。

・１企業あたりの派遣学生数は企業毎に異なります。

・研修期間は合計２週間程度。

・研修形態は学系と打ち合せ、決定します。

・**履修登録の手続きは不要**です。

・履修上限単位数には含まれません。

・**研修前には必ず「情報と職業入門」の単位を修得**し、事前指導を受けてください。

・評価は学期末もしくは、翌年度となります。

エ　履修の形態

インターンシップは、全学系に配当されていますが、科目名は履修した時の在籍学年・配当期によって次の通りになります。（学系により科目名は異なります）

2 年次前期：インターンシップＡ　　後期：インターンシップＢ

3 年次前期：インターンシップＣ　　後期：インターンシップＤ

4 年次前期：インターンシップＥ　　後期：インターンシップＦ

(7) 海外研修における振替について

理工学部において各種海外研修に参加した学生は、以下のような科目に振替られます。海外研修の実施については掲示又は学生厚生担当に確認してください。（実施されない場合もあります）

ア　海外研修の研修校及び実施時期について

・フランス国立高等精密機械大学院大学（フランス）

実施時期：2 月～ 3 月（2 週間）

最終実施年度：平成 14 年度

・上海交通大学（中国）・西安交通大学（中国）

実施時期：8 月～ 9 月（2 週間）

最終実施年度：平成 10 年度

※実施時期についての詳細及び申込みについては、掲示又は学生厚生担当にお問合せください。

イ　振替科目について

人間形成科目群の「海外事情」に振替となります。

（在学期間中にこの振替えができるのは 1 回のみとなります）

ウ　履修について

海外研修の参加申込をすることにより履修となります。

また、この履修は履修上限には含まれません。

（8）重複履修特定科目について

特定科目とは、**再履修者**に対しその科目担当教員が、授業時間外に指導すること等を条件に、重複履修を許可する科目のことをいいます。該当科目がある場合は、DENDAI－UNIPA でお知らせします。

（9）単位修得している科目は再履修することはできません。

(10) 同一の科目名の科目は、学部・学科・学系で配当の所属が異なっていても、1 科目のみしか、履修および単位修得することはできません。

再　履　修

1. 再履修

履修した授業科目の単位が修得できなかったときに、再度その科目を履修からやり直すことを、**再履修**といいます。（単位修得済みの科目を再履修することはできません）

2. 再履修上の注意

（1）必修科目の単位を修得できなかったときは、必ず再履修しなければなりません。

（2）選択科目の単位を修得できなかったときに、再履修するかしないかは、各自の意思に任せられますが、その際、進級条件、卒業条件等に充分注意してください。

（3）再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、再履修年度の担当教員のもとで再履修しなければなりません。

（4）授業時間割は前年と同学期及び同曜日・同時限に配置されるとは限りません。

（5）再履修科目の履修登録・受講・試験等については、新規での履修の場合と同様です。

試　　験

授業科目の単位認定の方法として、試験が行われます。試験には、学期末試験・中間試験・追試験等があります。いずれの試験も**受験する際には必ず学生証を携帯してください。**

なお、試験は筆記のほかに、レポート提出・口頭試問などの方法により行われることもあります。

1．学期末試験

学期末試験は、原則として授業時間中に行われ、一部の科目については学期末の学部が定める期間（特定日）に行われます。（科目によっては、小テスト、レポートなどの内容により採点する為、行わない場合もあります。）

(1) 学期末試験の受験資格

学期末試験受験のためには、以下の条件を備えていることが必要となります。

① 履修登録をした授業科目であること。

② その学期までの学費を納入していること。

③ 休学期間中ではないこと。

(2) 学期末試験受験上の注意

学期末試験の受験に際しては、以下のような注意が必要です。授業中に実施する場合や学部の指定する期間に実施する場合にかかわらず熟読し、よく理解しておいてください。

ア　試験時間割等の確認

試験日・試験時間割・試験教室・座席表など試験に関する情報は、試験開始日のおおむね１週間前に DENDAI － UNIPA にて公開されます。試験教室が通常の授業の教室と変更となる場合等がありますので、よく確認してください。

イ　試験教室・座席の指定

試験教室・座席は、学籍番号により以下の３種類の指定があります。DENDAI － UNIPA で確認してください。

・授業着席（隣席との間を空けずに着席します）

・試験着席（原則として隣席との間を１席分空けて着席します。）

・教員にて指示（科目担当教員により事前に掲示等での指示、また当日口頭での指示等があります）

ウ　遅刻・退出について

遅刻－試験開始後 30 分を経過すると入室は認められません。

退出－試験開始後 40 分を経過しないと退出は許可されません。（ただし、終了 10 分前まで）

なお、事情により、上記に拠らない場合がありますので、試験監督者の指示に従ってください。

エ　学生証について

学生証は常に携帯し、試験（学期末試験・中間試験・追試験等）のときには常に机の上に出しておかなければなりません。また監督者からの要求があったときには、必ず提示しなければなりません。

学生証を持参していない学生は、いかなる理由があっても受験できません。

注）学生証を忘れた者は、証明書自動発行機で仮受験票を発行してください。ただし仮受験票発行には 1,000 円の手数料がかかります。当日 6 時限分の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限分の仮受験票は各自で処分してください。

オ　試験場での心得

試験期間中は試験監督者が一切の権限を持ちます。試験監督者の指示に従わない者や、態度不良の者は退室を命ぜられることがあります。

また、携帯電話等の持ち込み（時計としての使用も不可）は禁止しています。

カ　棄権

試験を棄権する場合でも、答案用紙に必ず、学年・学系・学籍番号・氏名を記入し提出しなければなりません。

キ　不正行為

カンニングなど不正行為をした者は、退室を命じられたうえ、原則として**その学期末試験の全部の試験が無効**となります。

2．追試験

(1) 追試験の受験資格

以下に示す真にやむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった場合、追試験を受験することができます。

① 病気で受験できなかった場合

② 親族の死亡などで受験できなかった場合

③ 交通機関の運休・遅延などで受験できなかった場合

④ 火災・台風災害などに罹災した場合

⑤ 上記と同程度と認められる本人の責任でないやむを得ない理由がある場合

※追試験の実施方法は科目担当教員の判断によります。

(2) 手続き

追試験を希望する学生は、追試験願に医師の診断書等の**欠席理由を証明する書面等**を添えて、欠席した試験の実施日から 3 日以内（休・祝日を除く）に、教務担当へ提出してください。追試験は、追試験願受付期限終了後の 2 日後から実施されます。

（追試験手数料は、 1 科目につき 500 円です。）

3．中間試験等

学期末試験以外の通常の授業中に行う小テストや学期の途中で行われる中間試験は、授業科目担当教員が実施日･方法などを決定し､授業中又は DENDAI － UNIPA により伝達します。

成　　績

1．単位と成績評価

試験の結果は科目担当教員が採点し、１点きざみの**評点**が与えられます。60 点以上の評点が与えられたとき、その授業科目は合格とされ、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを**単位修得**といいます。

単位修得した授業科目は、たとえ評価が不本意なものであっても再履修はできません。

評点に対し、**S・A・B・C・D・ー**の評価が与えられ、本人が確認する成績通知書にはこの評価と評点が記載されます。**なお成績証明書には、評価のみ記載となり、D・ーの評価の科目は記載されません。**

成績 (評点・評価)

評点と評価の関係は、次の通りです。

判定	成績評価		評点	成績評価基準
	成績通知書	成績証明書		
合格（単位修得）	S	S	90～100点	当該科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。
	A	A	80～89点	当該科目の到達目標を十分に達成し、優秀な成績を収めている。
	B	B	70～79点	当該科目の到達目標を達成し、妥当と認められる成績を収めている。
	C	C	60～69点	当該科目の到達目標を最低限達成した成績を収めている。
	R	R	認定された科目	以下のうち、当該科目の到達目標を満たしていると認定されたもの。 ・単位互換等で他大学より修得した単位 ・編入学・再入学・転学部等において、入学前に修得した単位 ・本学部で指定する資格等の取得
不合格	D	記載されません	0～59点	当該科目の到達目標を達成していない。
	ー		放棄	試験を受験していない、もしくはレポートの不提出などで当該科目を放棄したとみなされるか、評価できない。

＊　履修中（履修した授業科目にまだ評点が入らないとき）

注（1）単位認定の時期は、その授業科目の履修が終わる配当期の終了時点（前期末・後期末）です。これは再履修の場合も同じで、これ以外の時期に単位認定が行なわれることはありません。
注（2）配当期が変更された科目を再履修した場合の単位の認定の時期は、原則として現に受講している科目の配当期末とします。

2．成績の通知

成績の通知は指定日に DENDAI － UNIPA で行います。

成績通知の時期は次の通りです。

（1）前期・前前期・前後期・前期集中科目……後期授業開始後

（2）後期・後前期・後後期・後期集中・通年・通年集中科目

……3 月初旬の卒業・進級判定発表日

成績の通知後、担当教員から採点の訂正がおこなわれた場合でも、原則としてその都度の訂正および発表は行われず、次学期の成績に反映されます。

3．GPA（Grade Point Average）について

本学部では、成績の総合評価の指標として GPA を採用しています。

GPA とは、科目を履修して最終的に与えられた S・A・B・C・D・－の評価（Grade）に 4 ～ 0 のポイント（Point）を配当しそれに単位数を掛け、修得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値（Average）です。

そのポイントと計算式は以下のようで、GPA の最高値は“4”となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

【ポイント】

評　点 （100 点法）	成績評価	GP （グレードポイント）	合　否
90 ～ 100	S	4	合　格
80 ～ 89	A	3	
70 ～ 79	B	2	
60 ～ 69	C	1	
0 ～ 59	D	0	不合格
放　棄	ー	0	

【計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{（各科目の単位数 × その科目で得たＧＰ（グレードポイント））の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数の合計}}$$

※　GPA の値は、小数点第 4 位を四捨五入して、小数点第 3 位まで表示します。

※　分母の「履修登録した科目の単位数の合計」には、履修中の科目は含まれません。

※　卒業要件とならない科目（教職に関する科目・自由科目）は含まれません。

※　対象科目は履修し評価を受けた科目となるので、資格等で認定された単位（**R 評価**）は含まれません。

【用　途】

※　成績証明書等に記載します。

※　学部内における判定等（3 年次在学における卒業・履修上限を超えての履修・就学指導・その他）に使用します。

学生アドバイザーによる学修指導

1．面談指導

学力不振、学修意欲不振等の学生に対して、早期に適切な指導を行うことにより、学修活動の改善を支援することを目的として、面談指導を実施します。

（1）1 年次生対象（前期）

以下のいずれかの基準に該当する学生

・履修申告単位が 0 単位の者

・正当な理由がなく、無届で 1 ヶ月以上欠席した者

（2）成績不振者対象 (1 年次後期～ 3 年次)

以下のいずれかの基準に該当する学生

・前の学期の GPA が 1.1 未満の者

・正当な理由がなく、無届で 1 ヶ月以上欠席した者

（3）留年生対象

2．学修指導

学力不振の継続により進級・卒業が困難な状況にある学生に対して、早期指導を行うことにより、学生の学修意欲向上、学修活動の改善を支援することを目的として、面談指導を実施します。

2 学期連続（休学期間を除く）して、以下の両基準に該当し、面談の結果、学修意欲が欠如していると判断された場合は、学系長が、学修意欲喚起と学修活動の早期改善を促すことを主眼とした退学予備勧告も視野に入れた学修指導を行うことがあります。

なお、退学予備勧告は、保証人にも文書にて通知します。

以下の両基準に該当する学生

・2 学期連続（休学期間を除く）して、修得単位が 8 単位未満の者（履修上限の制限を受けない科目を除く）

・2 学期連続（休学期間を除く）して、GPA が 1.0 未満の者

3．特別学修指導

前の学期に学修指導を受けた学生が、さらに以下の両基準に該当し、面談の結果、学修意欲が認められないと判断された場合は、学修意欲喚起、学修活動の早期改善及び今後の自分自身の進路についても再考する機会を設けることを主眼とした退学勧告も視野に入れた特別学修指導を保証人同席のもと、学部長が行うことがあります。

前の学期に学修指導を受けた者で、以下の両基準に該当する学生

・修得単位が 8 単位未満の者（履修上限の制限を受けない科目を除く）

・GPA が 1.0 未満の者

単　位　認　定

1．入学前に修得した単位の認定

（1）編入学の場合

編入学前に、大学、短期大学、高等専門学校の専攻科で修得した成績のうち、教授会が教育上有益であると認めたものは、本学で修得したものとして単位認定することができます（高等専門学校での科目は、原則として 4 ・ 5 年次の科目に限ります）。

編入学の単位認定方法は**“科目対応認定”**で行います。修得している科目を本学部もしくは所属学系に対応する科目に振替える方法です。卒業要件、進級条件は正規入学の学生と同じになります。

2・3 年次への編入学の単位認定は必要に応じて**“包括単位認定”**を行うことがあります。認定単位数合計は原則として 2 年次編入学者に対しては 36 単位以上、3 年次編入学者に対しては 68 単位以上を目安としています。

なお、単位認定を行うことにより、進級・卒業条件が他の学生とは異なる場合がありますので注意してください。

詳しくは、教務担当窓口にて確認してください。

（2）申請方法

認定希望者は、教務担当窓口にある「単位認定申請書」に、入学前の最終成績証明書及び講義要目（シラバス）を添付して、**4 月上旬**に教務担当へ提出してください（詳細は教務担当窓口又は DENDAI － UNIPA で確認してください）。

申請を受けてから単位認定作業を行い（必要に応じて面談等を行う場合があります）、一ヶ月程で申請結果をお知らせします。

2．本学部の指定する資格による単位認定

次頁に記載されている資格を取得している学生は、申請により本学の科目として単位認定を受けることができます。資格による科目の単位認定を希望する者は、教務担当へ申し出てください。

なお、この単位認定の注意事項は以下のとおりです。

①資格による単位認定の際は該当科目を履修登録する必要はありません。

②該当科目を履修中の場合は履修登録を取り消します。

③既に単位修得済みの科目については単位認定することが出来ません。

④履修上限単位数には加算されません。

⑤該当科目が現学年より上級年次の配当であっても、成績表には表記され、進級・卒業条件にも加算することができます。

⑥同一の資格が共通教育と学系の双方にある場合は、希望によりどちらか一方を単位認定します。

⑦学系科目の対応については、所属学系の科目のみとし、他の学系の科目は単位認定しません。

⑧成績評価は「Ｒ」となり、ＧＰＡには反映されません。

⑨申請し認定された科目の成績評価「Ｒ」を取り消すことはできません。

⑩ＴＯＥＩＣのＩＰテストの取扱いについては、学内での実施に限り申請可能とします。

⑪申請してから成績表に表記されるまでの日程については下記を参考にしてください。

- **1月～6月に申請**の場合は**前期**成績表に表記
- **7月～12月に申請**の場合は**後期**成績表に表記

※資格による単位認定により所要単位数が充足され進級・卒業が可能となる場合もあるので、申請は余裕をもって行ってください。

資格と単位認定科目

	資格名称	科目名	学年	単位数
共通教育	実用英語技能検定（2 級）又は ＴＯＥＩＣ 510 点以上	英語ⅠＡ	1	1
		英語ⅡＡ	1	1
		英語ⅠＢ	1	1
		英語ⅡＢ	1	1
	実用英語技能検定（準 1 級）又は ＴＯＥＩＣ 730 点以上	英語ⅠＡ	1	1
		英語ⅡＡ	1	1
		英語ⅠＢ	1	1
		英語ⅡＢ	1	1
		英語ⅢＡ	2	1
		英語ⅣＡ	2	1
	実用英語技能検定（ 1 級）又は ＴＯＥＩＣ 850 点以上	英語ⅠＡ	1	1
		英語ⅡＡ	1	1
		英語ⅠＢ	1	1
		英語ⅡＢ	1	1
		英語ⅢＡ	2	1
		英語ⅣＡ	2	1
		英語ⅢＢ	2	1
		英語ⅣＢ	2	1
	ドイツ語技能検定（4 級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
	ドイツ語技能検定（3 級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅰ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅱ	全	1
		初級ドイツ語Ⅰ	全	1
		初級ドイツ語Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（4 級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（3 級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
		基礎フランス語Ⅰ	全	1
		基礎フランス語Ⅱ	全	1
		初級フランス語Ⅰ	全	1
		初級フランス語Ⅱ	全	1
	ＩＴパスポート（旧名：初級システムアドミニストレータ）	情報処理Ａ	1	2
	基本情報技術者（旧名：第 2 種情報処理技術者）	情報処理Ａ	1	2
		情報処理Ｂ	1	2
	応用情報技術者（旧名：ソフトウェア開発技術者）（旧名：第 1 種情報処理技術者）	情報処理Ａ	1	2
		情報処理Ｂ	1	2

	資　格　名　称	科　目　名	学年	単位数
理学系	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	数理プログラミングⅠ	1	2
	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	数理プログラミングⅠ	1	2
		数理プログラミングⅡ	2	2
生命理工学系	―	―	―	―
情報システムデザイン学系	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	基本情報処理技術	2	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	基本情報処理技術	2	2
	ＣＧエンジニア検定　エキスパート （旧２級）	コンピュータグラフィックス	2	2
		ＣＧプログラミング	2	2
	ＣＧエンジニア検定　ベーシック （旧３級）	コンピュータグラフィックス	2	2
	カラーコーディネーター検定２級	色彩論	2	2
	色彩検定２級	色彩論	2	2
電子・機械工学系	電気主任技術者（第１・２・３種）	電気回路Ⅱ・同演習	1	3
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
		コンピュータ工学Ⅱ	2	2
建築・都市環境学系	ＣＡＤ利用技術者試験１級	建築都市デザイン演習Ⅰ	1	3
	測量士	測量学・演習	2	3
		測量実習	2	2
	測量士補	測量実習	2	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	プログラミング演習Ⅰ	2	2

TOEIC の IP テストでは公開テストで発行される Official Score Certificate（公式認定証）は発行されず、スコアレポート・スコアシートでの結果報告となるため、IP テストは学内での実施に限り認定します。

進級と留年

1．進　級

(1) 進級制度

理工系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へと積み重ねて勉学していくことが不可欠です。

そこで、本学部では、学問の基礎から応用へと順序立てて学修できるように、それに適した授業科目を各学年に配当し、その学年ごとに履修を指定しています。

したがって、下級学年次に不合格科目が多い状態で上級学年次に進むと、基礎学力が不足しているにもかかわらず上級学年次配当の専門的授業科目を履修しなければならないことになり、教育的に好ましくない状況をもたらします。

このような事態を避けるため、本学部においては、低学年次配当授業科目の単位修得状況を考慮し、上級学年次へ**進級**するための条件を定め、この条件を充たさないときは、もとの学年次に**留年**するという**進級制度**をとっています。

(2) 進級条件

上級学年次に進級するための条件を**進級条件**といいます。

理工学部においては、以下の学年に進級条件を設けています。

- **1 年次から 2 年次：30 単位以上修得のこと**
- **2 年次から 3 年次：なし**
- **3 年次から 4 年次：各学系の進級条件、下記の条件及び合計で、104 単位以上修得のこと**

※　進級条件の単位数には自由科目の単位は含まれません。

科　目　区　分			単位数（括弧内は卒業条件）
人間形成科目			12（16）
英語科目			6（ 8）
学部共通科目			12（14）
主コースと副コースが同一の学系	学系共通科目		28（36）
	主コース専門科目		14（22）※
	副コース専門科目		6（ 8）
主コースの学系と副コースの学系が異なる場合	学系共通科目	主コース	22（26）
		副コース	10（14）
	コース専門	主コース	14（22）※
		副コース	2（ 4）

※は、卒業研究を含む

進級条件は、学系、学年ごとに異なるので、各学系のページを熟読してください。

(3) 2・3年次への編入学者の進級条件

2・3年次への編入学者については入学時に修得している成績の単位認定をおこないますので、各学系に表示してある条件とは異なる場合があります。不明な点については教務担当窓口で確認してください。

2．留　年

留年した場合の注意点

留年したときには、次のような点に注意してください。

① 留年した場合であっても、入学した年度のカリキュラムが適用されます。また、進級・卒業判定基準も、入学した年度の基準が適用されます。（留年による変更はありません）

② 学生要覧は現在使用しているものを卒業まで使用します。

③ 同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できないときは、**除籍**となります。

④ 4年次生が卒業要件を充足することができずに留年した場合は、次年度の前期に卒業要件を充足することができれば前期末に卒業することができます。

前期末に卒業を希望する学生は、前期の成績が発表されたら、指定の期日までに学系長へ申し出てください。（事前に前期末での卒業の意志を学系長に伝えておくことが望ましい）申し出を受けて、卒業の手続きを行いますので、申し出がない場合は卒業要件を充足していても、学年末での卒業となります。（学年末でも卒業要件を充足する必要があります）

（注）留年（休学による留年も含む）した場合の学費は、当該学年の正規学年次生の学費を納めなければならないので注意すること。

卒　業　要　件

1．卒業するための必要要件は、次のとおりです。

（1）卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数）を修得していること。

（2）自己の所属する学系に配当されている必修科目の単位を全て修得していること。

（3）各学年次に 1 年、合計 4 年以上（8 年以内、但し休学時は異なる）在学していること。

（4）卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。

（5）卒業判定時に休学していないこと。

※卒業所要単位数には自由科目の単位は含まれません。

●理工学部においては、次により 124 単位以上を履修し、修得しなければならない。

区分		単位数
共通教育科目	人間形成科目群	16 単位
	英語科目群	8 単位　※ 1
専門教育科目	学部共通科目群	14 単位
	学系共通科目群	66 単位　※ 2
	コース専門科目群	
自主選択科目		20 単位
合計		124 単位

※ 1　1 年次及び 2 年次配当の英語科目は「必修科目」です。

※ 2　学系共通科目群及びコース専門科目群における「66 単位」の内訳は以下のとおり。

主コース・副コース履修形態	コース	学系共通科目群	コース科目群		合計
			コース専門	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
同じ学系で主・副をとる場合	主コース	36 単位	16 単位	6 単位	66 単位
	副コース		8 単位		
異なった学系で主・副をとる場合	主コース	26 単位	16 単位	6 単位	66 単位
	副コース	14 単位	4 単位		

☆　必修科目の単位の全部を履修し、修得しなければならない。

☆　自主選択科目については、任意に選択し（自由科目を除く）、修得した科目とする。

2．卒業するための最低修得単位数

(1) 共通教育科目

ア　人間形成科目群

人間形成科目（新人教育科目・概論科目・主題科目・教養ゼミ・第二外国語・保健体育）の中から最低 16 単位以上修得しなければなりません。

なお、留学生については「留学生科目」を履修し単位修得すれば、人間形成科目群の単位として算入することができます。

イ　英語科目群

英語科目から最低 8 単位以上修得しなければなりません。

(2) 専門教育科目

ア　学部共通科目群

学部共通科目群（基礎・数学・物理学・化学・生物・地学・情報・工学・キャリア開発）から最低 14 単位以上修得しなければなりません。

イ　学系共通科目群・コース専門科目群

所属する学系および選択する主・副コースに関連した「学系共通科目」および「コース専門科目」から必修科目の単位数を含めて、最低 66 単位以上修得しなければなりません。なお前頁の表にも記載されているとおり、66 単位の内訳は、主・副コースの履修形態により異なりますので、注意してください。

ウ　自主選択科目

卒業するまでに最低 20 単位以上を修得しなければなりません。「自主選択単位」を修得するには、特別な授業科目を履修するのではなく、前述の (1)ア～ (2)イのそれぞれの最低修得単位を超えた単位数が自動的にこの自主選択単位となります。したがって「自主選択単位」として履修できるのは、必修科目と自由科目を除く全ての選択科目です。

卒業するための最低修得単位数を簡単に式にすると次のようになります。

人間形成科目群		英語科目群		学部共通科目群		学系共通科目群 コース専門科目群		
16 単位	＋	8 単位	＋	14 単位	＋	66 単位	＝	104 単位

卒業所要単位数			自主選択単位
124 単位	－	104 単位	＝ 20 単位

履修計画をたてる際には、各学系・群から示されている「履修モデル」と進級基準を念頭

におき、それぞれの科目群に定められた最低修得単位数のみならず、自主選択単位数も余裕をもって修得できるよう十分注意してください。

3．　3 年以上の在学での卒業について（3 年卒業、3.5 年卒業）

本学の学生として 3 年以上在学した者で、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認められる場合は、以下の条件により 4 年間をかけなくても卒業することができます。

条件は以下のようになります。

(1) 3 年以上の在学での卒業における基準

① 所属学系の指導する早期卒業についての履修計画に従っていること。

② 在学期間が 3 年以上の学生であること。

③ 3 年次以上までに卒業要件の全てを満たしていること（卒業研究は除く）。

④ 3 年次から 4 年次への進級条件を充足していること。

⑤ 原則として全成績評価の 85％以上（小数点第 1 位を切り捨て）がＳ又はＡ評価であり、（自由科目および「Ｒ」評価は除く）かつ、ＧＰＡが 3.4 以上であること。

⑥ 学系長および学部長の了解が得られていること。

⑦ 卒業時に大学院進学、公務員等の進路が確定していること。

⑧ 3 年以上の在学での卒業までに必要な学費が全て納入されていること。

⑨ 早期卒業判定時に休学していないこと。

※ 3 年次編入学者の早期卒業は認めない。

(2) 3 年以上の在学での卒業研究について

3 年以上の在学での卒業を望む学生に対し、所属学系の判断により以下の①～④のうちいずれかを適用し実施する。

① 修業年限を 3 年とする。（卒業研究の履修はなし。）

② 修業年限を 3 年とする。（3 年次後期に特別卒業研究を履修する。）

③ 修業年限を 3.5 年とする。4 年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、4 年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

④ 修業年限を 3.5 年とする。3 年次後期に特別卒業研究を、4 年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、4 年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

※詳細については教務担当に確認してください。

(3) 3年以上の在学での卒業申請方法

成績発表日に成績を確認し「3年以上の在学での卒業における基準」を充足した場合は、指定の期日までに学系長へ申し出てください。

4．卒業延期者の前期末での卒業申請について

4年次生が卒業要件を充足することができずに留年した場合は、次年度の前期に卒業要件を充足することができれば前期末に卒業することができます。

前期末に卒業を希望する学生は、前期の成績が発表されたら、指定の期日までに学系長へ申し出てください。（事前に前期末での卒業の意志を学系長に伝えておくことが望ましい）申し出を受けて、卒業の手続きを行いますので、申し出がない場合は卒業要件を充足していても、学年末での卒業となります。（学年末でも卒業要件を充足する必要があります）

5．卒業の時期

- 卒業の時期は学年末で、卒業式は毎年3月の下旬に挙行されます。
- 3.5年での卒業の場合は9月15日付で卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。
- 卒業延期者の前期末での卒業の場合は9月15日付で卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。

6．学位の授与

理工学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

理学系	学士（理学）……Bachelor of Science
生命理工学系	学士（工学）……Bachelor of Engineering
情報システムデザイン学系	学士（情報学）…Bachelor of Information
電子・機械工学系	学士（工学）……Bachelor of Engineering
建築・都市環境学系	学士（工学）……Bachelor of Engineering

学位は卒業式の時に授与される学位記により証明されます。

東京電機大学　理工学部

学生ポータルサイト
「DENDAI － UNIPA」

操作マニュアル

（「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のダウンロード」「連絡先の変更」等）

2016 年 4 月版

東京電機大学　理工学部事務部

学生ポータルサイト「DENDAI － UNIPA」

目 次

■ 学生ポータルサイト「DENDAI － UNIPA」
1. 学生ポータルサイト「DENDAI － UNIPA」について …… 59
2. 「DENDAI － UNIPA」の動作環境について …… 60
■ 「DENDAI － UNIPA」へのアクセス・ログイン
1. 「DENDAI － UNIPA」へのアクセス・ログイン方法 …… 62
2. 「DENDAI － UNIPA」の画面構成 …… 64
3. 注意事項 …… 66
■ 掲示の確認方法
1. 掲示について …… 68
2. 掲示画面について …… 69
3. 掲示確認方法 …… 71
4. 掲示表示の切替について（全授業／履修中授業）…… 72
5. 申込について …… 73
6. 一部掲示のメール配信について …… 74
■ シラバスの閲覧
1. シラバスについて …… 75
2. シラバスの閲覧方法 …… 76
3. 他画面からのシラバス参照 …… 78
■ Ｗｅｂによる履修登録方法
0. 全体の流れ …… 79
1. 履修希望科目の選択 …… 80
2. エラーチェック …… 83
3. 履修登録の確定 …… 85
4. 履修登録科目の確認方法 …… 86
5. 進級・卒業見込判定 …… 87
6. 履修登録期間後の履修登録科目確認方法 …… 88
7. その他　注意事項 …… 89
8. 履修登録でよくある質問と回答 …… 91
■ 出席の確認方法
1. 出席情報の確認 …… 94
2. 出席情報に関するよくある質問と回答 …… 95
■ 成績の確認方法
1. 成績照会 …… 96
2. ＧＰＡ・順位の確認 …… 97
3. 単位修得状況の見方 …… 98
■ アンケート回答
1. アンケート回答 …… 99
■ 連絡先の変更
1. 連絡先の変更申請 …… 102
2. 申請の承認・否認 …… 104
3. 「DENDAI － UNIPA」への反映 …… 105
■ クラスプロファイル（授業資料・課題提出等）
1. クラスプロファイルについて …… 106
2. 授業資料のダウンロード方法 …… 108
3. 授業課題の提出方法 …… 109
4. シラバス参照 …… 111
5. WEB ノート …… 112

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

1. 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」とは、インターネット上で、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・スケジュール管理・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

学生生活を送る上で必ず使用することになります。「DENDAI − UNIPA」の機能を早めに理解し、是非活用してください。

また、大学から皆さんへの連絡や個別の呼び出しなども「DENDAI − UNIPA」上で行います。見落としのないように、**1日に1回以上は確認**するようしてください。

学内ではこの学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」のことを、UNIPA（ユニパ）と呼ぶこともあります。

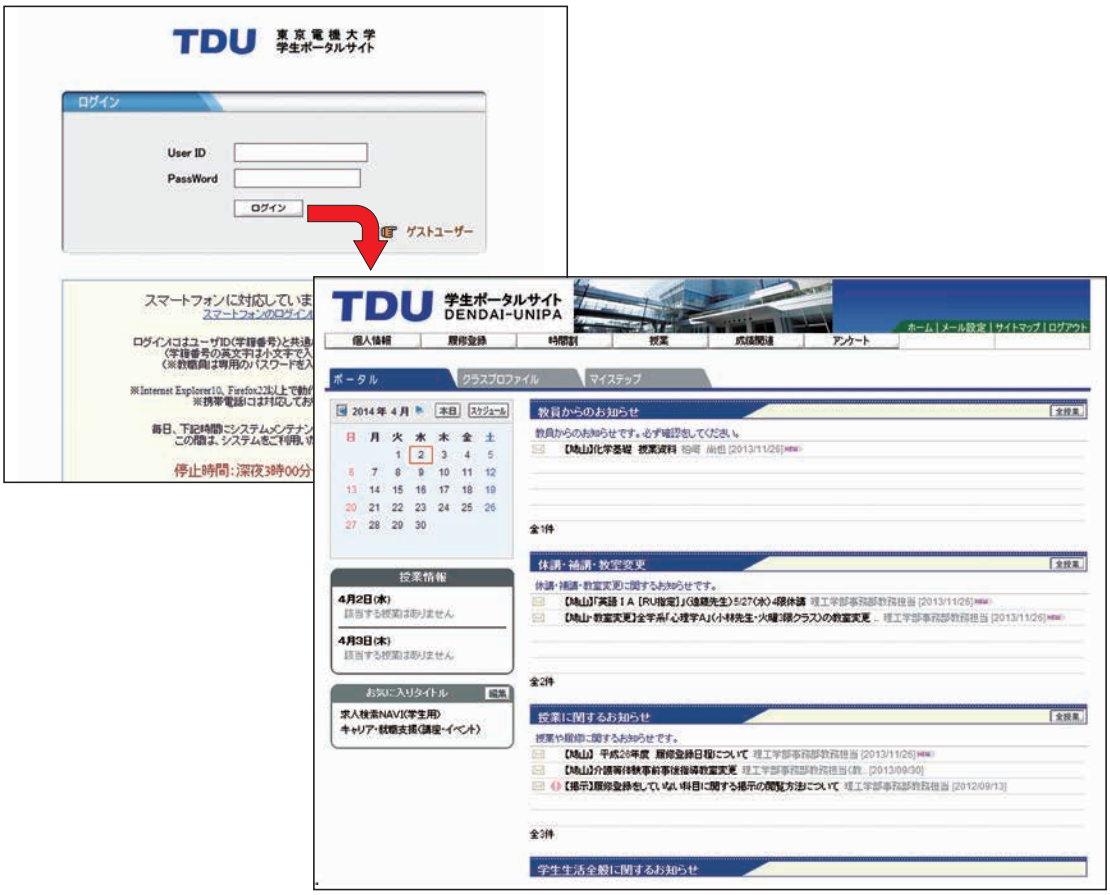


図1　学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

2.「DENDAI − UNIPA」の動作環境について

「DENDAI − UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンであれば、学内はもとより自宅などからも自由に閲覧することができます。

学内には、DENDAI − UNIPA 専用のパソコンを本館 1 階パソコン教室前に設置しています。このパソコンは、常時 DENDAI − UNIPA のログイン画面が表示されていますので、簡単に DENDAI − UNIPA を利用することができます。

また、学内の教育用パソコン（本館 1 階のパソコン教室、1 号館 1 階の第 3 実習室、2 号館 1 階メディアセンター内の第 2 実習室）でも利用することができます。

本操作マニュアルはパソコンの画面で説明しています。

(1) 動作環境（2016 年 4 月現在）

以下の動作環境以外のものを使用し、DENDAI—UNIPA にログインできたとしても正常に動作しない場合があります。履修登録、課題提出等が行えていないなどの事態が発生する場合もありますので、動作環境以外のものは使用しないでください。

ア　パソコン

下記のとおり対応しています。

WWW ブラウザ	Internet Explorer6/7/8/9/10 Firefox 最新版 Safari 5.1 Google Chrome 最新版

上記以外は対応していません。対応ブラウザは、利用のパソコンの OS において動作保証されていることを前提としています。（Mac のプロセッサが PowerPC の場合、最新版がダウンロードできない可能性があります。その場合は Firefox3.6 をダウンロードしてください。）

イ　スマートフォン

以下の OS・バージョンに対応しています

OS（WWW ブラウザ）	OS のバージョン
Android （標準）	2.3 4.0 ／ 4.1 ／ 4.2 ／ 4.3
iOS （Safari）	5.0 ／ 5.1 6.0 ／ 6.1

履修登録等の重要な事項は、操作後に必ずパソコンからも確認してください。

(2) ポップアップブロック

DENDAI − UNIPA では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。

操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性が考えられます。

そのような場合は、一度ログアウトして、ログイン画面に表示される【ポップアップブロックについて】の下にあるリンクのうち、お使いのブラウザにあった解除方法でポップアップブロックの解除を行ってください。

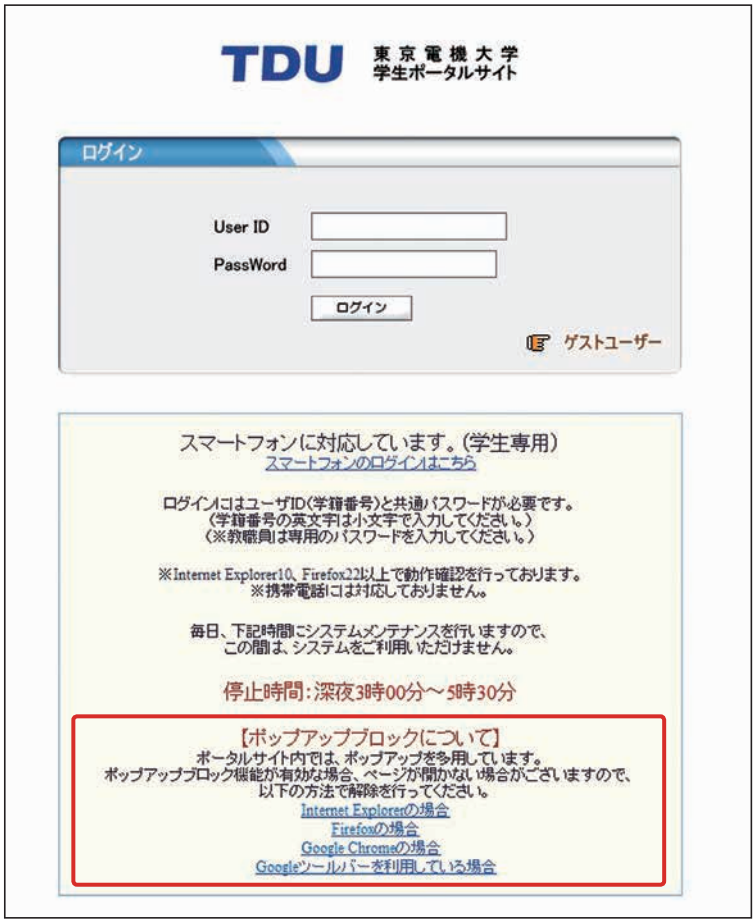


図 2　ポップアップブロックについて

「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン

1.「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」へアクセスします。

https://portal.sa.dendai.ac.jp

2 ログイン画面が開きます。

3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、ログイン をクリックします。（図 1）

※　学籍番号は半角英数字（英字部分は小文字）で入力してください。（例　16ru999）
※　「パスワード」はパソコン実習室でログインする時と同一のものとなります。総合メディアセンターで管理していますので、「パスワード」について不明な点は総合メディアセンターで確認してください。
※　「パスワード」は定期的に変更が義務づけられています。変更しないままにしておくと履修登録などの重要な手続きが行えませんので十分に注意してください。

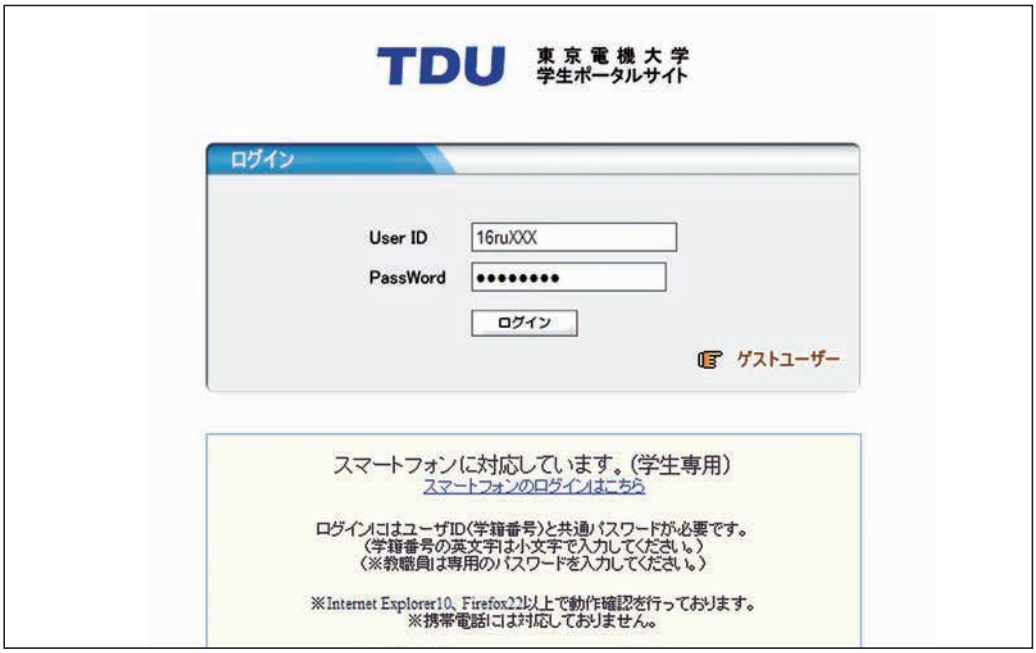


図 1　ログイン画面

4 **入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。（図 2）**

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は教務担当に申し出てください。

図 2　ログインエラー表示

2.「DENDAI － UNIPA」の画面構成

① メニュー

各種機能のメニューです。

② トップページ切り替えタブ

トップページの画面を切り替えることができます。

ポータル　お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。

クラスプロファイル　授業ごとに様々な機能を使用することができます。（P106 参照）

マイステップ　自分自身の学習記録を記録することができます。（教職カルテなど）

③ お知らせ

掲示情報やお知らせ、学生呼び出し等が表示されます。

④ スケジュール・授業情報

大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。

また、スケジュール ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ お気に入り

大学側があらかじめ設定したリンクのほか、編集 ボタンから自分のお気に入りの Web サイトの登録ができます。

⑥ ホーム

ログイン直後の画面に戻ることができます。

⑦ メール設定

DENDAI － UNIPA から配信する掲示の一部は、メールでも配信を行っています。（全ての掲示について配信しているわけではありません。）

配信先のメールアドレスを、学内メールに加え 1 件登録することができます。（P74 参照）

図３　トップページ（ポータル画面）

3. 注意事項

(1) セッションタイムアウト

ログイン後、前の操作から **30 分間通信がない状態が続くと、セッションタイムアウトにより接続が切断**され、 再度ログインが必要になります。履修登録の際は特にご注意ください。

図 4　セッションタイムアウト

(2) システムメンテナンスによる停止

毎日深夜 3:00 から 5:30 まで、システムメンテナンス（システム本体とのデータ同期等）を行います。

この時間帯は「DENDAI − UNIPA」を使用することはできません。

(3) 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI − UNIPA」の画面内の 戻る ボタンを使用してください。

画面内に 戻る ボタンがない場合は、画面上部の ホーム タブや、各種メニュータブから元の機能に遷移してください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

(4) その他

下記の利用方法は行わないでください。

・ブラウザ上で DENDAI − UNIPA を複数タブで表示すること

・複数のパソコン等を使って同時にログインすること

これらのことを行って履修登録や課題提出ができなかった等のトラブルが発生しても保障はいたしません。

(5) DENDAI − UNIPA の利用資格

卒業等により本学学生の身分を失うと、DENDAI − UNIPA は利用（ログイン）できなくなります。また、転学系、転学部、大学院進学等で学籍番号が変更になる場合も同様に、以前の学籍番号では利用（ログイン）できなくなります。内容を残したい場合は、事前に各自で自身のパソコンに保存をするか印刷をして残してください。引き続き本学に在籍する場合も内容は引き継がれません。特に、クラスプロファイル、マイステップ（教職カルテ）等の引き続き使用する可能性があるものは注意してください。

卒業後に単位修得状況・成績を確認したい場合は、DENDAI − UNIPA の画面からは確認できなくなるため、成績証明書の発行（有料）が必要となります。単位修得状況・成績を自身の確認用に手元に残しておきたい場合は、卒業式の前日までに印刷等をして保管してください。**DENDAI − UNIPA は卒業式の前日まで利用可能**です。

掲示の確認方法

1. 掲示について

大学から皆さんへの連絡を行う「掲示」を DENDAI − UNIPA 上で行います。掲示には、個人宛のもの、特定の学年や所属宛のもの、特定の科目履修者へ限定したものなどの種類があります。自分に関係のある掲示が表示されますので、**表示されているもの全てを確認**するようにしてください。

※掲示は、掲示期限日時を迎えると表示されなくなります。

2. 掲示画面について

掲示は、DENDAI － UNIPA ログイン後のポータル画面で確認できます。

※見本のため、実際に現在表示されている内容と異なります。

① 表示グループ

掲示の種類によって、表示されるグループが異なります。

下記の 4 種類の表示グループがあります。

表示グループ名	表示内容
教員からのお知らせ	授業資料、課題レポート等の指示、学生アドバイザーからの連絡等
休講・補講・教室変更	授業の休講・補講、教室の変更等
授業に関するお知らせ	授業ガイダンス、履修登録、クラス分け、授業関連、個別の呼び出し（授業・履修関連）等
学生生活全般に関するお知らせ	各種ガイダンス、学生厚生関係、個別の呼び出し（学生生活関連）、奨学金、学籍異動（休学・退学・コース変更等）、スクールバス、健康・衛生、企業セミナー、キャリア支援・就職関連情報等

※表示グループは、今後変更になる場合があります。

② 件名

クリックすると、ポップアップ画面で掲示内容が表示されます。（P71 参照）

③ 切替ボタン

掲示の表示を 全授業 ／ 履修中授業 で切り替えます。（P72 参照）

④ 掲示件数

表示グループ内に掲示されている掲示の総数です。掲示は、初期状態では各表示グループにつき 5 件までしか表示されないため、掲示件数が 6 件以上の場合は全て表示するをクリックするとその表示カテゴリの掲示を全て表示することができます。

拡張表示後は、 一覧表示 ボタンで元の表示に戻すことができます。

拡張表示後の画面

（右上の 一覧表示 ボタンで元の表示に戻ります）

各種マークについて

：その掲示が未読であることを表します。

：重要度の高い掲示であることを表します。

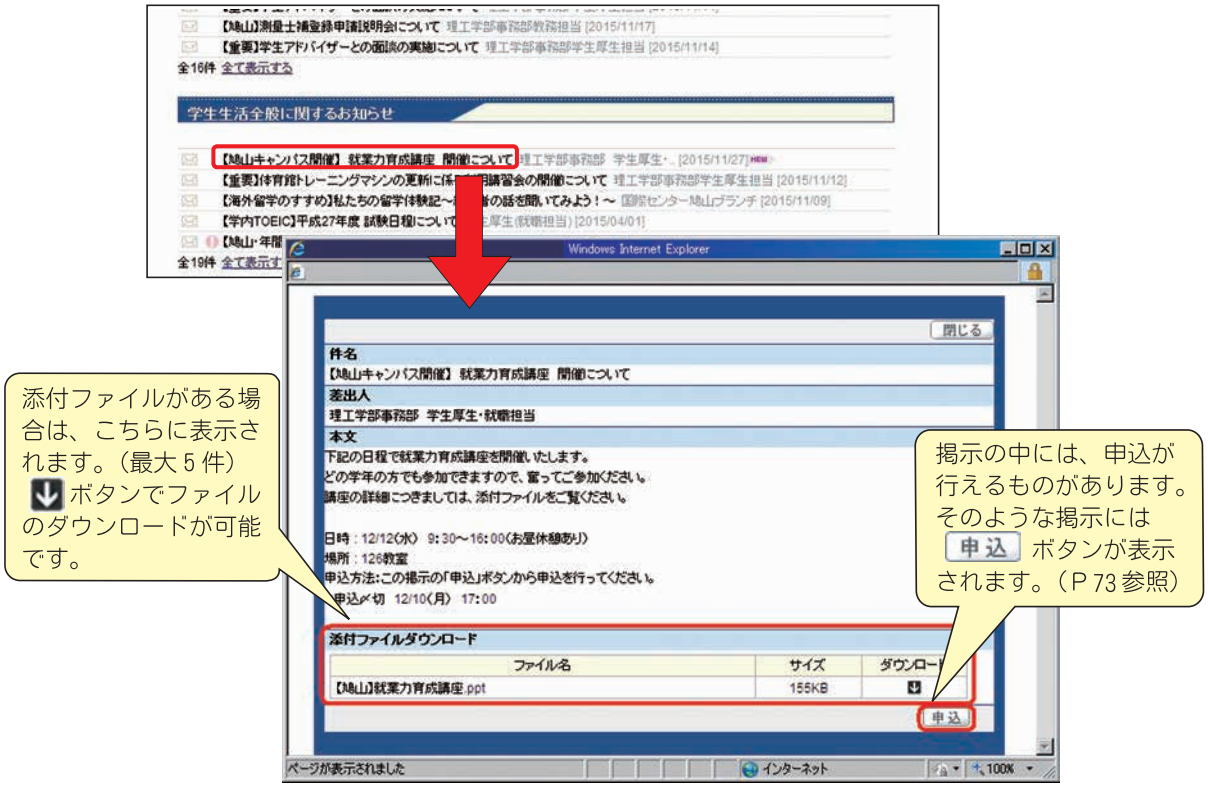
NEW ：新着の掲示であることを表します。

※新着の掲示は初期状態の 5 件に表示されているとは限りません。初期状態の 5 件に新着の掲示がない場合でも 5 件目以降に新着が表示されることもありますので、全て表示して確認してください。

※表示されている掲示は件名で必要の有無を判断せず、必ず本文を開いて内容を確認してください。

3. 掲示確認方法

掲示の件名をクリックすると、ポップアップ画面で掲示の内容が表示されます。



4. 掲示表示の切替について（全授業／履修中授業）

教職員が配信する掲示の中には、科目の履修者を対象に掲示を配信しているものがあります。履修者を対象に配信している掲示は、通常はその科目の履修者しか見ることができませんが、掲示表示の切替を行うことにより、履修者以外も閲覧することができるようになります。

ログイン後の画面に表示される掲示は、右側に 全授業 ボタンがついている掲示カテゴリに関しては、全授業 ／ 履修中授業 の表示の切替が可能です。

履修登録期間前に掲示を確認する場合、受講予定の科目に関する掲示が出ているかどうか、掲示の表示を切り替えて確認をしてください。

---

1 ログイン直後では、履修中の授業に関する掲示のみが表示されています。
履修中かどうかにかかわらず、全授業についての掲示を確認したい場合は 全授業 ボタンをクリックします。

ログイン直後

全授業 ボタンをクリックします。

2 全授業 ボタンを押すと、ボタンを押した掲示カテゴリのみ、掲示の表示が切り替わります。

履修中を含む全科目の掲示を見ることができます。（他キャンパスの掲示も表示されます）

この中から、履修予定の科目に関する掲示を探してください。

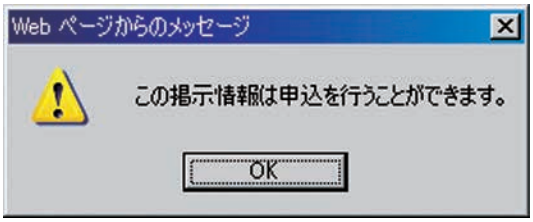
表示切替後

履修中以外の科目の掲示も表示されます。
（他キャンパス科目も含む）
履修中授業 をクリックすると、履修中科目の掲示表示に戻すことができます。

5. 申込について

掲示の中には、申込が行えるものがあります。申込が可能な掲示は、ポータル画面で掲示タイトルをクリックすると「この掲示情報は申込を行うことができます。」のポップアップが表示され、また掲示画面の右下に 申込 ボタンが表示されます。

申込可能な掲示の中には、申込定員があるものもあります。その場合は先着順となりますので、早めに申し込むようにしてください。

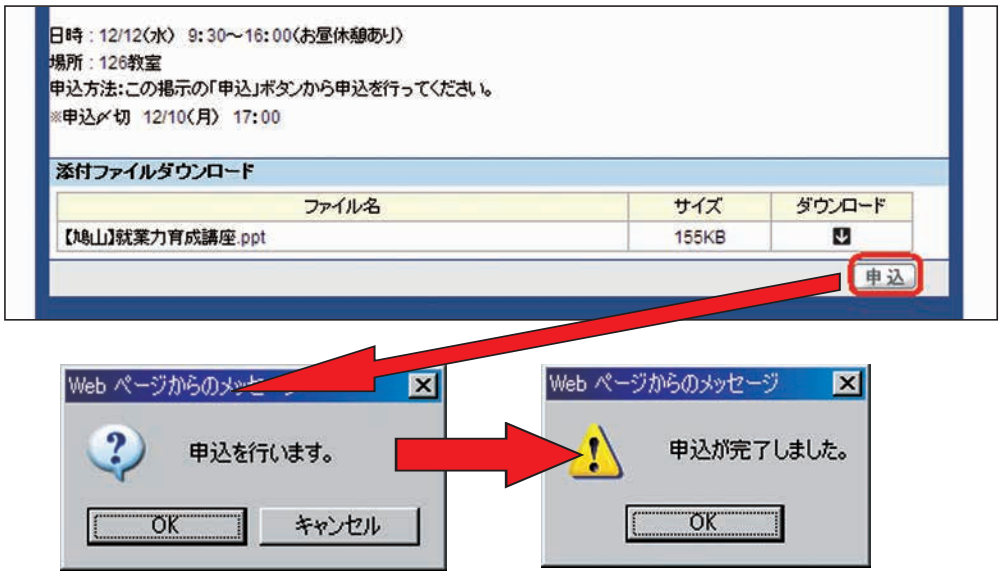


---

1 申込を行う場合は、掲示右下の 申込 ボタンを押します。

2 「申込を行います。」のポップアップが表示されますので、「ＯＫ」を選択します。

3 申込が正常に完了した場合、「申込が完了しました。」のメッセージが表示されます。



4 既に申込定員に達していた場合は、掲示上部に下記のエラーメッセージが表示され、申込は行われません。ただし、その後別の学生が申込の取消を行い、定員に空きができた場合は申込が可能になります。

申込制限により、申込は受け付けられませんでした。

5 申込後に申込を取り消す場合、申込 ボタンがあった場所に 申込取消 ボタンが表示されるようになりますので、そちらから申込の取消を行います。

6. 一部掲示のメール配信について

掲示は、内容により DENDAI − UNIPA での掲示とメール送信の両方で行っているものがあります。メール配信時間は原則として授業の行われていない 8：40 もしくは 19：40 ですが、緊急のものはそれ以外の時間に配信される場合もあります。

メールに表示される内容は、掲示タイトル・差出人・本文です。

初期状態では、DENDAI − UNIPA からのメールは総合メディアセンターのメールアドレスのみに送信されますが、メール設定画面の「受信メールアドレス（携帯）」欄にメールアドレスを追加することにより、総合メディアセンターのアドレスも含めた最大 2 件までメール受信先を設定することができます。

※ DENDAI − UNIPA の**掲示に添付ファイルがある場合でも、メールにはファイルが添付されません。**添付ファイルは、DENDAI − UNIPA で確認してください。
※メールには申込ボタンが表示されません。
申込を行う場合は、必ず DENDAI − UNIPA から申込を行ってください。
※ DENDAI − UNIPA からのメールは文字化けを起こして表示されることがあります。
必ず DENDAI − UNIPA でも確認してください。
※掲示は、原則としてメールを送信しません。DENDAI − UNIPA を必ず毎日確認してください。メールが届いていなかったから、掲示を見落としたということは理由になりませんので、十分に注意してください。
※ DENDAI − UNIPA からのメールは送信専用アドレスから送信を行っているため、返信ができません。
※「受信メールアドレス（PC）」の変更・削除はできません。
※「受信メールアドレス（携帯）」という標記になってはいますが、ＰＣのメールアドレスを登録することも可能です。
※携帯電話でドメイン指定受信を設定されている場合は、「@jim.dendai.ac.jp」ドメインからのメールを受け取れるよう設定してください。

シラバスの閲覧

1. シラバスについて

1．シラバスについて

シラバスとは、各授業の担当教員が作成した授業計画のことです。この授業では何を学ぶのか、何を目的としているのかが分かるものです。シラバスには科目名、配当学年、単位数、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）等が掲載されています。しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に情報を取得してください。

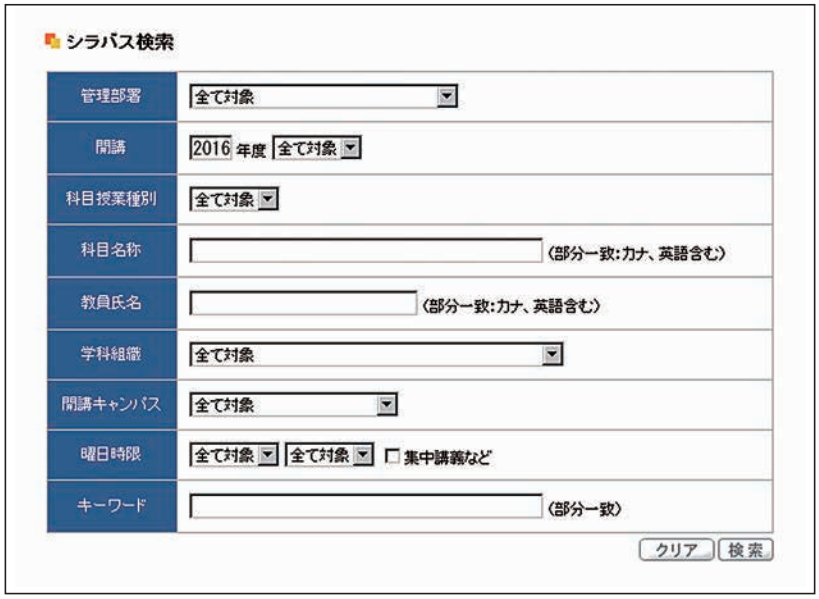
2. シラバスの閲覧方法

1 画面上部のメニューから 授業 ⇒ シラバス照会 をクリックしてください。

2 シラバス検索画面が開きます。

科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部又は全部を入力し、 検索 をクリックしてください。

※シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。
理工学部の学生が他学部や大学院のシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。



3 検索結果画面に科目が表示されます。目的の科目名をクリックしてください。

シラバス検索>検索結果　戻る

検索条件　教員氏名:井浦
学科組織: 理工学部 理工学科 RG 建築コース

開講曜日	科目名	教員氏名	開講区分	学年	開講学期	単位数
月5	2120021im1 工学基礎	井浦 雅司	週間授業	1年	2016前期	2.0単位
水2	2135005IM1 工業数学Ⅰ(RG)	井浦 雅司	週間授業	2年	2016前期	2.0単位
木1	2135010IM1 材料力学Ⅰ(RG)	井浦 雅司	週間授業	2年	2016前期	2.0単位
金2	2120006IM1 基礎微積分学A	井浦 雅司	週間授業	1年	2016前期	2.0単位

4件 1/1 ページ 1

4 選択した科目のシラバスが表示されます。

シラバス検索>>検索結果>シラバス照会　戻る　印刷　画面下へ

授業コード	2135010IM1		
科目名	材料力学Ⅰ(RG)		
英文名	Strength of Materials Ⅰ		
配当学年	2	単位数	2.0
開講年度・学期	2016年度 前期	曜日時限	木曜1限
主担当教員名	井浦 雅司		
副担当教員名			

目的概要	皆さんは、台風で送電鉄塔が倒れた事故を覚えていますか。 想像以上の強風が吹いたのが原因ですが、それではどれ位の 強風に耐えることができるのか、想像したことはありますか。 構造物の崩壊は、それを構成する材料が、その内部に発生する力を 支えきれないことにより起こります。 構造物には、自分自身の重さに加えて、風や地震など外部から色々な力が作用します。 これらの力によりその内部に内力(断面力)が発生し、構造物は変形するのです。 本講義では、構造物に関して外力・内力・変形の関係について説明します。 皆さんは、実際の構造物を安全かつ経済的に造る上で必要な基礎理論を学習することになります。
	[到達目標] 1. 節点法を用いてトラスの断面力を計算できること。 2. 切断法を用いてトラスの断面力を計算できること。

3. 他画面からのシラバス参照

シラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロファイル」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」上で行います。履修登録を行うときは、履修のページ（P 29 参照）、各種掲示・指示を確認して履修計画を立ててから行ってください。

履修登録の期間中に DENDAI − UNIPA で行うこと

1．履修登録科目の選択

1 履修希望科目の選択

↓

2 エラーチェック

↓

エラーを修正する（履修希望科目の選択に戻る）

↓

3 履修登録の確定

2．履修登録の操作を確認する

4 履修登録科目の確認方法

3．履修計画の不備を確認する

5 進級見込判定・卒業見込判定

6 履修登録期間後の履修登録科目確認方法

7 履修登録時の注意

8 履修登録でよくある質問と回答

1. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから 履修登録 をクリックします。（図 1）

図 1　メニュー

2 開講期および授業時限の選択

①開講期（前期・後期）を選択し、②編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。（図 2）

※集中講義は画面左下の 集中講義 にある 選 択 ボタンから履修できます。

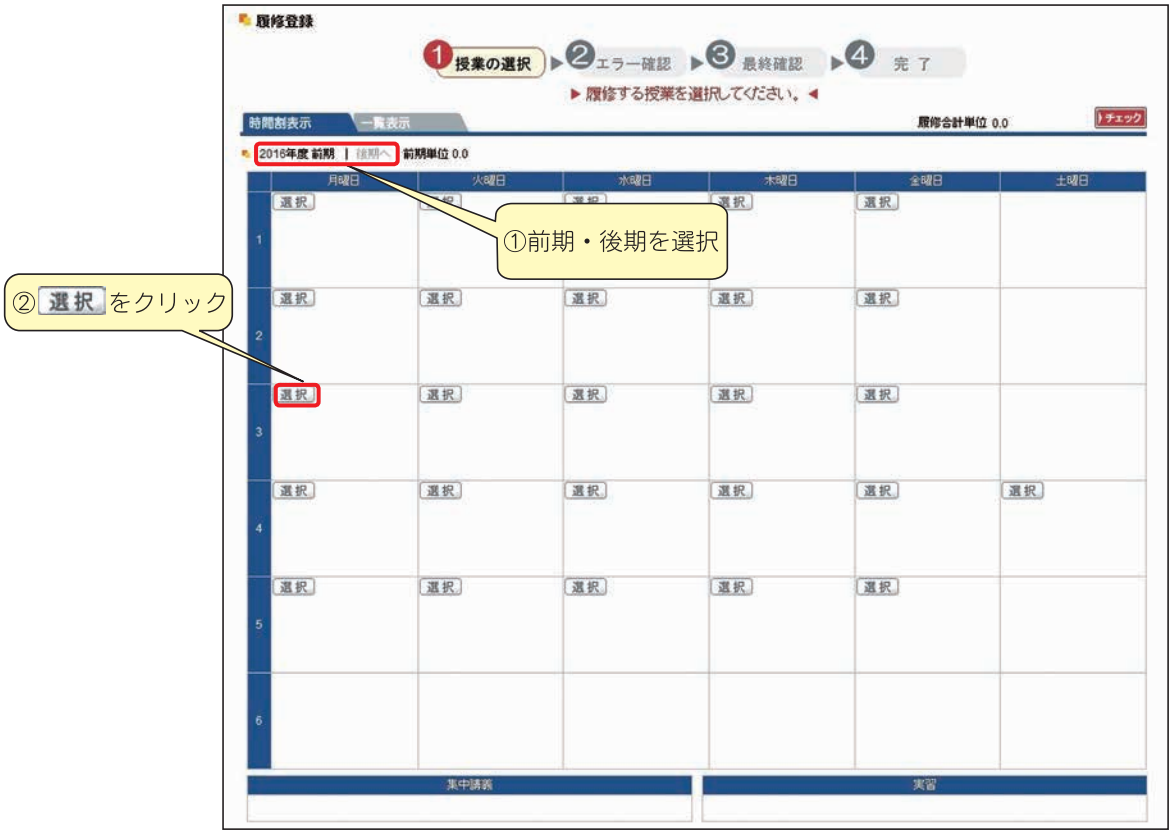


図 2　履修登録画面

3 履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に履修可能科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて 確 定 をクリックします。（図 3）

図 3　授業の追加画面

※**科目名のみを見て科目を選択すると、担当教員や開講学系・コースを間違える可能性があります。**科目を選択する際は、**同一時限に他に同名科目がないか必ず確認**してください。

※同じ科目でも担当教員（クラス）別に履修登録を受け付けている場合があります（紙の授業時間割表でも分かれて記載）。**教員氏名**（クラス分け）をよく確認して選択してください。

※学系の専門教育科目を選択する際は、**科目名の後ろに記載されている記号**（(RU), (b1) など）をよく確認してください。自分の学系・コースで開講している科目か特に注意してください。（P 89 参照）。

※**同名科目が並んで表示されているとは限りません。**画面上部と下部に離れて存在する場合があります。

※自分の学系・コース（主コース・副コース）の科目の他に、**他コース・他学系で開講している科目も表示**されています。

※科目名をクリックするとシラバスを参照できます。

※「授業の追加」画面が開かない場合、ブラウザのポップアップブロックを解除してください。（P 61 参照）

※ 複回 複数の時限（例：1・2 時限連続）に開講されている科目を表します。

※ 複期 通年科目を表します。

※前前期、前後期等の四半期で行う授業は、学期が重複しない組み合わせで一度に両方選択できます。

四半期で行う授業の追加画面

4 選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。（図 4）

科目を取り消す場合は 削除 をクリックします。

図 4　履修した科目の確認

2. エラーチェック

1 **履修希望科目を全て選択したら、チェック ボタンをクリックします。**
何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日時限コマがピンク色に表示されます。（図 5）

2 **エラーメッセージが出た場合は、画面上部の［登録内容にエラーがあります］のメッセージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正をしてください。（図 6）**

3 **エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。**
※エラー内容について不明な点がある場合は、教務担当に申し出てください。

4 **エラーが全てなくなると最終確認に進みます。**

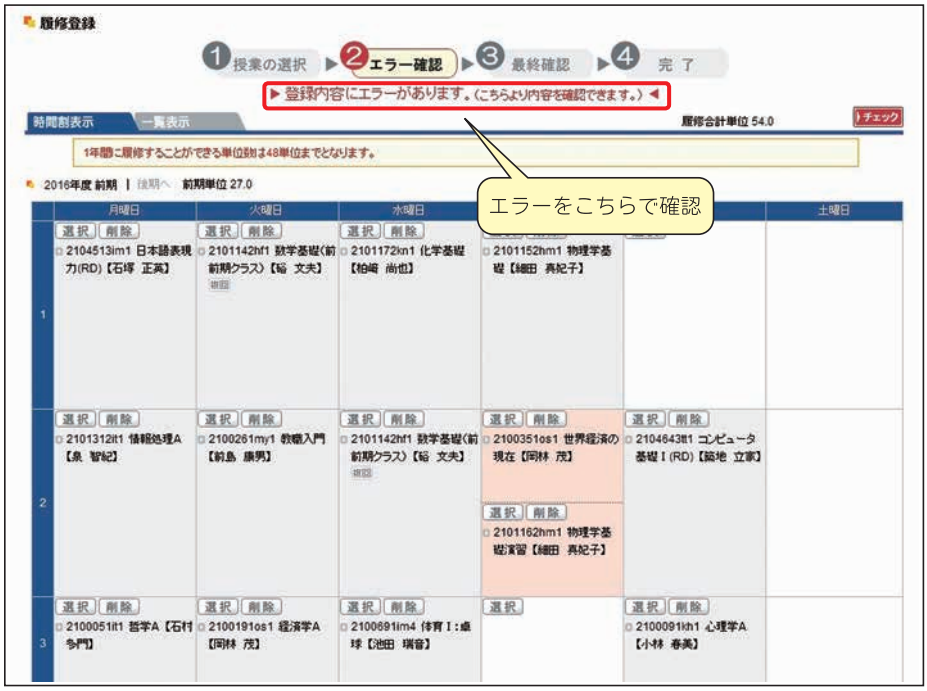


図 5　チェック後の画面（エラーあり）

※エラーがでている場合は、登録が未完了です。**必ずエラーは修正してください。**
※エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合は、履修登録期間内に教務担当窓口まで申し出てください。

主なエラーメッセージ

【同名科目を複数履修している場合】

⇒「既に履修中もしくは修得済みです。」

⇒「複数回修得不可の科目を複数回履修しています。」

⇒「科目重複。同じ科目がすでに登録されています。」

対応　修得済の科目の履修登録は削除してください。同名科目を複数履修登録している場合は、受講する方を残して、残りを削除してください。

【同じ曜日時限に複数科目を選択している場合】

⇒「時間割重複。」

対応　受講する方を残して、重複する他科目を削除してください。

【履修上限単位数を超えて履修登録をした場合】

⇒「１年間に履修することができる単位数は 48 単位までとなります。」

対応　履修計画を立て直し、１年間の履修登録単位数が 48 単位以下になるように削除してください。

図６「エラー内容の確認」画面

エラー内容について補足説明

①修得済の科目を再履修することや２回修得することはできません。担当教員が修得時と異なっていても同様です。

②同じ科目名の授業を同時に複数履修登録することはできません。開講学系、担当教員、開講学期が異なっていても同じ科目になります。

③窓口で手続きを要する履修は DENDAI － UNIPA では登録できません。指定された期間に各種手続きを行ってください。

④年間履修上限単位数超えのエラーは、履修単位数の合計から履修上限の制限を受けない科目（自由科目等）を除いた単位数が、上限単位数を超えた場合に表示されます。自由科目（教職科目等）を履修登録しているから上限エラーが表示されていても大丈夫ということはありません。

⑤履修上限の制限を受けない科目（自由科目等）は履修上限から除かれますが、そのコマに別の授業を履修登録する（時限を重複させる）ことはできません。

3. 履修登録の確定

エラーチェックの結果、エラーがなければ チェック ボタンが 確 定 ボタンに変わり、画面上部には［**エラーはありません。**］のメッセージが表示されます。（図 7）

履修登録画面に表示されている科目に間違いがないかどうか再度確認し、修正したい場合は 授業の選択へ戻る ボタンを、修正が必要ない場合は 確 定 ボタンをクリックします。

履修を一度確定した後も、履修登録期間内であれば履修内容の変更は可能です。

図 7　チェック後の画面（エラーなし）

※ 確 定 をクリックする前に、登録もれがないかを確認してください。
※履修登録期間内に 確 定 ボタンをクリックしてください。

4. 履修登録科目の確認方法

履修登録を確定すると、［**履修登録が完了しました。**］のメッセージと 時間割表の印刷 ボタンが出現します。（図 8）

履修内容の確認のために、必ず 時間割表の印刷 ボタンでプリントアウト（A 4）を行い、各自保管してください。

図 8　履修完了画面

※履修登録が確定したら時間割の印刷を行い、履修する科目全てについて、科目名・曜日時限・担当教員名・開講学系・コース等に誤りがないかを確認してください。
履修登録していない科目は、採点の対象とならないため単位を修得することはできません。

5. 進級見込判定・卒業見込判定

1年～3年次生は［進級見込判定］、3年～4年次生は［卒業見込判定］を行うことができます。

1 画面上部のメニューから 成績関連 → 卒業見込判定 又は 進級見込判定 を選択してください。（図 9）

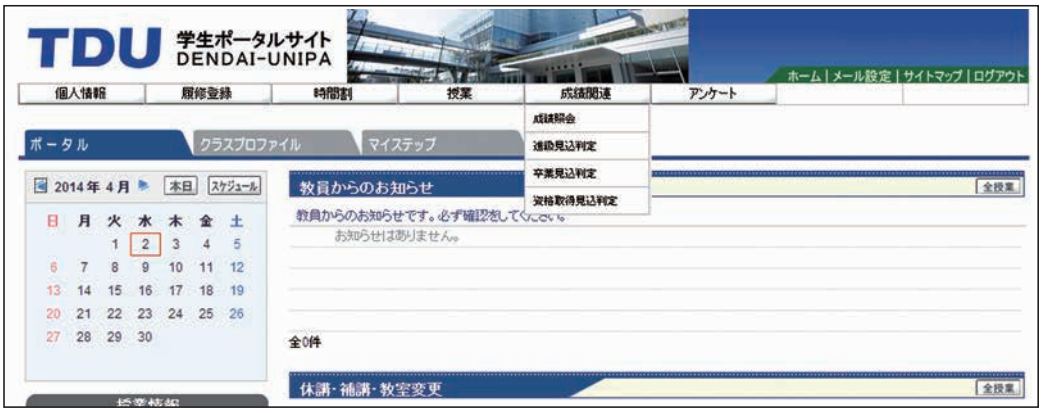
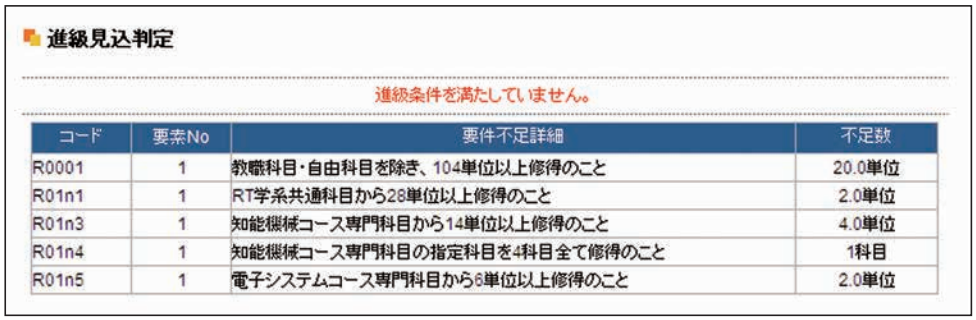


図 9　進級・卒業見込判定選択

2 判定結果が表示されます。（図 10）
単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。



進級見込判定

進級条件を満たしていません。

コード	要素No	要件不足詳細	不足数
R0001	1	教職科目・自由科目を除き、104単位以上修得のこと	20.0単位
R01n1	1	RT学系共通科目から28単位以上修得のこと	2.0単位
R01n3	1	知能機械コース専門科目から14単位以上修得のこと	4.0単位
R01n4	1	知能機械コース専門科目の指定科目を4科目全て修得のこと	1科目
R01n5	1	電子システムコース専門科目から6単位以上修得のこと	2.0単位

図 10　進級見込判定結果

※進級・卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに進級・卒業見込判定画面を確認してください。
※ここでの進級・卒業見込判定は、履修登録した科目の単位がすべて修得できたとみなした上で、行われています。
※進級・卒業条件は選択した主コース・副コースの組み合わせにより異なります。進級条件についての詳細は所属する学系の進級条件表のページを、卒業条件については卒業についてのページをご覧ください。
※進級・卒業には、別途在学期間等を充たす必要があります。

6. 履修登録期間後の履修登録科目確認方法

履修登録期間後は、「履修登録」のメニューが表示されなくなります。

履修登録期間後に履修科目の確認を行う場合は、「学生時間割表」画面で確認をすることができます。

1 画面上部のメニューから 時間割 → 学生時間割表 を選択します。

2 「学生時間割表」画面が開きます。
科目名をクリックすると、その科目のシラバスを確認することができます。

7. その他　注意事項（同名科目に関する注意）

複数の学系やコースにまたがって開講されている科目は、同じ曜日時限のコマに同じ科目名が複数表示されます。科目名の後ろに（RU）（u1）などの記号がついていますので、自分の取りたい学系・コースの科目を選択してください。

学系共通科目はアルファベット大文字の学系記号（（RU）など）、コース専門科目は基本的にアルファベット小文字＋数字のコースコード（（u1）など）で表示されます。

コースコードと実際のコース名の対応につきましては、各学系の配当表のページをご覧ください。

（例 1）

生命理工学系（RB）の学生が「生物学」を生命理工学系共通科目として履修したい場合（図 11）「生物学（RB）」を選択してください。

同名科目の「生物学（RU）」を選択すると理学系（RU）共通科目扱いになります。

授業の追加　閉じる

2016年度 前期 月1

	授業コード	科目名	単位
☐	2101152ot1	物理学基礎【小田垣　孝】	1.0
☐	2101152sk1	物理学基礎【隅山　兼治】	1.0
☐	2101232im1	物理学A【井上　真】	2.0
☐	2101232nk1	物理学A【仲光　邦昭】	2.0
☐	2101312it3	情報処理A【泉　智紀】	2.0
☐	2102063ka1	生物学(RU)【栗山　昭】	2.0
☐	2102103kh1	数理情報学入門(RU)【狩野　弘之】	2.0
☐	2103223ka1	生物学(RB)【栗山　昭】	2.0
☐	2104033kh1	コミュニケーション科学(RD)【小林　春美】	2.0
☐	2106633tk1	電気回路Ⅰ・演習(RT)【田中　慶太】 複回	3.0
☐	2108573ch1	測量実習(RG)【近津　博文】 複回	2.0
☐	2109302hm1	基礎物理学実験【細田　真妃子】 複回	2.0
☐	2109312rm1	基礎化学実験【類家　正稔】 複回	2.0
☐	2109554ut1	機械工学実験・実習Ⅰ(t2)【内田　千城】 複回	1.0

確定

図 11　同名科目の例（生物学）

（例 2）

主コースが理学系化学コース（U3）・副コースが理学系物理学コース（U2）の学生が「統計力学Ⅱ」を副コースの物理学コース専門科目として履修したい場合（図 12）

「統計力学Ⅱ (u2)」を選択してください。

同名科目の「統計力学Ⅱ（u3)」を選択すると主コースの化学コース専門科目扱いになります。

授業コード	科目名	単位
2102564nk1	量子力学Ⅲ(u2)【仲光 邦昭】	2.0
2102904kh1	最適化法(u4)【狩野 弘之】	2.0
2103333mk1	機器分析(RB)【村松 和明】	2.0
2103353ym1	環境分析学(RB)【山名 昌男】	2.0
2103664ks1	高分子化学(b1)【川井 悟】	2.0
2104203mf1	基礎確率論(RD)【町原 文明】	2.0
2102554ot1	統計力学Ⅱ(u2)【小田垣 孝】	2.0
2102694ot1	統計力学Ⅱ(u3)【小田垣 孝】	2.0
2105364kn1	アミューズメントデバイス論(d3)【柏崎 尚也】	2.0
2105484im1	アミューズメント産業論(d3)【石塚 正英】	2.0
2106733mf1	人工臓器学(RT)【宮脇 富士夫】	2.0
2107444wh1	材料力学Ⅱ・演習(t2)【渡利 久規】 複回	3.0
2109312rm1	基礎化学実験【類家 正稔】 複回	2.0
2109554ut1	機械工学実験・実習Ⅰ(t2)【内田 千城】 複回	1.0

図 12　同名科目の例（統計力学Ⅱ）

8. 履修登録でよくある質問と回答

Q **パスワードがわからない（忘れた）。**
A 総合メディアセンターにお問合せください。再発行となる場合もありますので、履修登録前にパスワードの確認を事前に行ってください。

Q **ログインできない。**
A 学籍番号を半角小文字で入力していない、もしくはパスワードが間違っている可能性があります。再度、入力してみてください。

Q **履修登録できない科目がある。**
A その科目は、すでに単位修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。教務窓口に申し出てください。

Q **何度修正してもエラーメッセージが消えない。**
A 履修登録期間内に、教務窓口に申し出てください。

Q **午前 3 時～午前 5 時 30 分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？**
A システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。

Q **再履修はどのように履修登録するのか？**
A 新規履修と同様に履修登録を行ってください。

Q **履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？**
A 履修登録の「最終確認」で「確定」をクリックしていない可能性があります。「確定」をクリックし、正常終了しないと、選択内容はクリアされる場合があります。

Q **履修登録後に登録間違いに気がついた**
A 一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です。期間終了後は変更が不可能となりますのでご注意ください。

Q **Ｗｅｂ履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？**
A ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。

Q **担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。**
A 教務窓口に申し出てください。

Q **前後期科目、隔週開講科目はどのように履修登録するのか？**
A 他の科目と同様に履修登録を行ってください。前前期と前後期のように学期が重複しなければ同時に履修登録できます。隔週開講科目も同時に履修登録できます。

履修登録用　下書き　前期

履修登録期間前に履修計画を立て、それから履修登録を行ってください。

※コースコード・単位数は授業科目配当表で確認すること。

時限・科目		月	火	水	木	金	土
1	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
2	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
3	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
4	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
5	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						

集中講義	科目名	コースコード	単位数	担当教員名

履修登録単位数	必修・選択（前期）	自由（前期）
	単位	単位

履修登録用　下書き　後期

履修登録期間前に履修計画を立て、それから履修登録を行ってください。

※コースコード・単位数は授業科目配当表で確認すること。

時限・科目		月	火	水	木	金	土
1	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
2	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
3	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
4	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
5	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						

集中講義	科目名	コースコード	単位数	担当教員名

履修登録単位数	必修・選択（前期）	自由（前期）	必修・選択（後期）	自由（後期）	必修・選択（1 年間）	自由（1 年間）
	単位	単位	単位	単位	単位	単位

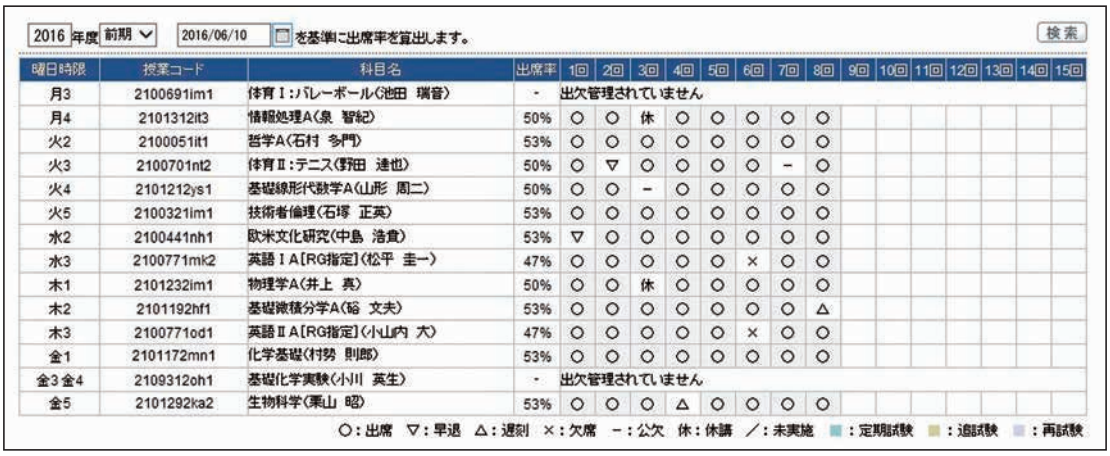
出席の確認方法

1. 出席情報の確認

学生証による出席管理を行っている授業の場合は、出席情報を DENDAI − UNIPA で確認することができます。

1 画面上部のメニューから 授業 → 出席情報 を選択します。

2 出席確認画面が表示されます。



2016 年度 前期 2016/06/10 を基準に出席率を算出します。 検索

曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
月3	2100691im1	体育Ⅰ:バレーボール(池田 瑞音)	-	出欠管理されていません														
月4	2101312it3	情報処理A(泉 智紀)	50%	○	○	休	○	○	○	○	○							
火2	2100051it1	哲学A(石村 多門)	53%	○	○	○	○	○	○	○	○							
火3	2100701nt2	体育Ⅱ:テニス(野田 達也)	50%	○	▽	○	○	○	○	−	○							
火4	2101212ys1	基礎線形代数学A(山形 周二)	50%	○	○	−	○	○	○	○	○							
火5	2100321im1	技術者倫理(石塚 正英)	53%	○	○	○	○	○	○	○	○							
水2	2100441nh1	欧米文化研究(中島 浩貴)	53%	▽	○	○	○	○	○	○	○							
水3	2100771mk2	英語ⅠA[RG指定](松平 圭一)	47%	○	○	○	○	○	×	○	○							
木1	2101232im1	物理学A(井上 真)	50%	○	○	休	○	○	○	○	○							
木2	2101192hf1	基礎微積分学A(裕 文夫)	53%	○	○	○	○	○	○	○	△							
木3	2100771od1	英語ⅡA[RG指定](小山内 大)	47%	○	○	○	○	○	×	○	○							
金1	2101172mn1	化学基礎(村勢 則郎)	53%	○	○	○	○	○	○	○	○							
金3 金4	2109312oh1	基礎化学実験(小川 英生)	-	出欠管理されていません														
金5	2101292ka2	生物科学(栗山 昭)	53%	○	○	○	△	○	○	○	○							

○：出席 ▽：早退 △：遅刻 ×：欠席 −：公欠 休：休講 ／：未実施 ■：定期試験 ■：追試験 ■：再試験

記号	状態	備考
○	出席	
△	遅刻	基準は科目担当教員により異なります。
▽	早退	
×	欠席	
―	公欠	
空欄		出席を取らなかった場合は空欄になります。

※定期試験・追試験・再試験の表示は使用していません。
※「出欠管理されていません」の表示は DENDAI―UNIPA での出欠管理をしていません（他の方法で出欠を管理しています）。
※表示されている出席率は、その授業の出席評価の基準で算出されているものではありません。遅刻等をどのように取り扱うかは授業・科目担当教員により異なります。

2. 出席情報に関するよくある質問と回答

Q **出席データはいつから表示されますか？**

A 履修登録が確定してからの表示となります。前期は 5 月中旬、後期は 10 月下旬から科目ごとに順次表示されます。

Q **出席を取っているが反映されていない。科目の出席データはどのタイミングで表示されますか？**

A 表示されるタイミングは、授業・科目担当教員により異なります。また、レポートや課題提出をもって出席としている等の学生証以外で出席を管理している授業の場合は、DENDAI―UNIPA には反映されないことがあります。

Q **出席率の最大値について**

A 2 コマ連続授業の場合は 2 コマそれぞれで出席を取った場合、出席率の最大は 100%、片方のみの場合は 50%となります。また、休講等により必ずしも 100%にはならない場合があります。

Q **遅刻、早退、欠席、公欠となっている日について、質問したい。**

A 各状態の判断は担当教員により異なります。詳しくは科目担当教員に相談してください。出席したが欠席となっている場合は、授業時のノート、配布資料等の出席していたことを示せるものを持って相談してください。教務担当窓口では、出席したことの証明はできません。

Q **欠席届を提出したが、公欠となっていない。**

A 公欠の判断は担当教員により異なります。公欠として認めた場合でも、DENDAI―UNIPA に反映しない場合があります。詳しくは科目担当教員に相談してください。

Q **学生証を忘れてしまった。**

A 授業時に科目担当教員に申し出てください。申し出があった場合でも、DENDAI―UNIPA に反映しない場合があります。教務担当窓口で、出席の手続きはできません。

成績の確認方法

1. 成績照会

「成績照会」画面では、成績評価を確認することができます。成績は、前期末（9 月中旬）と後期末（3 月上旬）に更新されます。

1 画面上部のメニューから 成績関連 → 成績照会 を選択します。

2 「成績照会」画面が開きます。

成績照会

表示パターン ◉ 通常 ○ 年度学期別

表示設定 ☑ 評価名称 ☑ 素点 ☑ 不合格科目 ☑ 履修中科目 ☑ GPA 表示

	科目名	単位	評価	素点	年度	学期	教員氏名
	共通教育科目						
	英語科目						
	英語必修						
	英語ⅠA	1.0	S	93	2016	前期	松平 圭一
※	英語ⅠB	1.0			2016	後期	松平 圭一
	英語ⅡA	1.0	A	86	2016	前期	小山内 大
※	英語ⅡB	1.0			2016	後期	小山内 大
	人間形成科目						
	フレッシュマンゼミA	1.0	B	74	2016	前期	大塚 尚久
	経済学A	2.0	C	65	2016	前期	岡林 茂
※	日本経済の現在	2.0			2016	後期	岡林 茂
※	社会の成り立ち	2.0			2016	後期	石村 多門
	体育Ⅰ		D	57	2016	前期	池田 瑞音
	専門教育科目						
	学部共通科目						

※評価が放棄（－）の場合は、評点が 666 として、認定（R）の場合は評点が 210 と表示されます。

2. ＧＰＡ・順位の確認

ＧＰＡ・学系内順位は、「成績照会」画面ではなく「学籍情報照会」画面で確認することができます。

ＧＰＡ・順位は、成績と同じタイミングで更新されます。

1 画面上部のメニューから 個人情報 → 学籍情報照会 を選択します。

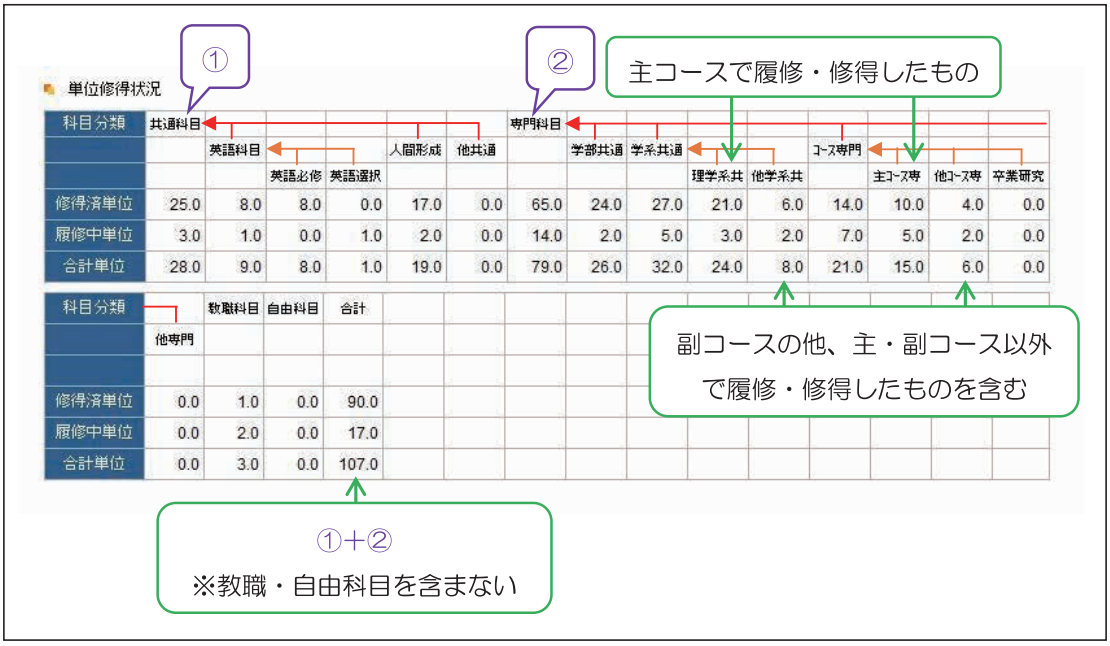
2 学籍情報照会画面が表示されます。「ＧＰＡ情報（鳩山キャンパス）」の項目が表示されるまで下にスクロールします。

※前期は８月下旬～９月の成績発表開始日時まで、後期は２月上旬～３月の成績発表開始日時までの期間、成績処理のため成績照会画面、学籍情報照会画面の GPA・順位の公開を停止いたします。

※成績発表後に成績の訂正があった場合の成績・GPA・順位は、次の成績発表時に更新されます。

3. 単位修得状況の見方

成績照会画面の下部には、どの科目区分でどのくらい単位修得したか、履修登録しているかが分かる単位修得状況を示す表があります。以下のように構成されています。



科目分類	共通科目						専門科目								
		英語科目			人間形成	他共通		学部共通	学系共通			コース専門			
			英語必修	英語選択						理学系共	他学系共		主コース専	他コース専	卒業研究
修得済単位	25.0	8.0	8.0	0.0	17.0	0.0	65.0	24.0	27.0	21.0	6.0	14.0	10.0	4.0	0.0
履修中単位	3.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	14.0	2.0	5.0	3.0	2.0	7.0	5.0	2.0	0.0
合計単位	28.0	9.0	8.0	1.0	19.0	0.0	79.0	26.0	32.0	24.0	8.0	21.0	15.0	6.0	0.0

科目分類	他専門	教職科目	自由科目	合計
修得済単位	0.0	1.0	0.0	90.0
履修中単位	0.0	2.0	0.0	17.0
合計単位	0.0	3.0	0.0	107.0

表の項目は学系により異なります。

※他学系共、他コース専には、副コースの他に、主コース、副コース以外で履修・修得した科目も含まれます。
※不足の区分を確認するときは、進級・卒業見込判定も併せて確認してください。

アンケート回答

1. アンケート回答

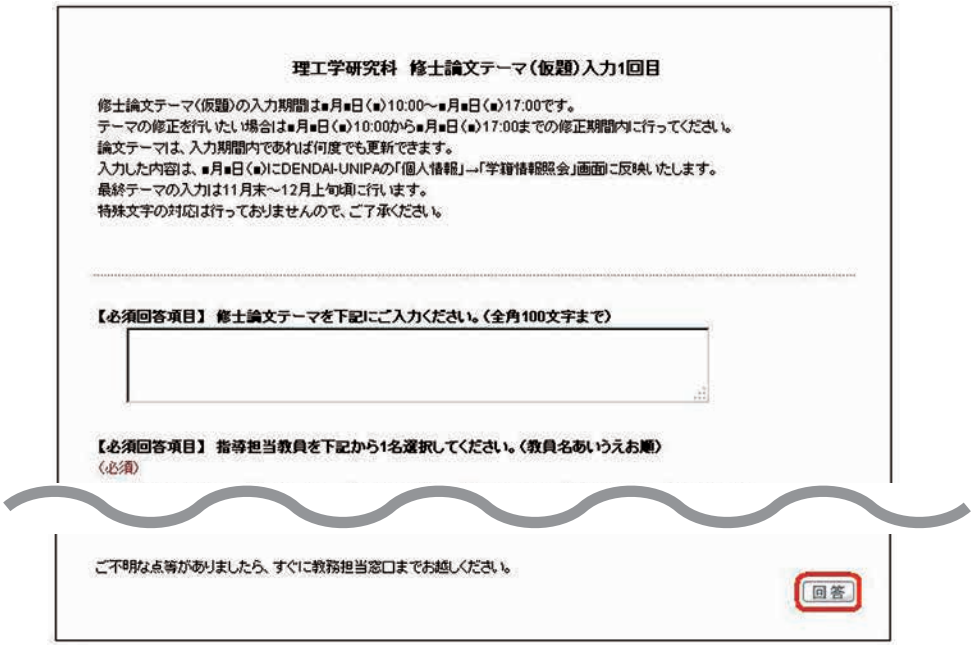
「アンケート回答」画面で、アンケートを行うことがあります。ここで行うアンケートは、意識調査からコース選択等の学生生活を送る上で必要な選択・回答までを行います。アンケートだからと言って、適当な気持ちで回答すると取り返しのつかないことになることもあります。

アンケートの実施がある場合は、掲示機能等でお知らせしますので、下記の手順で回答してください。

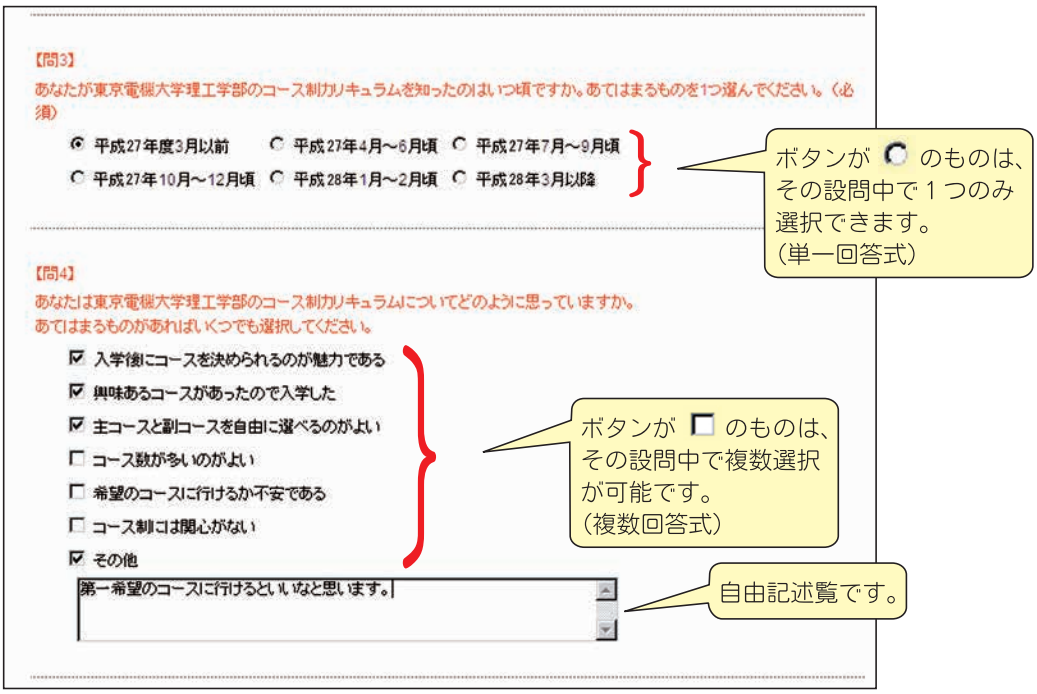
1 画面上部のメニューから アンケート → アンケート回答 を選択します。

2 「アンケート回答一覧」画面が開きます。回答したいアンケートのタイトルをクリックします。

3 アンケート画面が開きます。回答が終わったら、右下の 回答 ボタンを押します。



＜参考＞回答の種類について



4 一度回答した後も、回答期限までは回答の修正が可能です。

※（必須）と記載されている項目は、必ず回答が必要になります。回答がないと、アンケートを終了できません。
※自由記述欄があるアンケートは回答に時間がかかるため、回答中にタイムアウトになることがあります。こまめに 回答 ボタンで保存することをお勧めします。

連絡先の変更

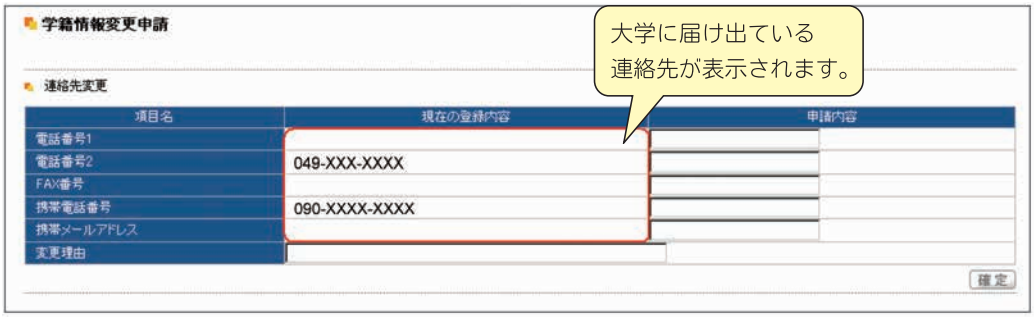
「DENDAI-UNIPA」上で連絡先の変更を申請することができます。携帯電話番号等の連絡先が変更になった場合は必ず申請をおこなってください。

1. 連絡先の変更申請

1 「学籍情報変更申請」画面の選択

画面上部のメニューから 個人情報 ⇒ 学籍情報変更申請 を選択してください。

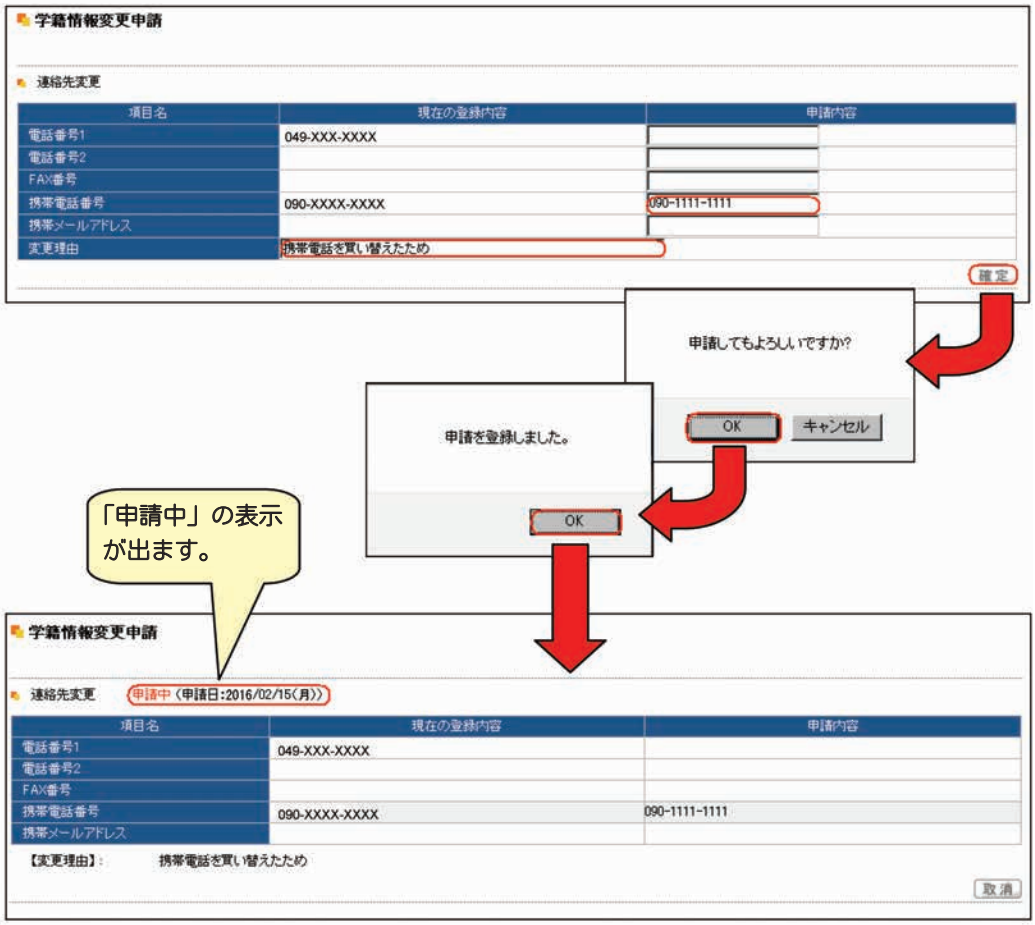
2 「学籍情報変更申請」画面が開きます。



※「DENDAI-UNIPA」上で変更できる学籍情報は「電話番号」「FAX番号」「携帯電話番号」「携帯メールアドレス」です。
※新入生連絡先届で届け出た学籍情報は 4 月下旬～ 5 月上旬頃に UNIPA に反映されます。

3 **変更内容と変更理由を入力し、確定 をクリックしてください。**

申請が完了すると「申請中」の表示が出ます。



以上で変更申請は完了です。

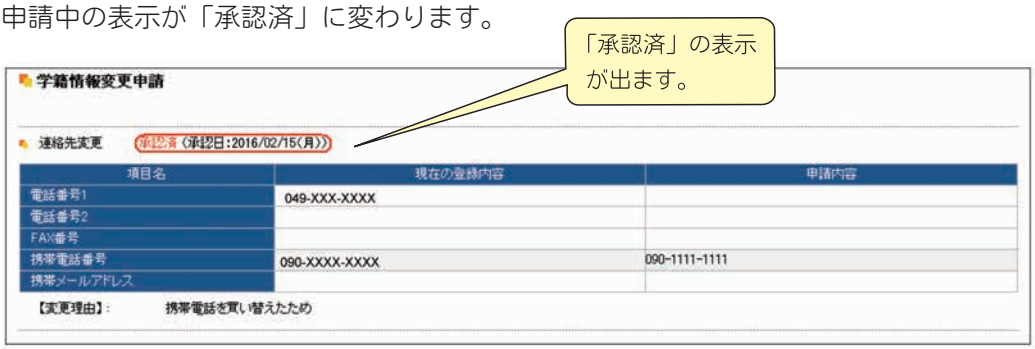
※ 確定 をクリックする前に、入力ミスがないかを確認してください。
※変更理由は簡潔に記入してください。申請内容や変更理由によっては申請を受け付けられない（否認する）場合もあります。
※入力内容を間違ったまま確定してしまった場合は、すぐに 取消 を押し、申請し直してください。

2. 申請の承認・否認

連絡先変更の申請に対し、大学から承認・否認がなされます。承認の場合は連絡先の変更が行われ、否認の場合は連絡先の変更は行われません。なお、申請の承認・否認については申請から１週間程度かかる場合があります。

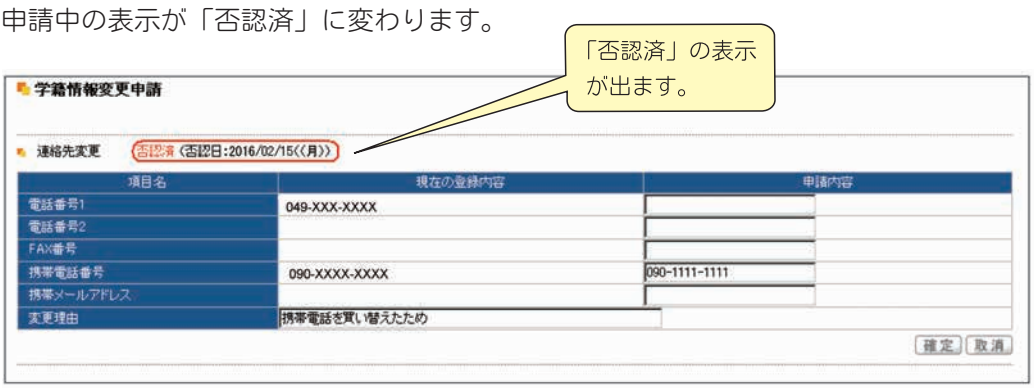
(1) 承認

申請中の表示が「承認済」に変わります。



(2) 否認

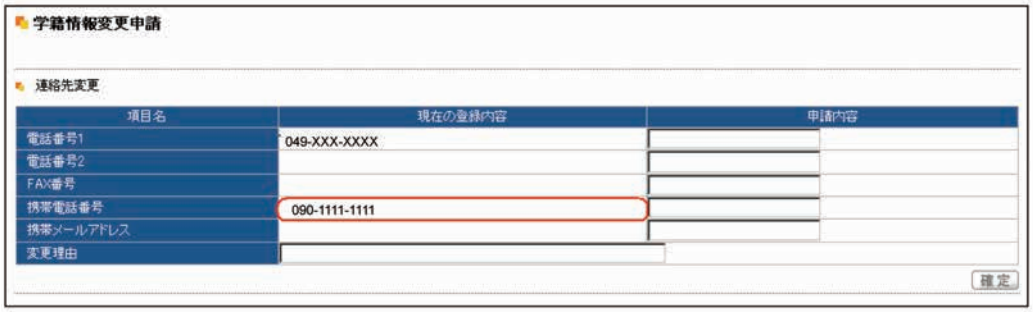
申請中の表示が「否認済」に変わります。



※承認後は申請の取消が出来なくなります。申請する際には入力ミスに気をつけてください。万が一、誤った内容で承認されてしまった場合は、申請内容が反映された時点で再度申請してください。
※否認の場合はすぐに申請し直すことが出来ます。不備の部分を訂正し、申請し直してください。

3.「DENDAI － UNIPA」への反映

承認が行われると「DENDAI-UNIPA」へ申請内容が反映されます。なお、反映には申請承認から１～２週間程度かかります。



※反映後は変更申請が可能となります。
※申請内容は「学籍情報照会」画面に反映されます。

クラスプロファイル（授業資料・課題提出等）

1. クラスプロファイルについて

クラスプロファイルでは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などを「DENDAI － UNIPA」上で行うことができます。

教員からの指示等に応じて、クラスプロファイルの各機能を使用してください。

※履修登録を行っていない授業科目は、クラスプロファイル機能を使用することができませんのでご注意ください。
※クラスプロファイルの利用は、**履修登録年度の 2 月まで利用可能**です。
※必要な資料は、履修登録年度の 2 月までに各自で自身のパソコン等に保存してください。

(1) 画面構成

① 曜日リスト

曜日をクリックすると時限ごとに履修している授業名が表示されます。

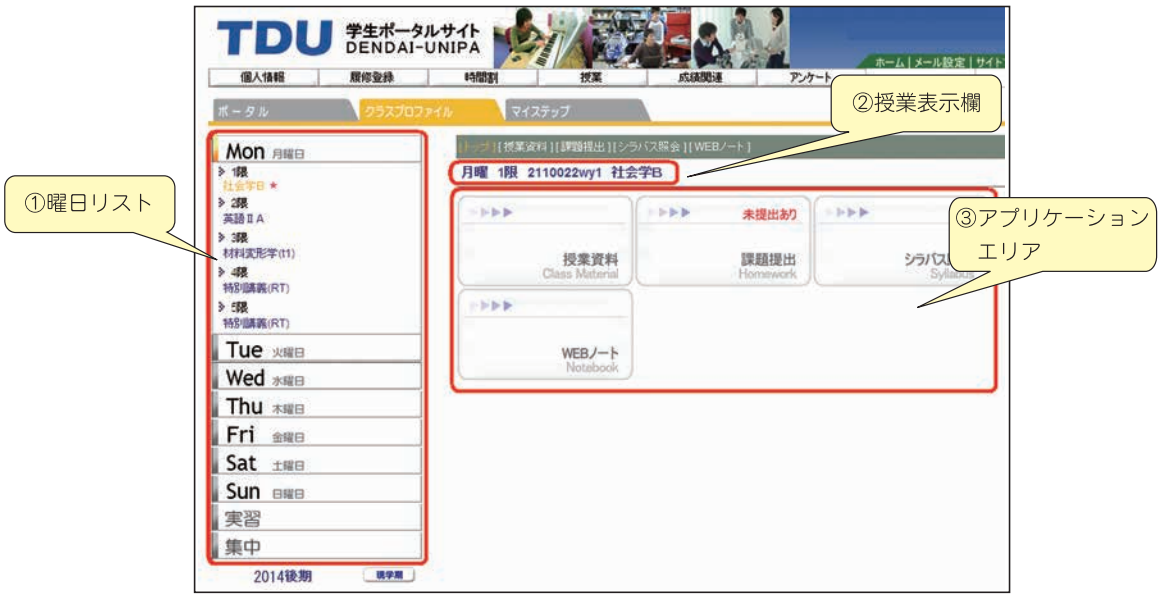
［課題管理］に新着情報がある場合は授業名の右に ★ が表示されます。

② 授業表示欄

曜日リストで選択した授業の情報が表示されます。

③ アプリケーションエリア

②の授業表示欄に表示されている授業に対し、使用可能な機能の一覧です。



(2) クラスプロファイルの基本操作

1 「DENDAI − UNIPA」にログインし、トップページから クラスプロファイル をクリックします。

2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。

科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。

2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI − UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます。（履修登録した学生のみ）

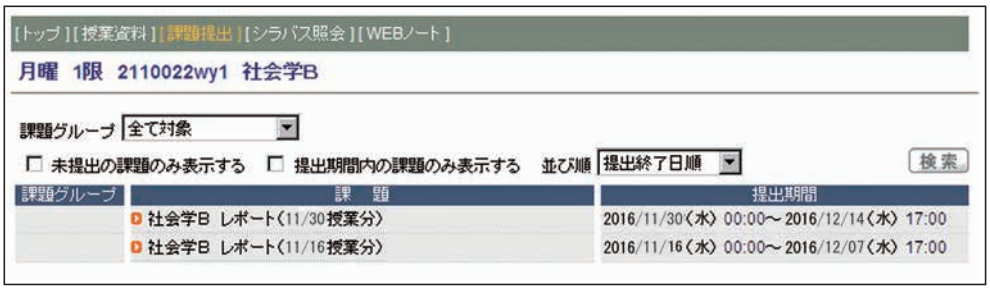
1 曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから 授業資料 をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。

2 授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の をクリックすると資料をダウンロードできます。

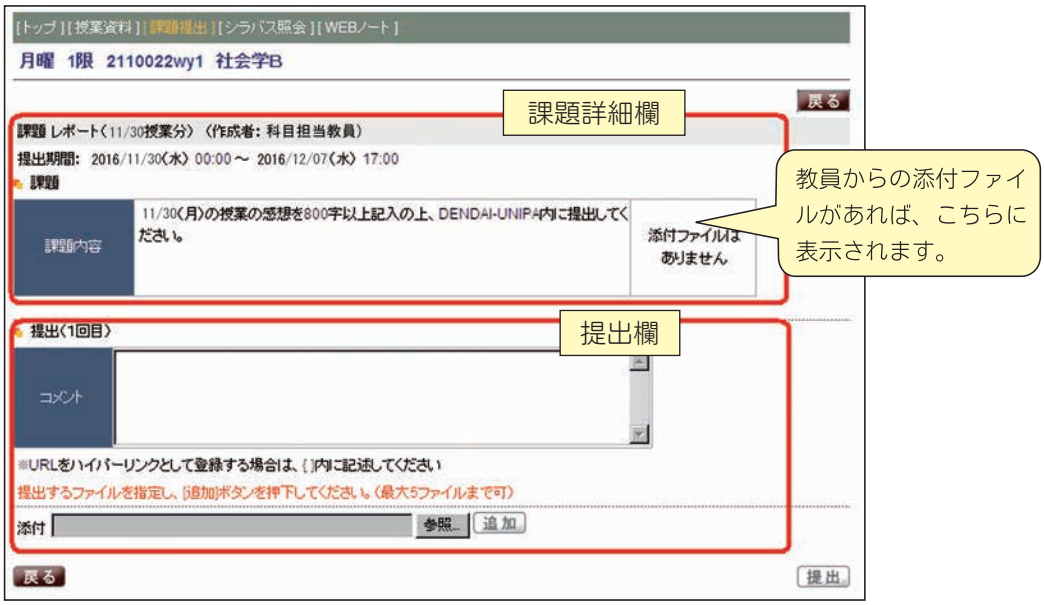
3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI － UNIPA」上で確認・提出することができます。

1 アプリケーションエリアの 課題提出 をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。



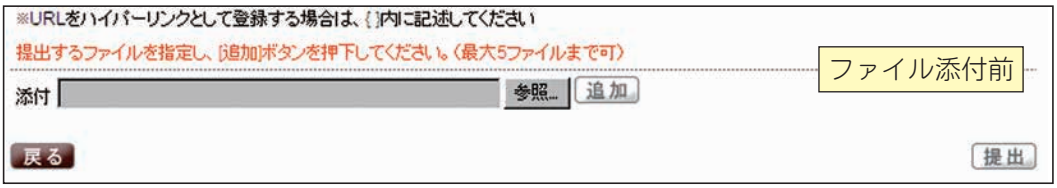
2 課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。

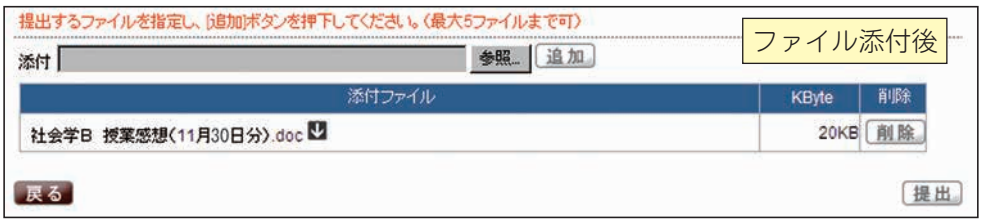


3 「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。
添付ファイルで提出する場合は、 参照... をクリックします。

4 添付するファイルの選択をした後、必ず 追加 をクリックします。追加 をクリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。

※教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です。（1 ファイルにつき約 10MB がアップロードできる上限です。）
なお、拡張子のないファイルや、exe 形式のファイルは添付できません。





5 最後に右下の 提出 をクリックします。

6 課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。

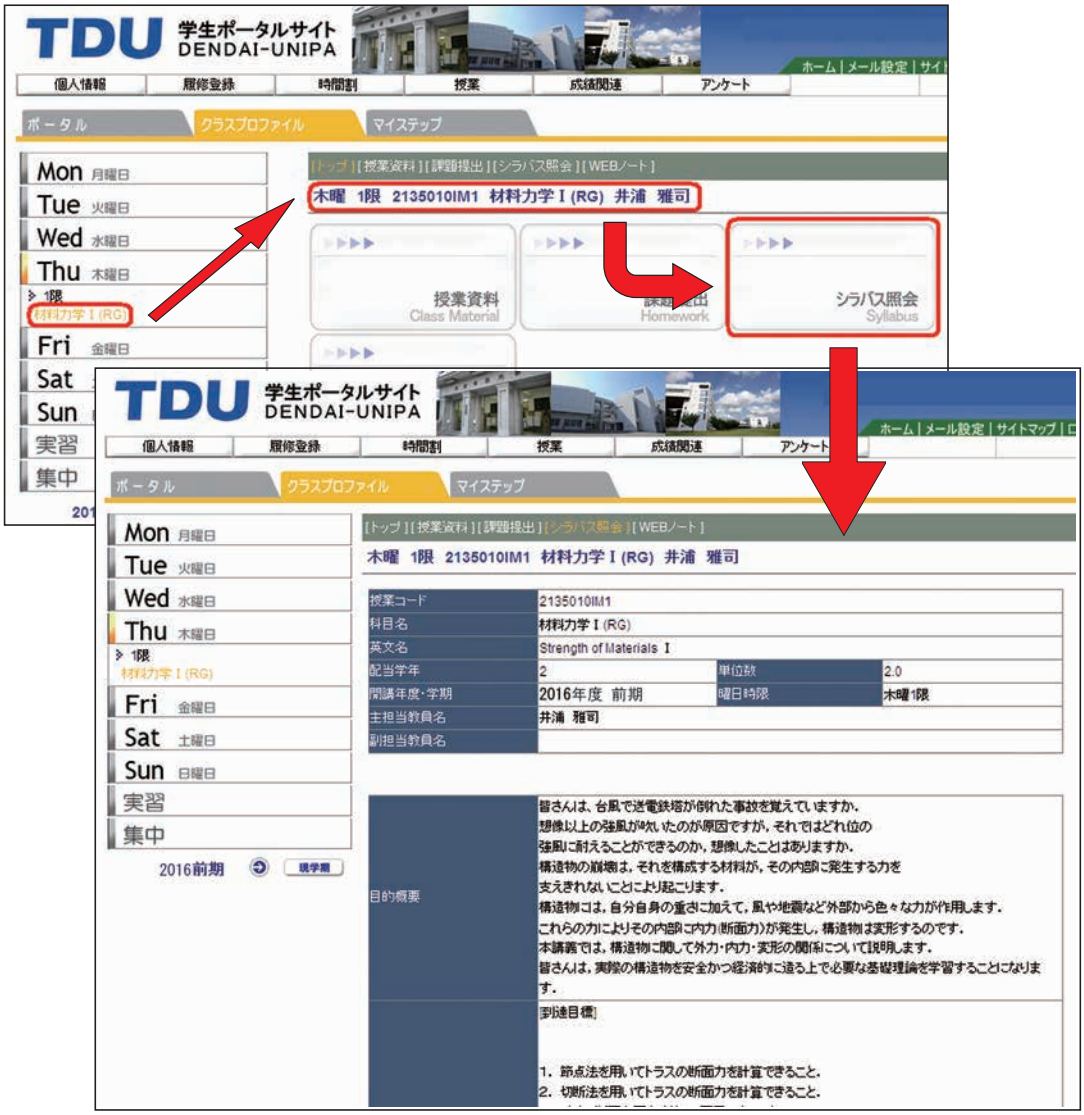
7 課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 提出 をクリックしてください。

※提出処理中に通信状態等により予期せぬトラブルが起こる可能性があります。提出期限に間に合わなかった場合も対応しませんので、時間に余裕をもって提出してください。

4. シラバス参照

履修登録している授業のシラバス内容を見ることができます。

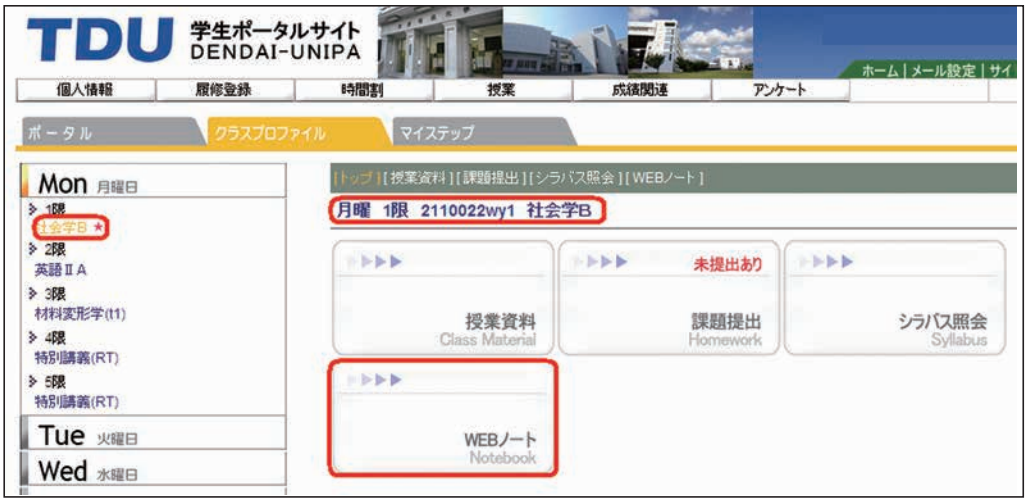
アプリケーションエリアから シラバス照会 を選択すると、履修登録している授業科目のシラバス内容を見ることができます。



5. WEB ノート

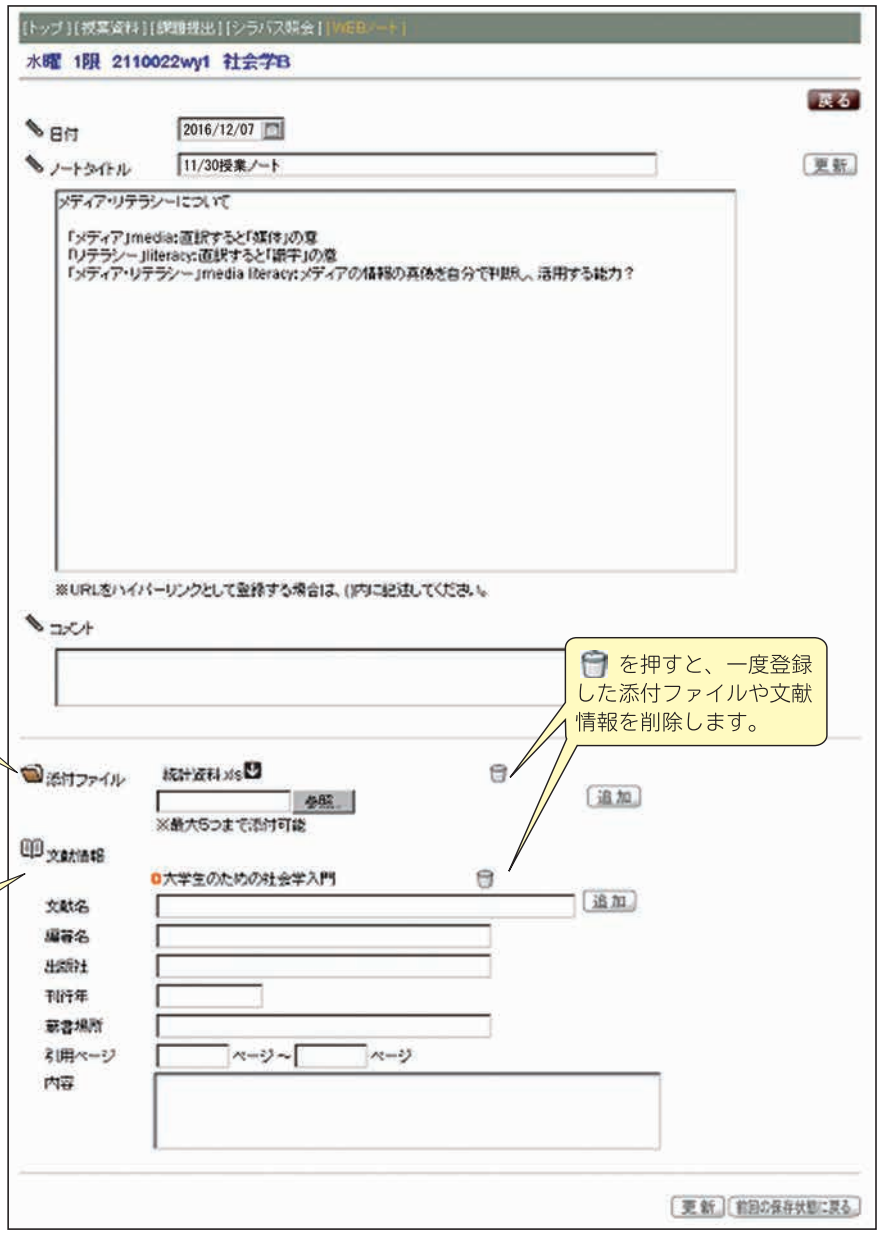
履修している授業のノートを Web 上に記入・管理することができます。授業に関連するファイルの添付も可能です。授業内容の整理に役立てることができます。

1 アプリケーションエリアから WEB ノート を選択しクリックします。



2 新規登録の場合は 新規 をクリックします。

3 WEB ノート編集画面が開きますので、必要に応じて内容を入力してください。
入力が終了したら、更新 をクリックします。
文章の記入のほか、ファイルの添付や文献情報の登録ができます。



【添付ファイル】欄
参照... でファイルを指定し、追加 を押すとファイル名が表示されます。

【文献情報】欄
文献名などを入力し、追加 を押すと文献名が表示されます。

を押すと、一度登録した添付ファイルや文献情報を削除します。

※ノートタイトル・本文・コメント欄には下記の文字は使用できません。
これらの文字を含む文章を記録したい場合は、別途 word やテキストファイルなどに入力・保存し、WEB ノートに添付することをお勧めします。

使用不可文字	＜（半角・より小さい）	＞（半角・より大きい）
	″（半角・二重引用符）	｜（半角・縦線）

※入力中にタイムアウトになると入力内容が消えてしまいます。更新 ボタンは何度でも押せますので、こまめに 更新 ボタンで保存を行ってください。

4 **登録済の WEB ノートを確認・修正したい場合は、ノートのタイトルをクリックすると WEB ノート参照画面が開きます。**

WEB ノート参照画面の 編集 をクリックすると、WEB ノート編集画面が開き、再度編集をすることができます。

削除 をクリックすることで、WEB ノートの削除を行うこともできます。

添付ファイル欄の を押すと、添付したファイルのダウンロードができます。

文献名をクリックすると、登録した文献情報の参照ができます。

共通教育科目

人間形成科目群

英語科目群

専門教育科目

学部共通科目群

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部の共通教育群は、豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、国際社会に対応できる人材の養成を目指し、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 社会の中での自分の立ち位置と、その意味を判断する力を涵養するために、社会科目を配置します。

(2) 歴史と文化を理解し、他者への敬意を払いつつ、革新を企てることができる自立心と批判的な思考力を育むために、人文科目を配置します。

(3) 具体的に、かつ計算を重視して思考する基礎力を身につけるために、数学の魅力を知る数学基盤教育を配置します。

(4) 自然現象を物理的に見る目を涵養するとともに、専門科目の基盤となる実験的手法と論理的思考を身につけるために、物理基盤教育を配置します。

(5) 物質を理解し創製するという科学技術の基盤となる基礎能力を養うために、化学基盤教育を配置します。

(6) 教職課程科目を配置し、教師として子どもを教育する上で必要な教育実践を行い、かつ教師としての力量の基礎を培います。

(7) 英語力、コミュニケーション能力、行動力を培うための科目を配置します。

(8) 科学・技術にかかわる倫理上の問題への理解を深め、また、教養ある社会人に相応しい倫理観を涵養するための科目を配置します。

2016（平成28）年度カリキュラム　※科目名のあとの（ ）付数字は群の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人間形成科目	人文科学系	東京電機大学で学ぶ(8) 哲学A(2) 現代青年の心理と論理(1) 歴史学A(2) 心理学A(1) 倫理学A(2) 技術者倫理(8) 文学A(2) 教養ゼミA◎(1)(2) ヒトの発達心理学(8) 日本語リテラシーA(7) 日本語リテラシーB△(7) 体育Ⅰ〜Ⅵ(7) 学外体育研修A,B(7)	哲学B(2) 歴史学B(2) 心理学B 倫理学B(8) 技術者倫理 文学B(2) 教養ゼミB◎(1)(2) 日本の文化と倫理(8) 社会福祉論(1) 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB△ 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B(7)	哲学A 現代青年の心理と論理 歴史学A 心理学A 倫理学A 技術者倫理 文学A 教養ゼミA ヒトの発達心理学 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B	哲学B 歴史学B 心理学B 倫理学B 技術者倫理 文学B 教養ゼミB 日本の文化と倫理 社会福祉論 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B	哲学A 現代青年の心理と論理 歴史学A 心理学A 倫理学A 技術者倫理 文学A 教養ゼミA ヒトの発達心理学 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B	哲学B 歴史学B 心理学B 倫理学B 技術者倫理 文学B 教養ゼミB 日本の文化と倫理 社会福祉論 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B	哲学A 現代青年の心理と論理 歴史学A 心理学A 倫理学A 技術者倫理 文学A 教養ゼミA ヒトの発達心理学 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B	哲学B 歴史学B 心理学B 倫理学B 技術者倫理 文学B 教養ゼミB 日本の文化と倫理 社会福祉論 日本語リテラシーA 日本語リテラシーB 体育Ⅰ〜Ⅵ 学外体育研修A,B
	社会科学系	経済学Ａ(1) 世界経済の現在(1) 法学A(1) 現代社会と法(1) 政治学Ａ(1) 社会学A(1) 科学技術と社会A(8) ことばと社会(1)(2)	経済学Ｂ(1) 日本経済の現在(1) 法学B(2) 日本国憲法(1) 政治学B(1) 社会の成り立ち(1) 社会学B(1) 科学技術と社会B(8)	経済学Ａ 世界経済の現在 法学A 現代社会と法 政治学Ａ 社会学A 科学技術と社会A ことばと社会	経済学Ｂ 日本経済の現在 法学B 日本国憲法 政治学B 社会の成り立ち 社会学B 科学技術と社会B 情報と倫理(8) 仕事と職業(8)	経済学Ａ 世界経済の現在 法学A 現代社会と法 政治学Ａ 社会学A 科学技術と社会A ことばと社会	経済学Ｂ 日本経済の現在 法学B 日本国憲法 政治学B 社会の成り立ち 社会学B 科学技術と社会B	経済学Ａ 世界経済の現在 法学A 現代社会と法 政治学Ａ 社会学A 科学技術と社会A ことばと社会	経済学Ｂ 日本経済の現在 法学B 日本国憲法 政治学B 社会の成り立ち 社会学B 科学技術と社会B
	語学系（異文化理解科目を含む）	欧米文化研究(2) アジア文化研究(2) ドイツ語入門Ⅰ(7) 基礎ドイツ語Ⅰ(7) 初級ドイツ語Ⅰ(7) フランス語入門Ⅰ(7) 基礎フランス語Ⅰ(7) 初級フランス語Ⅰ(7)	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅱ(7) 基礎ドイツ語Ⅱ(7) 初級ドイツ語Ⅱ(7) フランス語入門Ⅱ(7) 基礎フランス語Ⅱ(7) 初級フランス語Ⅱ(7)	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅰ 初級ドイツ語Ⅰ フランス語入門Ⅰ 基礎フランス語Ⅰ 初級フランス語Ⅰ	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅱ 初級ドイツ語Ⅱ フランス語入門Ⅱ 基礎フランス語Ⅱ 初級フランス語Ⅱ	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅰ 初級ドイツ語Ⅰ フランス語入門Ⅰ 基礎フランス語Ⅰ 初級フランス語Ⅰ	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅱ 初級ドイツ語Ⅱ フランス語入門Ⅱ 基礎フランス語Ⅱ 初級フランス語Ⅱ	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅰ 初級ドイツ語Ⅰ フランス語入門Ⅰ 基礎フランス語Ⅰ 初級フランス語Ⅰ	欧米文化研究 アジア文化研究 ドイツ語入門Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅱ 初級ドイツ語Ⅱ フランス語入門Ⅱ 基礎フランス語Ⅱ 初級フランス語Ⅱ

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人間形成科目	語学系（異文化理解科目を含む）	中国語入門Ⅰ(7) 基礎中国語Ⅰ(7) 初級中国語Ⅰ(7) 留学生のための日本語中級AⅠ 留学生のための日本語中級BⅠ 留学生のための日本語中級CⅠ	中国語入門Ⅱ(7) 基礎中国語Ⅱ(7) 初級中国語Ⅱ(7) 留学生のための日本語中級AⅡ 留学生のための日本語中級BⅡ 留学生のための日本語中級CⅡ 留学生のための日本事情Ⅰ	中国語入門Ⅰ 基礎中国語Ⅰ 初級中国語Ⅰ 留学生のための日本語上級Ⅰ 留学生のための日本事情Ⅱ	中国語入門Ⅱ 基礎中国語Ⅱ 初級中国語Ⅱ 留学生のための日本語上級Ⅱ	中国語入門Ⅰ 基礎中国語Ⅰ 初級中国語Ⅰ	中国語入門Ⅱ 基礎中国語Ⅱ 初級中国語Ⅱ	中国語入門Ⅰ 基礎中国語Ⅰ 初級中国語Ⅰ	中国語入門Ⅱ 基礎中国語Ⅱ 初級中国語Ⅱ
基盤教育	数学(3)	数学基礎（前々期） 数学基礎（前後期） 基礎微積分学A(前期) 基礎微積分学A（前後期） 基礎線形代数学A	基礎微積分学A 基礎微積分学B 基礎線形代数学B						
	物理(4)	物理学基礎 物理学基礎演習 物理学A 基礎物理学実験	物理学A 物理学B 基礎物理学実験						
	化学(5)	化学基礎 化学基礎演習 化学A 基礎化学実験	化学基礎 化学A, B 基礎化学実験						
	その他	環境科学	生物科学 環境科学						
	情報	情報処理A, B 工学基礎 立体図学	情報処理B						
国際化教育	英語(7)	英語ⅠA 英語ⅡA 海外英語研修A～D	英語ⅠB 英語ⅡB 海外英語研修A～D	英語ⅢA 英語ⅣA 海外英語研修A～D	英語ⅢB 英語ⅣB 海外英語研修A～D	英語ⅤA 海外英語研修A～D	英語ⅤB 海外英語研修A～D	海外英語研修A～D	海外英語研修A～D
教職科目	教職関係(6)	教職入門 教育課程論 生徒・進路指導論 道徳教育論 教育学概論 教職総合演習	教育課程論 教育社会学 教職総合演習 特別活動論	教職入門 教育課程論 教育心理学 生徒・進路指導論 道徳教育論 教育学概論 教職総合演習	教育課程論 教育相談 教育社会学 教職総合演習 特別活動論	教職入門 教育課程論 生徒・進路指導論 道徳教育論 教育学概論 教職総合演習	教育課程論 教育の方法と技術 教育社会学 教職総合演習 特別活動論	教職入門 教育課程論 教育実習セミナー 教育実習Ⅰ・Ⅱ 生徒・進路指導論 道徳教育論 教育学概論 教職総合演習	教育課程論 教職実践演習 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教育社会学 教職総合演習 特別活動論
	教育法(6)			工業科教育法A 情報科教育法A 理科教育法A 数学科教育法A	工業科教育法B 情報科教育法B 理科教育法B 数学科教育法B	理科指導法A 数学科指導法A	理科指導法B 数学科指導法B		
	教科関連専門科目(6)	情報と職業入門	情報と職業	情報と職業入門	情報と倫理 情報と職業	情報と職業入門 職業指導(通年)	情報と職業	情報と職業入門	情報と職業

人間形成科目群履修モデル

1．人間形成科目群とは

大学設置基準では、「教育課程の編成に当たっては、大学は、学部などの専攻にかかわる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮しなければならない」と定められています（第 19 条第 2 項）。

この課題に応えるのが、人間形成科目群です。大学で学ぶ以上は、単に有能な「職業人」となるにとどまらず、高い見識を持った「教養人」になることが期待されているのです。

本学の初代学長の丹羽保次郎博士が遺した「技術は人なり」という銘言も、そうした期待を表わした言葉であると言えます。技術は、単に職に就いたり収入を得るためのものではなく、技術という文化の習得そのものを通じて「人間性が磨かれる」ということの重大さに注意を向けた理念なのです。

では、「人間性を磨く」「教養を磨く」「学のある人間になる」にはどうすればいいのでしょう。人類文化の歴史に敬意を払いながら、自らの頭で一歩でも考えを前に進める、ということであると思います。長い人生を楽しく過ごし、そのあなた一人の人生を同時に人類にとっても有意義なものにするには、自ら思考し学び続けることが肝心であり、そうした習慣を是非この大学時代に形成することです。

人間形成科目群では、人類が面白いと考え、大事だと思って、開拓・発展させてきた様々な学問分野を、皆さんの興味や関心の広がり・深まりに応じて学べるよう、どの学年でも自由に履修できるよう配慮しています。大学に入りたてのフレッシュな意欲によって一年次に履修することも、また大学生活の中で青春の苦悩を抱えながら、あるいは社会への船出に心を震わせながら上級学年次で履修することもできます。卒業するためには、人間形成科目群から 16 単位以上修得することが必要ですが、必ずこの科目を採らなければならないといった必修科目はありませんから、自由に履修計画を立ててください。

なお科目名にＡ・Ｂが付されているものについては、各々が半期ごとの独立した科目として開講されています。したがって、Ａ・Ｂの両方を履修することもできますし、片方だけを履修したり、Ｂを履修した後にＡを履修することも可能です。

2．各分野の案内

(1) 新人教育

大学での学問は、高校までの勉強とは違って、自主的・自立的で批判的な思考が求められます。高校までの「垢」を落として、さっぱりした気持ちで大学生活になじめるように、１年前期にのみ開かれるいくつかの講座があります。

「フレッシュマンゼミ A」 少人数グループの授業で、学系の先生方と身近に接することができます。大学の生活や学問の方法・勉強の仕方など、新入生同士の活発な議論を通じて学んでいくことができます（前前期７回）。

「フレッシュマンゼミ B」 高校までと違い、大学の講義ではレポートやディスカッションが大事になります。そのコツを伝授する講義の他、やがて来る就職活動や卒業後の職業意識を高めるためのレッスンもあります（前後期８回）。

「日本語リテラシー A」 文章を実際に書きながら、論理的な思考や発想の広げ方などについて特訓します。皆さんが書いた文章に毎週、赤ペンで添削指導が入ります（前前期７回、前後期７回、後前期７回、後後期７回のいずれかを履修できます）。

「日本語リテラシー B」 就職活動に必要なエントリーシートや志望理由書の書き方について懇切丁寧に添削指導します（前前期７回、前後期７回、後前期７回、後後期７回のいずれかを履修できます）。

(2) 概論科目

概論科目は、今日までに確立されてきた学問分野について、その概要の全体をざっと見渡すことができるような講義を行ないます。

いわゆる文系の学問分野にも、「人文科学」と「社会科学」の違いがあります。

「人文科学」系の科目としては、哲学Ａ・Ｂ、倫理学Ａ・Ｂ、歴史学Ａ・Ｂ、心理学Ａ・Ｂ、文学Ａ・Ｂが用意されています。

「社会科学」系の科目としては、法学Ａ・Ｂ、政治学Ａ・Ｂ、経済学Ａ・Ｂ、社会学Ａ・Ｂ、科学技術と社会Ａ・Ｂが開講されています。

また、特に教員免許を取得する人たちのために、日本国憲法、教職入門、教育心理学概論、教育学概論Ｂ・Ｃ、教職総合演習が用意されています（これらの科目は、教員免許を取得しない人でも受講でき、共通教育科目の履修単位として計算されます）。

(3) 主題科目

主題科目は、それぞれに専門分野を持った教師たちが、自らの専攻分野の中でも特に注目すべき話題（トピック）について集中的に論じたり、あるいは専攻分野の形式に必ずしもこだわることなく、学生の問題関心や現在の時代状況が抱える問題に対して進んで応えようとする内容を講義しながら、学問の奥行きを実感できるように工夫されています。

講義の内容は、随時、新しくなりますので、シラバスを参照してください。

(4) 教養ゼミ

「セミナール」とはドイツ語で「苗床」を意味します。まだ形にならない問題意識の「種子」を育てて、ある程度、形をもった知識へと変換していく学問の現場です。少人数で、発表や討論を行いながら進めていきます。

(5) 第二外国語

英語は8単位必修ですが（英語のページを参照）、それ以外に、ドイツ語・フランス語・中国語のクラスが用意されています。いずれも、「入門Ⅰ・Ⅱ」で初等文法を、「基礎Ⅰ・Ⅱ」で簡単な会話と読解を、「初級Ⅰ・Ⅱ」で少し難しい読み物を読むように設計されています。

英語が上達するためにも、英語だけでなく、もうひとつの言語を学習することは効果的です。また、特に将来大学院への進学を考えている学生は、積極的に履修しておくことが望ましいと思います。ネイティブ・スピーカーが担当する授業もあります。意欲的に、継続的に取り組むことを勧めます。

（＊なお「留学生のための日本語」は、日本語を母語としない外国籍留学生のための科目です。他の学生は履修できません）

(6) 留学生科目（留学生のみ履修可）

別項「留学生のための共通教育科目」（P.127）参照のこと。

(7) 保健体育

よき社会人・職業人であるためには、そして人生を楽しくはつらつと過ごすには、健康であることがより望ましいことだと言えましょう。

心身の健康を保ち、充実した人生を過ごすには、継続的にスポーツに親しむ習慣、「生涯スポーツ」の習慣を身につけることが必要です。身体を動かすことに喜びを感じることができるということも、努力して獲得すべき大切な教養のひとつであり、教養人であれば引きこもったりすることはありません。

本学部のカリキュラムでは、体育の授業は必修ではありませんが、教員免許を取得するためには、次に述べる体育Ⅰ～Ⅵのうち、いずれか2つの単位を必ず修得しなければなりません。

体育科目では、サッカー、ソフトボール、バレーボール、テニス・ゴルフなどの種目が用意されています。1年生から4年生までの間に、自分の実施したい種目を選択し、履修することができます。種目にかかわらず、体育Ⅰ～Ⅵまでの6コマの履修が可能です。また夏休みや冬休みを利用して、学外で宿泊形式で行なわれる学外体育研修Ａ・Ｂという集中授業もあります。この学外体育研修では、夏・冬のキャンプ実習が開講されていて、自分の希望する実習を選択し履修することができ、最初に履修したものが学外体育研修Ａ、次に履修したものがＢとして認定されます。

英語科目群履修モデル

1．英語の科目はどのように構成されているのでしょうか。

理工学部の英語教育の目標は、読む、書く、話す、聴くという英語の 4 技能を習得し、これを使い専門知識を学び、また学んだ成果を発信できるようにすることです。その目標を達成するためには、これまで中学校から高等学校まで学んだ英語にほころびがあるかどうかを確認し、あればそれを補って大学で求められている英語の力を習得しなくてはいけません。

そこで理工学部の英語は、能力別クラスを導入しています。これにより大学入学までの各人さまざまな英語の学習歴を見極め、それを踏まえて各人の英語の実力にもっとも効果があるクラスで英語の力を養っていくことになります。また 1 年次、2 年次、さらに 3 年次以降、各学期の終わりに英語を履修した全ての学生諸君は、「英語の実力テスト（統一テスト）」を受けることが義務付けられています。これにより各人の英語学習の成果や補強すべき点を確認するとともに、次年度の英語科目を履修する場合のクラス指定がされるという、きめ細かな英語の力をつけるための処方箋が示されます。

「専門知識の獲得と研究成果の発信」に必要な英語力のうち「読む、書く」については、「英語Ⅰ、英語Ⅲ」の科目で練成します。世界から専門知識を獲得し分析するには、世界の共通語である英語の読む力が何より重要です。例えば各専門分野の論文は、世界に向けて書かれているので英語で書かれていることが一般的です。また研究成果の多くは世界に向けて発信するので、英語が最も即効性があります。卒業後では、日常業務の中で英語の電子メールを読んだり書いたりは当たり前のことですし、インターネットでの情報収集と発信にも英語の読む、書くという技能は欠かせません。

実は英語の骨組みとなる文法は、中学、高等学校など大学入学前に学んだことが全てです。大学で新たに学ぶ文法の項目は本来ないのです。しかし現実にはいろいろ不十分なままに入学されることも多いのが現状です。そこで、大学で学ぶために必要な英語の語彙や文法が獲得されているかどうかを確認し、不十分な場合にはまずそれを養います。もちろんすでに習得がされている場合には、より高度なレベルに英語の読む、書くという力を養成して、英語で研究成果を発信ができるような英語の書く力を習得することをめざします。

一方、「話す、聴く」という英語の技能は、「英語Ⅱ、Ⅳ」の科目で練成します。英語によるコミュニケーション能力がますます重視される現代社会に対応するため、こうした能力が各人の英語の力に合わせて習得できるよう「話す、聴く」の技能を各人の英語の力に合わせ

て、基本的なことからより実践的なことまで練成できるよう、英語を母語とするネィティヴ・スピーカーと日本人教員により練成がはかられるようになっています。

また3年次以降には、「英語Ⅴ」が設けられています。担当する教員の専門性を活かしながら、「各種の英検や、TOEIC、TOEFL」など英語の資格獲得をめざす学生諸君を対象とした演習クラスや、研究発表に欠かせない英語による「プレゼンテーション」を主とする演習クラス、さらに英語で書かれた論文や文章を理工学を志す学生諸君が興味を持つトピックを取り上げて読解することを主とする演習クラスの開設が予定されています。但し、「英語Ⅴ」は年度により開講される演習の内容に変更があります。

こうした理工学部の英語の目標を達成するため、卒業までに必要な英語の単位は、「英語Ⅰ A・B、英語Ⅱ A・B、英語Ⅲ A・B、英語Ⅳ A・B」の8単位です。これは東京電機大学3キャンパスのなかでもっとも多い英語の修得単位数です。学生諸君は基本的に1年次の前期と後期を通じて「英語Ⅰ A・Bと英語Ⅱ A・B」を、そして2年次の前期と後期を通じて「英語Ⅲ A・Bと英語Ⅳ A・B」を修得することをめざします。つまり学生諸君は、2年次終了までに、前期と後期に、1週間に英語科目を2つずつ学ぶことになります。英語は半期で1単位です。例えば前期に英語Ⅰ Aと英語Ⅱ Aに修得できれば2単位となります。なお英語Ⅰ A・B、英語Ⅱ A・B、英語Ⅲ A・B、英語Ⅳ A・Bは、学年学系指定科目です。

なお、それぞれの英語科目には「再履修」のためのクラスを開講します。これは英語科目を履修したものの、残念ながら単位修得の条件に英語の力が及ばなかったり、またそれを満たさなかった場合、再度勉強をして必要な英語の力を養成していくためのものです。これにより大学で必要とされている英語の力が習得されない限り、単位は得られないものの、意欲を持っている学生諸君には、いつでも学習すべき環境が整っていることがおわかりだと思います。厳しいことではありますが、実学志向の本学ならではのあり方です。

ところで2年次までに卒業単位8単位を修得したら、英語は勉強できないのでしょうか。それは違います。3年次以降英語の力をより高度に養成していくために、「英語Ⅴ」が設けられているわけです。卒業時まで学生諸君は英語の力を継続して練成していくことが可能です。英語Ⅴ A・Bは、全学系共通科目です。

なお、東京電機大学では卒業単位として認定されるアイオワ大学、コロラド大学、シドニー大学における短期の海外研修制度が整っています。

2．科目についているⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、そしてA、Bは何を意味していますか。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴは英語の学習内容を表しています。Ⅰ、Ⅲは「読む、書く」という英語の技能を養成する科目です。Ⅱ、Ⅳは「話す、聴く」という英語の技能を養成し、Ⅴは英検やTOEICといった英語の資格試験対策や英語でのプレゼンテーションなど、英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの学習を踏まえて、より高度なさまざまな学生諸君の目的に即した英語技能の養成をはかる科目を意味します。Aは前期、Bは後期を表しています。英語科目は半期ごとに科目が設定されていますが、通年のつもりで履修計画をたてましょう。

3．英語Ⅰ A・B（1年次）と英語Ⅲ A・B（2年次）のクラス編成について

1年次の英語Ⅰ A・Bと2年次の英語Ⅲ A・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語Ⅰのクラスは年度始めのプレースメントテストによって決定します。また英語Ⅲのクラスは、英語Ⅰの統一テストを含む成績評価にもとづいて決定します。

4．英語Ⅱ A・B（1年次）と英語Ⅳ A・B（2年次）のクラス編成について

1年次の英語Ⅱ A・Bと2年次の英語Ⅳ A・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語Ⅱのクラスは、英語Ⅰとともに年度始めのプレースメントテストによって決定します。また英語Ⅳのクラスは、英語Ⅱの統一テストを含む成績評価にもとづいて決定します。

5．英語Ⅴ（3年次以降）について

3年次以降履修ができます。担当教員の専門性を活かし、英検やTOEICといった英語の各種資格試験の演習や、プレゼンテーション演習、その他を習熟度に応じて授業を行います。

6．英語各科目のクラス分けについて

プレースメントテストや前年度統一テストを含む成績評価にもとづいた指定クラスの第1回目の授業に出席し、担当の教員から許可を得てください。

クラス分けが行われる科目：

1年次　：　英語Ⅰ A・B、英語Ⅱ A・B

2年次　：　英語Ⅲ A・B、英語Ⅳ A・B

3年次　：　英語Ⅴ A・B

7．大学 4 年間に英語をどう勉強すると良いですか。

新 1 年次生のみなさんの大学入学までの経路は、中学、高等学校（普通高校や工業高校、その他の実業高校等）や、大学検定試験を経てなどさまざまです。しかし、大学や実社会はこうした入学までの経路にかかわらず、より的確に言えばそのようなことはお構いなく、ある一定以上の英語の力を求めています。こうした現実を直視して、英語の 4 技能とそれを支える語彙と文法を習得しなければ社会が求めている人材とは成り得ません。

1 年次から 2 年次までは、1 週間に 2 度の英語の授業があるわけですから、予習と復習を十分な時間をかけて行う習慣をつけましょう。テキストのわからない単語や語句は、（電子式も含む）辞書などを使って調べてから授業に出席しましょう。また、英語担当の教員に遠慮なく学習方法などオフィスアワーや授業の合間などを利用して相談しましょう。

履修モデル

1年次の英語Ⅰ A・Bと英語Ⅱ A・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語Ⅰ及びⅡのクラスは年度始めのプレースメントテストによって決定します。

2年次の英語Ⅲ A・BとⅣ A・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別にクラスを分けて授業をします。英語ⅢとⅣのクラスは、前年度の統一テストの結果にもとづいて決定します。英語Ⅴは3年次以降履修ができます。担当教員の専門性を活かし、英検やTOEICといった英語の各種資格試験の演習や、プレゼンテーション演習、その他を習熟度に応じて授業を行います。

1年次

前期　英語　ⅠA・ⅡA

後期　英語　ⅠB・ⅡB

2年次

前期　英語　ⅢA・ⅣA

後期　英語　ⅢB・ⅣB

3年次

前期　英語　ⅤA

後期　英語　ⅤB

※英語科目は全学年の全クラスで履修制限を行う

※英語科目は全クラス排他条件・前提条件は設定しない

クラス分けが行われる科目

英語は1年・2年・3年次の全科目についてクラス分けを行います

1年次　：　英語Ⅰ A・B、英語Ⅱ A・B

2年次　：　英語Ⅲ A・B、英語Ⅳ A・B

3年次　：　英語Ⅴ A・B

留学生のための共通教育科目

本学で学ぶ留学生の皆さんのために、新たに「留学生のための共通教育科目」を 2011 年度から開設しています。

日本語科目：日本語で聞き、話し、読み、書けるようになることは、留学生の皆さんにとって、必須です。皆さんの日本語能力向上のために、日本語科目を 8 科目用意してあります。そのうち、6 科目が日本語中級、2 科目が日本語上級です。単位は、英語と同様、各科目 1 単位です。なお、この単位は、人間形成科目群の単位として扱われます。

中級は終えたと考える諸君でも、単位取得のためだけでなく、日本語中級科目に挑戦することをすすめます。日本語上級科目は 2 年生前期と後期に、それぞれひとつずつ用意しました。この 2 つの科目を取って、日本語能力を向上させることは、皆さんの留学生活にとって、欠かせません。

日本事情科目：留学生活をする上で、専門の学習とは別に、日本の社会、地理、文化、歴史などを理解することは必要です。皆さんに日本について学んでいただくために、 1 年生後期と 2 年生前期にひとつずつ、2 つの科目を用意してあります。

皆さんも、人間形成科目群から 16 単位を履修しなければなりませんが、この日本事情科目は、この科目群の中に入っており、2 科目を履修すれば、4 単位になります。

1 年次
前期：日本語中級ＡⅠ、ＢⅠ、ＣⅠ
後期：日本語中級ＡⅡ、ＢⅡ、ＣⅡ、日本事情Ⅰ

2 年次
前期：日本語上級Ⅰ、日本事情Ⅱ
後期：日本語上級Ⅱ

☆　留学生のための共通教育科目を履修出来るのは、留学生に限られます。

2016年度 カリキュラム
人間形成科目・英語科目 授業科目配当表

人間形成・英語

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
共通教育科目	人間形成科目	新人教育科目	東京電機大学で学ぶ	選択	○			1	1	1	1				
			フレッシュマンゼミA	選択	○			1	1	1					
			フレッシュマンゼミB	選択	○			1	1		1				
			日本語リテラシーA	選択		○		1	全	1/4期1ｺﾏ				（小論文）	
			日本語リテラシーB	選択		○		1	全	1/4期1ｺﾏ				（就職対策）	
		概論科目	哲学A	選択	○			2	全	1	1				
			哲学B	選択	○			2	全			1	1		
			倫理学A	選択	○			2	全	1	1				
			倫理学B	選択	○			2	全			1	1		
			心理学A	選択	○			2	全	1	1				
			心理学B	選択	○			2	全			1	1		
			歴史学A	選択	○			2	全	1	1				
			歴史学B	選択	○			2	全			1	1		
			文学A	選択	○			2	全	1	1				
			文学B	選択	○			2	全			1	1		
			法学A	選択	○			2	全	1	1				
			法学B	選択	○			2	全			1	1		
			政治学A	選択	○			2	全	1	1				
			政治学B	選択	○			2	全			1	1		
			経済学A	選択	○			2	全	1	1				
			経済学B	選択	○			2	全			1	1		
			社会学A	選択	○			2	全	1	1				
			社会学B	選択	○			2	全			1	1		
			科学技術と社会A	選択	○			2	全	1	1				
			科学技術と社会B	選択	○			2	全			1	1		
			日本国憲法	選択	○			2	全			1	1		00100
			教職入門	選択	○			2	全	1	1				10100
			教育心理学	選択	○			2	2	1	1				10200
			教育学概論	選択	○			2	全	1	1				10200
			教育社会学	選択	○			2	全			1	1		10200
			教職総合演習	選択		○		2	全	半期1ｺﾏ ※1					10700
		主題科目	技術者倫理	選択	○			2	全	半期1ｺﾏ ※1					60100
			仕事と職業	選択	○			2	2			1	1		
			日本経済の現在	選択	○			2	全			1	1		
			世界経済の現在	選択	○			2	全	1	1				
			現代社会と法	選択	○			2	全	1	1				
			社会福祉論	選択	○			2	全			1	1		
			日本の文化と倫理	選択	○			2	全			1	1		
			現代青年の心理と論理	選択	○			2	全	1	1				
			社会の成り立ち	選択	○			2	全			1	1		
			ことばと社会	選択	○			2	全	1	1				
			ヒトの発達心理学	選択	○			2	全	1	1				
			欧米文化研究	選択	○			2	全	半期1ｺﾏ ※1					
			アジア文化研究	選択	○			2	全	半期1ｺﾏ ※1					
			海外事情	選択			○	2	全	半期2ｺﾏ					
		教養ゼミ	教養ゼミA	選択		○		2	全	1	1				
			教養ゼミB	選択		○		2	全			1	1		

2016年度 カリキュラム
人間形成科目・英語科目 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
共通教育科目	人間形成科目	第二外国語	ドイツ語入門Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			ドイツ語入門Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			基礎ドイツ語Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			基礎ドイツ語Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			初級ドイツ語Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			初級ドイツ語Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			フランス語入門Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			フランス語入門Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			基礎フランス語Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			基礎フランス語Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			初級フランス語Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			初級フランス語Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			中国語入門Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			中国語入門Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			基礎中国語Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			基礎中国語Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
			初級中国語Ⅰ	選択			○	1	全	1	1				00300
			初級中国語Ⅱ	選択			○	1	全			1	1		00300
		留学生科目	留学生のための日本語中級ＡⅠ	選択			○	1	1	1	1			〈文法・語彙〉 ※2	
			留学生のための日本語中級ＡⅡ	選択			○	1	1			1	1	〈文法・語彙〉 ※2	
			留学生のための日本語中級ＢⅠ	選択			○	1	1	1	1			〈聴解・口頭表現〉 ※2	
			留学生のための日本語中級ＢⅡ	選択			○	1	1			1	1	〈聴解・口頭表現〉 ※2	
			留学生のための日本語中級ＣⅠ	選択			○	1	1	1	1			〈読解〉 ※2	
			留学生のための日本語中級ＣⅡ	選択			○	1	1			1	1	〈読解〉 ※2	
			留学生のための日本語上級Ⅰ	選択			○	1	2	1	1			〈文章表現〉 ※2	
			留学生のための日本語上級Ⅱ	選択			○	1	2			1	1	〈文章表現〉 ※2	
			留学生のための日本事情Ⅰ	選択	○			2	1			1	1	※2	
			留学生のための日本事情Ⅱ	選択	○			2	2	1	1			※2	
		保健体育	体育Ⅰ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			体育Ⅱ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			体育Ⅲ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			体育Ⅳ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			体育Ⅴ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			体育Ⅵ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			学外体育研修Ａ	選択			○	1	全	半期1コマ				集中講義	
			学外体育研修Ｂ	選択			○	1	全	半期1コマ				集中講義	
	英語科目	英語	英語ⅠＡ	必修			○	①	1	1	1				00300
			英語ⅠＢ	必修			○	①	1			1	1		00300
			英語ⅡＡ	必修			○	①	1	1	1				00300
			英語ⅡＢ	必修			○	①	1			1	1		00300
			英語ⅢＡ	必修			○	①	2	1	1				00300
			英語ⅢＢ	必修			○	①	2			1	1		00300
			英語ⅣＡ	必修			○	①	2	1	1				00300
			英語ⅣＢ	必修			○	①	2			1	1		00300
			英語ⅤＡ	選択			○	1	3	1	1				00300
			英語ⅤＢ	選択			○	1	3			1	1		00300
		英語研修	海外英語研修Ａ	選択			○	2	全	半期2コマ				集中講義	
			海外英語研修Ｂ	選択			○	2	全	半期2コマ				集中講義	
			海外英語研修Ｃ	選択			○	2	全	半期2コマ				集中講義	
			海外英語研修Ｄ	選択			○	1	全	半期1コマ				集中講義	

※1　ただし、前期・後期開講　　※2　留学生のみ履修が可能
※　教職コードは、「教職課程」参照。　※　単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

学部共通科目群履修モデル

近年の科学技術の進歩・発展はめざましく、大学で現在最先端といわれる科学技術を学んで卒業しても、その中の多くは諸君が卒業後、実社会で活躍する頃すぐに一時代前のものになってしまいます。未来に対して創造性・発展性のある科学技術は、確固たる学問体系に裏付けられたものしか成り立ち得ません。理工学部では、どの学系・専門コースで専門を体系的に学ぶ際にも必要となる基礎知識・学力を身につけるため、共通教育科目を充実させています。諸君が必要とする学問体系としての基礎知識は一、二年次のうちにこの共通教育から習得しておく必要があります。理工学は自然を理解し応用していく学問分野であるため自然を理解する事が必要不可欠です。理工学部の共通教育における大きな柱は数学、物理学と化学です。「数学」では数の法則を理解し、科学的な考え方と技術を記述する世界共通の言語とも言える数式による表現を学びます。「物理学」では物質の運動と存在の基本法則を学び、「化学」では物質がどのようにできているか、物質の性質と変化の本質を学びます。さらに生物や地球環境への理解も必要です。また、情報や工学の基礎も身につけておく必要があります。いずれも、これからの技術の発展に欠くことのできない基礎となる学問です。

学部共通科目の構成と履修の順序

学部共通科目群の科目構成は基礎、数学、物理学、化学、生物、地学、情報および工学の八分野から成ります。基礎分野には他の共通科目や専門科目を学ぶために必要な数学・物理学・化学の基礎科目と物理学と化学にはさらに基礎演習科目が用意されています。これら基礎科目は基礎学力が不足する学生は必ず履修する必要があります。共通教育の基幹分野としての数学・物理学・化学にはいくつかの科目が用意されており、そのほとんどを履修する必要があります。また、生物学分野と地学分野にそれぞれ一科目ずつ、情報分野と工学分野には二科目ずつ用意されていますので必要に応じて履修すると良いでしょう。

数学・物理学・化学の基礎科目、共通科目は、基礎科目→共通科目の順に履修すると理解しやすいでしょう。科目がＡ科目とＢ科目に分かれている場合はＡ科目を履修してからＢ科目を学びます。具体的にどの科目をどの順序で履修するかは、履修モデルと各科目系統別説明を参考に、学系・コースの進級条件を考慮して学生自らの判断で決めなくてはなりません。

科目分野別の履修について

基礎科目：

数学・物理学・化学では、4月初めに行われるプレースメントテストの結果により、履修科目・クラスが指定されます。プレースメントテストが基準点未満の場合はそれぞれ「**数学基礎**」,「**物理学基礎**」,「**化学基礎**」を履修する必要があります。物理学基礎の履修者は同時に「**物理学基礎演習**」を履修する事が求められます。「化学基礎」の履修者は学力に応じて「化学基礎」だけを履修する場合と、「化学基礎」と同時に**「化学基礎演習」**の履修が求められる場合に分かれます。これらの基礎科目・基礎演習科目は学力別クラス編成を取り、どのクラスを履修するかはプレースメントテストの結果によって指示されます。物理と化学の基礎演習科目は基礎科目の授業の演習として行われるので演習科目のみ履修することはできません。

「**数学基礎**」は、高校では十分に数学を学んで来なかった人、例えば、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はやったけれども、「数学Ａ・Ｂ」の中にはやっていないものがあるという人のために、大学での学習への橋渡しを行う科目です。数学の実力にあまり自信が持てない人も履修すると良いでしょう。「数学基礎」は前々期（前期の前半）に週2回の授業があり、それ以外の基礎科目・基礎演習科目は前期に週1回の授業を行います。前々期の成績が不合格となった場合は前後期（前期の後半）に再履修しなくてはなりません。数学のプレースメントテストが基準点以上か、「数学基礎」の単位を取得していないと、「**基礎微積分学Ａ・Ｂ**」を履修することはできません。

「**物理学基礎**」では物理の基本原理である力学の初歩をゼロから学びます。「**化学基礎**」では原子・分子の基本的な構造、物質量と溶液濃度、化学結合、物質の状態や化学平衡などの化学の基本を学びます。「物理学基礎」と「化学基礎」ではできるだけ多くの演習問題を解く事で基礎学力を身につけます。また、「**物理学基礎演習**」および「**化学基礎演習**」は特に物理および化学の初級者に演習問題の解法を身につけてもらうための科目です。物理学のプレースメントテストが基準点未満であった場合は、前期に「物理基礎」と「物理基礎演習」を履修して、基礎を理解してから後期に「物理学Ａ」と「物理学Ｂ」を同時に履修すると良いでしょう。化学では、プレースメントテストが基準点未満であった場合でも、化学基礎演習の履修が求められていない場合は「化学基礎」と「化学Ａ」を前期に同時に履修することができます。しかし、化学基礎演習の履修を指示された場合は、前期に「化学基礎」と「化学基礎演習」を履修して、基礎を理解してから後期に「化学Ａ」と「化学Ｂ」を同時に履修すると良いでしょう。

数学：

数学は数の基本法則を追求する学問です。自然現象や科学技術を客観的に表現する際にも数式で表現されるので、理工学全分野に必須の学問です。数学関連科目の「基礎線形代数学Ａ・Ｂ」、「基礎微積分学Ａ・Ｂ」の四科目は理工学部でこれから学んで行くいろいろな分野の基礎として、最も基本的な知識を習得するためのものです。そのためにも、これらの科目はできるだけ一年次のうちに全科目を履修しておいて、その後の各学系・コースでの、より専門的な科目を学習するときに支障とならないようにすることが大切です。

物理学：

物理学は読んで字のごとく、物事（自然現象）の理（ことわり）を探求する学問です。「自然現象が何故どのように起きているのか、それをどう理解していくのか」という、理工系の学問全体に共通する考え方の基礎を学びます。また専門分野への直接的なあるいは間接的な基礎ともなっています。

４月最初に実施されるプレースメントテストの結果に基づき、各人が「物理学Ａ」または「物理学基礎」のどちらを受講すればよいのかが指定されます。ある程度、物理の基礎が身についている学生は「物理学Ａ」を履修します。「物理学Ａ」と「物理学基礎」では物理学の考え方や現象をどう理解し、どう説明するのかを、物体の運動の解析を通じて学んでいきます。その後、「物理学Ｂ」でさらなる自然の理解へと進んでいきます。後期の「物理学Ｂ」は物理学のもうひとつの柱である電磁気学を中心に学びます。それと並行して「基礎物理学実験」があります。理論で予想されたものが実験結果と一致するかを実体験してください。詳しくはオンラインシラバスで内容を確認してください。

化学：

化学では物質とは何か、物質はどのように変化し物質集合体にはどのような性質があるかを学びます。現在の科学技術は物質抜きでは成り立ちません。従って、直接化学物質を扱わない専門コースの学生にとっても、理工系である以上化学は重要な基礎科目です。

基礎がある程度、身に付いた学生は「**化学Ａ**」または「**化学Ｂ**」を履修します。「化学Ａ」は「化学基礎」で基礎を補いながら履修することができます。「**化学Ａ**」と「**化学Ｂ**」はどちらを先に履修しても良く、同時に履修してもかまいません。「**化学Ａ**」では量子化学によって解き明かされた原子と分子の成り立ちと化学結合を理解します。「**化学Ｂ**」では物質の状

態を物質エネルギーの学問体系である化学熱力学の観点から理解し、反応速度や有機高分子・金属・セラミックなどの化学材料についても概観します。

化学は現象の発見や実験を通して発展してきた学問です。化学現象の本当の姿を理解し化学の面白さを体験するためには是非「**基礎化学実験**」を履修することを勧めます。基本的な実験器具の扱い方から本格的な化学分析まで自ら行い実験技術を習得します。また、「**基礎化学実験**」では学問としての化学ばかりではなく、実験の準備から後かたづけと報告書の作成に至るまで、科学技術者に必要な全ての要素を練習し身につけることも学習目標となっています。

その他の自然科学分野の科目：

以下の科目は自分の状況にあったものを履修すると良いでしょう。

「**生物科学**」は専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。高校で生物を履修しなかった学生のことも考え、生物学の初歩から学びます。授業時間のはじめの 10 分くらいで、キャンパス周辺の植物を取り上げ、その構造や分類学上の位置などについて説明することも考えています。

「**環境科学**」も専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。現代の技術は環境を配慮しないと生き残ることはできません。この科目では、現在の地球環境問題の科学技術的側面を見渡し、技術者として身につけるべき環境保全・修復の基礎を勉強します。また、地球上での人類の位置づけについて、グローバルな視点と地球史的な視点から考えていきます。

情報：

情報技術は未来社会を担う人材に不可欠な素養で、特に理工系学生にとっては分野を問わずこれを高いレベルで理解し実践する能力が要求されます。「**情報処理 A**」ではアプリケーションプログラムを用いた情報処理とネットワーク利用の技能を習得し、情報に入門します。「**情報処理 B**」ではさらに高度な内容を学び、計算機プログラミングに関する基礎的な知識を理解し、専門課程における諸分野での応用や、より高度な情報学の修得に繋げます。情報に関する学生の理解度には大きな差があるため、自分にあった科目を履修すると良いでしょう。

工学：

工学分野の共通科目には「**立体図学**」と「**工学基礎**」があります。「立体図学」では立体を紙面に表す方法を学びます。正投影法、軸測投影法、透視投影法による基本的な立体の表現を習得します。また、副投影法などを用いて、ねじれの位置にある 2 直線や 2 平面の交線、立体の相貫線を求めることで、空間認識力を養います。「工学基礎」では電気、機械、建設土木の基礎として簡単な電気回路、機械設計と設計図の見方、土木・建築構造物の概要を学びます。

キャリア開発

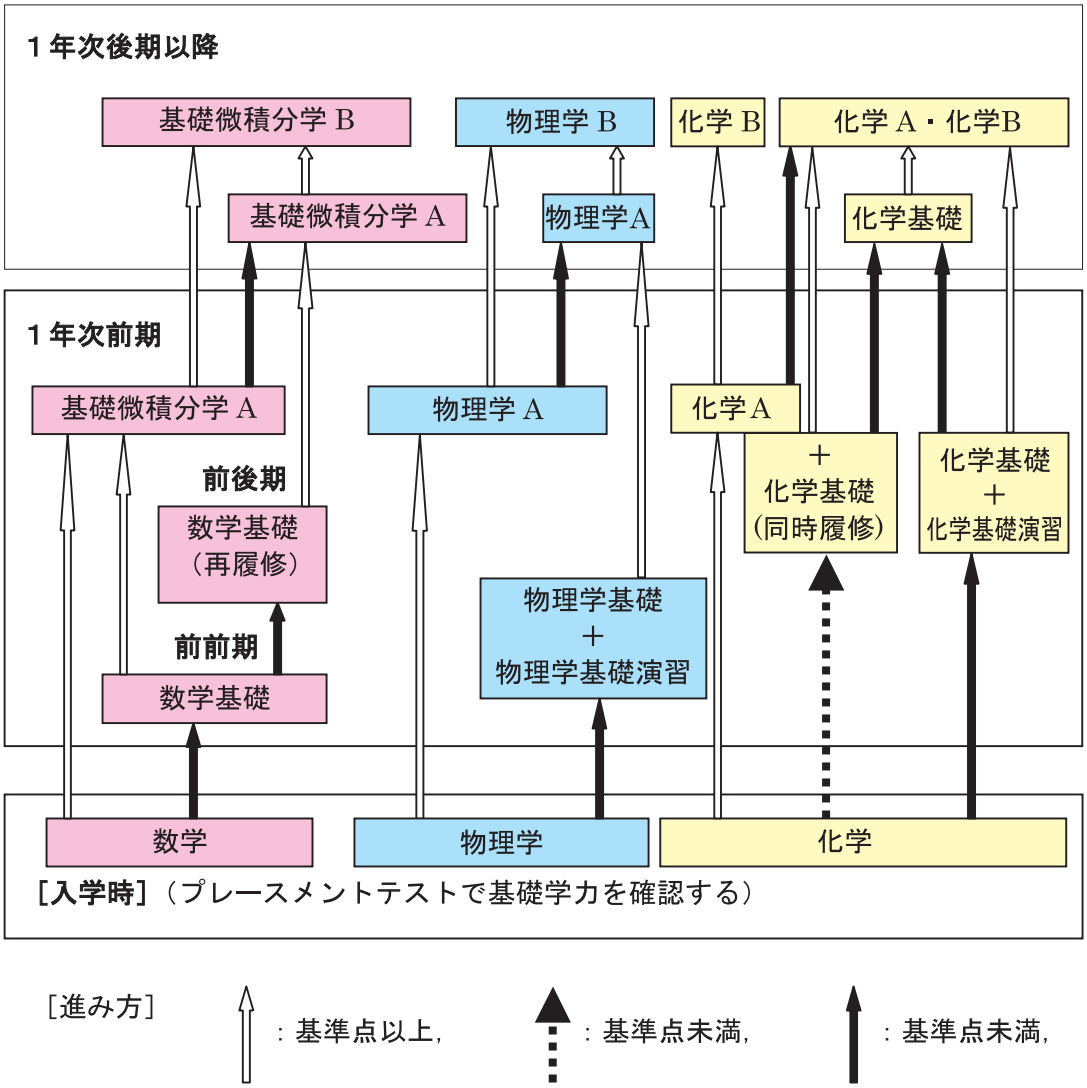
１年次生の人間形成科目「フレッシュマンゼミＡ・Ｂ」に引き続き、キャリア開発でも「学生が自らの個性・能力を把握しつつ、将来の進路を自らの責任で選択できる力」を育成します。

「キャリアワークショップ」は、複数の学系の学生からなるグループで問題解決型の演習を行うことで、異なる専門分野のメンバーが協力し合って問題が解決できることを知り、社会で協働する能力を育成します。

また、「ＴＤＵプロジェクト科目」は、基本的に産学連携でプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクト遂行を通して問題解決能力の向上および任務遂行の責任感を養成します。

共通科目群の科目配置図

［履修の順序に注意が必要な科目］



［進み方］　：基準点以上，　：基準点未満，　：基準点未満，

［その他の共通科目］

配当期	数学・物理学・化学分野	その他の自然科学・情報・工学分野
１年次前期	基礎線形代数学 A 基礎物理学実験* 基礎化学実験*	環境科学* 情報処理 A**・情報処理 B** 立体図学・工学基礎
１年次後期	基礎線形代数学 B 基礎物理学実験* 基礎化学実験*	生物科学*・環境科学* 情報処理 B**

*　前期と後期のどちらで履修しても良い科目
**　学生の技量に応じて選択する科目

2016年度 カリキュラム
学部共通科目 授業科目配当表

学部共通

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	学部共通科目	基礎	数学基礎	選択	○			1	1	※1					
			物理学基礎	選択	○			1	1	1	1				
			物理学基礎演習	選択		○		1	1	1	1				
			化学基礎	選択	○			1	1	半期1コマ ※3					
			化学基礎演習	選択		○		1	1	1	1				
		数学	基礎微積分学Ａ	選択	○			2	1	※2					20300
			基礎微積分学Ｂ	選択	○			2	1			1	1		20300
			基礎線形代数学Ａ	選択	○			2	1	1	1				20100
			基礎線形代数学Ｂ	選択	○			2	1			1	1		20100
		物理学	物理学Ａ	選択	○			2	1	半期1コマ ※3					30100
			物理学Ｂ	選択	○			2	1			1	1		30100
			基礎物理学実験	選択			○	2	1	半期2コマ ※3					30200
		化学	化学Ａ	選択	○			2	1	半期1コマ ※3					30300
			化学Ｂ	選択	○			2	1			1	1		30300
			基礎化学実験	選択			○	2	1	半期2コマ ※3					30400
		生物	生物科学	選択	○			2	1			1	1		30500
		地学	環境科学	選択	○			2	1	半期1コマ ※3					30700
		情報	情報処理Ａ	選択		○		2	1	1	1				00400
			情報処理Ｂ	選択		○		2	1	半期1コマ ※3					70100
		工学	立体図学	選択	○			2	1	1	1				
			工学基礎	選択	○			2	1	1	1				
		キャリア開発	キャリアワークショップ	選択		○		2	2			1	1		
			ＴＤＵプロジェクト科目Ａ	選択		○		2	3	1	1				
			ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ	選択		○		2	3			1	1		

※1　1/4期2コマ（ただし、前前期・前後期開講）
※2　1/4期2コマまたは半期1コマ
※3　ただし、前期・後期開講
※　教職コードは「教職課程」参照。

専門教育科目

理　学　系

(Division of Science)

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

理学系では、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を学び、考察を重ね、それが問題解決のためにどのように用いられるかを学ぶことで、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を育成します。理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門コースを置き、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら深く専門を学ぶことで、高度な専門性と実践力を併せ持った人材を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部の理学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

(1) 数学、物理学、化学、数理情報学のいずれかの分野において、基礎的知識と専門的知識を身につけるとともに、それらを応用して課題を解決する論理的思考力と実験的素養を身につけること。

(2) 課題の内容を理解し、課題の解決に向けて取り組んだ内容とその結果を、口頭及び論文として発表できること。

(3) 理学や工学における学際領域に関する知識と関心を持つこと。

※標準修業年限は 4 年。

以下は、各コースが特に配慮する方針です。

＜数学コース＞

理学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

(1) 代数学、解析学、幾何学における高等数学の内容を十分に理解すること。

(2) 論理的思考を身につけ、問題に対して粘り強く考える力を身につけること。

(3) 具体的な問題に対して見通しを立て、分析と計算を遂行できること。

(4) 数学のおもしろさを自ら体験し、それを他者に対して明快に説明できること。

(5) 数理科学と歴史や社会とのかかわりを十分に理解すること。

＜物理学コース＞

理学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

(1) 物理学の基礎的素養を身につけ、基本に立ち返って課題を探求・解決する能力を持つこと。

(2) 探求の成果を文書及び口頭で報告できること。

(3) 人間的・学際的・国際的視野を持つこと。

＜化学コース＞

理学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

(1) 化学の基礎的及び専門的素養を身につけ、さまざまな課題を根本原因から探求して解決する能力をもつこと。

(2) 探求の成果をまとめ、文書及び口頭で報告できること。

(3) 人間的・学際的・国際的な視野と知識を持つこと。

＜数理情報学コース＞

理学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

(1) 数理情報学分野における基礎的知識並びに専門的知識を身につけた上で、それらを応用してさまざまな基本的課題を解決する能力を身につけること。

(2) 課題の内容を理解した上で、それに対する探求の内容とその結果を、自ら考察するとともに、文章並びに口頭でわかりやすく表現し伝えることができること。

(3) 幅広い教養と国際的な視野、かつ理工学分野の技術者としての基礎的な素養を持つこと。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部の理学系は、4つの専門コースを設け、数学、物理、化学、情報科学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 専門知識や技術の理解に必要不可欠な数学、自然科学、工学、情報の素養を身につけることを目的とした基盤科目を、入学初年度に集中的に配置します。

(2) 学系全体における基幹科目や課題・問題解決能力の育成を目的としたゼミ、実習、実験科目を、学年進行に従い系統的に配置します。

(3) 学際的な知識や応用事例を学ぶことを目的とした周辺科目を、学年進行に従い系統的に配置します。

(4) 学際領域への関心を高めることを目的に、主コース以外の分野における専門科目を選択科目として配置します。

(5) 人間性と国際性を高めることを目的に、人間形成科目及び英語科目を4年間にわたって学べるよう配置します。

＜数学コース＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数学コースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①代数学、解析学、幾何学を基幹とし、それぞれの分野の科目を体系的に配置します。

②問題解決能力を涵養し、より具体的な計算力を身につけるための科目や少人数制の科目を配置します。

③歴史や社会と数理科学のかかわりを学べる科目を配置します。

＜物理学コース＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、物理学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学、物性物理学を基幹とし、それぞれの分野の科目を体系的に配置します。

②物理学に関する課題探求・解決能力を涵養する科目を、各学年に配置します。

③数学、化学、生物学及びプログラミングに関する科目を、基盤科目として配置します。

＜化学コース＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、化学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①化学を原理から理解するために、物理化学を基本として学べるよう、有機化学、無機化学、応用化学に関する基幹科目を体系的に配置します。

②問題解決能力を涵養し、より高度な専門知識を獲得できるよう、課題探求、セミナー、輪講科目を配置します。

③講義で学習したことを深く理解し、実験技術を確かなものとするため、実験科目を体系的に配置します。

＜数理情報学コース＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数理情報学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①数理科学、情報科学を基幹とし、それぞれの分野の科目を体系的に配置します。

②問題解決能力を涵養し、より実践的な知識を獲得できるよう、コンピュータ実習科目や少人数制の輪講科目を配置します。

③数学と情報に関する科目を、基盤科目として配置します。

2016（平成28）年度カリキュラム　※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	解析学			解析学I（2）① 2 解析学I演習（2）① 2 確率論（2）① 2 常微分方程式（2）① 2 常微分方程式演習（2）① 1	解析学II（2）① 2 解析学II演習（2）① 2 複素解析学I（2）① 2	解析学III（2）① 2 解析学III演習（2）① 2	解析学IV（2）① 2 統計学（2）① 2 複素解析学II（2）① 2	偏微分方程式（2）① 2	関数解析学（2）① 2
	幾何学			幾何学I（2）① 2	位相空間I（2）① 2 位相空間I演習（2）① 1	幾何学II（2）① 2	位相空間II（2）① 2	幾何学III（2）① 2	
	代数学			線形代数学I（2）① 2 代数入門（2）① 2	線形代数学II（2）① 2 代数学I（2）① 2 代数学I演習（2）① 1	代数学II（2）① 2	代数学III（2）① 2		代数学IV（2）① 2
	教養数学		数理のふしぎ（2）③ 2		数学史（2）③ 2			数学と社会（2）③ 2	
周辺科目		物理学A（1） 2	物理学B（1） 2 力学（1） 2		量子力学I（3） 2 情報論（3） 2 信号理論（3） 2	量子力学II（3） 2			
課題探求						数学輪講I（2）② 2	数学輪講II（2）② 2	理学卒業研究I（2）② 3	理学卒業研究II（2）② 3
基盤科目		基礎線形代数学A（1） 2 基礎微積分学A（1） 2 数学基礎（1） 1 数学演習I（1）② 2 情報処理A（1） 2	基礎線形代数学B（1） 2 基礎微積分学B（1） 2 数理プログラミング（1） 2 数学演習II（1）② 2 情報処理B（1） 2 物理数学（3） 2	離散数学（3） 2 応用線形代数学（3） 2 数理プログラミングII（1） 2					
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか（4）							
国際性	英語	英語ⅠA（5） 1 英語ⅡA（5） 1	英語ⅠB（5） 1 英語ⅡB（5） 1	英語ⅢA（5） 1 英語ⅣA（5） 1	英語ⅢB（5） 1 英語ⅣB（5） 1	英語VA（5） 1	英語VB（5） 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか（5）							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA（2） 1 フレッシュマンゼミB（5） 1		理学インターンシップA（2） 2	キャリアワークショップ（2） 2 理学インターンシップB（2） 2	TDUプロジェクト科目A（2） 2 理学インターンシップC（2） 2	TDUプロジェクト科目B（2） 2 理学インターンシップD（2） 2	理学インターンシップE（2） 2	理学インターンシップF（2） 2

カリキュラムマップ[理学系ー物理学コース]

2016（平成28）年度カリキュラム　※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	力学	物理学A(1)① 2	力学(1)① 2 物理数学(1)① 2		連続体の物理(1)① 2				
	電磁気学		物理学B(1)① 2	電磁気学(1)① 2 電磁気学演習(2)① 2					
	量子力学				量子力学Ⅰ(1)① 2	量子力学Ⅱ(1)① 2 量子力学演習(2)① 2 量子化学(1)① 2	量子力学Ⅲ(1)① 2		
	熱・統計力学、物性物理			熱力学(1)① 2	化学熱力学(1)① 2	統計力学Ⅰ(1)① 2 統計力学演習(2)① 2	物性論Ⅰ(1)① 2 統計力学Ⅱ(1)① 2	物性論Ⅱ(1)① 2	
周辺科目				機器分析(3)③ 2 分析化学(3)③ 2		計測と分析(3)① 2	分子分光学(3)③ 2		
課題探求		基礎物理学実験(2)① 2	基礎物理学実験(2)① 2	物理学実験(2)① 2	物理学課題探求Ⅰ(2)② 2		物理学課題探求Ⅱ(2)② 2	理学卒業研究Ⅰ(2)② 3 特論Ⅰ(2)② 2	理学卒業研究Ⅱ(2)② 3 特論Ⅱ(2)② 2
基盤科目	数学素養	基礎微積分学A(1)③ 2 基礎線形代数学A(1)③ 2 数学演習Ⅰ(2)③ 2	基礎微積分学B(1)③ 2 基礎線形代数学B(1)③ 2 数学演習ⅠⅠ(2)③ 2	解析学I(2)③ 2 解析学I演習(2)③ 2 常微分方程式(2)③ 2 常微分方程式演習(2)③ 1 確率論(1)③ 2 幾何学I(1)③ 2	解析学Ⅱ(2)③ 2 解析学Ⅱ演習(2)③ 2 複素解析学I(1)③ 2 代数学I(2)③ 2 代数学I演習(2)③ 1		統計学(1)③ 2		
	自然科学素養	化学A(1)③ 2	化学B(1)③ 2	生物学(1)③ 2		生態地球科学(1)③ 2 地学実験(2)② 2			
	情報	情報処理A(1)③ 2 数理情報学入門(1)③ 2	情報処理B(1)③ 2 数理プログラミングI(2)③ 2	数理プログラミングII(2)③ 2					
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか(4)							
国際性	英語	英語ⅠA(5) 1 英語ⅡA(5) 1	英語ⅠB(5) 1 英語ⅡB(5) 1	英語ⅢA(5) 1 英語ⅣA(5) 1	英語ⅢB(5) 1 英語ⅣB(5) 1	英語VA(5) 1	英語VB(5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか(5)							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA(2) 1 フレッシュマンゼミB(5) 1		理学インターンシップA(2) 2	キャリアワークショップ(2) 2 理学インターンシップB(2) 2	TDUプロジェクト科目A(2) 2 理学インターンシップC(2) 2	TDUプロジェクト科目B(2) 2 理学インターンシップD(2) 2	特論I(2) 2 理学インターンシップE(2) 2	特論II(2) 2 理学インターンシップF(2) 2

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	基礎化学	化学A（2）① 2	化学B（2）① 2						
	物理化学			計算化学（2）① 2 熱力学（2）① 2	量子力学I（2）① 2 化学熱力学（2）① 2 界面化学（2）① 2 反応速度論(2)① 2	量子化学(2)① 2 電気化学（2）① 2	分子分光学（2）① 2		
	有機化学		基礎有機化学(2)① 2	有機化学I（2）① 2	有機化学II（2）① 2	有機合成化学(2)① 2			
	無機・分析化学			機器分析（2）① 2 分析化学（2）① 2	無機化学I（2）① 2	無機化学II（2）① 2			
	材料化学				材料化学（2）① 2		高分子科学（2）① 2		
	工業化学				化学工学（2）① 2		工業化学（2）① 2		
周辺科目	物理学					統計力学I（3）① 2 量子力学II（3）① 2			
	生物学・地学		生命の化学（3）2						
	実験	（基礎物理学実験）（3）③ 2	（基礎物理学実験）（3）③ 2	物理学実験（3）③ 2		地学実験（3）③ 2			
課題探求	化学実験	（基礎化学実験）（2）③ 2	（基礎化学実験）（2）③ 2		化学実験A（2）③ 2	化学実験B（2）③ 2 化学実験C（2）③ 2			
	文献調査						化学セミナー(2)② 2	化学輪講（2）② 2	
	研究				化学課題探求Ⅰ(2)② 2		化学課題探求Ⅱ(2)② 2	理学卒業研究I（2）② 3	理学卒業研究II（2）② 3
基盤科目	数学素養	基礎微積分学A（1） 2 基礎線形代数学A（1） 2	基礎微積分学B（1） 2 基礎線形代数学B（1） 2	解析学I（2） 2 解析学I演習（2） 2 線形代数学I（2） 2 常微分方程式（2） 2 常微分方程式演習（2） 2	解析学Ⅱ（2） 2 解析学Ⅱ演習（2） 2 線形代数学Ⅱ（2） 2				
	物理学素養	物理学A（1） 2	物理学B（1） 2 物理数学（2） 2						
	情報	情報処理A（1） 2 数理情報学入門（1） 2	情報処理B（1） 2 数理プログラミングⅠ(1) 2						
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか（4）							
国際性	英語	英語ⅠA（5） 1 英語ⅡA（5） 1	英語ⅠB（5） 1 英語ⅡB（5） 1	英語ⅢA（5） 1 英語ⅣA（5） 1	英語ⅢB（5） 1 英語ⅣB（5） 1	英語VA（5） 1	英語VB（5） 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか（5）							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA（2） 1 フレッシュマンゼミB（2） 1		理学インターンシップA（2） 2	キャリアワークショップ（2） 2 理学インターンシップB（2） 2	ＴＤＵプロジェクト科目A（2） 2 理学インターンシップC（2） 2	ＴＤＵプロジェクト科目B（2） 2 理学インターンシップD（2） 2	理学インターンシップE（2） 2	理学インターンシップF（2） 2

カリキュラムマップ［理学系ー数理情報学コース］

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	数理情報学基礎	数理情報学入門 (2)① 2 数学演習Ⅰ (2)① 2	数理プログラミングⅠ (2)① 2 数学演習Ⅱ (2)① 2	離散数学 (2)① 2 応用線形代数学 (2)① 2 常微分方程式 (2)① 2 常微分方程式演習 (2)① 1					
	数理科学			確率論 (2)① 2	最適化法 (2)① 2 信号理論 (2)① 2	システム理論 (2)① 2	ロボット科学 (2)① 2 制御理論 (2)① 2		
	情報科学				情報論 (2)① 2 画像処理 (2)① 2	人工知能 (2)① 2 画像解析 (2)① 2	データ科学 (2)① 2 学習理論 (2)① 2		
周辺科目			数理のふしぎ (3) 2	代数入門 (3) 2	位相空間Ⅰ (3) 2 位相空間Ⅰ演習 (3) 1 複素解析学Ⅰ (3) 2	解析学Ⅲ (3) 2 解析学Ⅲ演習 (3) 2	解析学Ⅳ (3) 2 統計学 (3) 2		
課題探求				数理プログラミングⅡ (2)② 2	数理情報学基礎演習 (2)② 2	数理情報学応用演習 (2)② 2 数理情報学輪講Ⅰ (2)② 2	数理情報学輪講Ⅱ (2)② 2	理学卒業研究Ⅰ (2)② 3	理学卒業研究Ⅱ (2)② 3
基盤科目	数学	数学基礎 (1)③ 1 基礎微積分学A (1)③ 2 基礎線形代数学A (1)③ 2	基礎微積分学B (1)③ 2 基礎線形代数学B (1)③ 2	解析学Ⅰ (1)③ 2 解析学Ⅰ演習 (1)③ 2 線形代数学Ⅰ (1)③ 2 幾何学Ⅰ (1)③ 2	解析学Ⅱ (1)③ 2 解析学Ⅱ演習 (1)③ 2 線形代数学Ⅱ (1)③ 2 代数学Ⅰ (1)③ 2				
	情報	情報処理A (1)③ 2 情報処理B (1)③ 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか (4)							
国際性	英語	英語ⅠA (5) 1 英語ⅡA (5) 1	英語ⅠB (5) 1 英語ⅡB (5) 1	英語ⅢA (5) 1 英語ⅣA (5) 1	英語ⅢB (5) 1 英語ⅣB (5) 1	英語ⅤA (5) 1	英語ⅤB (5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか (5)							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA (2) 1 フレッシュマンゼミB (5) 1		理学インターンシップA (2) 2	キャリアワークショップ (2) 2 理学インターンシップB (2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ａ (2) 2 理学インターンシップC (2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ (2) 2 理学インターンシップD (2) 2	理学インターンシップE (2) 2	理学インターンシップF (2) 2

理学系履修モデル

学系の学習・教育目標

「理学は自然現象や数理の法則を探求し、それを体系的に記述し、理解する学問です。」理学は工学や農学など様々な分野において基礎であると同時に、それ自身が多くの研究対象をもつ分野です。近代の自然科学は自然を観察し、その仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現し、そして体系化することによって発展してきました。数学・物理学・化学は理学の代表的な学問分野です。また、数理情報学は代数学や解析学などの数学をベースとする数理的なアプローチによって情報の本質を理解し考える学問です。

理工学では、さまざまな未知の問題に興味を持ち挑戦していく姿勢が求められます。そのために、基本的な理論を習得し、それが問題解決のためにどのように使えるかを学びます。問題を本質的に捉えて解決できるような創造性豊かで高度な専門性をもった人材を世に送り出すことを学習・教育の目標としています。

学系のカリキュラムの概要

理学系では他の学系とも連携を進め、基礎を大切にしながらも幅広い応用力も身につけられる教育システムを構築しています。いくつかの専門コースに共通で必要な基礎科目は学系共通科目として配置しています。学系共通科目は、数学、物理学、化学、その他の自然科学および数理情報学の基礎科目から成り、それぞれ科目はその分野と関連する専門コースの専門科目の学習につながる内容となるよう配慮されています。特に数学分野の学系共通科目は各コースの専門科目の前提科目となっている場合が多いため、履修計画を立てる際に注意が必要です。

コースの専門科目は二年次から三年次にかけて、基礎から段階的に応用、発展的内容になるよう配置されています。また、演習、実験が多いのも理学系の特徴です。専門の応用力を確実にするため演習、実験科目はできるだけ配当年次に履修する必要があります。配当年次に単位修得できなかった場合、上級年次での再履修が困難になる場合があるので注意が必要です。一部の専門科目は理学系内および他学系にある複数のコースに同一科目名で配置されていますが、同じ科目であるため一度しか履修することはできません。

＜各コースの概要＞

数学コース：

数学コースでは代数学、幾何学、解析学等の基礎から現代数学までの分野を学んで習得すること、ならびにそれを通じて自由な発想を持った柔軟な論理的思考力を身につけた人材を養成することを目標としております。この目標に沿って、学部共通科目・理学系共通科目・数学コース専門科目を連携して、高校数学から現代数学に至るまでの数学を体系的に学ぶことができるようにカリキュラムが用意されております。

- 数学の学習には講義だけでなく自分で問題を解く演習が大切なため、本コースのカリキュラムでは将来どの方向に進むとしても共通に必要となる１、２年次の科目でとくに基本となる科目には演習科目が用意されています。演習科目も併せて履修することが望ましいです。
- 各自の興味を持ったテーマを選択してその理解をさらに深めることができるように、本コースでは少人数で行われる数学輪講Ⅰ、数学輪講Ⅱがあり、さらに理学卒業研究Ⅰ、理学卒業研究Ⅱが用意されています。

物理学コース：

物理学は、力学・電磁気学・量子力学・統計力学を基盤として、様々な分野が互いに関連した学問です。特に近年は分野の細分化と統合が同時に起き、ある分野で発達した方法などが他分野に応用されることも珍しくありません。その意味で、物理学コースでは、数学はもとより化学・情報など、普通の物理学科では学びにくい幅広い分野の科目を履修することができるようになっています。物理だけにとどまらず多くの他のコースや他学系の分野も学び、多彩な能力と興味を身につける必要があります。それぞれの科目を履修するためには予め履修しておく方が望ましい科目があります。科目履修に当たってはそれぞれの科目の履修要件をシラバス等で確認しておくことが必要です。

本コースでは、物理学実験、物理学課題探求、特論などの小人数教育を通して、物性物理学を中心に新しい課題に取り組み、解決する能力を涵養します。

化学コース：

科学技術の急速な進歩によって、多くの分野で物質に関する認識・知識が重要となってきています。とくに、環境分野、エネルギー分野、バイオテクノロジー分野、ナノテクノロジー分野、電子工学分野など、現代の重要技術分野のほとんどにおいて、化学が重要基盤の一つになっています。化学コースでは、このような多くの分野に対応するため、化学の基礎中の

基礎をみっちり勉強します。そのため、2年生、3年生、4年生と学年が上がるにしたがって、内容は連続性を持って高度化します。

化学には、無機化学、有機化学、生物化学、高分子化学および物理化学があります。化学コースでは、物質の構造・性質・反応を系統的に扱う物理化学を中心に勉強し、それ以外の分野の化学と連係することによって、最終的には化学の大系を学んでいきます。講義のあいまには、「化学実験Ａ」（2年後期）、「化学実験Ｂ・Ｃ」（3年前期）を行って感覚的に物質に親しみます。また、「化学課題探求Ⅰ・Ⅱ」で問題解決力を身につけます。4年生では、先生の指導のもとに興味を持った研究テーマで自発的に研究を行い、それまでに学んだ化学の知識を応用します。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、演習科目を数多く準備し、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。まず1年次と2年次では、学部共通科目や理学系共通科目、演習や実習科目によって数学やコンピュータ、情報の基礎をしっかり学ぶことが重要と考えています。特に学系共通科目の数理情報学入門（1年前期）はコースの教員全員による数理情報学についての解説がありぜひ履修することを期待します。コースに配属された2年次からは、徐々に数理情報学の専門に進み、3年次での専門科目（人工知能、ロボット科学、画像解析、システム理論など）を経て4年次で卒業研究を行います。この間、少人数制での数理情報学輪講Ⅰ、Ⅱや、情報分野の課題を題材とするコンピュータ実習科目である数理情報学基礎演習、数理情報学応用演習もあり実践的な学習が継続できます。なお、3年次から4年次への進級の際には本コース固有の進級条件があり注意が必要です。また中学高校の「数学」や高校の「情報」の教員免許を取得することもできます。

一年次の履修計画の立て方・学習の進め方

一年次はできるだけ学部共通の数学、物理学、化学、情報の専門基礎科目、英語科目および教養科目を中心に履修し、専門科目を学ぶ上での基礎を確かなものにします。また、理学系では他学系以上に自然科学の基礎が重要となるので、学系共通科目としても数学、物理学、化学分野の科目が配置され、特に数学分野には多くの科目があります。一年次配当の理学系共通科目の数学分野の科目のうち、「数学演習Ⅰ，Ⅱ」は二年次以降の理学系の科目を学ぶ際に基礎として必要な数学的概念や論理的言い回しを学ぶ科目です。

さらに、二年次から学ぶ専門分野により基礎として重視される科目が異なりますので、希望する主専攻コースに応じて下記を考慮する必要があります。

数学コース：

数学コースを希望する学生には、対応する講義科目だけでなく、2 単位演習科目**数学演習Ⅰ**、**数学演習Ⅱ**の履修も強く勧めます。（これらの 2 科目は本コースの 3 年次から 4 年次の進級条件で必ず単位を修得する必要のある科目となっています。）

さらに**数理のふしぎ**も数学の面白さを実感させてくれる科目として履修を勧めます。

物理学コース：

物理は特に基礎から理論と実験を積み上げていく学問です。例えば力学を理解しないで量子力学を理解することは困難です。また多くの面で数学を利用します。従ってまず、数学（**基礎微積分学Ａ・Ｂ、基礎線形代数学Ａ・Ｂと数学演習Ⅰ・Ⅱ**）を身につける必要があります。物理コース志望を志望する学生は、**物理学Ａ・Ｂ**、**力学**および**物理数学**を履修します。理論だけでなく**基礎物理学実験**も大切です。

また、この時期に英語はもちろんのこと、化学Ａ・Ｂ、生物学、情報処理Ａ・Ｂ、プログラミングの基盤科目、そして人文・社会系の科目である人間形成科目群を履修しておくことが重要です。

化学コース：

化学コースを選択しようと考えている学生は、プレースメントテストの合否にかかわらず、**化学基礎**を履修し、高校までに学んだ基礎をきっちり身につけておくことをすすめます。2 年次以降で行う専門的な実験に先立ち、実験の基礎を身につけるために、共通科目の**基礎化学実験**と**基礎物理学実験**は必ず履修してください。また、大学における化学と物理の基礎を身につけるために、共通科目の**化学Ａ・Ｂ**、**物理学Ａ・Ｂ**、**環境科学**および学系共通科目の**基礎有機化学**、**生命の化学**を履修することを特にすすめます。

数理情報学コース：

１年次では数学や情報、コンピュータの基礎の学習に努めてください。数学では学部共通科目の基礎微積分学Ａ・Ｂ、基礎線形代数学Ａ・Ｂの 4 科目すべてを履修してください。また並行して開講されている演習科目（理学系共通科目の数学演習Ⅰ、Ⅱなど）も履修することを勧めます。情報やコンピュータ関係では、まずは数理情報学入門（１年前期）は必ず履修し数理情報分野の概要を学び、また前期に情報処理Ｂ、後期に数理プログラミングⅠも履修してください。プログラミングを含む実習科目は 2 年次以降にも継続して開講されます。

主専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

一年次に理学系の共通科目を学ぶことで、各専門分野がどのような性格・内容の学問分野であるかが入学段階と比べて良く理解されたでしょう。専門コースの選択は卒業後の歩み方に大きな影響を与えますので、入学段階でのコース希望にとらわれず各コースの内容を理解した上で、自分にあったコースを主専攻コースとして選ぶ必要があります。二年次以上では主専攻コースとして選んだコースに応じて、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

数学コースを主コースとする学生は講義科目を履修するだけではなく、対応する演習科目が開講されている場合は演習科目も併せて履修するようにしてください。理学系共通科目数学分野に分類されている演習科目については、対応する講義科目と同時履修の必要があるものに注意してください（ただし、すでに講義科目の単位を修得済みである場合は別です。）

- 理学系共通科目に分類されている2年次の数学分野の科目も、将来数学のどの分野に進むにも基本となる内容ですからそれらを履修してください。2年次は本コースで基本となる科目を学習する大切な学年です。実際、本コースのカリキュラムとしては重要な内容のため3年次から4年次への進級条件に2年次科目の多くの科目が含まれております。
- 3年次には、興味や将来の進路などを考えて履修科目を選択していくことになります。本コースの数学輪講Ⅰ、Ⅱの単位修得は進級のために必要です。
- 本コースを主コースとした場合、3年次から4年次への進級には理工学部で共通の進級条件の他に本コース独自の進級条件もみたす必要があります。詳しくは進級条件表（理学系）の数学コースの欄を見てください。

物理学コース：

力学，電磁気学，量子力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，物理数学，連続体の物理，化学熱力学，統計力学Ⅰ・Ⅱおよび**物理学実験**がどの物理分野を学ぶ上でも必須項目となります。また、それぞれに付随した演習科目および**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**は学んだことを身につけるための授業なので、これも必須科目です。

物理学を理解するためには学習の順序があります。物理学の基礎としてはじめに**力学**と**電磁気学**を学びます。また、**基礎物理学実験・物理学実験**および**物理数学**も早めに履修すると良いでしょう。次に**熱力学・化学熱力学**、**連続体の物理**と**量子力学Ⅰ・Ⅱ**を履修します。熱力学と量子力学の基礎が理解できたら**統計力学Ⅰ・Ⅱ**、**量子力学Ⅲ**および**物性論Ⅰ・Ⅱ**に進

みます。

物理学の講義科目を学びながら**演習科目**を履修し各講義で学んだ物理学の演習に取り組み、さらに、**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**や**特論Ⅰ・Ⅱ**で物理学を確かなものとします。物理コースの卒業研究を受けるには、**物理学実験**及び**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**の単位取得が必要です。

また、数理プログラミングⅠ，解析学Ⅰ・Ⅱとその演習，代数学Ⅰ，確率論，複素解析学Ⅰ，幾何学Ⅰ，常微分方程式，統計学の履修も推奨されます。これらの科目は必ずしも履修年次にこだわらなくともよいでしょう。

化学コース：

化学コースを主コースとする学生は、2年次において「学系共通科目」と「コース専門科目」の両方から、学問分野を考慮しバランスよく科目を履修してください。例えば、**分析化学**、**化学反応学**、**有機化学Ⅰ**、**無機化学Ⅰ**など化学の大きな部門をなす分野名のついた科目は低学年次において学習しておく必要があります。また、**計算化学**、**熱力学**、**統計力学Ⅰ**、**量子力学Ⅰ**など化学のための数学と物理分野を履修し学習しておくことは高学年次にそれらを基盤とする化学の科目を履修する際に大きなアドバンテージとなります。また、**生物学**などの科目を履修することも視野を広げるためには重要なことです。3年次においては高度に専門化された科目が多くなり、それらの多くは「コース専門科目」として準備されています。**電気化学**など初めて学習する分野もありますが、**化学熱力学**、**量子化学**や**統計力学Ⅱ**など、2年次に配当される科目の内容をふまえて講義を進めるような科目が多くあります。更に、2年次、3年次では講義で学習した内容などを実際に実験で確かめてみる意味で**化学実験A・B・C**を履修します。実験で確認することによって理論がより鮮明に理解できるでしょう。**化学セミナー**、**化学課題探求Ⅰ・Ⅱ**ではいくつかの各論を学び、化学の知識と課題解決力を確かなものとします。4年次においては**理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ**を履修し、各人が個別のテーマで研究を行います。また、**化学輪講**では卒業研究の内容をまとめて報告する方法を学んだり、研究テーマに関連する文献の輪講などを行なったりします。これらは化学コースで学習したことの総仕上げの意味がありますので、非常に重要な科目です。

数理情報学コース：

2年次からは、徐々に数理情報学の専門的な科目に移っていきます。本コースに所属して順調に進級し卒業できるよう、以下の点に注意しながら今後の履修計画を立てて勉学に取り組んでください。

①進級・卒業条件：主コース、副コースの条件も含め、学部共通の条件をよく確認してくだ

さい。なお、数理情報学コースでは 3 年次から 4 年次への進級条件として、 1 年次の学部共通科目の基礎微積分学Ａ・Ｂと基礎線形代数学Ａ・Ｂの 4 科目のうちから 3 科目以上、コース専門科目の数理情報学基礎演習と数理情報学応用演習の 2 科目、および数理情報学輪講Ⅰ・Ⅱの 2 科目が単位修得できていることが必要です。注意してください。

②取得単位数の目安：4 年次では理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ（計 6 単位）や進学、就職の活動が中心となります。卒業に必要な単位数は 124 単位ですから、3 年次までは各年次 40 単位強を目安に単位修得するとよいでしょう。

③科目履修ガイド：進級・卒業に必要な単位を修得していくことはもちろんですが、人間形成科目や英語科目、主コース、副コースの科目もバランスよく履修するように計画することを勧めます。理学系共通科目の中でも離散数学、応用線形代数学を始めとする数理情報分野の科目はできるだけ履修してください。コース専門科目では、数理情報学基礎演習と数理情報学応用演習の 2 科目、またその他の科目もできる限り多く履修し修得するよう心がけてください。

④教員免許：中学高校の「数学」、高校の「情報」の教員免許が取得できます。教員免許の項を参照してください。

副専攻コースの選択と履修について（2 ～ 4 年次）

どの副専攻コースを選択するかは、主専攻コースとして選んだ専門分野と合わせてどのようなスペシャリストを目指すのか、またはどの分野の進学やどのような業種の就職を目指すのかを考えて決定する必要があります。主コースと副コースとの組み合わせと進学、就職分野がわからない場合は各コースの教員に相談すると良いでしょう。副専攻コースとして理学系の各コースを選んだ場合、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

他のコースを主コースとしたが数学も学んでみたいという場合や、主コースのために数学による基礎付けをしておきたいなど、数学コースを副コースとして希望する目的にはいろいろな場合が考えられます。いずれにしろ本コースを副コースとする場合、数学全体を学ぶだけの科目数を履修する余裕がもてないことも考えられますので、各自の趣味、将来の希望、主コースとの関連、科目間のつながり等を考慮して有効に履修科目を選択する必要があります。

・数学コースの専門科目の中には準備が想定されている科目もあります。本コースを副コースとする学生も、学系共通科目から対象となる科目を履修しておくことが望ましいです。

詳しくは各科目のシラバスをご覧ください。また、数学コースのホームページに「数学を副コースとする学生のための履習科目ガイド」がありますので、それを参考にしてください。

物理学コース：

力学，電磁気学，量子力学Ⅰ・Ⅱ，統計力学Ⅰ・Ⅱが何を学ぶにしても必須項目です。それぞれの科目の前提となる科目については、主コースの欄と同じですので参照してください。専門科目は、**化学熱力学，量子力学Ⅲ**等の履修を勧めます。**特論Ⅰ・Ⅱ**および**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**は、**物理学コースの学生**を対象とする科目です。

化学コース：

化学コースを副コースとして選んだ学生は、興味の対象が何であるかで履修すべき科目が異なります。例えば、「材料」に興味があるのか、それとも「化学反応」に興味があるのかは大きな違いです。前者の場合は**材料化学**や**工業化学**を、後者の場合は**反応速度論**を履修するのがよいでしょう。また、材料であっても、それが「無機」材料であるのか「有機」材料であるのか、はたまた「高分子」に分類される材料であるのかで、**有機化学Ⅰ・Ⅱ，無機化学Ⅰ・Ⅱ**や**高分子科学**の履修が適している場合もあります。何に興味があるのか、勉強したいのは何なのかをよく考慮した上で履修科目を選択してください。また、コース専門科目に準備されている科目で**有機化学Ⅱ**や**無機化学Ⅱ**などのように「Ⅱ」がつく科目は理学系の学系共通科目にそれらに対応する「Ⅰ」の科目がありますので、まずそちらを履修してください。**化学課題探求Ⅱ**は化学コースの学生を対象とする科目です。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、低学年次で数学やコンピュータ、情報の基礎を学び、その後、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。従って、数理情報学コースを副コースとして選び、コース専門科目を履修する際には、できるだけその前提となる基礎科目を履修しておいてください。また、科目の一部には履修制限する場合がありますので注意してください。

理学系における 3 年以上在学での卒業について（3 年卒業、3.5 年卒業）

理学系での 3 年以上在学での卒業には、理工学部で定められた 3 年以上在学での卒業の条件に加えて、下記の卒業研究に関する条件をみたす必要があります。

・3 年在学での卒業の場合は 3 年後期の理学特別卒業研究の単位修得が必要です。

・3.5 年在学での卒業の場合は 4 年前期の卒業研究Ｉは早期卒業の計画に沿った卒業研究としての単位修得が必要です。

なお、**3 年以上在学での卒業を希望する学生は事前に学系長に申しでて、上記の卒業研究履修の承諾**を得ることが必要です。

その他注意事項

理学系の教職科目に指定されている科目履修で数学、理科または情報の教員免許を取得することができます。所属するコースにかかわらず各免許状の科目要件を満たせば複数の免許状を取得することも可能です。学系共通科目、コース専門科目には教職科目に指定されている科目が多数あるため、教員免許取得を目指す学生は教職課程の章を良く読んで目指す免許状に応じて履修計画を立てる必要があります。例えば、数学の教員免許の「教科に関する科目」としてコンピュータに区分された科目があり、理学系の学生に対しては「数理プログラミングＩ」が必修となっています。

理学系の科目配置図

4年

理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ
（必要に応じて）理学インターンシップE・F

〔数学コース専門科目〕
偏微分方程式
関数解析学
代数学Ⅳ
幾何学Ⅲ
数学と社会

〔物理学コース専門科目〕
物性論Ⅱ
特論Ⅰ・Ⅱ

〔化学コース専門科目〕
化学輪講

〔数理情報学コース専門科目〕
専門科目は
配置しない

3年

〔数学コース専門科目〕
代数学Ⅱ・Ⅲ
位相空間Ⅱ
複素解析学Ⅱ
幾何学Ⅱ
統計学
数学輪講Ⅰ・Ⅱ

〔物理学コース専門科目〕
統計力学Ⅱ
量子力学Ⅲ
物性論Ⅰ
物理学課題探求Ⅱ
量子力学演習
統計力学演習

〔化学コース専門科目〕
統計力学Ⅱ
無機化学Ⅱ
高分子科学
電気化学
有機合成化学
工業化学
化学実験B・C
化学セミナー
化学課題探求Ⅱ

〔数理情報学コース専門科目〕
人工知能
データ科学
ロボット科学
画像解析
学習理論
システム理論
制御理論
数理情報学応用演習
数理情報学輪講Ⅰ・Ⅱ

〔理学系共通科目〕
（数学・物理学・化学・地学分野）
解析学Ⅲ・解析学Ⅳ・解析学Ⅲ演習
計測と分析・量子力学Ⅱ・統計力学Ⅰ・分子分光学
量子化学・生態地球科学・地学実験

（その他）理学特別卒業研究、理学インターンシップC、D

2年

〔数学コース専門科目〕
数学史
代数入門

学系共通科目の数学分野科目を履修すること

〔物理学コース専門科目〕
化学熱力学
物理学課題探求Ⅰ
連続体の物理
電磁気学演習

〔化学コース専門科目〕
化学熱力学
有機化学Ⅱ
界面化学
化学工学
化学課題探求Ⅰ
計算化学

〔数理情報学コース専門科目〕
最適化法
数理情報学基礎演習

〔理学系共通科目〕

（数学分野）
解析学Ⅰ、Ⅱ・解析学Ⅰ、Ⅱ演習
線形代数学Ⅰ、Ⅱ
代数学Ⅰ・代数学Ⅰ演習
位相空間Ⅰ・位相空間Ⅰ演習
常微分方程式・常微分方程式演習
複素解析学Ⅰ・幾何学Ⅰ
確率論

（物理学・化学・生物学分野）
熱力学・量子力学Ⅰ
化学実験A・物理学実験
電磁気学・機器分析
有機化学Ⅰ・無機化学Ⅰ
材料化学・反応速度論
分析化学・生物学

（数理情報学分野）
離散数学
応用線形代数学
情報論
信号理論
画像処理
数理プログラミングⅡ

（その他）理学インターンシップA、B

1年

〔理学系共通科目〕

（数学分野）
数学演習Ⅰ、Ⅱ
数理のふしぎ

（物理学・化学分野）
物理数学・力学・基礎有機化学・生命の化学

（数理情報学分野）
数理プログラミングⅠ・数理情報学入門

〔学部共通科目（基礎科目）〕
（基　礎）：数学基礎・物理学基礎・化学基礎・物理学基礎演習・化学基礎演習
（数　学）：基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B
（物理学）：物理学A・B・基礎物理学実験
（化　学）：化学A・B・基礎化学実験
（その他）：環境科学・生物科学・情報処理A・B・立体図学・工学基礎

共通教育科目

人間形成科目

英語科目

理学系　進級条件表

RU

（2016年度カリキュラム）

1年次→2年次
　1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。
2年次→3年次
　進級条件を設けない。
3年次→4年次
　1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1. 下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	（卒業条件）
人間形成科目			12	（16）
英語科目			6	（ 8）※1
学部共通科目			12	（14）
副コースを理学系から選んだ場合	学系共通科目		28	（36）
	コース専門科目	主コース	14	（22）※2
		副コース	6	（ 8）
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	（26）
		副コース	10	（14）
	コース専門科目	主コース	14	（22）※2
		副コース	2	（ 4）

※1 必修の8科目（1年次および2年次配当科目）を含む　※2 卒業研究を含む

2. 理学系の各コースを主コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を修得していること。

数学コース	物理学コース	化学コース	数理情報学コース
［学系共通科目］	［学系共通科目］	［学系共通科目］	［学部共通科目］
次の3科目を全て修得のこと	次の1科目を修得のこと	次の1科目を修得のこと	次の4科目中3科目以上を修得のこと
数学演習Ⅰ 数学演習Ⅱ 数理のふしぎ	物理学実験	化学実験A	基礎微積分学A 基礎微積分学B 基礎線形代数学A 基礎線形代数学B
次の15科目中下記科目数を修得のこと。（ただし演習科目のみの履修は認めない） 副コースも理学系の場合は10科目以上，副コースが他学系の場合は8科目以上	［コース専門科目］ 次の2科目を全て修得のこと 物理学課題探求Ⅰ（U2） 物理学課題探求Ⅱ（U2）	［コース専門科目］ 次の4科目を全て修得のこと 化学実験B（U3） 化学実験C（U3） 化学セミナー（U3） 化学課題探求Ⅱ（U3）	［コース専門科目］ 次の4科目を全て修得のこと 数理情報学基礎演習（U4） 数理情報学応用演習（U4） 数理情報学輪講Ⅰ（U4） 数理情報学輪講Ⅱ（U4）
解析学Ⅰ 解析学Ⅰ演習 解析学Ⅱ 解析学Ⅱ演習 解析学Ⅲ 解析学Ⅲ演習 解析学Ⅳ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ 代数学Ⅰ 代数学Ⅰ演習 位相空間Ⅰ 位相空間Ⅰ演習 常微分方程式 常微分方程式演習			
［コース専門科目］ 次の2科目から1科目以上を修得のこと 代数入門（U1） 数学史（U1）			
次の2科目を全て修得のこと 数学輪講Ⅰ（U1） 数学輪講Ⅱ（U1）			

3. 理学系の各コースを副専攻コースで選んだ場合はどのコースも進級の条件となる科目はありません。

2016年度 カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	数学	数学演習Ⅰ	選択			○		2	1	1	1				
			数学演習Ⅱ	選択			○		2	1			1	1		
			数理のふしぎ	選択		○			2	1			1	1		
			解析学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20300
			解析学Ⅰ演習	選択			○		2	2	1	1				20300
			解析学Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		20300
			解析学Ⅱ演習	選択			○		2	2			1	1		20300
			解析学Ⅲ	選択		○			2	3	1	1				20300
			解析学Ⅲ演習	選択			○		2	3	1	1				20300
			解析学Ⅳ	選択		○			2	3			1	1		20300
			線形代数学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20100
			線形代数学Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		20100
			代数学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		20100
			代数学Ⅰ演習	選択			○		1	2			1	1		20100
			位相空間Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		20200
			位相空間Ⅰ演習	選択			○		1	2			1	1		20200
			常微分方程式	選択		○			2	2	1	1				20300
			常微分方程式演習	選択			○		1	2	1	1				20300
			複素解析学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		20300
			幾何学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20200
			確率論	選択		○			2	2	1	1				20400
		物理化学	計測と分析	選択		○			2	3	1	1				30100
			熱力学	選択		○			2	2	1	1				30100
			統計力学Ⅰ	選択		○			2	3	1	1				30100
			量子力学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		30100
			量子力学Ⅱ	選択		○			2	3	1	1				30100
			量子化学	選択		○			2	3	1	1				30300
		物理学実験	物理学実験	選択				○	2	2	2	2				30200
		化学実験	化学実験Ａ	選択				○	2	2			2	2		30400
		物理学	力学	選択		○			2	1			1	1		30100
			電磁気学	選択		○			2	2	1	1				30100
			物理数学	選択			○		2	1			1	1		30100
		化学	生命の化学	選択		○			2	1			1	1		30300
			基礎有機化学	選択		○			2	1			1	1		30300
			有機化学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				30300
			機器分析	選択		○			2	2	1	1				
			分析化学	選択		○			2	2	1	1				
			無機化学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		30300
			材料化学	選択		○			2	2			1	1		30300
			反応速度論	選択		○			2	2			1	1		30300
			分子分光学	選択		○			2	3			1	1		30300
		生物学	生物学	選択		○			2	2	1	1				30500
		地学	生態地球科学	選択		○			2	3	1	1				30700
			地学実験	選択				○	2	3	1	1	1	1	集中講義 通年科目	30800
		数理情報学	数理プログラミングⅠ	選択			○		2	1			1	1		20500
			数理プログラミングⅡ	選択			○		2	2	1	1				60200
			数理情報学入門	選択		○			2	1	1	1				60100
			離散数学	選択		○			2	2	1	1				20500
			応用線形代数学	選択		○			2	2	1	1				20100
			情報論	選択		○			2	2			1	1		60400
			信号理論	選択		○			2	2			1	1		
			画像処理	選択		○			2	2			1	1		60500

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	U1 数学コース専門科目	数学	数学史	選択	U1	○			2	2			1	1		
			代数入門	選択	U1		○		2	2	1	1				20100
			代数学Ⅱ	選択	U1	○			2	3	1	1				20100
			代数学Ⅲ	選択	U1	○			2	3			1	1		20100
			位相空間Ⅱ	選択	U1	○			2	3			1	1		20200
			幾何学Ⅱ	選択	U1	○			2	3	1	1				20200
			関数解析学	選択	U1	○			2	4			1	1		20300
			統計学	選択	U1	○			2	3			1	1		20400
			偏微分方程式	選択	U1	○			2	4	1	1				20300
			複素解析学Ⅱ	選択	U1	○			2	3			1	1		20300
			代数学Ⅳ	選択	U1	○			2	4			1	1		20100
			幾何学Ⅲ	選択	U1	○			2	4	1	1				20200
			数学と社会	選択	U1	○			2	4	1	1				
		輪講	数学輪講Ⅰ	選択	U1	○			2	3	1	1				
			数学輪講Ⅱ	選択	U1	○			2	3			1	1		
	U2 物理学コース専門科目	物理学	連続体の物理	選択	U2	○			2	2			1	1		30100
			物理学課題探求Ⅰ	選択	U2	○			2	2			2	2		30200
			物理学課題探求Ⅱ	選択	U2	○			2	3			2	2		30200
			化学熱力学	選択	U2・U3	○			2	2			1	1	※1	30300
			統計力学Ⅱ	選択	U2・U3	○			2	3			1	1	※1	30100
			量子力学Ⅲ	選択	U2	○			2	3			1	1		30100
			物性論Ⅰ	選択	U2	○			2	3			1	1		30100
			物性論Ⅱ	選択	U2	○			2	4	1	1				30100
			電磁気学演習	選択	U2		○		2	2	1	1				
			量子力学演習	選択	U2		○		2	3	1	1				
			統計力学演習	選択	U2		○		2	3	1	1				
		輪講	特論Ⅰ	選択	U2	○			2	4	1	1				
			特論Ⅱ	選択	U2	○			2	4			1	1		
	U3 化学コース専門科目	化学	化学課題探求Ⅰ	選択	U3	○			2	2			1	1		
			化学課題探求Ⅱ	選択	U3	○			2	3			1	1		
			化学熱力学	選択	U2・U3	○			2	2			1	1	※1	30300
			統計力学Ⅱ	選択	U2・U3	○			2	3			1	1	※1	30100
			計算化学	選択	U3	○			2	2	1	1				
			有機化学Ⅱ	選択	U3	○			2	2			1	1		30300
			界面化学	選択	U3	○			2	2			1	1		30300
			無機化学Ⅱ	選択	U3	○			2	3	1	1				30300
			高分子科学	選択	U3	○			2	3			1	1		30300
			電気化学	選択	U3	○			2	3	1	1				30300
			化学工学	選択	U3	○			2	2			1	1		
			工業化学	選択	U3	○			2	3			1	1		
			有機合成化学	選択	U3	○			2	3	1	1				30300
		実験	化学実験B	選択	U3			○	2	3	1/4期4コマ				前前期および前後期開講	30400
			化学実験C	選択	U3			○	2	3	1/4期4コマ				前前期および前後期開講	30400
		輪講	化学セミナー	選択	U3	○			2	3			1	1		
			化学輪講	選択	U3	○			2	4	1	1				
	U4 数理情報学コース専門科目	数理情報学	人工知能	選択	U4	○			2	3	1	1				60500
			データ科学	選択	U4	○			2	3			1	1		60300
			最適化法	選択	U4	○			2	2			1	1		
			ロボット科学	選択	U4	○			2	3			1	1		
			画像解析	選択	U4	○			2	3	1	1				20500
			学習理論	選択	U4	○			2	3			1	1		
			システム理論	選択	U4	○			2	3	1	1				
			制御理論	選択	U4	○			2	3			1	1		
			数理情報学基礎演習	選択	U4		○		2	2			1	1		60300
			数理情報学応用演習	選択	U4		○		2	3	1	1				60500
		輪講	数理情報学輪講Ⅰ	選択	U4	○			2	3	1	1				
			数理情報学輪講Ⅱ	選択	U4	○			2	3			1	1		

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

2016年度 カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	コース専門科目	職業	理学インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			理学インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			理学インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			理学インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			理学インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			理学インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業	選択		○			2	2			1	1		60600
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					60600
			情報と倫理	自由		○			2	2			1	1		60100
		卒業研究	理学特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			理学卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			理学卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		

※1の科目を履修した場合は、同一科目名の他コース科目を履修することはできません。

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

生命理工学系

(Division of Life Science and Engineering)

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

生命理工学系では、生物の持つ高度な機能の本質を理解し、その機能を真に人類のために活用することを目指し、生命科学と生物環境に基礎をおいた教育と研究を行います。生命理工学分野の教育と研究を通じて、適切な基礎知識を養うとともに、今後の人間社会の変化に対して柔軟に対応できる応用力を醸成します。これにより生命に関わる正しい倫理観を具有し、生命の精緻なメカニズムを探究し環境や医療などの諸問題に取り組む力を備えた人材を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部の生命理工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 生命現象の理解に必要な基礎知識を身につけること。
(2) 生命科学探究のスペシャリストになるための、専門的な知識を身につけること。
(3) 環境問題に対応できる技術者になるための、専門的な知識を身につけること。
(4) 創造的・論理的な思考力と、問題を発見して解決する力を身につけること。
(5) 自らの考えに基づいて行動し、その結果をまとめて発表・議論できる能力を身につけること。
(6) 国際的に通用する人材としての基礎的知識を身につけること。

※標準修業年限は 4 年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部の生命理工学系は、2 つの専門コースを設け、生物、化学、環境学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 専門知識や技術の理解に必要不可欠な数学、自然科学、工学、情報の素養を身につけることを目的とした基盤科目を、入学初年度に集中的に配置します。
(2) 学系全体における基幹科目や課題・問題解決能力の養成を目的としたゼミ、実習、実験科目を、学年進行に従い系統的に配置します。
(3) 学際的な知識や応用事例を学ぶことを目的とした周辺科目を、学年進行に従い系統的に配置します。
(4) 学際領域への関心を高めることを目的に、主コース以外の分野における専門科目を選択科目として配置します。
(5) 人間性と国際性を高めることを目的に、人間形成科目及び英語科目を 4 年間にわたって学べるよう配置します。

カリキュラムマップ[生命理工学系]

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	生命科学			免疫学(2) 2	生体組織学(2) 2	生物情報科学(2) 2 遺伝子工学(2) 2 生体材料学(2) 2	細胞生物学(2) 2 再生医化学(2) 2 薬理学(2) 2		
	物質化学					有機合成化学(2) 2	生体高分子科学Ⅱ(2) 2		
	生物環境学				水圏の環境(2) 2 気圏・地圏の環境(2) 2 植物生理学(2) 2	環境計測(2) 2 細胞工学(2) 2	生物圏の環境(2) 2		
	食品・生物工学					食品加工学(2) 2 食品工学(2) 2	生物反応学(2) 2 応用微生物学(2) 2		
周辺科目					無機化学Ⅰ(3) 2 機器分析化学(3) 2	電気化学(3) 2	地学実験(3) 2		
課題探求		生命理工学ゼミⅠ(2) 2 基礎化学実験(2) 2 基礎物理学実験(2) 2	生命理工学ゼミⅡ(2) 2	生命理工学実験Ⅰ(2) 2	生命理工学実験Ⅱ(2) 2 生命理工学ゼミⅢ(2) 2	生命理工学ゼミⅣ(2) 2 生命科学実験Ⅰ(2) 2 生物環境実験Ⅰ(2) 2 生命理工学実践論(2) 2	生命理工学キャリア開発ゼミ(2) 2 生命科学実験Ⅱ(2) 2 生物環境実験Ⅱ(2) 2	生命理工卒業研究Ⅰ(2) 3	生命理工卒業研究Ⅱ(2) 3
基盤科目	生物学		細胞の科学(1) 2 生物科学(1) 2 環境生命工学(1) 2	生物学(1) 2 生化学(1) 2 遺伝学(1) 2	分子生物学(1) 2 微生物学(1) 2	生態地球科学(1) 2			
	化学	化学基礎(1) 1 生命科学入門(1) 2	基礎有機化学(1) 2 生命の化学(1) 2	有機化学Ⅰ(1) 2 生命物理化学(1) 2	有機化学Ⅱ(1) 2 食品化学(1) 2	生命分析化学(1) 2 生体高分子科学Ⅰ(1) 2			
	情報・工学	数学基礎(1) 1 物理学基礎(1) 1 情報処理A(1) 2 立体図学(1) 2 工学基礎(1) 2	情報処理B(1) 2	食品製造学概論(1) 2 生物統計学(1) 2					
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか(4)							
国際性	英語	英語ⅠA(5) 1 英語ⅡA(5) 1	英語ⅠB(5) 1 英語ⅡB(5) 1	英語ⅢA(5) 1 英語ⅣA(5) 1	英語ⅢB(5) 1 英語ⅣB(5) 1	英語ⅤA(5) 1	英語ⅤB(5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか(5)							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA(2) 1 フレッシュマンゼミB(2) 1		生命理工インターンシップA(2) 2	キャリアワークショップ(2)(4) 2 生命理工インターンシップB(2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ａ(2)(4) 2 生命理工インターンシップC(2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ(2)(4) 2 生命理工インターンシップD(2) 2	生命理工インターンシップE(2) 2	生命理工インターンシップF(2) 2

生命理工学系履修モデル

1．学系の学習・教育目標

21 世紀の人類が避けて通ることのできない問題に環境問題や食糧・医療問題などがあります。これらの諸問題を解決していくと同時に安全で快適な生活を維持するためには、まず生命や生体の持つ高度な機能の本質を理解することが重要になります。そして、生命の機能を学びこれを利用しながら、真に人類のためとなる社会やシステムを築いていく必要があります。このためには、今までの基礎工学や医学、理学分野を学ぶだけではなく工学と理学・医学分野を融合した新しい発想に基づくアプローチが求められるようになります。生命理工学系では、理学や工学といったこれまでの枠組みを超えて新たな教育研究分野を構築し、教授することで、これからの人間社会の変化に対応できる柔軟な応用力を身につけた人材を育成する事を目標としています。

また、本学系は理工学部の中で他の学系とも連携を取りながら生命工学に基礎をおいた教育・研究を行うことにより、生命分野における適切な基礎知識と倫理観を有し、創造力にあふれる工学技術者および高度な専門技術者を育成します。

2．カリキュラムの概要

本学系は、生命・生物工学、環境学などに基礎を置いたいくつかの分野から構成されています。カリキュラムは、大学院進学も視野に入れ、各コースとも基礎から応用まで無理なく身につけることができる編成を組んでいます。

生命理工学系では、学生の自主性を重んじ自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものにするように努力するとともに判らなかった部分をそのままにしないで予習・復習もしっかりと行ってください。

カリキュラムは生命・生物工学に関連性を持たせながら工学の基礎分野の習得を行えるように編成しており、同時に幅広い知識を得ることができるよう工夫していますので、自分にあった履修計画を立てるようにしてください。

2．　1．コースの概要

本学系の教育分野は次の 2 コースに分けて編成しています。

各コースの概要は後述します。

(1)「生命科学コース」

細胞内で起こっている生命現象を分子レベルで理解したり、生命と調和した物質を創製するために必要となる知識や分析技術を教育します。

(2)「生物環境コース」

様々な環境変化や刺激に対する生物の応答機構を解明するとともに、生物資源の生産と保存さらに食品への利用につなげるための教育を行っていきます。

2．2．授業科目

生命理工学系の授業科目は大きく分けて次のように分類されます。

1）専門科目・・・・学部共通科目群、学系共通科目群、コース専門科目群

2）人間形成科目群

3）英語科目群

生命理工学系の卒業条件は、専門科目を 66 単位以上、人間形成科目を 16 単位以上、英語科目を 8 単位以上、学部共通科目を 14 単位以上修得し合計 124 単位以上修得しなければなりません。

各学年における進級条件は表を参照してください。

3. 各コースの概要

3.　1．生命科学コース

生命科学コースでは、さまざまな生命現象を分子のレベルで理解することを目標としています。DNA やタンパク質の構造・機能を理解し、これらの相互作用にもとづく高次の生命現象について学習します。このため本コースは、生化学や有機化学などの基礎的な科目からはじまり、細胞生物学、遺伝子工学、薬理学、再生医化学などの専門性の高い科目にいたる幅広いカリキュラムから構成されています。また、生命と調和した物質を創製するために必要となる知識や分析技術も身につけます。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、食品、医薬品、再生医療、生体有用成分に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1 年生では生命科学入門や細胞の科学など生化学の基礎となる科目の履修を勧めます。2 年生では有機化学などの基礎的科目の他に、生体組織学や免疫学、分子生物学など細胞や生体レベルで生命現象を解説する科目を中心に、また 3 年生では遺伝子工学や再生医化学など専門性の高い科目を学びます。

3．2．生物環境コース

生物環境コースでは、環境や食糧など人類の生存と発展に関わる分野を扱います。環境からのさまざまな刺激に対する生物の応答メカニズムを理解するとともに、環境要因を明らかにすることで、植物・微生物を利用した環境保全や生物資源の保全につなげるための学習をします。このため、植物生理学、細胞工学、微生物学、応用微生物学などの植物・微生物関連科目、気象・土壌環境学、環境計測などの環境関連科目、および食品化学、食品工学、食品加工学などの食品関連科目などからカリキュラムが構成されています。このカリキュラムのもと、生物環境に関連する領域でのバイオテクノロジーの技法を駆使できる力を身につけます。

カリキュラム：1年生では環境生命工学や生命の化学など環境や生化学の基礎となる科目の履修を勧めます。2年生では植物生理学や微生物学など植物や微生物に関連する科目を中心に、また3年生では応用微生物学、生態地球科学、細胞工学、食品工学など応用分野の科目を中心に学習することを勧めます。

4．1年次における学習の進め方

大学入試を終え、新しい生活に向けて期待に胸ふくらませていることと思います。大学に入って最初の年は大学生活の中でも重要な年になります。1年生の時は焦らずに基礎の勉強をしっかりと行っておくことが求められます。1年生の基礎科目がしっかりと身に付いていないと2年生以降の専門科目の学習が理解できずに習得できなくなってしまい、結局高学年でその影響が大きく生じてきます。このため1年生時における勉学への取り組みには十分注意をしてください。スタートが肝心です。

また、1年生から2年生へは進級条件をクリアしなくてはいけません。生命理工学系では1年次における単位数が30単位に達していないと2年生の進級を許可していません。

1年次には人間形成科目、英語科目、学部共通科目、学系共通科目の中から履修をしていきます。これらの科目群は3年生から4年生の進級条件や卒業条件に深く関わっています。表の進級条件を見て計画を立て1年次にとるべき単位数を各自決めてください。

英語はこれからの国際社会において必要不可欠な科目です。積極的に取り組んでください。また、大学を卒業した学生には高い専門的な学力ばかりでなく、社会で通用する一般教養の知識も求められます。哲学や経済学、心理学など理工学系の学生でも身につけておくべき科目が人間形成科目群です。シラバスや4月当初のガイダンスを参考にして、自分の興味のある分野を積極的に履修してください。

専門科目には学部共通科目と学系共通科目があります。まず、学部共通科目で数学、物理、化学の基礎を学んでいきます。高校で学んだことの復習と同時に大学で学ぶことの根幹をなす科目です。一方、2年次にコースを選択する際に必要となる学系共通科目があります。学系共通科目は生命理工学系で学んでいくための基礎科目になります。生命科学入門、ゼミ科目はどのコースを選ぶかにかかわらず履修するようにしてください。上記以外の学系共通科目も幅広く履修しておくことを勧めます。1年生の学系共通科目履修は、2年次に進むコース選択の際の参考になると思います。各コースには定員が設けられていますので1年生の間は希望のコースに進むために各自努力を怠らないようにしてください。

5．2年生～4年生（主コース学生と副コース学生の履修計画と学習の進め方）

（主コース・副コース共に生命理工学系の学生）

2年生以上になるとコース専門科目がいよいよ始まります。2年生、3年生では主に学系共通科目とコース専門科目を履修していくことになります。学系共通科目は、生命理工学系に所属するのであればどのコースに所属するにしても必要となる科目群です。特に実験は重要な科目ですので必ず履修するようにしてください。学系共通科目、コース専門科目ともに3年生から4年生への進級条件があります。表で確認して不足の無いように計画を立てて履修してください。

また、英語科目や人間形成科目の履修も進級条件を考え、不足の無いようにすることが重要です。進級条件は、進級に必要な最低条件です。ぎりぎりの単位数で進級や卒業しようとするとまずうまくいきません。条件に書かれている数字は最低条件と理解して、条件は余裕を持ってクリアできるだけの単位数を履修するようにしてください。

4年生になりますと、いよいよ学部時代の仕上げになります。4年生に進級するときには進級条件である104単位でなく卒業単位の124単位もクリアできるようにすることを勧めます。4年生では卒業研究で忙しくなるからです。この卒業研究では1年間かけて各自が独自の研究テーマに取り組みます。4年生までに授業や実験で身につけた知識と技術を総動員して取り組んでください。卒業研究では、高い技術力と研究能力、プレゼンテーション能力を養います。また、大学院へ進学する際の準備段階にもなります。社会人あるいは大学院生なるために必要な知識と技術などを研究を行いながらしっかり身につけるようにしてください。

（主コースのみを生命理工学系とした学生）

人間形成科目、英語科目、学部共通科目に関しては、進級条件を考慮し不足の無いよう余

裕を持って履修してください。3年生から4年生への進級条件では学系共通科目およびコース専門科目に進級条件があり、実験も履修することになっています。条件をよく確認し履修を行ってください。また副コースに関しても他学系にて条件が決められている場合があります。他学系の副コースの履修条件をよく確認し不足の無いようにしてください。

（副コースのみを生命理工学系とした学生）

進級条件は、主コースを選択している学系によりますので主コースのある学系の進級条件を確認して不足の無いように履修を行ってください。副コースでとらなくてはいけない科目数は卒業条件に記載されています。卒業までに必要な学系共通科目および副コースの科目の単位を修得するようにしてください。学系共通科目では、１年生に配当されている生命科学入門を履修し生命理工学系の全体像をつかんでください。また所属する副コースの基礎となる科目は、学系共通科目群から履修しておくことを勧めます。

６．大学院進学を考えている学生

大学院に進学するということは、研究開発ができると言うことだけでなく、将来企業や社会のリーダーとなって活躍できる道に進むということを意味します。このために、研究開発ができる能力だけでなく、人格的にも優れたものを持つ必要があります。大学院では学部生時代に学んだ事をさらに深く追求すると同時にそれをきっかけとして幅広い知識を吸収するように心がけてください。このために、国内や国際的な学会へも参加し広く社会を知ることなどが要求されます。

知識を吸収し工学者としても人間としても成長するためには自分の意志をしっかりと持ち、勇気を持って新しい道を切り開かなくてはなりません。1年次にすでに大学院進学を目指している学生もいることと思いますが、4年生になって進学を決める学生もいると思います。進学希望を持った時点からしっかりと自分の将来を見つめ計画を立ててください。大学院に進学する際にこの科目は履修しておかなくてはいけないというものはありません。すでに述べたように、幅広い知識が必要になりますので自分のペースに合わせバランスよく科目を履修するようにしてください。

また修士課程の上には博士課程も準備されています。さらに研究能力を深めて行こうという意志のある学生は博士課程への進学も視野に入れ、真に社会のリーダーとなれるように努力してください。

生命理工学系の履修配置図

	〔生命科学コース〕	〔生物環境コース〕	
4年	生命理工卒業研究Ⅰ・Ⅱ		
3年	**〔コース専門科目〕** **〔前期〕** 生物情報科学 有機合成化学 遺伝子工学 生体材料学 生命科学実験Ⅰ **〔後期〕** 生体高分子科学Ⅱ 薬理学 細胞生物学 再生医化学 生命科学実験Ⅱ 生命理工特別卒業研究	**〔コース専門科目〕** **〔前期〕** 環境計測 食品加工学 食品工学 細胞工学 生物環境実験Ⅰ **〔後期〕** 生物反応学 生物圏の環境 応用微生物学 生物環境実験Ⅱ 生命理工特別卒業研究	
3年	**〔学系共通科目〕** **〔前期〕** 生命理工学実践論、生態地球科学、電気化学、生体高分子科学Ⅰ、生命分析化学、生命理工学ゼミⅣ **〔後期〕** 地学実験、生命理工学キャリア開発ゼミ		共通教育科目 人間形成科目 英語科目
2年	**〔コース専門科目〕** **〔前期〕** 免疫学 **〔後期〕** 生体組織学	**〔コース専門科目〕** **〔前期〕** **〔後期〕** 気圏・地圏の環境 水圏の環境 植物生理学	
2年	**〔学系共通科目〕** **〔前期〕** 生命物理化学、生物学、有機化学Ⅰ、遺伝学、食品製造学概論、生物統計学、生化学、生命理工学実験Ⅰ **〔後期〕** 分子生物学、無機化学Ⅰ、食品化学、機器分析化学、有機化学Ⅱ、微生物学、生命理工学実験Ⅱ、生命理工学ゼミⅢ		
1年	**〔学系共通科目〕** **〔前期〕** 生命科学入門、生命理工学ゼミⅠ **〔後期〕** 生命の化学、環境生命工学、細胞の科学、基礎有機化学、生命理工学ゼミⅡ		
1年	**〔学部共通科目（基礎科目）〕** 数学基礎・物理学基礎・化学基礎・物理学基礎演習・化学基礎演習、基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B、物理学A・B、基礎物理学実験、化学A・B、基礎化学実験、環境科学、情報処理A・B、立体図学、工学基礎、生物科学		

生命理工学系　進級条件表

（2016年度カリキュラム）

RB

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1. 下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	（卒業条件）
人間形成科目			12	(16)
英語科目			6	(8)※1
学部共通科目			12	(14)
副コースを生命理工学系から選んだ場合	学系共通科目		28	(36)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※2
		副コース	6	(8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	(26)
		副コース	10	(14)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※2
		副コース	2	(4)

※1 必修の8科目（1年次および2年次配当科目）を含む　※2 卒業研究を含む

2. 上の条件に加えて、以下に定める科目・単位を修得のこと。

	以下の条件を満たし、3年次までに配当されている専門科目（学部共通科目群・学系共通科目群・コース科目群）から78単位以上を修得のこと
学系共通科目群 および コース科目群	1. 副コースを生命理工学系とした場合
	以下の条件を満たし、学系共通科目群およびコース科目群より、56単位以上修得のこと ①「生命理工学実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て修得すること ②「生命理工学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「生命理工学キャリア開発ゼミ」を全て修得すること
	2. 副コースを生命理工学系以外の学系から選択した場合
	以下の条件を満たすこと ①「生命理工学実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て修得すること ②「生命理工学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「生命理工学キャリア開発ゼミ」を全て修得すること

※副コースのみ、生命理工学系のコースを選択した場合の進級基準は、主コースの学系・コースに従う

2016年度 カリキュラム 生命理工学系 授業科目配当表

RB

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	生物	細胞の科学	選択		○			2	1			1	1		30500
			環境生命工学	選択		○			2	1			1	1		30500
			生物学	選択		○			2	2	1	1				30500
			遺伝学	選択		○			2	2	1	1				30500
			生物統計学	選択		○			2	2	1	1				
			分子生物学	選択		○			2	2			1	1		30500
			微生物学	選択		○			2	2			1	1		30500
		化学	生命科学入門	選択		○			2	1	1	1				30300
			生命の化学	選択		○			2	1			1	1		30300
			基礎有機化学	選択		○			2	1			1	1		
			生化学	選択		○			2	2	1	1				30300
			有機化学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				30300
			生命物理化学	選択		○			2	2	1	1				30300
			食品製造学概論	選択		○			2	2	1	1				
			食品化学	選択		○			2	2			1	1		
			有機化学Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		30300
			無機化学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		30300
			機器分析化学	選択		○			2	2			1	1		
			生命分析化学	選択		○			2	3	1	1				30300
			生体高分子科学Ⅰ	選択		○			2	3	1	1				30300
			電気化学	選択		○			2	3	1	1				30300
		職業	生命理工学実践論	選択		○			2	3	1	1				
		ゼミ	生命理工学ゼミⅠ	選択			○		2	1	1	1				
			生命理工学ゼミⅡ	選択			○		2	1			1	1		
			生命理工学ゼミⅢ	選択			○		2	2			1	1		
			生命理工学ゼミⅣ	選択			○		2	3	1	1				
			生命理工学キャリア開発ゼミ	選択			○		2	3			1	1		
		実験	生命理工学実験Ⅰ	選択				○	2	2	2	2				30600
			生命理工学実験Ⅱ	選択				○	2	2			2	2		30600
		地学	生態地球科学	選択		○			2	3	1	1				30700
			地学実験	選択				○	2	3	1	1	1	1	集中講義 通年科目	30800
	B1 生命科学コース専門科目	生物	免疫学	選択	B1	○			2	2	1	1				30500
			生体組織学	選択	B1	○			2	2			1	1		30500
			細胞生物学	選択	B1	○			2	3			1	1		
		生命	生物情報科学	選択	B1	○			2	3	1	1				
			遺伝子工学	選択	B1	○			2	3	1	1				30500
			生体材料学	選択	B1	○			2	3	1	1				
			薬理学	選択	B1	○			2	3			1	1		30500
			再生医化学	選択	B1	○			2	3			1	1		30300
		化学	有機合成化学	選択	B1	○			2	3	1	1				
			生体高分子科学Ⅱ	選択	B1	○			2	3			1	1		
		実験	生命科学実験Ⅰ	選択	B1			○	2	3	2	2				30600
			生命科学実験Ⅱ	選択	B1			○	2	3			2	2		30600

※ コースコードは、B1:生命科学コース・B2:生物環境コース。　※ 教職コードは、「教職課程」参照。

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	B2 生物環境コース専門科目	生物	植物生理学	選択	B2	○			2	2			1	1		30500
			細胞工学	選択	B2	○			2	3	1	1				30500
			応用微生物学	選択	B2	○			2	3			1	1		30500
		環境	水圏の環境	選択	B2	○			2	2			1	1		
			気圏・地圏の環境	選択	B2	○			2	2			1	1		
			生物圏の環境	選択	B2	○			2	3			1	1		
		化学	食品工学	選択	B2	○			2	3	1	1				
			食品加工学	選択	B2	○			2	3	1	1				
			環境計測	選択	B2	○			2	3	1	1				
			生物反応学	選択	B2	○			2	3			1	1		30500
		実験	生物環境実験Ⅰ	選択	B2			○	2	3	2	2				30600
			生物環境実験Ⅱ	選択	B2			○	2	3			2	2		30600
	コース専門科目	職業	情報と職業入門	選択		○			1	全	1					60600
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600
			生命理工インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			生命理工インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			生命理工インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			生命理工インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			生命理工インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			生命理工インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
		卒研	生命理工特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	３年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			生命理工卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			生命理工卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		

※　単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

※ コースコードは、B1:生命科学コース・B2:生物環境コース。　※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

情報システムデザイン学系

(Division of Information System Design)

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的観点から幅広い分野の教育研究を行います。これにより、複雑化・高度化する社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部の情報システムデザイン学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

(1) 専門科目の学びを通じて、情報に関する専門的な知識・技術を身につけ、かつ情報社会における諸問題を発見し解決する能力を身につけること。

(2) 実験及び卒業研究科目を通じて、情報システムを効果的に利用し、自ら調査・分析した内容を、情報メディアを駆使して理論的にわかりやすく報告できること。

(3) 学系共通であるキャリア科目の学びを通じて、社会の仕組みと、その中で情報技術が果たしている役割を理解し、責任と自覚を持って情報社会の発展に貢献できる能力及び広い視野を身につけること。

(4) グループワークに関する科目を通じて、各自が高いコミュニケーション力を持ち、問題解決に向けてグループで行動できる能力を身につけること。

(5) 主コース以外の専門分野の学びを通じて、学際領域に関する視野を身につけること。

※標準修業年限は 4 年。

＜コンピュータソフトウェアコース＞

情報システムデザイン学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

(1) ソフトウェアとハードウェアに関する専門科目・周辺科目の履修を通じて、ソフトウェア開発に必要な基礎的な知識・技術を身につけること。

(2) 卒業研究を通じて、研究や発表などの基礎を学んでいること。

＜ネットワークシステムコース＞

情報システムデザイン学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

(1) ネットワークの構造と構成要素に関する知見を踏まえて、ネットワークの設計や運用、さらに利活用にかかわる諸問題を解決する能力を身につけること。

(2) ネットワーク技術と、その応用分野全般に関する報告ができること。

(3) 現在のネットワーク技術の広がりと、将来の技術革新を展望する視野を身につけること。

＜アミューズメントデザインコース＞

情報システムデザイン学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

(1) 幅広い教養と豊かな人間性を持ち、「遊び」や「人を楽しませる」ことにかかわるテクノロジー、芸術、文化について学ぶこと。

(2) 映像、出版、ゲーム、CG、音楽等、コンテンツの企画、製作の実践を通じて、感動力、発想力を身につけること。

(3) 情報を編集・デザインして表現できる情報技術の専門家として、誰もが使いやすく、気持ちよく使えるヒューマンインタフェースを企画・設計・評価できる能力を身につけること。

＜社会コミュニケーションコース＞

情報システムデザイン学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力をつけた者に対し、学士（情報学）の学位を授与します。

(1) 感性学、社会学、心理学、メディア文化論、芸術論、教育分野などのカリキュラムを履修することで、社会的な側面からの研究視座を培うこと。

(2) インターネットを活用するほか、さまざまな実験、フィールド調査、アンケート調査を実施することで、課題設定と問題を解決する能力を、個人及びグループ単位で確実に身につけること。

(3) 文章表現及びプレゼンテーションのノウハウとルールを学ぶことで、研究成果を口頭や文書で表現する能力を培うこと。

(4) 情報技術及びその成果に対して合理的な信頼があることを前提としつつ、その成果を享受する人々の多様な思考や感情を理解し、また事故に対処するためにも、技術者が立脚す

べき倫理を確立すること。

＜コンピュータサイエンスコース＞

情報システムデザイン学系における学位授与の方針を満たした上で、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

(1) コンピュータ科学の基礎的・専門的知識を身につけ、創造的・論理的な思考力を持ち、問題発見・解決するための高度な能力を身につけること。

(2) 既知の問題のみならず、自ら問題を発見し、コンピュータの専門知識を駆使して、問題を解決できること。

(3) 研究成果を、適切な表現を用い、正確かつ分かりやすく、他者に報告できること。

(4) 幅広い教養と豊かな人間性を持ち、グローバルな視野を身につけること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部の情報システムデザイン学系は、5 つの専門コースを設け、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 専門知識や技術の理解に必要不可欠な数学、自然科学、工学、情報の素養を身につけることを目的とした基盤科目を、入学初年度に集中的に配置します。

(2) 学系全体における基幹科目や課題・問題解決能力の育成を目的としたゼミ、実習又は実験科目を、学年進行に従い系統的に配置します。

(3) 学際的な知識や応用事例を学ぶことを目的とした周辺科目を、学年進行に従い系統的に配置します。

(4) 学際領域への関心を高めることを目的に、主コース以外の分野における専門科目を、選択科目として配置します。

(5) 人間性と国際性を高めることを目的に、人間形成科目及び英語科目を 4 年間にわたって学べるよう配置します。

以下は、各コースが特に配慮する方針です。

＜コンピュータソフトウェアコース＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、コンピュータソフト

ウェアコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①コンピュータソフトウェアの設計・開発に関する総合的な実習を通じて、あらゆる分野においてのソフトウェア開発に必要な技術を修得するための科目を配置します。

②ネットワークシステムコース、コンピュータサイエンスコースの科目を選択科目として配置し、ネットワークと連携するソフトウェアやハードウェアにかかわる豊富な科目数を確保します。また、利活用に関する幅広い周辺科目を配置します。

③現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

＜ネットワークシステムコース＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、ネットワークシステムコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①ネットワークの構造と構成要素に関する技術を理解するための主要基幹科目と、それらを組み合わせてネットワークの設計・運用に活かす科目を、体系的に配置します。

②コンピュータソフトウェアコース、コンピュータサイエンスコースの科目を選択科目として配置し、ネットワークと連携するソフトウェアやハードウェアにかかわる豊富な科目数を確保します。また、ネットワークの利活用に関する幅広い周辺科目を配置します。

③現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

＜アミューズメントデザインコース＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、アミューズメントデザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①実習を含むアート＆デザイン、情報社会、情報メディア科目を、1年次から体系的に配置します。

②幅広い視野に基づき、情報を編集しデザインして表現できる情報技術を身につけることを目標に、文理複合型の編成とします。

＜社会コミュニケーションコース＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、社会コミュニケーションコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①国際社会とＩＴに対応したコミュニケーション能力を身につけるための科目と基盤科目を、体系的に配置します。

②コミュニケーション科学、メディア文化論、性格心理学、環境健康論などの主コースで学ぶ分野以外に、他の分野の専門科目を選択科目として配置します。

③技術と社会のかかわり及び相互作用について、非工学的要因や社会的プロセスを意識できるよう、文科系・理科系の統合的なコミュニケーション能力を育成します。

＜コンピュータサイエンスコース＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、コンピュータサイエンスコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①ソフトウェア技術の枠を超えて、コンピュータ科学の理論と基礎から応用技術まで学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

②本学の伝統である「実学尊重」の精神に基づいて、実践的エンジニアとしての素養を養うために、実験・演習科目を多く配置します。

カリキュラムマップ[情報システムデザイン学系−コンピュータソフトウェアコース]

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	ソフトウェア基礎		コンピュータプログラミングⅠ・同演習（2） 3	コンピュータプログラミングII・同演習（2） 3	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ（2） 2	アルゴリズムとデータ構造II（2） 2			
	ソフトウェア応用				オブジェクト指向プログラミング（2） 2 2Dゲームプログラミング I（2） 2 3Dゲームプログラミング I（2） 2	人工知能プログラミング（2） 2 論理プログラミング（2） 2 2Dゲームプログラミング II（2） 2 3Dゲームプログラミング II（2） 2 ネットワークプログラミング（2） 2			
	ハードウェア	コンピュータ基礎I（2） 2	コンピュータ基礎II（2） 2						
	実習		情報学基礎実習（2） 2	情報システム実験I（2） 1	情報システム実験II（2） 1				
周辺科目	情報数理		情報数学（3） 2 基礎確率論（3） 2	数値解析学（3） 2 形式言語とオートマトン（3） 2 統計学Ⅰ（3） 2	情報・符号理論（3） 2	数理とデザイン（3） 2	数理最適化入門（3） 2		
	ソフトウェア応用			コンピュータグラフィックス（3） 2	CGプログラミング（3） 2	画像工学（3） 2	ソフトウェア工学（3） 2 空間情報処理（3） 2		
	ハードウェア			電気基礎（3） 2	論理回路（3） 2	コンピュータ設計学（3） 2			
	情報システム				情報ネットワーク概論（3） 2	データベース（3） 2 オペレーティングシステム（3） 2	コンパイラ（3） 2		
課題探求						コンピュータソフトウェア実習（2） 1	情報学ゼミ（2） 2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ（2） 3	情報システムデザイン卒業研究ⅠⅠ（2） 3
基盤科目	数学	基礎微積分学A（1） 2 基礎線形代数学A（1） 2	基礎微積分学B（1） 2 基礎線形代数学B（1） 2						
	情報	情報処理B（1） 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか(4)							
国際性	英語	英語ⅠA（5） 1 英語ⅡA（5） 1	英語ⅠB（5） 1 英語ⅡB（5） 1	英語ⅢA（5） 1 英語ⅣA（5） 1	英語ⅢB（5） 1 英語ⅣB（5） 1	英語ⅤA（5） 1	英語ⅤB（5） 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか(5)							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA（2） 1 フレッシュマンゼミB（2） 1 情報と職業入門（3） 2 情報システムデザイン概論（4） 2 日本語表現力（2） 2	情報と職業（3） 2	情報システムデザインインターンシップA（2） 2 基本情報処理技術（2） 2	キャリア開発論（2） 1 情報システムデザインインターンシップB（2） 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ａ（2） 2 情報システムデザインインターンシップC（2） 2 情報産業論（3） 2 地域貢献論（3） 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ（2） 2 情報システムデザインインターンシップD（2） 2	情報システムデザインインターンシップE（2） 2	情報システムデザインインターンシップF（2） 2

2016（平成28）年度カリキュラム　※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	ハードウェア	コンピュータ基礎Ⅰ(2)①③ 2	コンピュータ基礎Ⅱ(2)①③ 2	電気基礎(2)① 2	論理回路(2)① 2				
	ソフトウェア		コンピュータプログラミングⅠ・同演習(2)① 3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習(2)① 3	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2)① 2				
	通信数理		基礎確率論(2)① 2 情報数学(2)① 2	統計学Ⅰ(2)① 2 動的システム(2)① 2	統計学Ⅱ(2)① 2 情報・符号理論(2)①③ 2				
	ネットワーク				情報ネットワーク概論(2)①③ 2	ワイヤレスネットワーク(2)①③ 2			
	サービス設計					データベース1(2)① 2			
	実習・実験		情報学基礎実習(2)①③ 2	情報システム実験Ⅰ(2)①③ 1	情報システム実験Ⅱ(2)①③ 1	ネットワークプログラミング(2)①③ 2			
周辺科目	通信数理応用				フーリエ解析(3)① 2	計算量と暗号(3)①② 2 画像工学(3)①② 2			
	ネットワーク応用				情報伝送工学(3)① 2				
	ハードウェア応用				組み込みシステム(3)①② 2	コンピュータ設計学(3) 2			
	サービス設計応用					多変量解析(3)① 2	数理最適化入門(3)①② 2 確率ネットワーク(3)① 2		
	ソフトウェア応用				オブジェクト指向プログラミング(3)①② 2	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(3)①② 2	ソフトウェア工学(3)①② 2		
課題探求	ネットワーク課題					ネットワークシステム実習(2)①③ 1	情報学ゼミ(2)① 2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ(2)① 3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ(2)① 3
基盤科目	ソフトウェア基礎	情報処理B（1） 2							
	通信数理基礎	基礎微積分学A（1） 2 基礎線形代数学A（1） 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか（4）							
国際性	英語	英語ⅠA（5） 1 英語ⅡA（5） 1	英語ⅠB（5） 1 英語ⅡB（5） 1	英語ⅢA（5） 1 英語ⅣA（5） 1	英語ⅢB（5） 1 英語ⅣB（5） 1	英語ⅤA（5） 1	英語ⅤB（5） 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか（5）							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA（2） 1 フレッシュマンゼミB（2） 1		情報システムデザインインターンシップA（2） 2	キャリアワークショップ（2） 2 情報システムデザインインターンシップB（2） 2	TDUプロジェクト科目A（2） 2 情報システムデザインインターンシップC（2） 2	TDUプロジェクト科目B（2） 2 情報システムデザインインターンシップD（2） 2	情報システムデザインインターンシップE（2） 2	情報システムデザインインターンシップF（2） 2

カリキュラムマップ［情報システムデザイン学系−アミューズメントデザインコース］

2016（平成28）年度カリキュラム　※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	アート&デザイン	造形デザイン入門(2)① 2	デザイン学(2)① 2	音楽文化論(2)① 2 空間演出デザイン論(2)① 2 美術・芸術学(2)① 2	音楽構造論(2)① 2 色彩論(2)① 2	映像制作論(2)① 2 ②	空間音響デザイン論(2)① 2 イメージ創造学(2)① 2 感性とデザイン(2)① 2		
	情報社会	情報社会学入門(2)① 2		現代マスコミ論(2)② 2	感性工学(2)① 2	遊戯文化論(2)① 2 メディア×カルチャー(2)① 2 システム設計論(3) 2			
	情報メディア			コンピュータグラフィックス(2)① 2	情報ネットワーク概論(2)① 2 CGプログラミング(2)① 2 2Dゲームプログラミング I (2)① 2 3Dゲームプログラミング I (2)① 2 出版メディア論(2)② 2	インタラクティブデザイン論(2)① 2 2Dゲームプログラミング II (2)① 2 3Dゲームプログラミング II (2)① 2 数理とデザイン(2)② 2	アミューズメント産業論(2)② 2		
周辺科目	コミュニケーション・心理			コミュニケーション科学(3) 2 社会心理学(3) 2	言語と表現(3) 2				
	情報科学		情報数学(3) 2	数値解析学(3) 2 形式言語とオートマトン(3) 2	アルゴリズムとデータ構造 I (3) 2	アルゴリズムとデータ構造 II (3) 2			
	情報システム	コンピュータ基礎 I (3) 2	コンピュータ基礎 II (3) 2			オペレーティングシステム(3) 2 コンピュータ設計学(3) 2 データベース(3) 2	アミューズメントデバイス論(2)① 2 ソフトウェア工学(3) 2		
	社会調査		基礎確率論(3) 2	統計学 I (3) 2	統計学 II (3) 2 社会調査論 A (3) 2	多変量解析(3) 2	社会調査論 B (3) 2	社会調査実習 I 1 (3)	社会調査実習 II 1 (3)
課題探求	実習系		情報学基礎実習(2) 2 コンピュータプログラミング I ・同演習(2) 3	情報社会学実習 I (2) 1 コンピュータプログラミング II ・同演習(2) 3	情報社会学実習 II (2) 1	アミューズメントデザイン実習(2) 1 人間計測法 (2) 2	情報学ゼミ(2) 2	情報システムデザイン卒業研究 I (2) 3	情報システムデザイン卒業研究 II (2) 3
基盤科目	人文系	日本語リテラシー(1)(2) 1 技術者倫理(4) 2							
	数学系	数学基礎(1) 1 基礎微分積分学 A (1) 2 基礎線形代数学 A (1) 2	基礎微分積分学 B (1) 2 基礎線形代数学 B (1) 2						
	情報系	情報処理A(1) 2 情報処理B(1) 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目(4)/ほか							
国際性	英語	英語 I A(5) 1 英語 II A(5) 1	英語 I B(5) 1 英語 II B(5) 1	英語 III A(5) 1 英語 IV A(5) 1	英語 III B(5) 1 英語 IV B(5) 1	英語 V A(5) 1	英語 V B(5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目(5)/ほか							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミ A・B (2) 1 情報と職業入門(3) 1 日本語表現力(2) 2 情報システムデザイン概論(4) 2	情報と職業(3) 2	情報システムデザインインターンシップA(2) 2 基本情報処理技術(2) 2	キャリアワークショップ(2) 2 情報システムデザインインターンシップB(2) 2 キャリア開発論(3) 1	TDUプロジェクト科目 A (2) 2 情報システムデザインインターンシップC(2) 2 地域貢献論(3) 2 情報産業論(3) 2	TDUプロジェクト科目 B (2) 2 情報システムデザインインターンシップD(2) 2	情報システムデザインインターンシップE(2) 2	情報システムデザインインターンシップF(2) 2

カリキュラムマップ[情報システムデザイン学系-社会コミュニケーションコース]

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	コミュニケーション	日本語表現力(2) 2 心理学A(2) 2	心理学B(2) 2	環境健康論A(2) 2 コミュニケーション科学(2) 2	環境健康論B(2) 2 性格心理学(2) 2	システム設計論(2) 2	非言語コミュニケーション論(2) 2 感性とデザイン(2) 2		
	情報社会	情報社会学入門(2) 2		社会心理学(2) 2		多変量解析(2) 2	アミューズメント産業論(2) 2		
	文化情報			空間演出デザイン論(2) 2	出版メディア論(2) 2	文化表象論(2) 2 メディア×カルチャー(2) 2			
実習科目		造形デザイン入門(2) 2 コンピュータ基礎Ⅰ(2) 2	コンピュータプログラミングⅠ・同演習(2) 3 情報学基礎実習(2) 2	情報社会学実習Ⅰ(2) 1	情報社会学実習Ⅱ(2) 1 社会調査論A(2) 2	データベース(2) 2 人間計測法(2) 2 社会コミュニケーション実習(2) 1	社会調査論B(2) 2 情報学ゼミ(2) 2	社会調査実習Ⅰ(2) 1 情報システムデザイン卒業研究Ⅰ(2) 3	社会調査実習Ⅱ(2) 1 情報システムデザイン卒業研究Ⅱ(2) 3
基盤科目		情報処理A(1) 2	デザイン学(2) 2 情報処理B(1) 2	統計学Ⅰ(2) 2	統計学Ⅱ(2) 2	遊戯文化論(2) 2	教育システムデザイン論(2) 2		
周辺科目				現代マスコミ論(3) 2	色彩論(3) 2	コンピュータ設計学(3) 2 映像制作論(3) 2 数理とデザイン(3)			
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか（4）							
国際性	英語	英語ⅠA（5） 1 英語ⅡA（5） 1	英語ⅠB（5） 1 英語ⅡB（5） 1	英語ⅢA（5） 1 英語ⅣA（5） 1	英語ⅢB（5） 1 英語ⅣB（5） 1	英語ⅤA（5） 1	英語ⅤB（5） 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか（5）							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA（2） 1 フレッシュマンゼミB（2） 1 情報と職業入門(3) 1 情報システムデザイン概論(4) 2	情報と職業(3) 2	情報システムデザインインターンシップA（2） 2 基本情報処理技術(2) 2	キャリアワークショップ（2） 2 情報システムデザインインターンシップB（2） 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ａ（2） 2 情報システムデザインインターンシップC（2） 2 情報産業論(3) 2 地域貢献論(3) 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ（2） 2 情報システムデザインインターンシップD（2） 2	情報システムデザインインターンシップE（2） 2	情報システムデザインインターンシップF（2） 2

カリキュラムマップ[情報システムデザイン学系-コンピュータサイエンスコース]

2016（平成28）年度カリキュラム　※科目名のあとの（ ）付数字は学系の、○付数字はコースの「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	プログラミング		コンピュータプログラミングⅠ・同演習（2）② 3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習（2）② 3		コンピュータサイエンス演習Ⅰ(2)② 2 コンピュータサイエンス演習Ⅱ(2)② 2			
	情報科学				アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2) 2 情報・符号理論(2) 2	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(2) 2	数理最適化入門(2)① 2 知識と推論(2)① 2		
	情報システム	コンピュータ基礎Ⅰ(2)① 2	コンピュータ基礎Ⅱ(2) 2		組み込みシステム(2)② 2 論理回路(2) 2	データベース(2) 2	ソフトウエア工学(2)① 2		
	総合情報		情報学基礎実習(2)② 2	情報システム実験Ⅰ(2)② 1	情報システム実験Ⅱ(2)② 1		コンピュータサイエンス実験(2)② 1		
周辺科目	情報科学		情報数学(3) 2 基礎確率論(3) 2	数値解析学(3) 2 統計学Ⅰ(3) 2 形式言語とオートマトン(3) 2		計算量と暗号(3)① 2	コンパイラ(3) 2		
	情報メディア				情報ネットワーク概論(3) 2				
	プログラミング				2Dゲームプログラミング I (3) 2 3Dゲームプログラミング I (3) 2 オブジェクト指向プログラミング(3)③ 2	2Dゲームプログラミング II (3) 2 3Dゲームプログラミング II (3) 2 論理プログラミング(3)② 2 人工知能プログラミング(3)③ 2			
	情報システム			電気基礎(3)① 2 動的システム(3)③ 2	フーリエ解析(3) 2	オペレーティングシステム(3) 2 コンピュータ設計学(3) 2			
課題探求						コンピュータサイエンス演習Ⅰ(2)② 2	情報学ゼミ(2) 2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ(2) 3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ(2) 3
基盤科目	数学系	基礎微積分学A(1) 2 基礎線形代数学A(1) 2	基礎微積分学B(1) 2 基礎線形代数学B(1) 2						
	情報系	情報処理B（1） 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか（4）							
国際性	英語	英語ⅠA（5） 1 英語ⅡA（5） 1	英語ⅠB（5） 1 英語ⅡB（5） 1	英語ⅢA（5） 1 英語ⅣA（5） 1	英語ⅢB（5） 1 英語ⅣB（5） 1	英語ⅤA（5） 1	英語ⅤB（5） 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか（5）							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA（2） 1 フレッシュマンゼミB（2） 1		情報システムデザインインターンシップA（2） 2	キャリアワークショップ（2） 情報システムデザインインターンシップB（2） 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ａ（2） 2 情報システムデザインインターンシップC（2） 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ（2） 2 情報システムデザインインターンシップD（2） 2	情報システムデザインインターンシップE（2） 2	情報システムデザインインターンシップF（2） 2

情報システムデザイン学系履修モデル

学系の学習・教育目標

朝起きてから寝るまで、そして寝ている間さえ、私たちの暮らしを支える情報技術は休むことなく動き続けています。しかし情報技術は便利で快適な反面、新たな格差や社会問題、犯罪を引き起こす要因ともなってきました。科学技術だけでは、人間や社会に関する知識だけでは、解決できない複雑な問題を抱えた社会、それが私たちの暮らしている情報社会なのです。

そこで東京電機大学では創立100周年となる2007年に、情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の4学科から情報に関わる領域を選択・融合し、「情報学」を多面的、総合的に学べる文理複合系教育組織として「コンピュータソフトウェアコース」「ネットワークシステムコース」「アミューズメントデザインコース」「社会コミュニケーションコース」の4つのコースから成る「情報システムデザイン学系」を発足させました。さらに2009年からは「コンピュータサイエンスコース」も加わり教育研究の幅がより広がりました。

「情報学」とは、情報に関する広範な研究領域を総合的に扱う学問です。情報学は対象とする領域が広く、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造などさまざまな異なった分野から構成されています。本学系では主・副コース選択制カリキュラムとマルチメディア教育環境を有効に活用し、君たちが本当に学びたいことを見つけ出し、それに必要な専門知識と実践力を身に付け情報学の専門家として活躍できるようになることを目標に、理学系、工学系、情報系、人文社会系、芸術系の専門家を擁するバラエティ豊かな教授陣が一致協力し教育を進めていきます。

学系のカリキュラムの概要

本学系では、学系共通カリキュラムとして、「情報数学」「コミュニケーション」「情報技術」「表現学」「プログラミング」の基礎について講義、ゼミ、実習など、さまざまな授業形態で立体的、総合的に学んでいきます。これらの5項目は、情報学を学ぶ学生においてはどれも重要なもので、すべてのコースの学生が共通に学ぶべき事項となっています。例えば人文社会系の色彩が強い社会コミュニケーションコースにおいては、統計的データを定量的に扱う必要から情報数学の知識は必要となりますし、プログラミングに対する知識がなければ、社

会で役立つソフトウェアの仕組みを想像することすらできないでしょう。理工系的色彩の強い、コンピュータサイエンスコース、コンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコースにおいては、表現力、コミュニケーション力がなければ、使いやすく大規模なソフトウェアやネットワークシステムの開発はおぼつかないですし、社会で役立つソフトウェアを設計する場合には社会に対する知識は必ず役に立つはずです。

客観的には、2年生修了時に「基本情報技術者」試験に合格できる程度の知識を身に付けることを目標に勉強していくと良いでしょう。

各コースの概要

●コンピュータソフトウェアコース（D 1）

プログラミング、グラフィックス、人工知能の各分野から専門技術を修得し、コンピュータソフトウェアの設計・開発に関する総合的な実習を通じて、コンピュータソフトウェアの高度化・知能化に挑戦します。本コースでは、ビジネスからアミューズメント産業まで、あらゆる分野に現れるソフトウェアの開発に必要な技術を習得することができます。1年次から3年次までに、C言語やＪＡＶＡ、ゲームプログラミング、人工知能プログラミング、コンピュータグラフィックスなど、プログラミングに関する幅広い講義、演習が用意されており、プログラミングの様々な技法を実践的に学ぶことができます。

●ネットワークシステムコース（D 2）

情報ネットワークを構成する機器やその動作原理、様々な通信方式や情報サービスなど、情報ネットワークを構築・利用するために必要な知識を垂直的・網羅的に学ぶことを目標としています。これらの学修を通じて、次世代の情報ネットワーク基盤を支え発展させることの出来る高度な技術者の育成を目指します。さらに、他のコースと合わせて学修することにより、情報ネットワークを様々な分野に適用することの出来る、広い見識を得ることもできます。

●アミューズメントデザインコース（D 3）

新しい情報社会の潮流のなかで、「遊び」や「人を楽しませること」に関わるテクノロジー、芸術、文化について学び、感動力・発想力をあわせ持つ表現創造型情報技術者の養成を目指します。現在から未来、さらにその先に向けた情報デザインには、「どうやって」作るのかという技術習得を超え「何を、何のために」作るのかという、作るモノの存在と、その価値観をも、ゼロから創り出す提案力が求められます。美術、映像、ＣＧ、電子出版、音楽制作等の分野を、それぞれ「技術」「文化」「表現」「コミュニケーション」等の視点から多角的

に捉えることを重視、人間の感性と情報技術の高度なコミュニケーションメディアであるアミューズメントを総合的に科学することで、番組制作者やＣＧ・ウェブデザイナー、ゲームクリエイター等、コンテンツの中身そのものをトータルデザインし、社会に向けて情報発信することを目標とします。

●社会コミュニケーションコース（Ｄ４）

情報伝達という観点から、コミュニケーションの多様な機能について心理学的、文化論的な理解を深めます。コミュニケーションという語の原義は、「意志、感情、思考の伝達」と理解されています。本コースではさらに、社会とコミュニケーションを扱うにあたり、コミュニケーションの原義である「共有」をキーワードにその本質・現代的意義に迫っていきます。また、私たちが生活する場はすべて人工物に囲まれています。裸の自然など私たちの身の周りには存在しません。私たちは自然をなんらかの方法によって心地よい方向に加工してきたのです。すなわち、現代社会を特徴づけるものは自然科学や技術のめざましい発展に支えられたメタ・ライフスタイルなのです。本コースでは、IT（情報技術）を基盤とする社会を前提とし、人間の内面（心）、外面（身体）を含めた社会環境、ライフスタイルに関する諸問題、文化交流、コミュニケーション一般に関する問題の発見・解決のため、文理複合的な観点から教育研究を行います。

●コンピュータサイエンスコース（Ｄ５）

コンピュータはパソコンやインターネットに使われるだけでなく、あらゆる機械や社会システムに組み込まれ、現代のさまざまな文化の基盤となっています。コンピュータサイエンスコースでは、このような観点からコンピュータを理論と実際の両面から極めることを目標に、ソフトウエア技術の枠を超えて情報科学の理論と基礎から応用技術までを学びます。理論と技術を体得できるようにコンピュータサイエンスコースは本学の伝統である実学精神にもとづいた実験・演習に重点を置いています。このような教育を通してソフトウエア開発、システム開発、システム・エンジニアなどの広い情報通信分野で国際的に活躍できる技術者・研究開発者を育成します。

一年次の履修計画の立て方・学習の進め方

１年生から２年生に進級するのに必要な単位数は 30 ですが卒業に必要な単位数は 124 となっていますので、最低でも 40 単位、できれば、45 単位を目標に履修してください。

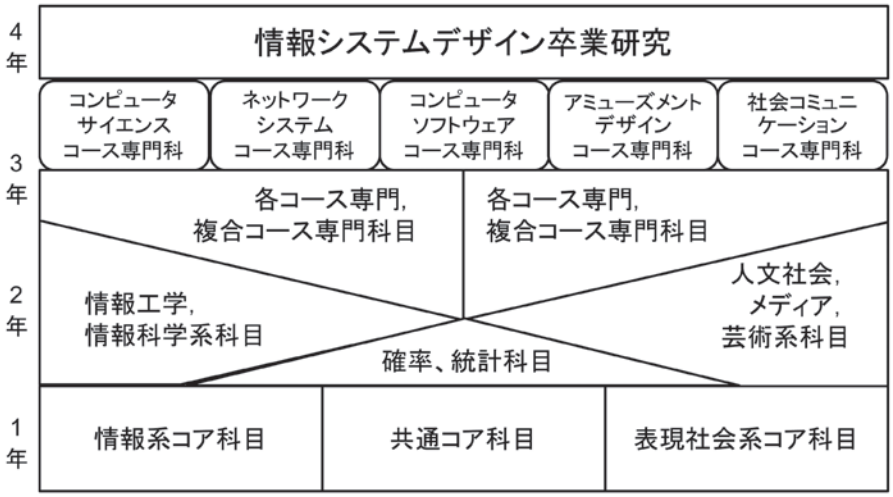
「情報学」で取り扱う学問領域には、理学、工学はもちろん、人文科学や社会科学、芸術なども含まれます。従って学系の専門科目はもちろんですが、共通教育科目もできる限り履

習する必要があります。英語や自然科学（数学、物理、化学）の基礎科目、人間形成科目についてはできるだけ１年次に履習するようにしましょう。

１年終了時には、主コース、副コースの選択を行います。１年次に履習できる学系専門科目はまだ少ししかありませんが、自分が第一希望とするコースに関係する科目はもちろん、他コースに関連のある科目についても積極的に履習し、情報学の全体像を捉えるとともに、基礎学力を充実させることを目指してください。

情報システムデザイン学系で学ぶカリキュラムの構成

情報システムデザイン学系では、情報学に関する広範な領域を体系的に学んでいけるように、各コースにつながる基礎的分野を、「情報系コア科目」「表現社会系コア科目」「共通コア科目」に分け学習していきます。さらに学年進行とともに複合コース専門科目、コース専門科目を学び、各自の専門性を高めていけるようなカリキュラム構成となっています。



情報システムデザイン学系のカリキュラム構成概念図

コア科目

情報系コア科目、表現社会系コア科目、共通コア科目で構成されています。主として、１、2年次に配当される科目です。共通コア科目には、情報社会学入門、情報数学、デザイン学、コンピュータ基礎Ⅰ・Ⅱ、基礎確率論、コンピュータプログラミングⅠ・同演習などが含まれます。共通コア科目の総合的な演習を行う科目が情報学基礎実習です。これらは希望するコースに関係なく全員が身につけなければならない基礎的な内容を含む科目となっています。

情報系コア科目は、主としてコンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコース、コンピュータサイエンスコースの学生はすべて履修してもらい、アミューズメントデザ

インコース、社会コミュニケーションコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。情報系コア科目には、電気基礎、論理回路、情報ネットワーク概論、アルゴリズムとデータ構造、情報符号理論、コンピュータプログラミングⅡ・同演習などが含まれます。情報系コア科目の総合的な演習を行う科目が情報システム実験Ⅰ・Ⅱです。

表現・社会系コア科目は、主としてアミューズメントデザインコース、社会コミュニケーションコースの学生すべてに履修してもらい、コンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコース、コンピュータサイエンスコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。表現・社会系コア科目には、造形デザイン入門、言語と表現、美術・芸術学、現代マスコミ論、色彩論、社会心理学などが含まれます。表現・社会系コア科目の総合的な演習を行う科目が情報社会学実習Ⅰ・Ⅱです。

2、3年次からは、複数のコースが共同で設置している複合コース専門科目、各自が主コース、副コースとして選んだコースのコース専門科目を学びます。コース専門科目の総合的な演習を行う科目として各コースの名称がついた実習（または実験）科目があります。

キャリア科目

キャリア科目は、共通教育や専門分野とは別に将来社会人として活躍していくために必要な知識や心構えを身につけることを目的とする科目です。進級条件としては、情報システムデザイン概論と日本語表現力だけが指定されていますが、他のキャリア科目についてもできるだけ履修し、自分を高める努力を積み重ねてください。

（2～4年次生向け）主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、以下の6つの分野に取り組みます。

【数理】グラフィックス処理、プログラミング、人工知能のための数理を学ぶ。

【人工知能】人間と同じ感覚でつきあえるような究極のソフトウェアづくりを目指す。

【プログラミング】Ｃ言語、Ｃ＋＋言語、Ｊａｖａ言語を習得し、ネットワークプログラミングとゲームプログラミングに取り組む。

【CG・音響】グラフィックスとサウンドのコンピュータ処理技術を実践的に学ぶ。

【ソフトウェア開発】ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、情報と経営の各方面を幅広く学び、視野の広いＩＴエンジニアを目指す。

【総合】人工知能、ＣＧ、ゲーム、画像処理、図形処理を題材に、大規模なソフトウェアの開発を行う。

これらの分野を総合的に学習することにより、ソフトウェア開発者としての実践的な技術と幅広い教養を身に付けることができます。
本コースでは、履修モデル図に履修を推奨する科目を分野名もつけて提示しますので、履修科目選択の際の目安としてください。また、副コースを選択することにより、自分にとって大切な分野をより重点的に学習することができます。

●ネットワークシステムコース

1年次から2年次にかけては、学部共通科目と学系共通科目を中心に学ぶことになります。ここでしっかりと基礎的な知識を身につけることが、コース専門科目を学ぶ上で重要になります。特にネットワークシステムコースの専門科目を学ぶ際には、学系共通科目の内容だけでなく、微分積分学、線形代数学、電磁気や波動などの物理学といった、学部共通科目で得られる知識も必要とされることが少なくありません。上級年次になって困らないように、こうした科目は1年次のうちにしっかりと理解しておきましょう。

進級条件では、指定した科目群から一定の科目数を履修するよう付帯条件が付けられています。ここで指定した科目は、いずれもネットワークシステムの概要を理解する上で重要なものですから、所定の科目数をクリアするだけではなく、全科目を履修するよう心がけてください。

●アミューズメントデザインコース

私たちの生活を取り巻く多くの「モノ」は例外なく人によって「デザイン」されたものです。人の役に立ち、人を楽しませる「モノ」をデザインするということは、仕組みを支える技術と、その技術を形にするアート感覚とをバランス良く身に付けることで初めて可能となります。1年次から2年次にかけては学部共通科目と学系共通科目を学ぶことで、「モノ」の仕組みの基本的な知識と表現の技法を習得します。2年次以降、コース専門科目では「仕組み」に関する知識と技術に加え、様々な文化的な側面についても学びます。

本コースでは、感性工学、メディア学、芸術表現学、映像情報美学、現代音楽の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講していますので、感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、空間音響デザイン論の中から少なくとも2科目、可能であればすべての科目を履修することで幅広い視野を身に付けることが望まれます。また、工学から表現学に至る幅広い分野に関する実習を通して多眼的、実践的な問題解決力を身に付けることを望みます。

●社会コミュニケーションコース

本コースでは、大別して、以下の研究が行われています。

1. 認知心理学および社会心理学の研究を倫理実証主義に立脚して行っています。認知心理学では記憶、知識、思考、情報処理に関するもの、社会心理学ではコミュニケーション、社会調査、対人関係に関するものを扱います。
2. 「Non-Verbal Communication」、つまりは身体を使ったジェスチャー、視線を用いたコミュニケーションについて研究しています。
3. 教師と学生、医師と患者、技術者とユーザとの間にある隔たりを、メディアという名の橋でつなぐコミュニケーションの研究をしています。具体的には、ＣＧ、動画、音声などのメディアとインターネット技術を利用した、効果的な教育や訓練を行うための、ゲームや教材の研究開発を行っています。
4. 演劇的身体論に関する研究、化粧と身体―表現媒体としての仮面と化粧という括りの研究、そしてアート・デザイン的発想による都市空間に関する研究を行っています。
5. インターネット・マガジンの編集を目的とするゼミを設置しています。そうして情報社会における編集工学のエディターをめざすのです。

なお、社会コミュニケーションコースにおいて研究を進める主要な方向として以下の３つがあります。

1. 認知・社会（社会調査論Ａ・Ｂ、性格心理学、社会心理学）
2. メディア・文化（文化表象論、環境健康論Ａ・Ｂ、メディアＸカルチャー）
3. 言語・コミュニケーション（非言語コミュニケーション論、教育システムデザイン論、人間計測法）

●コンピュータサイエンス（コンピュータサイエンス）コース

コンピュータサイエンスコースでは、まずコンピュータ基礎Ⅰ、Ⅱを履修してコンピュータの原理を学び、コンピュータプログラミングⅠ・同演習を履修してＣ言語を勉強することが重要です。Ｃ言語は Java などの他の言語、またプログラミングやアルゴリズムとデータ構造の基礎にもなっています。さらに数学、物理、英語に関する学部共通科目もコンピュータサイエンスコースの大事な基礎科目です。

２年次のコンピュータプログラミングⅡ・同演習を履修してＣ言語をマスターすることが重要です。学系共通科目のアルゴリズムとデータ構造Ⅰ、Ⅱを履修して高度なＣプログラミングと基本的なアルゴリズムを、また、オブジェクト指向プログラミングを履修して Java のプログラミングについて演習を通して学習することが大事です。さらにコンピュータサイ

エンス演習Ⅱではデータベースとネットワークのプログラミングを学習します。コンピュータサイエンス実験もコンピュータサイエンスコースで情報技術の基礎と実際を体得するための重要な必修科目です。その他いくつかのコース専門科目についてはコースの教員と相談して履修科目を選択します。

（2～4年次生向け）副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、数理、人工知能、プログラミング、CG・音響、ソフトウェア開発、総合の6つの分野に分類して履修を推奨する科目を提示していますので、科目選択の際の目安としてください。本コースを副コースとして選択する場合、どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能です。

●ネットワークシステムコース

情報システムデザイン学系の学生が本コースを副コースとする場合、進級条件に付帯する科目は主コースとして履修する場合と同じになります。これらの科目の中には、数学や物理学の知識を必要とするものも含まれていますので、できるだけ1年次のときに対応する学部共通科目を履修するよう心がけてください。異なる学系の学生が本コースを副コースとする場合は、こうした付帯条件は無く、単位数のみで副コースの進級条件を満足できます。主コースの履修内容と関連性の高い科目を履修し、将来のキャリアアップに生かすよう努めてください。

●アミューズメントデザインコース

本コースは、感性工学、メディア情報学、芸術表現学、映像情報美学、現代音楽、デザイン学の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講しています。どの科目を履修しても進級条件を満たすこと自体は可能となりますが、出来るだけ感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、音響空間デザイン論を含め、各自の主コースとの関連のある科目を中心に履修することを推奨します。

●社会コミュニケーションコース

本コースでは、大別して以下の研究が行われています。

1. 認知心理学および社会心理学。
2. 「Non-Verbal Communication」、つまり身体を使ったジェスチャー、視線を用いたコミュニケーション。
3. 教師と学生、医師と患者、技術者とユーザとの間にある隔たりを、メディアという名の

橋でつなぐコミュニケーション。

4. 演劇的身体論、化粧と身体、アート・デザイン的発想による都市空間。

5. 感性文化論、インターネット・マガジンの編集を主とするエディター育成。

なお、社会コミュニケーションコースにおいて研究を進める主要な方向として以下の5つがあります。1. 認知・社会心理学、2. 空間身体学、3. 言語・コミュニケーション、4. 感性文化学、5. メディアコミュニケーション。

●コンピュータサイエンス（コンピュータサイエンス）コース

コンンピュータサイエンスコースは情報技術者、システム開発のエキスパートの育成を目指しています。このため、1、2年次でコンピュータやC言語などの基礎を学び、その後で、コンピュータサイエンス演習などの科目で基礎から応用を段階的に学習するようになっています。このため、このコースを副コースとして選ぶときには、できるだけ前提となる基礎科目を履修しておく必要があります。

情報システムデザイン学系科目配置図

	コンピュータサイエンスコース専門科目	コンピュータソフトウェアコース専門科目	ネットワークシステムコース専門科目	アミューズメントデザインコース専門科目	社会コミュニケーションコース専門科目	キャリア科目	学部共通
4年	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ・Ⅱ					情報システムデザインインターンシップE・F 情報と職業入門 情報と職業	共通教育科目 人間形成科目 英語科目
	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ		
3年	情報学ゼミ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ コンパイラ 計算量と暗号 ソフトウェア工学 数理最適化入門 知識と推論 論理プログラミング コンピュータサイエンス実験 ２Ｄゲームプログラミング Ⅱ 人工知能プログラミング コンピュータサイエンス演習Ⅰ コンピュータサイエンス演習Ⅱ	情報学ゼミ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ コンパイラ 画像工学 空間情報処理 数理最適化入門 数理とデザイン 論理プログラミング ソフトウェア工学 ２Ｄゲームプログラミング Ⅱ ネットワークプログラミング 人工知能プログラミング コンピュータソフトウエア実習	情報学ゼミ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ 計算量と暗号 多変量解析 確率ネットワーク 数理最適化入門 ワイヤレスネットワーク 画像工学 ソフトウェア工学 ネットワークプログラミング ネットワークシステム実習	情報学ゼミ 感性とデザイン 空間音響デザイン論 遊戯文化論 映像制作論 アミューズメント産業論 人間計測法 数理とデザイン インタラクティブデザイン論 アミューズメントデバイス論 ３Ｄゲームプログラミング Ⅱ 社会調査論Ｂ アミューズメントデザイン実習	情報学ゼミ 感性とデザイン 非言語コミュニケーション論 多変量解析 教育システムデザイン論 人間計測法 メディア×カルチャー 文化表象論 遊戯文化論 社会調査論Ｂ 社会コミュニケーション実習	情報産業論 地域貢献論 情報システムデザインインターンシップC・D 情報と職業入門 情報と職業	
	学系共通						
	オペレーティングシステム	コンピュータ設計学	データベース	経営情報論	イメージ創造学		
2年	フーリエ解析 組み込みシステム ２Ｄゲームプログラミング Ⅰ 情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ オブジェクト指向プログラミング	ＣＧプログラミング ２Ｄゲームプログラミング Ⅰ 情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ オブジェクト指向プログラミング	動的システム フーリエ解析 情報伝送工学 組み込みシステム 情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ オブジェクト指向プログラミング	コンピュータグラフィックス ３Ｄゲームプログラミング Ⅰ 音楽構造論 社会調査論Ａ 感性工学 出版メディア論 情報社会学実習Ⅰ 情報社会学実習Ⅱ	環境健康論Ａ 環境健康論Ｂ 性格心理学 社会調査論Ａ 出版メディア論 情報社会学実習Ⅰ 情報社会学実習Ⅱ	キャリア開発論 基本情報処理技術 情報システムデザインインターンシップA・B 情報と職業入門 情報と職業	
	学系共通						
	数値解析学 情報・符号理論 コミュニケーション科学 アルゴリズムとデータ構造Ⅰ コンピュータプログラミングⅡ・同演習	統計学Ⅰ 統計学Ⅱ	情報ネットワーク概論 電気基礎 論理回路 色彩論	音楽文化論 空間演出デザイン論 美術・芸術学 形式言語とオートマトン 映像情報システム	現代マスコミ論 社会心理学 言語と表現		
1年	学系共通					情報システムデザイン概論	
	情報社会学入門 コンピュータ基礎Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅱ	情報学基礎実習 造形デザイン入門	デザイン学 コンピュータプログラミングⅠ・同演習	基礎確率論	日本語表現力 情報と職業入門 情報と職業	

情報システムデザイン学系　進級条件表

（2016年度カリキュラム）

RD

1年次→2年次
　1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。
2年次→3年次
　進級条件を設けない。
3年次→4年次
　1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	（卒業条件）
人間形成科目			12	（16）
英語科目			6	（ 8）※1
学部共通科目			12	（14）
副コースを情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学系から選んだ場合	学系共通科目		28	（36）
	コース専門科目	主コース	14	（22）※2
		副コース	6	（ 8）
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	（26）
		副コース	10	（14）
	コース専門科目	主コース	14	（22）※2
		副コース	2	（ 4）

※1 必修の8科目（1年次および2年次配当科目）を含む　※2 卒業研究を含む

2．情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学系の各コースを主コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を修得していること。

（※下記に記載のコース専門科目は、主コース科目または副コース科目として単位修得すること）

コンピュータサイエンスコース	コンピュータソフトウェア	ネットワークシステム	アミューズメントデザイン	社会コミュニケーション
情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ 情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ コンピュータサイエンス実験	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ 情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ コンピュータソフトウェア実習	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ 情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ ネットワークシステム実習	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ 情報社会学実習Ⅰ 情報社会学実習Ⅱ アミューズメントデザイン実習	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ 情報社会学実習Ⅰ 情報社会学実習Ⅱ 社会コミュニケーション実習
次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと
情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ
次の6科目のうち3科目以上を修得のこと	次の7科目のうち3科目以上を修得のこと	次の7科目のうち3科目以上を修得のこと	次の9科目のうち4科目以上を修得のこと	次の9科目のうち4科目以上を修得のこと
電気基礎 論理回路 情報ネットワーク概論 データベース アルゴリズムとデータ構造Ⅰ 情報・符号理論	電気基礎 論理回路 情報ネットワーク概論 データベース アルゴリズムとデータ構造Ⅰ 情報・符号理論 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ・同演習	電気基礎 論理回路 情報ネットワーク概論 データベース アルゴリズムとデータ構造Ⅰ 情報・符号理論 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ・同演習	造形デザイン入門 言語と表現 美術・芸術学 現代マスコミ論 空間演出デザイン論 色彩論 社会心理学 コミュニケーション科学 イメージ創造学	造形デザイン入門 言語と表現 美術・芸術学 現代マスコミ論 空間演出デザイン論 色彩論 社会心理学 コミュニケーション科学 イメージ創造学
次の7科目中4科目以上を修得のこと	次の9科目中4科目以上を修得のこと	次の5科目中3科目以上を修得のこと	次の8科目中3科目以上を修得のこと	次の5科目中2科目以上を修得のこと
数理最適化入門 組み込みシステム 知識と推論 アルゴリズムとデータ構造Ⅱ ソフトウェア工学 コンピュータサイエンス演習Ⅰ コンピュータサイエンス演習Ⅱ	数理最適化入門 ソフトウェア工学 アルゴリズムとデータ構造Ⅱ 2Dゲームプログラミング Ⅰ 2Dゲームプログラミング Ⅱ 人工知能プログラミング ネットワークプログラミング オブジェクト指向プログラミング 論理プログラミング	動的システム フーリエ解析 情報伝送工学 ワイヤレスネットワーク ネットワークプログラミング	感性工学 映像制作論 音楽構造論 遊戯文化論 インタラクティブデザイン論 3Dゲームプログラミング Ⅰ 3Dゲームプログラミング Ⅱ コンピュータグラフィックス	メディア×カルチャー 文化表象論 非言語コミュニケーション論 性格心理学 教育システムデザイン論

2016年度 カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表

RD

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	アート＆デザイン	造形デザイン入門	選択			○		2	1	1	1				60500
			デザイン学	選択		○			2	1			1	1		
			音楽文化論	選択		○			2	2	1	1				
			空間演出デザイン論	選択		○			2	2	1	1				
			美術・芸術学	選択		○			2	2	1	1				
			色彩論	選択		○			2	2			1	1		
			イメージ創造学	選択		○			2	3			1	1		
		キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	必修		○			②	1	1	1				60100
			日本語表現力	必修		○			②	1	1	1				
			キャリア開発論	選択		○			1	2	1*		1		前期は再履修または担当教員が特別に認めた者のみ履修可	
			基本情報処理技術	選択		○			2	2	1	1				60200
			情報産業論	選択		○			2	3	1	1				
			地域貢献論	選択		○			2	3	1	1				
		コミュニケーション・心理	コミュニケーション科学	選択		○			2	2	1	1				
			社会心理学	選択		○			2	2	1	1				
			言語と表現	選択		○			2	2			1	1		
		情報科学	情報数学	選択		○			2	1			1	1		20500
			基礎確率論	選択		○			2	1			1	1		20400
			数値解析学	選択		○			2	2	1	1				60200
			統計学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20400
			アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		20500
			情報・符号理論	選択		○			2	2			1	1		20100
			統計学Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		20400
			形式言語とオートマトン	選択		○			2	2	1	1				
		情報システム	コンピュータ基礎Ⅰ	選択		○			2	1	1	1				20500
			コンピュータ基礎Ⅱ	選択		○			2	1			1	1		20500
			電気基礎	選択		○			2	2	1	1				
			論理回路	選択		○			2	2			1	1		
			映像情報システム	選択		○			2	2			1	1		
			オペレーティングシステム	選択		○			2	3	1	1				60300
			コンピュータ設計学	選択		○			2	3	1	1				60200
			データベース	選択		○			2	3	1	1				60300
		情報社会	情報社会学入門	必修		○			②	1	1	1				60100
			現代マスコミ論	選択		○			2	2	1	1				
			システム設計論	選択		○			2	3	1	1				
		情報メディア	情報ネットワーク概論	選択		○			2	2			1	1		60400
		総合情報	情報学基礎実習	必修				○	②	1			2	2		
		プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	必修		○	○		③	1	2*	2*	2	2	前期は再履修者のみ履修可	60200
			コンピュータプログラミングⅡ・同演習	選択		○	○		3	2	2	2				60300

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ ・ D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ ・ D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ ・ D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ ・ D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	D1 コンピュータソフトウェアコース専門科目	情報科学	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	選択	D1・D5/D2		○		2	3	1	1				60300
			コンパイラ	選択	D1・D5	○			2	3			1	1		
			数理最適化入門	選択	D1・D5/D2	○			2	3			1	1		60300
		情報システム	画像工学	選択	D1・D2	○			2	3	1	1				60500
			空間情報処理	選択	D1	○			2	3			1	1		
			ソフトウェア工学	選択	D5/D1・D2	○			2	3			1	1		60300
		情報メディア	コンピュータグラフィックス	選択	D1・D3	○			2	2	1	1				20500
			ＣＧプログラミング	選択	D1/D3	○			2	2			1	1		60500
			数理とデザイン	選択	D1/D3	○			2	3	1	1				20200
		総合情報	情報システム実験Ⅰ	選択	D1・D2・D5			○	1	2	1	1				
			情報システム実験Ⅱ	選択	D1・D2・D5			○	1	2			1	1		
			コンピュータソフトウエア実習	選択	D1			○	1	3	1	1				
		プログラミング	２Ｄゲームプログラミング Ⅰ	選択	D1/D3・D5		○		2	2			1	1		
			２Ｄゲームプログラミング Ⅱ	選択	D1/D3・D5	○			2	3	1	1				
			３Ｄゲームプログラミング Ⅰ	選択	D3/D1・D5		○		2	2			1	1		
			３Ｄゲームプログラミング Ⅱ	選択	D3/D1・D5	○			2	3	1	1				
			論理プログラミング	選択	D5/D1	○			2	3	1	1				60500
			人工知能プログラミング	選択	D1/D5		○		2	3	1	1				
			ネットワークプログラミング	選択	D2/D1		○		2	3	1	1				60400
			オブジェクト指向プログラミング	選択	D1/D2・D5		○		2	2			1	1		60300
	D2 ネットワークシステムコース専門科目	情報科学	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	選択	D1・D5/D2		○		2	3	1	1				60300
			計算量と暗号	選択	D2・D5	○			2	3	1	1				
			多変量解析	選択	D2・D4/D3	○			2	3	1	1				20400
			確率ネットワーク	選択	D2	○			2	3			1	1		20400
			数理最適化入門	選択	D1・D5/D2	○			2	3			1	1		60300
		情報システム	動的システム	選択	D2	○			2	2	1	1				20300
			フーリエ解析	選択	D2/D5	○			2	2			1	1		
			情報伝送工学	選択	D2	○			2	2			1	1		60400
			組み込みシステム	選択	D5/D2	○			2	2			1	1		60500
			画像工学	選択	D1・D2	○			2	3	1	1				60500
			ソフトウェア工学	選択	D5/D1・D2	○			2	3			1	1		60300
		情報メディア	ワイヤレスネットワーク	選択	D2	○			2	3	1	1				60400
		総合情報	情報システム実験Ⅰ	選択	D1・D2・D5			○	1	2	1	1				
			情報システム実験Ⅱ	選択	D1・D2・D5			○	1	2			1	1		
			ネットワークシステム実習	選択	D2			○	1	3	1	1				
		プログラミング	ネットワークプログラミング	選択	D2/D1		○		2	3	1	1				60400
			オブジェクト指向プログラミング	選択	D1/D2・D5		○		2	2			1	1		60300

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ ・ D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ ・ D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ ・ D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ ・ D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

2016年度 カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表

RD

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	D3 アミューズメントデザインコース専門科目	アート＆デザイン	音楽構造論	選択	D3	○			2	2			1	1		
			映像制作論	選択	D3	○			2	3	1	1				
			感性とデザイン	選択	D4/D3	○			2	3			1	1		
			空間音響デザイン論	選択	D3	○			2	3			1	1		
		コミュニケーション・心理	人間計測法	選択	D3・D4	○			2	3	1	1				
		情報科学	多変量解析	選択	D2・D4/D3	○			2	3	1	1				20400
		情報社会	感性工学	選択	D3	○			2	2			1	1		
			社会調査論Ａ	選択	D3・D4	○			2	2			1	1		
			社会調査論Ｂ	選択	D3・D4	○			2	3			1	1		
			遊戯文化論	選択	D3/D4	○			2	3	1	1				
		情報メディア	コンピュータグラフィックス	選択	D1・D3	○			2	2	1	1				20500
			ＣＧプログラミング	選択	D1/D3	○			2	2			1	1		60500
			出版メディア論	選択	D3・D4	○			2	2			1	1		
			アミューズメント産業論	選択	D3	○			2	3			1	1		
			インタラクティブデザイン論	選択	D3	○			2	3	1	1				60500
			数理とデザイン	選択	D1/D3	○			2	3	1	1				20200
			アミューズメントデバイス論	選択	D3	○			2	3			1	1		
		総合情報	情報社会学実習Ⅰ	選択	D3・D4			○	1	2	1	1				
			情報社会学実習Ⅱ	選択	D3・D4			○	1	2			1	1		
			アミューズメントデザイン実習	選択	D3			○	1	3	1	1				
		プログラミング	２ＤゲームプログラミングⅠ	選択	D1/D3・D5		○		2	2			1	1		
			２ＤゲームプログラミングⅡ	選択	D1/D3・D5	○			2	3	1	1				
			３ＤゲームプログラミングⅠ	選択	D3/D1・D5		○		2	2			1	1		
			３ＤゲームプログラミングⅡ	選択	D3/D1・D5	○			2	3	1	1				
	D4 社会コミュニケーションコース専門科目	アート＆デザイン	感性とデザイン	選択	D4/D3	○			2	3			1	1		
		コミュニケーション・心理	環境健康論Ａ	選択	D4	○			2	2	1	1				
			環境健康論Ｂ	選択	D4	○			2	2			1	1		
			性格心理学	選択	D4	○			2	2			1	1		
			非言語コミュニケーション論	選択	D4	○			2	3			1	1		
			人間計測法	選択	D3・D4	○			2	3	1	1				
		情報科学	多変量解析	選択	D2・D4/D3	○			2	3	1	1				20400
		情報社会	社会調査論Ａ	選択	D3・D4	○			2	2			1	1		
			社会調査論Ｂ	選択	D3・D4	○			2	3			1	1		
			メディア×カルチャー	選択	D4	○			2	3	1	1				
			文化表象論	選択	D4	○			2	3	1	1				
			遊戯文化論	選択	D3/D4	○			2	3	1	1				
			教育システムデザイン論	選択	D4	○			2	3			1	1		
		情報メディア	出版メディア論	選択	D3・D4	○			2	2			1	1		
		総合情報	情報社会学実習Ⅰ	選択	D3・D4			○	1	2	1	1				
			情報社会学実習Ⅱ	選択	D3・D4			○	1	2			1	1		
			社会コミュニケーション実習	選択	D4			○	1	3	1	1				

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ ・ D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ ・ D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ ・ D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ ・ D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

2016年度 カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	D5 コンピュータサイエンスコース専門科目	情報科学	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	選択	D1・D5/D2		○		2	3	1	1				60300
			計算量と暗号	選択	D2・D5	○			2	3	1	1				
			コンパイラ	選択	D1・D5	○			2	3			1	1		
			数理最適化入門	選択	D1・D5/D2	○			2	3			1	1		60300
			知識と推論	選択	D5	○			2	3			1	1		60500
		情報システム	フーリエ解析	選択	D2/D5	○			2	2			1	1		
			組み込みシステム	選択	D5/D2	○			2	2			1	1		60500
			ソフトウェア工学	選択	D5/D1・D2	○			2	3			1	1		60300
		総合情報	情報システム実験Ⅰ	選択	D1・D2・D5			○	1	2	1	1				
			情報システム実験Ⅱ	選択	D1・D2・D5			○	1	2			1	1		
			コンピュータサイエンス実験	選択	D5			○	1	3			1	1		60200
			コンピュータサイエンス演習Ⅰ	選択	D5		○		2	3	1	1				60500
			コンピュータサイエンス演習Ⅱ	選択	D5		○		2	3	1	1				60400
		プログラミング	２Ｄゲームプログラミング Ⅰ	選択	D1/D3・D5		○		2	2			1	1		
			２Ｄゲームプログラミング Ⅱ	選択	D1/D3・D5	○			2	3	1	1				
			３Ｄゲームプログラミング Ⅰ	選択	D3/D1・D5		○		2	2			1	1		
			３Ｄゲームプログラミング Ⅱ	選択	D3/D1・D5	○			2	3	1	1				
			論理プログラミング	選択	D5/D1	○			2	3	1	1				60500
			人工知能プログラミング	選択	D1/D5		○		2	3	1	1				
			オブジェクト指向プログラミング	選択	D1/D2・D5		○		2	2			1	1		60300
	コース専門科目	キャリアデザイン	情報システムデザインインターンシップＡ	選択				○	2	2	2	2			随時	
			情報システムデザインインターンシップＢ	選択				○	2	2			2	2	随時	
			情報システムデザインインターンシップＣ	選択				○	2	3	2	2			随時	
			情報システムデザインインターンシップＤ	選択				○	2	3			2	2	随時	
			情報システムデザインインターンシップＥ	選択				○	2	4	2	2			随時	
			情報システムデザインインターンシップＦ	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					60600
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600
		情報社会	社会調査実習Ⅰ	選択				○	1	4	1	1				
			社会調査実習Ⅱ	選択				○	1	4			1	1		
		総合情報	情報学ゼミ	必修			○		②	3			1	1		
			情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
			情報システムデザイン特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上在学での卒業対象者のみ適用	

※　単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

※　コースコードが ″ / ″ で区切られている科目は、コースへの関連の強さ度合を表す。

例：D1・D5/D2　→　D1とD5コースの方がD2コースに比べて関連が強い。

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ ・ D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ ・ D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ ・ D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ ・ D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

電子・機械工学系

(Division of Electronic and Mechanical Engineering)

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

電子・機械工学系では、技術者として豊かな人間性と電子・機械工学の知識と技術を有し、自動車、ロボット、電子機器、医療機器、福祉機器などのものづくりを通して未来の人間社会に貢献できる技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部の電子・機械工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 電気・電子工学、機械工学を中心とする専門知識と技術の基礎を身につけ、さまざまな問題や課題を解決する能力を身につけること。

(2) 設定目標に対する実施計画、方法、成果、評価、考察、問題点、改善提案をまとめ、わかりやすく報告できる能力を身につけること。

(3) 工学倫理に基づき、電気・電子工学、機械工学を基盤とした、21 世紀のグローバル化に対応できる学際的視野と知識を身につけること。

(4) 主コース以外の専門分野を学ぶことにより、学際領域に関する視野を身につけること。

※標準修業年限は 4 年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部の電子・機械工学系は、2 つの専門コースを設け、電気・電子工学、機械工学、人間医工学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的に、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 専門知識や技術の理解に必要不可欠な数学、自然科学、工学、情報の素養を身につけることを目的とした基盤科目を、入学初年度に集中的に配置します。

(2) 学系全体における基幹科目や課題・問題解決能力の育成を目的としたゼミ、実習、実験科目を、学年進行に従い系統的に配置します。

(3) 学際的な知識や応用事例を学ぶことを目的とした周辺科目を、学年進行に従い系統的に配置します。

(4) 学際領域への関心を高めることを目的に、主コース以外の分野における専門科目を選択科目として配置します。

(5) 人間性と国際性を高めることを目的に、人間形成科目及び英語科目を 4 年間にわたって学べるよう配置します。

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	電気・電子工学	電気回路Ⅰ・演習(2) 3	電気回路Ⅱ・演習(2) 3 電磁気学Ⅰ・演習(2) 3	電磁気学Ⅱ・演習(2) 3 電子情報回路A・演習(2) 3	電子物理学(2) 2 電子情報回路B・演習(2) 3	パワーエレクトロニクス(2) 2 電子デバイス工学(2) 2 ディジタル回路(2) 2	エネルギー変換工学(2) 2		
	制御・システム				過渡現象(2) 2	制御工学Ⅰ・演習(2) 3	制御工学Ⅱ・演習(2) 3 電子制御機械工学(2) 2		
	生体・情報		生理学(2) 2	コンピュータ工学Ⅰ(2) 2	コンピュータ工学Ⅱ(2) 2 生体工学(2) 2	信号処理工学A(2) 2	信号処理工学B(2) 2		
周辺科目	導入科目	電子・機械工学概論(3) 2							
	電子システム応用			医学概論(3) 2		応用プログラミング(3) 福祉機器学(3) 2	人工臓器学(3) 2 計算機工学(3) 2 通信工学(3) 2 先端エレクトロニクス概論(3) 2 材料学(3) 2		
	機械工学			機械要素Ⅰ(3) 2 材料力学Ⅰ・演習(3) 3 流体力学Ⅰ・演習(3) 3	伝熱工学・演習(3) 3	機械計測(3) 2		自動車工学(3) 2	
課題探求			基礎製図(2) 2	電子工学基礎実験Ⅰ(2)	電子工学基礎実験Ⅱ(2) 2	電子情報実験Ⅰ(2) 2 電子システムゼミⅠ(2) 2	電子情報実験Ⅱ(2) 2 電子システムゼミⅡ(2) 2	電子・機械工学卒業研究Ⅰ(2) 3	電子・機械工学卒業研究Ⅱ(2) 3
基盤科目	数学素養	数学基礎(1) 1 基礎微積分学A(1) 2 基礎線形代数学A(1) 2	基礎微積分学B(1) 2 基礎線形代数学B(1) 2			応用数値解析(2) 2			
	自然科学素養	物理学基礎(1) 1 物理学基礎演習(1) 1 物理学A(1) 2 基礎物理学実験(1) 2 化学基礎(1) 1 化学基礎演習(1) 1 化学A(1) 2 基礎化学実験(1) 2 環境科学(1) 2	物理学B(1) 2 化学B(1) 2 生物科学(1) 2						
	工学素養	立体図学(1) 2 工学基礎(1) 2	基礎力学Ⅰ・演習(1) 3 工業力学Ⅰ・演習(2) 3	基礎力学Ⅱ・演習(2) 3 工業数学Ⅰ(2) 2	工業数学Ⅱ(2) 2				
	情報素養	情報処理A(1) 2 情報処理B(1) 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか(4)							
国際性	英語	英語ⅠA(5) 1 英語ⅡA(5) 1	英語ⅠB(5) 1 英語ⅡB(5) 1	英語ⅢA(5) 1 英語ⅣA(5) 1	英語ⅢB(5) 1 英語ⅣB(5) 1	英語ⅤA(5) 1	英語ⅤB(5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか(5)							
							工学の倫理(5) 2		
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA(2) 1 フレッシュマンゼミB(2) 1		電子・機械工学インターンシップA(2) 2	キャリアワークショップ(2) 2 電子・機械工学インターンシップB(2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目A(2) 2 電子・機械工学インターンシップC(2) 2	特別講義(2) 2 ＴＤＵプロジェクト科目B(2) 2 電子・機械工学インターンシップD(2) 2	電子・機械工学インターンシップE(2) 2	電子・機械工学インターンシップF(2) 2

カリキュラムマップ［電子・機械工学系―機械システムコース］

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	基礎力学		基礎力学Ⅰ・演習(2) 3 工業力学Ⅰ・演習(2) 3	工業力学Ⅱ・演習(2) 3 材料力学Ⅰ・演習(2) 3 流体力学Ⅰ・演習(2) 3	機械力学(2) 2 材料力学Ⅱ・演習(2) 3 流体力学Ⅱ・演習(2) 3 伝熱工学・演習(2) 3	工業熱力学・演習(2) 3			
	設計・加工			機械要素Ⅰ(2) 2	機械要素Ⅱ(2) 2	形状創成学・演習(2) 3 構造・機能材料学(2) 2	材料変形学(2) 2		
	計測・制御					制御工学Ⅰ・演習(2) 3 機械計測(2) 2	制御工学Ⅱ・演習(2) 3 電子制御機械工学(2) 2		
周辺科目	導入科目	電子・機械工学概論(3) 2							
	電気・電子工学	電気回路Ⅰ・演習(3) 3	電気回路Ⅱ・演習(3) 3 電磁気学Ⅰ・演習(3) 3	電子情報回路A・演習(3) 3	過渡現象(3) 2	信号処理工学A(3) 2 ディジタル回路(3) 2 パワーエレクトロニクス(3) 2	信号処理工学B(3) 2 エネルギー変換工学(3) 2		
	人間工学		生理学(3) 2	医学概論(3) 2	生体工学(2) 2	福祉機器学(3) 2	人工臓器学(3) 2	自動車工学(3) 2	
	情報			コンピュータ工学Ⅰ(3) 2	コンピュータ工学Ⅱ(3) 2	応用プログラミング(3) 2 応用数値解析(3) 2			
課題探求			電子・機械工学製作実習(2) 2	機械設計製図Ⅰ(2) 1 機械工学実験・実習Ⅰ(2) 1	機械設計製図Ⅱ(2) 1 機械工学実験・実習Ⅱ(2) 1	機械設計製図Ⅲ(2) 1 機械工学実験・実習Ⅲ(2) 1	機械設計製図Ⅳ(2) 1 機械工学実験・実習Ⅳ(2) 1 機械システムゼミⅠ(2) 2	電子・機械工学卒業研究Ⅰ(2) 3 機械システムゼミⅡ(2) 2	電子・機械工学卒業研究Ⅱ(2) 3
基盤科目	数学素養	基礎微積分学A(1) 2 基礎線形代数学A(1) 2	基礎微積分学B(1) 2 基礎線形代数学B(1) 2	工業数学Ⅰ(2) 2	工業数学Ⅱ(2) 2				
	自然科学素養	物理学A(1) 2 基礎物理学実験(1) 2 化学A(1) 2 基礎化学実験(1) 2	物理学B(1) 2 化学B(1) 2						
	工学素養	立体図学(1) 2 工学基礎(1) 2							
	情報素養	情報処理A(1) 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか(4)							
国際性	英語	英語ⅠA(5) 1 英語ⅡA(5) 1	英語ⅠB(5) 1 英語ⅡB(5) 1	英語ⅢA(5) 1 英語ⅣA(5) 1	英語ⅢB(5) 1 英語ⅣB(5) 1	英語ⅤA(5) 1	英語ⅤB(5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか(5)							
							工学の倫理(5) 2		
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA(2) 1 フレッシュマンゼミB(2) 1		電子・機械工学インターンシップA(2) 2	機械工学概論(2) 2 キャリアワークショップ(2) 2 電子・機械工学インターンシップB(2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目Ａ(2) 2 電子・機械工学インターンシップC(2) 2	特別講義(2) 2 ＴＤＵプロジェクト科目Ｂ(2) 2 電子・機械工学インターンシップD(2) 2	電子・機械工学インターンシップE(2) 2	電子・機械工学インターンシップF(2) 2

電子・機械工学系履修モデル

1．電子・機械工学の必要性

これまでの目覚ましい工学技術の発展は人々の生活様式からコミュニケーション方法までを大きく変えてきました。反面、工学技術は使用環境や使う人間のことを忘れてつくられ使われると、環境汚染をはじめとする自然や人間に有害となることも分かってきました。このため、自然、社会、人間にとってやさしいものづくりには、技術の追求に加え、人間や自然現象をより広く深く知ってこそよりよく役に立つ技術ができると考えられます。そもそも専門家が使う電子・機械システムでさえ、設計者の想う通りに動かすには多くの工夫が必要です。今は、多くの電子・機械システムは家庭内で使われるようになり、社会からはより多くの場面で安定して活用でき、さらに使用者の意の通りに、賢くふるまうことを求められています。このような電子・機械システムをつくれる工学技術者には、手を動かし試行錯誤を繰り返した経験に加え、広く知識を取得し、活用できる問題解決能力が求められます。自ら社会で活躍する工学技術者にとって求められる「必要な資質」とは何かということを常に念頭におきながら、学生生活を送ってください。

2．学系の学習・教育目標

私たちの周りには多くの電子・機械システムが溢れていますが、これらひとつひとつは、要素部品からできています。電子・機械システムの技術者は、それぞれの要素部品と部品間の関係、各部品のふるまいを物理法則や情報に関する理論にもとづき扱えることで必要な機能を作り上げていきます。また、多くの電子・機械システムは人間が扱うことから、生体としての人間、人間と機械の相互関係を理解したものづくりの能力が必要です。人間の特性を理解し、その特性に合わせた電子・機械システムを構築することで、システムが人間の技能や習熟度に適応することが望まれます。このような、電子・機械主導型のシステムから、人間主導型のシステムへの転換は、我々の社会生活の全てに関わる大きな技術革新として位置づけられるでしょう。そこで「電子・機械工学系」では、電子工学と機械工学の基礎をしっかりと学ぶとともに、人間の特性を理解するための学問についても学びます。人間の特性を理解し、人間とうまく共存することのできる、交通機械、産業機械、家庭用電子機器、医用機器、生活支援機器、先端材料などのものをつくり、動かす技術の研究、開発、設計を通して人間社会に貢献できる、豊かな人間性と電子・機械工学の知識および技術を有する技術者の育成を目的にしています。

3．学系カリキュラムの概要

本学系は、根幹となる電気・電子工学、機械工学の基礎専門科目、そして計測制御工学、医用工学、情報工学などの専門応用科目といった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはコース毎にこれら基礎分野の習得を行えるよう編成しており、さらには「技術者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に入れ、自動車産業から医療機器産業などの電気・電子・機械系の業界の幅広い分野の工学技術を学べるよう工夫しています。

授業科目は専門科目（学部共通科目群、学系共通科目群、コース専門科目群）、人間形成科目群、英語科目群の 3 つに大別されます。学生は、1 年次に配当されている電気回路、力学、実習の専門科目を履修することにより、コースを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は表を参照してください。

電子・機械工学系では学生自らが履修計画を立て、予習・復習も含め積極的に授業に参加し、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、分からなかった部分をそのままにしないでオフィスアワーを活用して教員へ質問し、科目の教育補助を担当している大学院生への質問・相談、基礎学力への不安は学習支援センターを活用し勉学に励んでください。

なお、本学埼玉鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる研究、開発、設計が行える総合的な能力のある高度技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

4．各コースの概要

(1) 電子システムコース

電子システムコースは、「人間の生活・生命を支える工学技術」を学ぶコースです。生体の機能を代替する人工臓器、生活を支援する福祉機器、手術ロボットをはじめとする様々な医療機器、再生医療を支える細胞工学や生体材料工学、生体理解のための生体信号計測や情報処理技術などは、電子・機械工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、ベースとなる電子・機械工学とともに、対象となる人間の生理学、医学的知識について学ぶことで、人間の特性を理解し、それに適応した医療福祉機器、診断支援機器などのシステムを作り上げることのできる能力の獲得

を目標としています。

(2) 機械システムコース

機械システムコースは、「安全なものづくりを支える工学技術」を学ぶコースです。自動車、航空機、工作機械、ロボット、インタフェース機器などは、エネルギー変換に関わるエンジンやモータなどの動力源と、各構成要素をつなぎ合わせる構造、そしてこれらを効率的に作動させる計測・制御などの技術からなり、電子・機械工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、力学をベースとし、ハードウェア及びソフトウェア全般を学び、人間が扱いやすい機械を設計・製作するため、熱、流体などの現象と形状、強度、運動などの機械システムの機能との関係、ならびに生産に必要な加工、材料、そして電子制御・計測について学ぶことで、交通機械や産業機械から家庭電化製品などのシステムをつくり、動かすことのできる能力の獲得を目標とします。

5. 1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来何になりたいのか」、「どのようなエンジニアになりたいか」、「何の技術の専門家になるのか」を考え目標をもつことが大学生活を有意義に送る上で必要です。なお、2年次へ進級する上での最低条件は、「1年次に配当されている科目から**30単位以上**取得すること」です。4年次では卒業研究に専念するためには、3年次終了までに120単位以上の取得を目指すのが望ましく、各年次で年間40単位を目安として取得するよう努めてください。

1年次に配当されている「電子･機械工学概論」は必ず1年次に履修してください。各コースがどのような特徴を持っているかを分かりやすく説明します。卒業後、どのような職につき、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。「電子・機械工学製作実習」では、今後、自ら学んでいく専門科目の位置づけや重要性を学ぶことができます。これら2つの科目は、主コース・副コースを選択する際に重要な科目になります。

「電気回路Ⅰ・演習」、「電気回路Ⅱ・演習」、「電磁気学Ⅰ・演習」、「生理学」、「基礎力学Ⅰ・演習」「工業力学Ⅰ・演習」は、いずれも各専門分野の基礎を扱う科目です。科目配置図やオンラインシラバスを良く見てしっかりと4年間の履修計画を立て、必要な科目は積極的に履修するようにしてください。

6．主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

(1) 学系共通科目の履修（2 コース共通）

本学系の目標である「人間にやさしいものづくり」に携わる技術者育成は 2 年次から本格的に開始し、多くの専門科目が配当されています。学系内における各専門科目と 2 つのコースとの関連は、科目配置図を参照してください。専門科目の中で、どちらのコースの学生にとっても、電子・機械工学を志すのに学ぶべき科目は学系共通科目として位置づけられています。コース専門科目とのつながりと進級・卒業に必要な単位数を良く考えて、履修科目を決めてください。

(2) 電子システムコースを主コースとした学生の履修計画

a) 2 ～ 3 年次

2 年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3 年次前期終了時の単位数によって研究室の仮配属を可否を判断します。さらに 3 年次から 4 年次への進級条件として、 1 年次から 3 年次に配当されている科目から最低 **104 単位**、4 年次の就職、研究活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間形成科目（12 単位）・英語科目（6 単位）・学部共通科目（12 単位）で**合計 30 単位**、学系共通科目の中から **28 単位**、コース専門科目の中からコースコード **T 1**（T 1：電子システムコース）のついた科目 **14 単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目 **6 単位**が含まれていなければ 4 年次への進級はできません。中でも、「電気回路Ⅰ・演習」、「電気回路Ⅱ・演習」、「電磁気学Ⅰ・演習」、「電磁気学Ⅱ・演習（T1)」、「工業数学Ⅰ」、「工業数学Ⅱ」、「過渡現象」、「電気・電子計測工学（T1)」、「コンピュータ工学Ⅰ」、「コンピュータ工学Ⅱ」、「電子情報回路 A・演習」、「電子情報回路 B・演習（T1)」、「信号処理工学 A（T1)」、「信号処理工学 B（T1)」、「電子デバイス工学（T1)」、「制御工学Ⅰ・演習」、「制御工学Ⅱ・演習」の 17 科目の内 26 単位以上を修得することとなっています。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、1 科目でも多く学び、十分専門領域の知識をもった信頼できる工学技術者として活躍できるよう履修計画を立ててください。これらの単位数は進級のため

の最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2年次終了時には80単位以上を取得するように心がけてください。

電子システムコースでは、2年次で「**電子工学基礎実験Ⅰ**」「**電子工学基礎実験Ⅱ**」、3年次で「**電子情報実験Ⅰ**」「**電子情報実験Ⅱ**」、「**電子システムゼミⅠ**」「**電子システムゼミⅡ**」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある電子工学の分野を中心に、数理・情報技術、生体医工学、機械・電子制御などの分野の科目を履修することを薦めます。特に、**3年次の「特別講義」**は、就職に関係した科目であるため履修することを強く薦めます。

b)　4年次

4年次生は、4年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を**十二分に余裕を持って**取得するようにしてください。

(3) 機械システムコースを主コースとした学生の履修計画

a)　2～3年次

2年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3年次から4年次への進級条件として、1年次から3年次に配当されている科目から最低**104単位**、4年次の就職、研究活動を十分に行うには120単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である104単位の中には、少なくとも、人間形成科目（12単位）・英語科目（6単位）・学部共通科目（12単位）で**合計30単位**、学系共通科目の中から**28単位**、コース専門科目の中からコースコード**T 2**（T 2：機械システムコース）のついた科目**14単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目**6単位**が含まれていなければ4年次への進級はできません。中でも、「機械力学」「材料力学Ⅱ・演習」「流体力学Ⅱ・演習」「工業熱力学・演習」の4科目の内5単位以上を修得することとなっています。なお、

これらの科目はこれらの入門にあたる「工業数学Ⅰ」、「工業数学Ⅱ」、「材料力学Ⅰ・演習」、「流体力学Ⅰ・演習」などを理解せずして単位取得はままならないため、履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2年次終了時には80単位以上を取得するように心がけてください。

機械システムコースでは、2年次で「**機械工学実験・実習Ⅰ**」「**機械工学実験・実習Ⅱ**」「**機械設計製図Ⅰ**」「**機械設計製図Ⅱ**」、3年次で「**機械工学実験・実習Ⅲ**」「**機械工学実験・実習Ⅳ**」「**機械設計製図Ⅲ**」「**機械設計製図Ⅳ**」「**機械システムゼミⅠ**」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある機械工学の分野を中心に、機械・電子制御、数理・情報技術などの分野の科目を履修することを薦めます。特に、**2年次の**「**機械工学概論**」、**3年次の**「**特別講義**」は、卒業研究、ならびに就職に関係した科目であるため履修することを強く薦めます。

b)　4年次

4年次生は、4年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を**十二分に余裕を持って**取得するようにしてください。特に機械システムコースを主コースとした学生は「機械システムゼミⅡ」は履修することを強く薦めます。

7．副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方（2コース共通）

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

8．その他の注意事項

(1) 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学の受験資格を認めています。進学

を希望する学生は、早い段階から、受講する科目に十分時間をかけて学ぶように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業者よりもより専門性の高い新技術の研究、開発に関する職種、部門に就職することができます。また、大学院在籍中に、海外の大学院へ留学し異文化を学び、その中で活躍する能力を身につけることもできます。

電子・機械工学分野の大学院は、開発を中心とした高級技術者や研究者、専門的電子技術や機械技術を教える高校教諭、高等専門学校や大学等の教育に従事する教育研究者を目指す登竜門でもあります。大学院在籍中に奨学金を得て、フランスの精密機械大学院大学（ＥＮＳＭＭ）等の海外の研究機関に留学し、研究と文化の違いを学ぶ大学院生もいます。

(2) 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。最近は自由応募で就職する学生もいますが、先輩のいる企業への学校推薦での就職も環境や仕事の情報などのアドバイスも受けられることからメリットがあります。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、基礎学力はあって当たり前として、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や主体性、協調性です。これらは、実験や実習の中で積極的な活動を通じて培われ、日常生活における習慣や取り組みによって蓄積されるものです。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、電子機器や機械などの技術開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの積極性、責任感、論理性を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って広く、深く勉学に励んでください。

電子・機械工学系の履修配置図

	【 電子システムコース 】	【 機械システムコース 】	
4年	**[電子システムコース専門科目]** **[前期]** 電子・機械工学卒業研究Ⅰ 自動車工学 **[後期]** 電子・機械工学卒業研究Ⅱ	**[機械システムコース専門科目]** **[前期]** 電子・機械工学卒業研究Ⅰ 機械システムゼミⅡ、 自動車工学 **[後期]** 電子・機械工学卒業研究Ⅱ	共通教育科目 人間形成科目 英語科目 情報と職業入門 情報と職業
3年	**[電子システムコース専門科目]** **[前期]** 電子情報実験Ⅰ、 電子システムゼミⅠ 電子デバイス工学 ディジタル回路、 パワーエレクトロニクス 信号処理工学A、 福祉機器学 機械計測 **[後期]** 電子情報実験Ⅱ、 電子システムゼミⅡ 通信工学、 材料学、 先端エレクトロニクス概論 計算機工学、 電子制御機械工学 信号処理工学B、 エネルギー変換工学	**[機械システムコース専門科目]** **[前期]** 機械工学実験・実習Ⅲ、 機械設計製図Ⅲ 形状創成学・演習、 構造・機能材料学 工業熱力学・演習 ディジタル回路、 パワーエレクトロニクス 信号処理工学A、 福祉機器学 機械計測 **[後期]** 機械工学実験・実習Ⅳ、 機械設計製図Ⅳ 機械システムゼミⅠ、 電子制御機械工学 材料変形学 信号処理工学B、 エネルギー変換工学	
	[学系共通科目] **[前期]** 応用数値解析、 応用プログラミング、 制御工学Ⅰ・演習 **[後期]** 統計解析、 人工臓器学、 制御工学Ⅱ・演習、 特別講義、 工学の倫理		
2年	**[電子システムコース専門科目]** **[前期]** 電子工学基礎実験Ⅰ 基礎力学Ⅱ・演習 電気・電子計測工学、 電磁気学Ⅱ・演習 **[後期]** 電子工学基礎実験Ⅱ 電子物理学、 生体工学 電子情報回路B・演習	**[機械システムコース専門科目]** **[前期]** 機械工学実験・実習Ⅰ、 機械設計製図Ⅰ 工業力学Ⅱ・演習 電気・電子計測工学 **[後期]** 機械工学実験・実習Ⅱ、 機械設計製図Ⅱ 材料力学Ⅱ・演習、 機械工学概論 流体力学Ⅱ・演習 機械要素Ⅱ、 機械力学	
	[学系共通科目] **[前期]** 材料力学Ⅰ・演習、 流体力学Ⅰ・演習、 工業数学Ⅰ、コンピュータ工学Ⅰ、 医学概論 機械要素Ⅰ、 電子情報回路A・演習 **[後期]** 工業数学Ⅱ、 コンピュータ工学Ⅱ、 伝熱工学・演習、 過渡現象		
1年	**[学系共通科目]** **[前期]** 電子・機械工学概論、 電気回路Ⅰ・演習 **[後期]** 基礎製図、電気回路Ⅱ・演習、電磁気学Ⅰ・演習、生理学、基礎力学Ⅰ・演習、工業力学Ⅰ・演習		
	[学部共通科目] 数学基礎・物理学基礎・化学基礎、物理学基礎演習、化学基礎演習、基礎微分積分学A・B 基礎線形代数学A・B、物理学A・B、基礎物理学実験、化学A・B、基礎化学実験、環境科学 情報処理A・B、立体図学、工学基礎、生物科学		

その他： 電子・機械工学特別卒業研究（3年次）、電子・機械工学インターンシップA～F（2年～4年次）、職業指導（3年次）

電子・機械工学系　進級条件表

RT

（2016年度カリキュラム）

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1. 下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	（卒業条件）
人間形成科目			12	(16)
英語科目			6	(8)※1
学部共通科目			12	(14)
副コースを電子・機械工学系から選んだ場合	学系共通科目		28	(36)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※2
		副コース	6	(8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	(26)
		副コース	10	(14)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※2
		副コース	2	(4)

※1 必修の8科目（1年次および2年次配当科目）を含む　※2 卒業研究を含む

2. 電子・機械工学系の各コースを主コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を修得していること。

電子システムコース	機械システムコース
1. 次の7科目を全て修得のこと 電子・機械工学概論 電子工学基礎実験Ⅰ(T1) 電子工学基礎実験Ⅱ(T1) 電子情報実験Ⅰ(T1) 電子情報実験Ⅱ(T1) 電子システムゼミⅠ(T1) 電子システムゼミⅡ(T1)	1. 次の10科目を全て修得のこと 電子・機械工学概論 機械工学実験・実習Ⅰ(T2) 機械工学実験・実習Ⅱ(T2) 機械工学実験・実習Ⅲ(T2) 機械工学実験・実習Ⅳ(T2) 機械設計製図Ⅰ(T2) 機械設計製図Ⅱ(T2) 機械設計製図Ⅲ(T2) 機械設計製図Ⅳ(T2) 機械システムゼミⅠ(T2)
2. 次の17科目の内26単位以上修得のこと 電気回路Ⅰ・演習、 電気回路Ⅱ・演習 電磁気学Ⅰ・演習、 電磁気学Ⅱ・演習(T1) 工業数学Ⅰ、 工業数学Ⅱ、 過渡現象 電気・電子計測工学 (T1) コンピュータ工学Ⅰ、 コンピュータ工学Ⅱ 電子情報回路A・演習 電子情報回路B・演習(T1) 信号処理工学A(T1)、 信号処理工学B(T1) 電子デバイス工学(T1) 制御工学Ⅰ・演習、 制御工学Ⅱ・演習	2. 次の4科目の内5単位以上修得のこと 機械力学(T2) 材料力学Ⅱ・演習(T2) 流体力学Ⅱ・演習(T2) 工業熱力学・演習(T2)

2016年度 カリキュラム 電子・機械工学系 授業科目配当表

RT

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	工学基礎	電子・機械工学概論	選択		○			2	1	1	1				70100
			生理学	選択		○			2	1			1	1		
			電気回路Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1	1.5	1.5				70100
			電気回路Ⅱ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		70100
			電磁気学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		70100
			基礎力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		
			工業力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		
			材料力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			流体力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
		数理・情報技術	工業数学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				70100
			工業数学Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		70100
			コンピュータ工学Ⅰ	選択		○	○		2	2	1	1				60200
			コンピュータ工学Ⅱ	選択		○	○		2	2			1	1		60500
			応用プログラミング	選択		○	○		2	3	1	1				60200
			応用数値解析	選択		○			2	3	1	1				60200
		電子工学	電子情報回路Ａ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				60300
		生体医工学	医学概論	選択		○			2	2	1	1				
			人工臓器学	選択		○			2	3			1	1		
		機械・電子制御	過渡現象	選択		○			2	2			1	1		70100
			制御工学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	3	1.5	1.5				70100
			制御工学Ⅱ・演習	選択		○	○		3	3			1.5	1.5		70100
		機械工学	機械要素Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				70100
			伝熱工学・演習	選択		○	○		3	2			1.5	1.5		
		実験・実習	基礎製図	選択		○	○		2	1			2	2		70100
		卒研等	特別講義	選択		○			2	3			1	1		
		その他	工学の倫理	選択		○			2	3			1	1		
専門教育科目	T1 電子システムコース専門科目	工学基礎	電磁気学Ⅱ・演習	選択	T1	○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			基礎力学Ⅱ・演習	選択	T1	○	○		3	2	1.5	1.5				70100
		数理・情報技術	信号処理工学Ａ	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				60200
			信号処理工学Ｂ	選択	T1・T2	○			2	3			1	1		60200
			計算機工学	選択	T1	○			2	3			1	1		60300
		電子工学	電気・電子計測工学	選択	T1・T2	○			2	2	1	1				70100
			電子情報回路Ｂ・演習	選択	T1	○	○		3	2			1.5	1.5		60300
			ディジタル回路	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
			先端エレクトロニクス概論	選択	T1	○			2	3			1	1		70100
			電子物理学	選択	T1	○			2	2			1	1		70100
			電子デバイス工学	選択	T1	○			2	3	1	1				
			材料学	選択	T1	○			2	3			1	1		
			通信工学	選択	T1	○			2	3			1	1		60400
		生体医工学	生体工学	選択	T1・T2	○			2	2			1	1		70100
			福祉機器学	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
		機械・電子制御	電子制御機械工学	選択	T1・T2	○			2	3			1	1		70100
			機械計測	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
			パワーエレクトロニクス	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
			エネルギー変換工学	選択	T1・T2	○			2	3			1	1		70100
		機械工学	自動車工学	選択	T1・T2	○			2	4	1	1				70100
		実験・実習	電子工学基礎実験Ⅰ	選択	T1			○	2	2	2	2				70100
			電子工学基礎実験Ⅱ	選択	T1			○	2	2			2	2		70100
			電子情報実験Ⅰ	選択	T1			○	2	3	2	2				60400
			電子情報実験Ⅱ	選択	T1			○	2	3			2	2		60500
		卒研等	電子システムゼミⅠ	選択	T1		○		2	3	1	1				
			電子システムゼミⅡ	選択	T1		○		2	3			1	1		

コースコードは、T1：電子システムコース、T2：機械システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

2016年度 カリキュラム 電子・機械工学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
専門教育科目	T2 機械システムコース専門科目	工学基礎	工業力学Ⅱ・演習	選択	T2	○	○		3	2	1.5	1.5				
		機械工学	機械工学概論	選択	T2	○			2	2			1	1		
			機械要素Ⅱ	選択	T2	○			2	2			1	1		70100
			機械力学	選択	T2	○			2	2			1	1		
			材料力学Ⅱ・演習	選択	T2	○	○		3	2			1.5	1.5		70100
			流体力学Ⅱ・演習	選択	T2	○	○		3	2			1.5	1.5		70100
			工業熱力学・演習	選択	T2	○	○		3	3	1.5	1.5				70100
			形状創成学・演習	選択	T2	○	○		3	3	1.5	1.5				70100
			構造・機能材料学	選択	T2	○			2	3	1	1				70100
			材料変形学	選択	T2	○			2	3			1	1		70100
			自動車工学	選択	T1・T2	○			2	4	1	1				70100
		機械・電子制御	電子制御機械工学	選択	T1・T2	○			2	3			1	1		70100
			機械計測	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
			パワーエレクトロニクス	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
			エネルギー変換工学	選択	T1・T2	○			2	3			1	1		70100
		電子工学	電気・電子計測工学	選択	T1・T2	○			2	2	1	1				70100
			ディジタル回路	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
		数理・情報技術	信号処理工学A	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				60200
			信号処理工学B	選択	T1・T2	○			2	3			1	1		60200
		生体医工学	生体工学	選択	T1・T2	○			2	2			1	1		70100
			福祉機器学	選択	T1・T2	○			2	3	1	1				70100
		実験・実習	機械工学実験・実習Ⅰ	選択	T2			○	1	2	1	1				70100
			機械工学実験・実習Ⅱ	選択	T2			○	1	2			1	1		70100
			機械工学実験・実習Ⅲ	選択	T2			○	1	3	1	1				70100
			機械工学実験・実習Ⅳ	選択	T2			○	1	3			1	1		70100
			機械設計製図Ⅰ	選択	T2			○	1	2	1	1				70100
			機械設計製図Ⅱ	選択	T2			○	1	2			1	1		70100
			機械設計製図Ⅲ	選択	T2			○	1	3	1	1				70100
			機械設計製図Ⅳ	選択	T2			○	1	3			1	1		70100
		卒研等	機械システムゼミⅠ	選択	T2	○			2	3			1	1		
			機械システムゼミⅡ	選択	T2	○			2	4	1	1				
	コース専門科目	卒研等	電子・機械工学特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			電子・機械工学卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			電子・機械工学卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
			職業指導	自由		○			4	3	1	1	1	1		70200
		その他	電子・機械工学インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			電子・機械工学インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			電子・機械工学インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			電子・機械工学インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			電子・機械工学インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			電子・機械工学インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					60600
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、T1：電子システムコース、T2：機械システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

建築・都市環境学系

(Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering)

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

建築・都市環境学系では、21 世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある社会の実現を目指して建築及び都市環境の創造と保全に寄与できる建設技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部の建築・都市環境学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質と感性を有し、かつ人文科学、社会科学等の基礎知識を有する心身健全な建設技術者としての能力を身につけること。

(2) 科学技術のグローバル化に伴い、異文化を理解する能力や文化的素養を有すること。かつ、柔軟な思考力のもと、自らの考えを文章化し、意見交換を通して多様化する社会の諸問題に対応でき、将来において国際的にも活躍できる建設技術者としての能力を身につけること。

(3) 物理学、化学、数学などの工学的基礎力の育成に重点を置き、専門科目では講義、実験、実習、演習を通して、即戦力となる建設技術者としての能力を身につけること。

(4) 技術者として豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を有し、かつ高度な社会的要請にも対応できる建設技術者としての能力を身につけること。

(5) 自然の仕組みを理解し、人間と自然界が共生でき、持続可能な社会を構築する技術、また地域から地球規模に至る環境評価・予測・保全に必要な技術を有した建設技術者としての能力を身につけること。

(6) 与えられた制約のもとで、情報を収集・評価して利用する能力を有し、チームを組織して計画的に仕事を進め、問題を解決していく能力を身につけること。

(7) 急速に発展する高度情報化に対応できるように、情報技術に関する基礎及びアプリケーションの活用やプログラム作成能力を有した建設技術者としての能力を身につけること。

※標準修業年限は 4 年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部建築の都市環境学系は、2 つの専門コースを設け、建築学、土木工学、都市工学、環境学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

(1) 専門知識や技術の理解に必要不可欠な数学、自然科学、工学、情報の素養を身につけることを目的とした基盤科目を、入学初年度に集中的に配置します。

(2) 学系全体における基幹科目、課題・問題解決能力の育成を目的とした実験、実習、設計製図、卒業研究を、学年進行に従い系統的に配置します。

(3) 専門知識を深く学ぶための発展科目を、教育課程後半に配置します。

(4) 学際領域への関心を高めることを目的に、主コース以外の分野における専門科目を、選択科目として配置します。

(5) 人間性と国際性を高めることを目的に、人間形成科目及び英語科目を 4 年間にわたって学べるよう配置します。

カリキュラムマップ[建築・都市環境学系]

2016（平成28）年度カリキュラム

※科目名のあとの（ ）付数字は学系の「教育課程編成・実施の方針」との対応

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基幹科目	導入	建築・都市環境学へのアプローチ(2) 2	建築・都市デザイン概論(2) 2						
	数理・情報		工学のための数学Ⅰ(1) 2 基礎統計学(1) 2	工学のための数学Ⅱ(1) 2 計画数理(1) 2	プログラミング演習Ⅰ(2) 2	プログラミング演習Ⅱ(2) 2			
	構造		静力学(1) 2	応用力学A・演習(2) 3	応用力学B(2) 2	鋼構造学(2) 2 鉄筋コンクリート工学(2) 2			
	地盤				地盤工学A・演習(2) 3	地盤工学B(2) 2			
	水理			水理学A・演習(2) 3 流れの科学(2) 2	水理学B(2) 2	水文学(2) 2			
	測量			測量学・演習(2) 3					
	材料			建設材料学(2) 2					
	施工					建設施工法(2) 2	建設マネジメント(2) 2		
発展科目（建築コース）	建築			ランドスケープデザイン(3)(4) 2	住居論(3)(4) 2 建築計画学(3)(4) 2 建築史(3)(4) 2	建築デザイン論(3)(4) 2 建築とアートワーク論(3)(4) 2 建築環境工学(3)(4) 2	建築法規(3)(4) 1 耐震設計法(3)(4) 2 建築構法(3)(4) 2 建築構造学(3)(4) 2 建築設備(3)(4) 2		
発展科目（都市環境コース）	都市					景観デザイン(3)(4) 2 都市計画(3)(4) 2 交通計画(3)(4) 2 道路工学(3)(4) 2	防災工学(3)(4) 2 河川・海岸計画(3)(4) 2 都市プロジェクトの評価(3)(4) 2 空間情報工学(3)(4) 2		
	環境				水圏の環境(3)(4) 2 気圏・地圏の環境(3)(4) 2	都市衛生工学(2) 2 リモートセンシング(3)(4) 2	環境アセスメント(3)(4) 2 生物圏の環境(3)(4) 2		
課題探求	実験・実習			材料実験(2) 1 測量実習(2) 2	土質実験(2) 1	構造実験(2) 1	水理実験(2) 1		
	設計製図		建築都市デザイン演習Ⅰ(2) 3	建築都市デザイン演習ⅡA(2) 2	建築都市デザイン演習ⅡB(2) 2	建築都市デザイン演習ⅢA(2) 2	建築都市デザイン演習ⅢB(2) 2		
	卒業研究							建築・都市環境卒業研究Ⅰ(2) 3	建築・都市環境卒業研究Ⅱ(2) 3
基盤科目	数学	数学基礎(1) 1 基礎微積分学A(1) 2 基礎線形代数学A(1) 2	基礎微積分学B(1) 2 基礎線形代数学B(1) 2						
	物理学	物理学基礎(1) 1 物理学基礎演習(1) 1 物理学A(1) 2 基礎物理学実験(1) 2	物理学B(1) 2						
	化学	化学基礎(1) 1 化学基礎演習(1) 1 化学A(1) 2 基礎化学実験(1) 2	化学B(1) 2						
	生物・地学	環境科学(1) 2	生物科学(1) 2 環境科学(1) 2						
	情報・工学	情報処理A(1) 2 情報処理B(1) 2 立体図学(1) 2 工学基礎(1) 2							
学際科目	副専攻科目	副コース科目ほか(4)							
国際性	英語	英語ⅠA(5) 1 英語ⅡA(5) 1	英語ⅠB(5) 1 英語ⅡB(5) 1	英語ⅢA(5) 1 英語ⅣA(5) 1	英語ⅢB(5) 1 英語ⅣB(5) 1	英語VA(5) 1	英語VB(5) 1		
人間形成	人間形成	人間形成科目ほか(5)							
キャリア	キャリア	フレッシュマンゼミA(2) 1 フレッシュマンゼミB(2) 1		建築・都市環境インターンシップA(2) 2	キャリアワークショップ(2) 2 建築・都市環境インターンシップB(2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目A(2) 2 建築・都市環境インターンシップC(2) 2	ＴＤＵプロジェクト科目B(2) 2 建築・都市環境インターンシップD(2) 2	建築・都市環境インターンシップE(2) 2	建築・都市環境インターンシップF(2) 2

建築・都市環境学系履修モデル

1．建築・都市環境学系の学習・教育到達目標

建築・都市環境学系では、21 世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある生活環境を目指して社会基盤の創造と保全に寄与できる建設技術者の育成を目的としています。具体的には、基礎工学・人文科学・社会科学の知識を集約し、経済的・環境的・社会的な条件を考慮して社会が要請する構造物を計画・設計・施工・管理する技術、地域から地球規模に至る環境保全や環境予測に必要な技術、さらには高度情報化社会に対応できる情報技術を習得し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の育成を行います。この目的を達成するため、本学系では以下の（A）～（G）の学習・教育到達目標を掲げています。

（A）「技術は人なり」を目標とした人間形成の教育

良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、かつ人文科学、社会科学等の基礎知識を有する心身健全な建設技術者としての能力を身につけます。

（B）相互理解を深めるコミュニケーション能力の開発

科学技術のグローバル化に伴い、異文化を理解する能力や文化的素養を有し、かつ柔軟な思考力のもと自らの考えを文章化し、意見交換を通して多様化する社会の諸問題に対応でき、将来において国際的にも活躍できる建設技術者としての能力を身につけます。

（C）基礎工学を重視した実学教育の徹底

物理学、化学、数学などの工学的基礎力の育成に重点を置き、専門科目では講義および実験、実習、演習を通して、即戦力となる建設技術者をとしての能力を身につけます。

（D）創造力および問題発見・解決能力の開発

豊かな創造力や柔軟な思考力を有する建設技術者の育成と、現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を有し、かつ高度な社会的要請にも対応できる建設技術者としての能力を身につけます。

（E）環境と調和する循環型社会をリードする建設技術者の育成

自然の仕組みを理解し、人間と自然界が共生でき、持続可能な社会を構築する技術、また地域から地球規模にいたる環境評価・予測・保全に必要な技術を有した建設技術者としての能力を身につけます。

（F）プロジェクト遂行能力の開発

与えられた制約のもとで、情報の収集・評価・利用する能力を有し、チームを組織して計画的に仕事を進め、問題を解決していく力を持った建設技術者としての能力を身につけます。

（G）情報技術革新へ対応できる建設技術者の育成

急速に発展する高度情報化に対応できるように、情報技術に関する基礎およびアプリケーションの活用やプログラム作成能力を有した建設技術者としての能力を身につけます。

2．学系カリキュラムの概要

建築・都市環境学系のカリキュラムは、建築学、建設工学、土木工学、都市工学、環境学といった私たちの生活環境づくりに直結した学問分野で構成されています。そして、それぞれの分野に関して基礎から応用へと段階的に学習できるようにカリキュラムが編成されています。この段階的な学習を確実なものとするために、特に3年次から4年次への進級に際して、学系独自の進級条件を設定しています。この進級条件は所属する主コース・副コースの組み合わせによって異なるため、些細な勘違いなどで留年しないよう細心の注意を払って履修計画を立ててください。履修方法に関する疑問等は、学年担任をはじめとする学系教員に気軽に質問してください。

3．各コースの概要

(1) 建築コース

建築コースは建築の専門知識や技術を学び、デザインするための感性を磨くコースです。本コースの特徴は単体の建物だけでなく、都市・環境・景観に配慮した総合的な視野を備えた建築家や建設技術者を育成する点にあります。講義では建築のデザイン、歴史、計画、構造、構法、設備等の専門知識はもちろんのこと、都市環境コースとの連携により都市・環境・土木分野の知識について幅広く学ぶことができます。また、ＣＡＤの使い方、建築図面の描き方、建築設計の方法を学ぶ建築都市デザイン演習や、構造実験・材料実験といった実験科目を通して、実践的な技術力・判断力・プレゼンテーション能力を身につけることができます。

(2) 都市環境コース

都市環境コースは、ひとにやさしく、安全で快適なまちづくりの方法を学ぶコースです。まちづくりの中心には市民がおり、市民が満足しなければまちづくりとは言えません。市民が満足するためには、機能性、経済性、意匠性を同時に兼ね備えていなければなりません。都市環境コースが対象とする施設は、われわれの日常生活を支える上で必要不可欠なものばかりです。たとえば、鉄道、駅、道路、空港などの交通施設、電気、水道などのライフライン施設、公園広場、ビオトープ、屋上緑化施設などの都市環境施設などがあります。

また本コースでは、社会基盤施設の計画から設計に至る能力を学習します。さらに地球環境問題が深刻さを増しつつある今日、建設に携わる技術者も環境を視野に入れて行動することが求められています。したがって、建設と環境との関連性に関する知識を習得して、環境に配慮した都市や地域づくりを実践できる21世紀型グローバル・エンジニアや都市環境デザイナーを育成します。

4. 1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1年次に配当されている科目から30単位以上修得することで、2年次に進級することができます。本学系では、学部共通科目群の「情報処理Ａ」「基礎物理学実験」「基礎化学実験」の3科目6単位および進級条件表の付表Ａに示す学系指定科目（4科目8単位）の単位修得を4年次への進級条件に含んでいるので、1年次にこれらの中から上記3科目を含む6科目以上を履修してください。また、人間形成科目群の「技術者倫理」も4年次への進級条件に含まれるので、3年次までに必ず履修してください。

つぎに専門科目としては、1年前期に、導入科目である「建築･都市環境学へのアプローチ」が開講されます。この講義では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かり易く説明し、卒業後、どのような職に就き、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。本科目は4年次に進級するため、また卒業するための学系必修科目となっているので、1年次に履修してください。

1年後期では、まず「建築都市デザイン演習Ⅰ」の1科目3単位を必ず履修してください。つぎに「建築・都市デザイン概論」「工学のための数学Ⅰ」「基礎統計学」「静力学」の4科目8単位を履修してください。これらの講義では、建築や都市をデザインすることの面白さや大切さを学習し、あるいは2年次以降に学習する専門科目を理解するための基礎学力を培います。また、これらの4科目も卒業するための学系必修科目となっています。

5．主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2 年次と 3 年次の 2 年間で、「3 年次から 4 年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3 年次から 4 年次への進級条件」は選択した副コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

(1)「建築コース（主）＋都市環境コース（副）」もしくは「都市環境コース（主）＋建築コース（副）」とする学生の履修計画（主：主コース、副：副コースを示す。以下同じ。）

（学系共通科目の履修）

① 2 年次・3 年次の「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」の 4 科目 4 単位の中から必ず 3 単位以上を履修してください。

② 2 年次の「測量学・演習」「測量実習」の 2 科目 5 単位を必ず履修してください。

③ 進級条件表の付表Ｂに示す学系必修科目（11 科目 26 単位）の中から必ず 17 単位以上を 3 年次終了までに履修してください。

④ 進級条件表の付表Ｃに示す学系専門科目（7 科目 14 単位）の中から必ず 8 単位以上を履修してください。

以上で、学系共通科目群から 28 単位以上を履修することになり、3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コース専門科目群の中から「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡＡ」「建築都市デザイン演習ⅡＢ」の 3 科目 7 単位を含む 14 単位以上を必ず履修してください。

② 副コース専門科目群の中から 6 単位以上を必ず履修してください。

以上で、3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

なお、進級条件表の学系必修科目（11 科目 26 単位）は卒業するための必修科目となっていますので、卒業時までに必ず修得してください。

(2)「建築コース（主）＋他学系のコース（副）」もしくは「都市環境コース（主）＋他学系のコース（副）」とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 学系共通科目群の中から、進級条件表の付表Ｂに示す学系必修科目（11 科目 26 単位）の中から必ず 17 単位以上、かつ合計で 22 単位以上を履修してください。

② 副コースの所属する学系の学系共通科目群から 10 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。なお、技術者として必要である実

践的な技術力・判断力・レポート作成能力・プレゼンテーション能力を身につけるために、「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」といった実験科目も履修することを強く推奨します。

（コース専門科目の履修）

① 主コース専門科目群の中から「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡＡ」「建築都市デザイン演習ⅡＢ」の 3 科目 7 単位を含む 14 単位以上を必ず履修してください。

② 副コース専門科目群の中から 2 単位以上を必ず履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

なお、進級条件表の学系必修科目（11 科目 26 単位）は卒業するための必修科目となっていますので、卒業時までに必ず修得してください。

6．副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2 年次と 3 年次の 2 年間で、「3 年次から 4 年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3 年次から 4 年次への進級条件」は選択した主コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

(1)「他学系のコース（主）＋建築コース（副）」もしくは「他学系のコース（主）＋都市環境コース（副）」とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、学系共通科目群の中から 10 単位以上履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、コース専門科目群の中から 2 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

7．その他の注意事項

(1) 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生

が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学を認めています。進学を希望する学生は、早い段階からよい成績を取るように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業生よりもより専門性の高い職種、部門に就職することができます。大学院在籍中に、海外の大学院へ留学することもできます。近年は、建設系コンサルタント、設計コンサルタントなどの極めて専門性の高い職種の企業からは、大学院卒の学生に対する募集が多くなっています。

(2) 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。最近では自由応募で就職する学生が多く見られますが、大学に寄せられた求人情報を是非活用してください。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や、教養の広さ・深さです。これらは、日常生活における習慣やちょっとした取り組みによって蓄積されるものです。また、これらの力を付けるために、1年次に「フレッシュマンゼミ」、2年次に「キャリアワークショップ」、3年次に「ＴＤＵプロジェクト科目」を配置しています。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

(3) JABEE プログラムについて

本学系は JABEE（日本技術者教育認定機構）より、国際水準の技術者教育を行う教育組織としての認定を受けています。コース選択において、建築コースと都市環境コースを主・副コース（主・副は任意）として選択した学生はこの JABEE プログラムの履修生となります。JABEE プログラムを修了し、本学を卒業すると登録により技術士補の資格を得ることができます（＊）。学系では、学習・教育到達目標の達成度の評価方法、達成度の自己点検方法について解説した「JABEE プログラム学習の手引き」を配布しています。

また、JABEE プログラム（建築コース＋都市環境コース）以外の学生が、本学の転学部、転学科、転学系、転コース制度を利用して新たに JABEE プログラム（建築コース＋都市環境コース）に移籍する場合は、当該学生の既取得科目と単位数を勘案し、本学系の学習・教育目標の達成可能性を検討の上、個別に JABEE プログラム受け入れの可否を決定します。詳細は、学系ホームページを参照してください。

（＊）JABEE プログラムは定期的な審査により認定されるものであり、本学系は学生教育にとって有意義であるとの判断から、継続的にその認定を受ける方針を定めています。しかしながら、予期せぬ事情によりこの認定を受けられない場合、技術士補の資格を得られなくなることもありますので、この点についてはあらかじめ了承ください。

(4) 建築士プログラムについて

コースとは独立した教育課程として、建築士資格取得を目指した「建築士プログラム」が用意されています。この「建築士プログラム」を修了すると、大学卒業と同時に二級建築士と木造建築士資格の受験ができます。また、卒業後 2 年間の実務経験のあとに一級建築士資格の受験ができます。これらの受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。コースの進級条件等とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は､「資格」に関するページを参照してください。

(5) 建設系資格について

建築士プログラム同様、建設系の各種資格については、コースの進級条件とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

建築・都市環境学系の履修モデル図

1年	2年	3年	4年

共通教育科目・人間形成科目・英語科目

学部共通科目

数学基礎
基礎微積分学A
基礎微積分学B
基礎線形代数学A
基礎線形代数学B

物理学基礎
物理学基礎演習
物理学A
物理学B
基礎物理学実験

化学基礎
化学基礎演習
化学A
化学B
基礎化学実験

情報処理A
情報処理B

立体図学
工学基礎
生物科学
環境科学

専門科目

	1年	2年	3年	4年
導入	建築・都市環境学へのアプローチ 建築・都市デザイン概論			建築・都市環境卒業研究Ⅰ 建築・都市環境卒業研究Ⅱ
数理・情報	工学のための数学Ⅰ 基礎統計学	工学のための数学Ⅱ　計画数理 プログラミング演習Ⅰ	プログラミング演習Ⅱ	
構造	静力学	応用力学A・演習 応用力学B	鋼構造学　鉄筋コンクリート工学 構造実験	
地盤		地盤工学A・演習 土質実験	地盤工学B	
水理		流れの科学 水理学A・演習　水理学B	水文学 水理実験	
材料		建設材料学 材料実験		
施工			建設施工法 道路工学	
測量		測量学・演習 測量実習	リモートセンシング 空間情報工学	
設計製図	建築都市デザイン演習Ⅰ	建築都市デザイン演習ⅡA 建築都市デザイン演習ⅡB	建築都市デザイン演習ⅢA 建築都市デザイン演習ⅢB	
環境		水圏の環境 気圏・地圏の環境	都市衛生工学　環境アセスメント 生物圏の環境	
都市			景観デザイン　建設マネジメント 防災工学　河川・海岸計画 都市計画　交通計画 都市プロジェクトの評価	
建築		住居論　建築計画学 建築史　ランドスケープデザイン	建築デザイン論　建築法規 建築環境工学　建築設備 建築構法　建築構造学 耐震設計法　建築とアートワーク論	
職業		建築・都市環境インターンシップA 建築・都市環境インターンシップB	建築・都市環境インターンシップC 建築・都市環境インターンシップD	建築・都市環境インターンシップE 建築・都市環境インターンシップF

建築・都市環境学系　進級条件表

RG

（2016年度カリキュラム）

〔1年次から2年次への進級条件〕
　1年次に配当されている授業科目のうち30単位以上を修得のこと。
〔3年次から4年次への進級条件〕

<table>
<tr><th></th><th>区分</th><th colspan="2">進級条件</th></tr>
<tr><td rowspan="2">共通教育科目</td><td>人間形成科目群</td><td colspan="2">12単位以上修得のこと。
ただし「技術者倫理②」の単位は必ず修得のこと。</td></tr>
<tr><td>英語科目群</td><td colspan="2">6単位以上修得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門科目</td><td>学部共通科目群</td><td colspan="2">12単位以上修得のこと。
ただし「情報処理A②」「基礎物理学実験②」「基礎化学実験②」の6単位,かつ,下記の付表Aに示す学系指定科目から6単位以上を必ず修得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学系共通科目群
および
コース科目群</td><td>対象副コース</td><td>条件</td></tr>
<tr><td>建築・都市環境学系</td><td>(1)主コース専門科目から14単位以上修得のこと。
ただし「建築都市デザイン演習Ⅰ③」「建築都市デザイン演習ⅡA②」「建築都市デザイン演習ⅡB②」の単位を必ず修得のこと。
(2)副コース専門科目から6単位以上修得のこと。
(3)学系共通科目から28単位以上修得のこと。
ただし以下の条件(ⅰ)～(ⅲ)を満たすこと。
(ⅰ)「材料実験①」「土質実験①」「構造実験①」「水理実験①」から3単位以上を必ず修得のこと。
(ⅱ)下記の付表Bに示す学系必修科目から17単位以上を必ず修得のこと。
(ⅲ)下記の付表Cに示す学系専門科目から8単位以上を必ず修得のこと。</td></tr>
<tr><td>他学系</td><td>(1)主コース専門科目から14単位以上修得のこと。
ただし「建築都市デザイン演習Ⅰ③」「建築都市デザイン演習ⅡA②」「建築都市デザイン演習ⅡB②」の単位を必ず修得のこと。
(2)主コースの学系共通科目から22単位以上修得のこと。
ただし下記の付表Bに示す学系必修科目から17単位以上を必ず修得のこと。
(3)副コース専門科目から2単位以上修得のこと。
(4)副コースの学系共通科目から10単位以上を修得のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="4">総修得単位数が104単位以上であること</td></tr>
</table>

付表A：学系指定科目（4科目8単位）
「基礎微積分学A②」「基礎微積分学B②」「基礎線形代数学A②」「基礎線形代数学B②」

付表B：学系必修科目（11科目26単位）
「建築・都市環境学へのアプローチ②」「建築・都市デザイン概論②」「工学のための数学Ⅰ②」「静力学②」 「測量学・演習③」「測量実習②」「応用力学A・演習③」「地盤工学A・演習③」「水理学A・演習③」「基礎統計学②」 「プログラミング演習Ⅰ②」

付表C：学系専門科目（7科目14単位）
「応用力学B②」「地盤工学B②」「水理学B②」「計画数理②」「鉄筋コンクリート工学②」「建設材料学②」 「建設マネジメント②」

※　付表Bに示す学系必修科目は,卒業時までに全ての科目の単位を必ず修得のこと。

※　進級条件の単位数には,自由科目の単位は含まれません。

2016年度 カリキュラム 建築・都市環境学系 授業科目配当表

RG

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	建築士プログラム科目区分	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	導入	建築・都市環境学へのアプローチ	必修		○			②	1	1	1				70100
			建築・都市デザイン概論	必修		○			②	1			1	1	その他	70100
		数理・情報	工学のための数学Ⅰ	必修		○			②	1			1	1		70100
			工学のための数学Ⅱ	選択		○			2	2	1	1				70100
			基礎統計学	必修		○			②	1			1	1		70100
			計画数理	選択		○			2	2	1	1				70100
			プログラミング演習Ⅰ	必修			○		②	2			1	1		70100
			プログラミング演習Ⅱ	選択			○		2	3	1	1				70100
		構造	静力学	必修		○			②	1			1	1	構造力学	70100
			応用力学Ａ・演習	必修		○	○		③	2	2	2			構造力学	70100
			応用力学Ｂ	選択		○			2	2			1	1	構造力学	70100
			鉄筋コンクリート工学	選択		○			2	3	1	1			建築一般構造	70100
			鋼構造学	選択		○			2	3	1	1			建築一般構造	70100
			構造実験	選択				○	1	3	1	1			構造力学	70100
		地盤	地盤工学Ａ・演習	必修		○	○		③	2			2	2	構造力学	70100
			地盤工学Ｂ	選択		○			2	3	1	1			構造力学	70100
			土質実験	選択				○	1	2			1	1	構造力学	70100
		水理	流れの科学	選択		○			2	2	1	1				70100
			水理学Ａ・演習	必修		○	○		③	2	2	2				70100
			水理学Ｂ	選択		○			2	2			1	1		70100
			水文学	選択		○			2	3	1	1				70100
			水理実験	選択				○	1	3			1	1		70100
		測量	測量学・演習	必修		○	○		③	2	2	2			その他	70100
			測量実習	必修				○	②	2	2	2			その他	70100
		材料	建設材料学	選択		○			2	2	1	1			建築材料	70100
			材料実験	選択				○	1	2	1	1			建築材料	70100
		施工	建設施工法	選択		○			2	3	1	1			建築生産	70100
			建設マネジメント	選択		○			2	3			1	1	建築生産	70100
	G1 建築コース専門科目	建築	建築法規	選択	G1	○			1	3			1		建築法規	70100
			ランドスケープデザイン	選択	G1	○			2	2	1	1			その他	70100
			住居論	選択	G1	○			2	2			1	1	建築計画	70100
			建築計画学	選択	G1	○			2	2			1	1	建築計画	70100
			建築史	選択	G1	○			2	2			1	1	建築計画	70100
			建築設備	選択	G1	○			2	3			1	1	建築設備	70100
			建築デザイン論	選択	G1	○			2	3	1	1			建築計画	70100
			建築とアートワーク論	選択	G1	○			2	3	1	1			その他	70100
			建築環境工学	選択	G1	○			2	3	1	1			建築環境工学	70100
			耐震設計法	選択	G1	○			2	3			1	1	構造力学	70100
			建築構法	選択	G1	○			2	3			1	1	建築一般構造	70100
			建築構造学	選択	G1	○			2	3			1	1	構造力学	70100
		設計製図	建築都市デザイン演習Ⅰ	選択			○		3	1			3	3	建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅡＡ	選択			○		2	2	2	2			建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅡＢ	選択			○		2	2			2	2	建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅢＡ	選択	G1・G2		○		2	3	2	2			建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅢＢ	選択	G1・G2		○		2	3			2	2	建築設計製図	70100

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位数	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	建築士プログラム科目区分	教職コード
専門教育科目	G2 都市環境コース専門科目	都市	都市計画	選択	G2	○			2	3	1	1			建築計画	70100
			交通計画	選択	G2	○			2	3	1	1				70100
			景観デザイン	選択	G2	○			2	3	1	1			建築計画	70100
			道路工学	選択	G2	○			2	3	1	1				70100
			河川・海岸計画	選択	G2	○			2	3			1	1		70100
			空間情報工学	選択	G2	○			2	3			1	1		70100
			防災工学	選択	G2	○			2	3			1	1	その他	70100
			都市プロジェクトの評価	選択	G2	○			2	3			1	1	その他	70100
		環境	水圏の環境	選択	G2	○			2	2			1	1		70100
			気圏・地圏の環境	選択	G2	○			2	2			1	1		70100
			リモートセンシング	選択	G2	○			2	3	1	1				70100
			都市衛生工学	選択	G2	○			2	3	1	1				70100
			環境アセスメント	選択	G2	○			2	3			1	1		70100
			生物圏の環境	選択	G2	○			2	3			1	1		70100
		設計製図	建築都市デザイン演習Ⅰ	選択			○		3	1			3	3	建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅡA	選択			○		2	2	2	2			建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅡB	選択			○		2	2			2	2	建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅢA	選択	G1・G2		○		2	3	2	2			建築設計製図	70100
			建築都市デザイン演習ⅢB	選択	G1・G2		○		2	3			2	2	建築設計製図	70100
	コース専門科目	卒研等	建築・都市環境特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3		
			建築・都市環境卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			建築・都市環境卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
			建築・都市環境インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			建築・都市環境インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			建築・都市環境インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			建築・都市環境インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			建築・都市環境インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			建築・都市環境インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			職業指導	自由		○			4	3	1	1	1	1		70200
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					60600
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

建設系資格に関する科目・進級条件一覧表

区分	科目名	必選	単位数	学年	建築士	建設系資格	測量士	ビオトープ管理士	進級条件
学系共通１（実験）	材料実験	選択	1	2	*7	B			●
	土質実験	選択	1	2	*5	B	ろ		●
	構造実験	選択	1	3	*5	B			●
	水理実験	選択	1	3		B	ろ		●
学系共通２（必修）	静力学	必修	②	1	*5	A	ろ		○
	建築・都市デザイン概論	必修	②	1	*10				○
	建築・都市環境学へのアプローチ	必修	②	1					○
	工学のための数学Ⅰ	必修	②	1		A	ろ		○
	基礎統計学	必修	②	1		A	ろ		○
	プログラミング演習Ⅰ	必修	②	2		A			○
	測量学・演習	必修	③	2	*10		い		○
	測量実習	必修	②	2	*10		い		○
	応用力学Ａ・演習	必修	③	2	*5	B	ろ		○
	地盤工学Ａ・演習	必修	③	2	*5	B	ろ		○
	水理学Ａ・演習	必修	③	2		B	ろ		○
学系共通３（選択必修）	応用力学B	選択	2	2	*5	B	ろ		△
	地盤工学Ｂ	選択	2	3	*5	B	ろ		△
	水理学Ｂ	選択	2	2		B	ろ		△
	鉄筋コンクリート工学	選択	2	2	*6	B			△
	建設材料学	選択	2	2	*7	B			△
	計画数理	選択	2	2		A	ろ		△
	建設マネジメント	選択	2	3	*8	C	ろ		△
学系共通４（選択）	工学のための数学Ⅱ	選択	2	2		A	ろ		
	流れの科学	選択	2	2		B	ろ		
	鋼構造学	選択	2	3	*6	C			
	建設施工法	選択	2	3	*8	B			
	プログラミング演習Ⅱ	選択	2	3		A	ろ		
	水文学	選択	2	3		B	ろ		
コース専門１（建築）（都市環境）	建築都市デザイン演習Ⅰ	選択	3	1	*1				◎
	建築都市デザイン演習ⅡＡ	選択	2	2	*1				◎
	建築都市デザイン演習ⅡＢ	選択	2	2	*1				◎
	建築都市デザイン演習ⅢＡ	選択	2	3	*1				
	建築都市デザイン演習ⅢＢ	選択	2	3	*1				
コース専門２（建築）	住居論	選択	2	2	*2				
	建築計画学	選択	2	2	*2				
	建築史	選択	2	2	*2				
	ランドスケープデザイン	選択	2	2	*10				
	建築設備	選択	2	3	*4				
	建築法規	選択	1	3	*9				
	建築デザイン論	選択	2	3	*2				
	建築環境工学	選択	2	3	*3				
	建築構造学	選択	2	3	*5				
	耐震設計法	選択	2	3	*5		ろ		
	建築構法	選択	2	3	*6				
	建築とアートワーク論	選択	2	3	*10				
コース専門３（都市環境）	水圏の環境	選択	2	2		C		a	
	気圏・地圏の環境	選択	2	2		C	ろ		
	景観デザイン	選択	2	3	*2			b	
	都市計画	選択	2	3	*2	C	ろ	b	
	リモートセンシング	選択	2	3		B	ろ		
	空間情報工学	選択	2	3			ろ		
	都市衛生工学	選択	2	3		C	ろ		
	防災工学	選択	2	3	*10	C	ろ		
	環境アセスメント	選択	2	3		C		a	
	交通計画	選択	2	3		B	ろ		
	河川・海岸計画	選択	2	3		C	ろ	a c	
	都市プロジェクトの評価	選択	2	3	*10				
	道路工学	選択	2	3		C	ろ		
	生物圏の環境	選択	2	3				a bc	
コース専門4（卒研等）	建築・都市環境特別卒業研究	選択	3	3		C			
	建築・都市環境卒業研究　Ⅰ	必修	③	4		C			
	建築・都市環境卒業研究　Ⅱ	必修	③	4		C			

詳細は各資格のページを参照のこと

建築士
*1：建築設計製図
*2：建築計画
*3：建築環境工学
*4：建築設備
*5：構造力学
*6：建築一般構造
*7：建築材料
*8：建築生産
*9：建築法規
*10：必修科目以外

建設系資格
A：A群科目
B：B群科目
C：C群科目

測量士
い：必修科目
ろ：選択科目

ビオトープ管理士
a：共通
b：専門（計画）
c：専門（施工）

進級条件
（３年次から４年次）
主・副コースとも
建築・都市環境学系
◎：すべて履修
○：17単位以上
●：３単位以上
△：8単位以上
学系共通：28単位以上
主コース：14単位以上
副コース：6単位以上

主コースのみ
建築・都市環境学系
◎：すべて履修
○：17単位以上
学系共通：22単位以上
主コース：14単位以上

資格

資　格

1．本学卒業後に取得できる資格・免許

（1）卒業後資格が得られたり、試験免除等となったりする主な資格・免許を下記に記載します。

資格・免許	取得条件	取得しやすい学系	取り扱い機関
高等学校教諭１種免許状　数学	所定の単位を取得し申請した者は資格を得られる。詳しいことは学部編「教職課程」参照。	理学系 情報システムデザイン学系	各都道府県教育委員会
高等学校教諭１種免許状　工業		建築・都市環境学系 電子・機械工学系	
高等学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命理工学系	
高等学校教諭１種免許状　情報		理学系 情報システムデザイン学系 電子・機械工学系	
中学校教諭１種免許状　数学		理学系 情報システムデザイン学系	
中学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命理工学系	
測量士補	次ページ参照		国土交通省国土地理院
測量士			
一級建築士	次ページ参照	別記の「建築士プログラム」修了者	（財）建築技術教育普及センター
二級建築士			
木造建築士			
2級ビオトープ計画管理士・2級ビオトープ施工管理士	次ページ参照		（財）日本生態系協会
社会調査士	社会調査士標準カリキュラム科目（社会調査論Ａ・Ｂ、統計学Ⅰ・Ⅱ、多変量解析、社会調査実習Ⅰ・Ⅱの7科目）をすべて修得し、必要書類を提出することで資格を得られる。	情報システムデザイン学系	（社）社会調査協会
技術士補	受験資格については特に制限はない。4年制の理工系大学を卒業すれば、試験科目のうち共通科目が免除される。	全学系 ※建築・都市環境学系でJABEEプログラムを修了すると登録により技術士補の資格を得ることができる。詳細は226ページ参照	（社）日本技術士会
技術士	技術士補としての業務経験が4年以上の者、または技術士1次試験合格者で実務経験が7年を超える者は受験資格が得られる。	全学系	
ＥＩＴ（ＥＩ）	原則として4年生の工学系大学を卒業した者は、ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験の受験資格が得られる。この試験に合格するとＥＩＴまたはＥＩの資格が取得できる。	電子・機械工学系 生命理工学系	日本ＰＥ・ＦＥ試験協議会
ＰＥ	ＰＥ（Professional Engineer） ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験に合格し、実務経験（エンジニアリングに関連する技術業務 - 計画・研究・設計・分析・試験・評価又はこれらに関する指導）が4年以上ある者は受験の資格が得られる。		

※詳細は各取扱い機関に問合せすること。

※公務員試験については316ページを参照すること。

建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士を受験するためには、一定の基準を満たして単位を修得して卒業した後、定められた年数以上の実務経験を経なければなりません。

◇一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格を得るためには理工学部理工学科において「建築士プログラム」を修了する必要があります。「建築士プログラム」を修了した場合、定められた年数以上の実務経験の後に一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の各受験資格が得られます。受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。また、資格によって必要な修得単位数と実務経験年数が異なります。注意して履修計画を立ててください。

◇建築士プログラム修了条件

下表に示す条件を満たして卒業した者は「建築士プログラム」を修了したものとして認定し、卒業証明書に明記します。

<table>
<tr><th>必修科目</th><th colspan="3">一級建築士</th><th colspan="3">二級・木造建築士</th></tr>
<tr><td>建築設計製図</td><td colspan="3">7 単位以上</td><td colspan="3">5 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築計画</td><td colspan="3">7 単位以上</td><td colspan="3" rowspan="3">7 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築環境工学</td><td colspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築設備</td><td colspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>構造力学</td><td colspan="3">4 単位以上</td><td colspan="3" rowspan="3">6 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築一般構造</td><td colspan="3">3 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築材料</td><td colspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築生産</td><td colspan="3">2 単位以上</td><td colspan="3">1 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築法規</td><td colspan="3">1 単位以上</td><td colspan="3">1 単位以上</td></tr>
<tr><td>必修科目の
総単位数（a）</td><td colspan="3">30 単位以上</td><td colspan="3">20 単位以上</td></tr>
<tr><td>必修科目以外の
総単位数（b）</td><td colspan="3">適宜</td><td colspan="3">適宜</td></tr>
<tr><td>（a）＋（b）</td><td>60 単位以上</td><td>50 単位以上</td><td>40 単位以上</td><td>40 単位以上</td><td>30 単位以上</td><td>20 単位以上</td></tr>
<tr><td>建築実務の経験</td><td>2 年</td><td>3 年</td><td>4 年</td><td>0 年</td><td>1 年</td><td>2 年</td></tr>
</table>

必修科目（括弧内の数字は単位数を示す）

建築設計製図：建築都市デザイン演習Ⅰ(3)、ⅡA(2)、ⅡB(2)、ⅢA(2)、ⅢB(2)

建築計画　　：建築計画学(2)、住居論(2)、建築デザイン論(2)、建築史(2)、都市計画(2)、景観デザイン(2)

建築環境工学：建築環境工学(2)

建築設備　　：建築設備(2)

構造力学　　：静力学(2)、応用力学A・演習(3)、建築構造学(2)、応用力学B(2)、構造実験(1)、耐震設計法(2)、地盤工学A・演習(3)、地盤工学B(2)、土質実験(1)

建築一般構造：鉄筋コンクリート工学(2)、鋼構造学(2)、建築構法(2)
建築材料　　：建設材料学(2)、材料実験(1)
建築生産　　：建設施工法(2)、建設マネジメント(2)
建築法規　　：建築法規(1)

必修科目以外　：建築・都市デザイン概論(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、ランドスケープデザイン(2)、防災工学(2)、建築とアートワーク論(2)、都市プロジェクトの評価(2)

測量士補について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3 単位）、「測量実習」（2 単位）の 5 単位を含む測量に関する科目 30 単位以上を修得した者は、申請により測量士補の資格が得られます。

測量士について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3 単位）、「測量実習」（2 単位）の 5 単位を含む測量に関する科目 30 単位以上を修得した者は、測量士補の資格取得後、測量に関する 1 年以上の実務経験ののちに、申請により測量士の資格が得られます。

測量に関する科目（括弧内の数字は単位数を示す）

数学基礎(1)、物理学基礎(1)、物理学基礎演習(1)、基礎微積分学Ａ(2)、基礎微積分学Ｂ(2)、基礎線形代数学Ａ(2)、基礎線形代数学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、物理学Ｂ(2)、基礎物理学実験(2)、静力学(2)、工学のための数学Ⅰ(2)、基礎統計学(2)、プログラミング演習Ⅱ(2)、工学のための数学Ⅱ(2)、流れの科学(2)、耐震設計法(2)、地盤工学Ａ・演習(3)、水理学Ａ・演習(3)、応用力学Ａ・演習(3)、応用力学Ｂ(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、土質実験 (1)、水理実験 (1)、計画数理(2)、水理学Ｂ(2)、道路工学(2)、都市衛生工学(2)、建設マネジメント(2)、水文学(2)、地盤工学Ｂ(2)、防災工学(2)、都市計画(2)、リモートセンシング(2)、空間情報工学(2)、河川・海岸計画(2)、気圏・地圏の環境(2)、交通計画(2)

建設系資格の受験資格について

一定の基準を満たして卒業した者は、種目ごとに定められた実務経験の後に下記に示す建設系資格の「受験資格」が得られます。

●建設系資格

建設機械施工技士　（1 級・2 級）
土木施工管理技士　（1 級・2 級）
建築施工管理技士　（1 級・2 級）
電気工事施工管理技士　（1 級・2 級）
管工事施工管理技士　（1 級・2 級）
造園施工管理技士　（1 級・2 級）

●基準

（1）建築･都市環境学系の建築コース･都市環境コースを主コース･副コース（主･副は任意）とする。
（2）下記のＡ群からＣ群までの各群から 1 科目以上、Ｂ群から 17 単位以上、合計 30 単位以上修得すること。

【Ａ群】（括弧内の数字は単位数を示す）
数学基礎(1)、物理学基礎(1)、物理学基礎演習(1)、化学基礎(1)、化学基礎演習(1)、基礎微積分学Ａ(2)、基礎微積分学Ｂ(2)、基礎線形代数学Ａ(2)、基礎線形代数学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、物理学Ｂ(2)、基礎物理学実験(2)、化学Ａ(2)、化学Ｂ(2)、基礎化学実験(2)、生物科学(2)、情報処理Ａ(2)、情報処理Ｂ(2)、工学基礎(2)、工学のための数学Ⅰ(2)、基礎統計学(2)、工学のための数学Ⅱ(2)、計画数理(2)、プログラミング演習Ⅰ(2)、プログラミング演習Ⅱ(2)、静力学(2)

【Ｂ群】（括弧内の数字は単位数を示す）
応用力学Ａ・演習(3)、応用力学Ｂ(2)、鉄筋コンクリート工学(2)、構造実験(1)、地盤工学Ａ・演習(3)、地盤工学Ｂ(2)、土質実験(1)、流れの科学(2)、水理学Ａ・演習(3)、水理学Ｂ(2)、水文学(2)、水理実験(1)、建設材料学(2)、材料実験(1)、建設施工法(2)、リモートセンシング(2)、交通計画(2)

【Ｃ群】（括弧内の数字は単位数を示す）
鋼構造学(2)、都市衛生工学(2)、建設マネジメント(2)、道路工学(2)、水圏の環境(2)、気圏・地圏の環境(2)、環境アセスメント(2)、防災工学(2)、都市計画(2)、河川・海岸計画(2)、建築・都市環境特別卒業研究(3)、建築・都市環境卒業研究Ⅰ(3)、建築・都市環境卒業研究Ⅱ(3)

2級ビオトープ計画管理士・2級ビオトープ施工管理士について

下記の分野の指定科目全てを受験申込の時点で単位を修得済み、または受験年度内に単位修得の見込みがある場合は各試験科目について、択一問題の半分が免除されます。この制度は理工学科の学生に適用されます。卒業生には、卒業した日から受験申込日までの期間が5年未満の方まで適用されます。

なお、この制度を適用して試験に合格しても、指定科目の単位修得が済んでいない場合は、ビオトープ管理士として認証されませんので注意してください。

＜共通＞

分野	指定科目
生態学	水圏の環境
	生物圏の環境
ビオトープ論	水圏の環境
	生物圏の環境
環境関連法	河川・海岸計画
	環境アセスメント

＜専門＞

専門科目	指定科目
計画部門	都市計画
	景観デザイン
	生物圏の環境
施工部門	河川・海岸計画
	生物圏の環境

第３章

教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

中学校や高校の教員になるということは、社会で重要な役割を担うことになります。そのような教員を育てるということは、社会においても大事な責務である為、直接大学とは関係のない方々にもお世話になることになります。

教職課程の履修希望者は、教職関係科目を充分に理解できる能力（単位修得）は勿論のこと、教員としての適格性が必要であることはいうまでもありません。また、一般の学生以上に手続きや確認事項等で手間暇がかかります。それらが全て完了して初めて免許状を手にすることができるのです。

従って、当然のことながら、いい加減な気持ちで受けていると、学外者の方にご迷惑をお掛けしたり、後輩にも影響が出る場合もあります。自分の進路をよく考えながら、履修を進めていくようにしてください。

教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された共通教育科目及び各学系で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。講義概要はシラバスにおいて、把握してください。また、教育実習や介護等体験を伴う科目の履修や実習・体験等については、必要な時期に説明会や事前指導が行われますので、必ず出席するようにしてください。

なお、実習は学外で行うこととなっており、実習先が児童・生徒・高齢者といった抵抗力の弱い方々が対象となりますので、感染症に対する予防対策としてワクチン接種等が必須となります。掲示や窓口の指示に従ってください。

これらの連絡は DENDAI － UNIPA にて行われます。DENDAI － UNIPA の情報に注意し見落としがないようにしてください。

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。

大学入学 ➡ 教職課程履修 ➡ 教育実習
介護等体験 ➡ 単位修得
卒業 ➡ 免許状取得

月＼年次		1　年	2　年	3　　年	4　　年
4月	上旬	教職課程説明会			
		教　職　課　程　履　修　費　納　入			
	中旬	教　職　科　目　の　履　修　登　録			
	下旬				教育実習関係書類配布 教育実習事前オリエンテーション
5月					
6月					教育実習（実習校により実施期間は異なる）
9月	中旬	教　職　課　程　履　修　費　納　入			
10月	上旬				教員免許状一括申請に関する説明会
11月	上旬				一括申請書類提出
1月	下旬		教育実習オリエンテーション		
2月			教育実習校受入れ可否打診		
3月	上旬		教育実習申込書提出 教育実習許可判定発表 教育実習依頼に関する書類配布	進級発表 教育実習許可判定最終発表	卒業発表
	中旬				教員免許状交付 （卒業式当日）

※教職科目の履修登録は他の授業科目と同様に修正登録を行うことができます。

※各々の詳細については、その都度 DENDAI － UNIPA にてお知らせします。

※教職課程履修費については、DENDAI － UNIPA・説明会等でお知らせします。

取得できる免許状の種類・教科と取得しやすい学系

学部卒業に必要な単位の修得のほかに、教科及び教職に関する授業科目を修得することにより、次の教員免許状が授与されます。

なお、理工学部では、理工学科 1 学科の大学科制を導入し、5 学系・15 コースを設置しています。

自分が所属する学系から選択する「主コース」、自分が所属する学系または自分が所属する学系以外の学系から選択できる「副コース」の組み合わせにより、取得しやすい教員免許状の種類・教科が異なります。

それぞれの教員免許状の種類・教科が取得しやすい学系は、主に下表のとおりとなります。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科	左記免許状が取得しやすい学系
学部卒業	中学校教諭一種免許状	数　学	理学系、情報システムデザイン学系
		理　科	理学系、生命理工学系
	高等学校教諭一種免許状	数　学	理学系、情報システムデザイン学系
		理　科	理学系、生命理工学系
		情　報	理学系、情報システムデザイン学系 電子・機械工学系
		工　業	電子・機械工学系、建築・都市環境学系

履　修　要　件

免許法に基づき本学部で免許状を取得するための最低単位数は、次のとおりです。

(1) 本学部における最低修得単位数

免許の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合　計
中学校教諭一種免許状	学士の学位	20	35	4	59
高等学校教諭一種免許状	学士の学位	20	27	12	59

注）基礎資格とは、学士の学位を有することであり、本学部を卒業することにより得られます。

(2) 文部科学省が定める科目

教職に関する科目、教科に関する科目の他に、人間形成科目群・学部共通科目群・英語科目群より**日本国憲法 2 単位、体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位、情報機器の操作 2 単位**の 8 単位を必ず修得しなければなりません(人間形成科目群、学部共通科目群・英語科目群の科目配当表の教職コード欄参照)。

文部科学省が定める科目	必要単位	教職コード	本学での該当科目　　( ) 内は、単位数
「日本国憲法」	2	00100	日本国憲法(2)
「体　　育」	2	00200	体育Ⅰ(1)、体育Ⅱ(1)、体育Ⅲ(1)、体育Ⅳ(1)、体育Ⅴ(1)、体育Ⅵ(1)
「外国語コミュニケーション」	2	00300	ドイツ語入門Ⅰ (1) ドイツ語入門Ⅱ (1) 基礎ドイツ語Ⅰ (1) 基礎ドイツ語Ⅱ (1) 初級ドイツ語Ⅰ (1) 初級ドイツ語Ⅱ (1) フランス語入門Ⅰ (1) フランス語入門Ⅱ (1) 基礎フランス語Ⅰ (1) 基礎フランス語Ⅱ (1) 初級フランス語Ⅰ (1) 初級フランス語Ⅱ (1) 中国語入門Ⅰ (1) 中国語入門Ⅱ (1) 基礎中国語Ⅰ (1) 基礎中国語Ⅱ (1) 初級中国語Ⅰ (1) 初級中国語Ⅱ (1) 英語ⅠA (1) 英語ⅠB (1) 英語ⅡA (1) 英語ⅡB (1) 英語ⅢA (1) 英語ⅢB (1) 英語ⅣA (1) 英語ⅣB (1) 英語ⅤA (1) 英語ⅤB (1)
「情報機器の操作」	2	00400	情報処理A (2)

(3) 教科に関する科目

教科に関する科目については、科目配当表の教職コード欄に免許法上の区分が記載されています。下記の表は区分ごとにまとめたものです。(2016 年 4 月 1 日現在)

数学（中学校一種・高校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。(　) 内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
代数学	20100	○基礎線形代数学Ａ(2)※ 基礎線形代数学Ｂ(2)※ 線形代数学Ⅰ(2) 線形代数学Ⅱ(2) 代数学Ⅰ(2) 代数学Ⅰ演習(1) 応用線形代数学(2) 代数入門(2) 代数学Ⅱ(2) 代数学Ⅲ(2) 代数学Ⅳ(2)	○基礎線形代数学Ａ(2)※ 基礎線形代数学Ｂ(2)※ 情報・符号理論(2)
幾何学	20200	位相空間Ⅰ(2) 位相空間Ⅰ演習(1) ○幾何学Ⅰ(2) 位相空間Ⅱ(2) 幾何学Ⅱ(2) 幾何学Ⅲ(2)	○数理とデザイン(2) 幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2)
解析学	20300	○基礎微積分学Ａ(2)※ 基礎微積分学Ｂ(2)※ 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅰ演習(2) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅱ演習(2) 解析学Ⅲ(2) 解析学Ⅲ演習(2) 解析学Ⅳ(2) 常微分方程式(2) 常微分方程式演習(1) 複素解析学Ⅰ(2) 関数解析学(2) 偏微分方程式(2) 複素解析学Ⅱ(2)	○基礎微積分学Ａ(2)※ 基礎微積分学Ｂ(2)※ 動的システム(2)
「確率論、統計学」	20400	○確率論(2) 統計学(2)	○基礎確率論(2) 統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 多変量解析(2) 確率ネットワーク(2)
コンピュータ	20500	○数理プログラミングⅠ(2) 離散数学(2) 画像解析(2)	情報数学(2)　コンピュータ基礎Ⅱ(2) アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2) コンピュータグラフィックス(2) ○コンピュータ基礎Ⅰ(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、学部共通科目から履修すること。

　　の科目は、理学系から履修すること。

理科（中学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命理工学系配当科目
物理学	30100	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※ 計測と分析(2) 熱力学(2) 統計力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅱ(2) 力学(2) 電磁気学(2) 物理数学(2) 連続体の物理(2) 統計力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2) 物性論Ⅰ(2) 物性論Ⅱ(2)	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	30200	○基礎物理学実験(2)※ 物理学実験(2) 物理学課題探求Ⅰ(2) 物理学課題探求Ⅱ(2)	○基礎物理学実験(2)※
化学	30300	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 量子化学(2) 生命の化学(2) 基礎有機化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅰ(2) 材料化学(2) 反応速度論(2) 分子分光学(2) 化学熱力学(2) 有機化学Ⅱ(2) 界面化学(2) 無機化学Ⅱ(2) 高分子科学(2) 電気化学(2) 有機合成化学(2)	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 生命科学入門(2) 生命の化学(2) 生化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 生命物理化学(2) 有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2) 生命分析化学(2) 生体高分子科学Ⅰ(2) 電気化学(2) 再生医化学(2)
化学実験（コンピュータ活用を含む。）	30400	○基礎化学実験(2)※ 化学実験Ａ(2) 化学実験Ｂ(2) 化学実験Ｃ(2)	○基礎化学実験(2)※
生物学	30500	生物科学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2)	細胞の科学(2) 環境生命工学(2) ○生物学(2) 遺伝学(2) 分子生物学(2) 植物生理学(2) 微生物学(2) 免疫学(2) 生体組織学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 細胞工学(2) 応用微生物学(2) 生物反応学(2) 生物科学(2)※
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	30600	●生命理工学実験Ⅰ(2) ●生命理工学実験Ⅱ(2)	●生命理工学実験Ⅰ(2) ●生命理工学実験Ⅱ(2) 生命科学実験Ⅰ(2) 生命科学実験Ⅱ(2) 生物環境実験Ⅰ(2) 生物環境実験Ⅱ(2)
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。
●の科目は、どちらか 1 科目を必ず履修し修得すること。
※の科目は、学部共通科目から履修すること。
　　の科目は、生命理工学系から履修すること。

理科（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命理工学系配当科目
物理学	30100	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※ 計測と分析(2) 熱力学(2) 統計力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅱ(2) 力学(2) 電磁気学(2) 物理数学(2) 連続体の物理(2) 統計力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2) 物性論Ⅰ(2) 物性論Ⅱ(2)	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※
化学	30300	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 量子化学(2) 生命の化学(2) 基礎有機化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅰ(2) 材料化学(2) 反応速度論(2) 分子分光学(2) 化学熱力学(2) 有機化学Ⅱ(2) 界面化学(2) 無機化学Ⅱ(2) 高分子科学(2) 電気化学(2) 有機合成化学(2)	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 生命科学入門(2) 生命の化学(2) 生化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 生命物理化学(2) 有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2) 生命分析化学(2) 生体高分子科学Ⅰ(2) 電気化学(2) 再生医化学(2)
生物学	30500	生物科学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2)	細胞の科学(2) 環境生命工学(2) ○生物学(2) 遺伝学(2) 分子生物学(2) 植物生理学(2) 微生物学(2) 免疫学(2) 生体組織学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 細胞工学(2) 応用微生物学(2) 生物反応学(2) 生物科学(2)※
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	30200	○基礎物理学実験(2)※ 物理学実験(2) 物理学課題探求Ⅰ(2) 物理学課題探求Ⅱ(2)	○基礎物理学実験(2)※
化学実験（コンピュータ活用を含む。）	30400	○基礎化学実験(2)※ 化学実験Ａ(2) 化学実験Ｂ(2) 化学実験Ｃ(2)	○基礎化学実験(2)※
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	30600	● 生命理工学実験Ⅰ(2) ● 生命理工学実験Ⅱ(2)	●生命理工学実験Ⅰ(2) ●生命理工学実験Ⅱ(2) 生命科学実験Ⅰ(2) 生命科学実験Ⅱ(2) 生物環境実験Ⅰ(2) 生物環境実験Ⅱ(2)
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。
●の科目は、どちらか 1 科目を必ず履修し修得すること。
※の科目は、学部共通科目から履修すること。
　　の科目は、生命理工学系から履修すること。

情報（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	数理情報学入門(2) ○情報と倫理(2) 技術者倫理(2)※	情報システムデザイン概論(2)　技術者倫理(2)※ ○情報社会学入門(2)
コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)	60200	○数理プログラミングⅡ(2)	基本情報処理技術(2)　コンピュータサイエンス実験(1) 数値解析学(2)　○コンピュータプログラミングⅠ・同演習(3) コンピュータ設計学(2)
情報システム(実習を含む。)	60300	データ科学(2) ○数理情報学基礎演習(2)	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(2)　ソフトウェア工学(2) 数理最適化入門(2)　○コンピュータプログラミングⅡ・同演習(3) オペレーティングシステム(2)　オブジェクト指向プログラミング(2) データベース(2)
情報通信ネットワーク(実習を含む。)	60400	○情報論(2)	情報伝送工学(2)　コンピュータサイエンス演習Ⅱ(2) ○情報ネットワーク概論(2)　ネットワークプログラミング(2) ワイヤレスネットワーク(2)
マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)	60500	○画像処理(2) 人工知能(2) 数理情報学応用演習(2)	○造形デザイン入門(2)　ＣＧプログラミング(2) 知識と推論(2)　インタラクティブデザイン論(2) 組み込みシステム(2)　コンピュータサイエンス演習Ⅰ(2) 画像工学(2)　論理プログラミング(2)
情報と職業	60600	情報と職業入門(1) 情報と職業(2)	情報と職業入門(1)　情報と職業(2)

免許法上の区分	教職コード	電子・機械工学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	○情報と倫理(2)　技術者倫理(2)※
コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)	60200	応用数値解析(2)　信号処理工学Ａ(2)　○コンピュータ工学Ⅰ(2) 信号処理工学Ｂ(2)　応用プログラミング(2)
情報システム(実習を含む。)	60300	計算機工学(2)　電子情報回路Ｂ・演習(3)　○電子情報回路Ａ・演習(3)
情報通信ネットワーク(実習を含む。)	60400	○情報論(2)　通信工学(2)　電子情報実験Ⅰ(2)
マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)	60500	○コンピュータ工学Ⅱ(2)　電子情報実験Ⅱ(2)
情報と職業	60600	情報と職業入門(1)　情報と職業(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、人間形成科目から履修すること。

　　の科目は、理学系から履修すること。

工業（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	建築・都市環境学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○建築・都市環境学へのｱﾌﾟﾛｰﾁ(2)	水文学(2)	景観デザイン(2)
		○建築・都市デザイン概論(2)	水理実験(1)	防災工学(2)
		工学のための数学Ⅰ(2)	建設材料学(2)	都市計画(2)
		基礎統計学(2)	材料実験(1)	交通計画(2)
		工学のための数学Ⅱ(2)	建設施工法(2)	建設マネジメント(2)
		計画数理(2)	道路工学(2)	河川・海岸計画(2)
		プログラミング演習Ⅰ(2)	測量学・演習(3)	都市プロジェクトの評価(2)
		プログラミング演習Ⅱ(2)	測量実習(2)	建築法規(1)
		静力学(2)	リモートセンシング(2)	ランドスケープデザイン(2)
		応用力学Ａ・演習(3)	空間情報工学(2)	住居論(2)
		応用力学Ｂ(2)	建築都市デザイン演習Ⅰ(3)	建築計画学(2)
		鉄筋コンクリート工学(2)	建築都市デザイン演習ⅡＡ(2)	建築史(2)
		鋼構造学(2)	建築都市デザイン演習ⅡＢ(2)	建築設備(2)
		構造実験(1)	建築都市デザイン演習ⅢＡ(2)	建築デザイン論(2)
		地盤工学Ａ・演習(3)	建築都市デザイン演習ⅢＢ(2)	建築とアートワーク論(2)
		地盤工学Ｂ(2)	水圏の環境(2)	建築環境工学(2)
		土質実験(1)	気圏・地圏の環境(2)	耐震設計法(2)
		流れの科学(2)	都市衛生工学(2)	建築構法(2)
		水理学Ａ・演習(3)	環境アセスメント(2)	建築構造学(2)
		水理学Ｂ(2)	生物圏の環境(2)	情報処理Ｂ(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)		

免許法上の区分	教職コード	電子・機械工学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○電子・機械工学概論(2)	工業熱力学・演習(3)	先端エレクトロニクス概論(2)
		電気回路Ⅰ・演習(3)	形状創成学・演習(3)	電子物理学(2)
		電気回路Ⅱ・演習(3)	流体力学Ⅱ・演習(3)	基礎製図(2)
		○電磁気学Ⅰ・演習(3)	構造・機能材料学(2)	機械工学実験・実習Ⅰ(1)
		電磁気学Ⅱ・演習(3)	材料変形学(2)	機械工学実験・実習Ⅱ(1)
		材料力学Ⅰ・演習(3)	自動車工学(2)	機械工学実験・実習Ⅲ(1)
		材料力学Ⅱ・演習(3)	過渡現象(2)	機械工学実験・実習Ⅳ(1)
		基礎力学Ⅱ・演習(3)	○制御工学Ⅰ・演習(3)	機械設計製図Ⅰ(1)
		流体力学Ⅰ・演習(3)	制御工学Ⅱ・演習(3)	機械設計製図Ⅱ(1)
		工業数学Ⅰ(2)	電子制御機械工学(2)	機械設計製図Ⅲ(1)
		工業数学Ⅱ(2)	機械計測(2)	機械設計製図Ⅳ(1)
		生体工学(2)	パワーエレクトロニクス(2)	電子工学基礎実験Ⅰ(2)
		福祉機器学(2)	エネルギー変換工学(2)	電子工学基礎実験Ⅱ(2)
		機械要素Ⅰ(2)	電気・電子計測工学(2)	情報処理Ｂ(2)※
		機械要素Ⅱ(2)	ディジタル回路(2)	
職業指導	70200	○職業指導(4)		

○の科目は、必ず履修し修得すること。
※の科目は、学部共通科目から履修すること。

(4) 教職に関する科目

教職に関する科目とは、教職課程を履修する学生のために特設した科目で、下記の科目が設置されています。中学校免許は下記の科目の中から、必修科目を含めて 35 単位、高校免許は最低 27 単位修得することになります。(教科教育法は、当該教科のみの修得)。　　(　) 内は単位数

免許法上の区分			単位数	教職コード	授業科目名	備考
	科目	各科目に含める必要な事項				
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会の提供等	2	10100	教職入門(2)	中学・高校免許必修科目
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	10200	教育学概論(2)	中学・高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学(2)	中学・高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			教育社会学(2)	中学・高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学校 15 高校 9	10300	教育課程論(2)	中学・高校免許必修科目
		特別活動の指導法			特別活動論(1)	中学・高校免許必修科目
		教育の方法及び技術			教育の方法と技術(2)	中学・高校免許必修科目
		各教科の指導法			数学科教育法A(2) 数学科教育法B(2) 数学科指導法A(2) 数学科指導法B(2) 理科教育法A(2) 理科教育法B(2) 理科指導法A(2) 理科指導法B(2) 工業科教育法A(2) 工業科教育法B(2) 情報科教育法A(2) 情報科教育法B(2)	中学校免許は当該教科の教育法A、B、指導法A、B必修、 高校免許は当該教科の教育法A、B必修(指導法A、Bはカウントされない)
		道徳の指導法			道徳教育論(2)	中学校必修・高校選択科目
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法	4	10400	生徒・進路指導論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育相談の理論及び方法			教育相談(2)	中学・高校免許必修科目
第五欄	教育実習		中学校 6 高校 4	10500	教育実習セミナー(2) 教育実習Ⅰ(2) 教育実習Ⅱ(2)	中学・高校免許必修科目 中学・高校免許必修科目 中学校免許のみ必修
第六欄	教職実践演習		2	10600	教職実践演習(中・高)(2)	中学・高校免許必修科目

教科又は教職に関する科目

	総合演習		2	10700	教職総合演習(2)	中学校必修・高校選択科目

注) 中学校免許取得の場合は、120 時間以上(3 週間～4 週間)、高校免許取得の場合は、60 時間以上(2 週間)の教育実習を行なう必要があります。
注) ▭は、卒業単位に算入されます。したがって履修上限 48 単位に入ります。
注) 備考欄の必修は、取得しようとする免許状に対してであり、卒業するための必要要件ではありません。
注)「道徳教育論」については高校免許のみの取得希望者が単位修得した場合は、「教科又は教職に関する科目」としてカウントされます。

(5) 介護等の体験

中学校の教員免許状を取得する場合に必要となります。介護等の体験は、満 18 歳を過ぎてから免許取得までの時期に省令等で指定する施設等で 7 日間の介護等の体験を行い、その体験を施設等の長に証明していただくことにより、小・中学校教諭一種免許状授与の要件となります。

この法律は平成 10 年度入学生より適用されています。本学においては、この介護等の体験の為に「**教職総合演習**」という科目を開講しています（前・後期開講）。介護等の体験希望者は、**介護等体験を行う年度以前に必ずこの科目を履修し、単位を修得する必要があります。**

介護等の体験の実施は、本学では原則として特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間の合計 7 日間としています。各々の学校・施設ごとに課せられた準備をして、事前指導（学内）を受けてから体験を実施します。体験終了後に体験を振り返る事後指導（学内）を受けて、介護等体験が完了します。

介護等の体験申し込みは、教務担当が、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会を通して特別支援学校、社会福祉施設へ行います。その際に、賠償責任保険への加入が必要となります。手続き方法等については、教職課程説明会（4 月上旬）、「教職総合演習」の授業中、介護等体験申込み説明会（12 月上旬）、DENDAI － UNIPA で行いますので、中学校の教員免許状の取得希望者は、必ず出席してください。

(6) 高等学校一種「工業」の教科について

高等学校一種「工業」の教員免許を取得するためには、本来は、それぞれ教科に関する科目、教職に関する科目の中の、定められた科目・単位を修得しなければなりませんが、現在のところ、免許法上の附則事項により、「教職に関する科目」の単位については、教科に関する科目の同数の単位の修得をもってこれに替えることができます。従って、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、人間形成科目群・学部共通科目群・英語科目群の中から文部科学省が定める科目（8 単位：P.243 参照）を修得し、かつ工業の教科に関する科目（「職業指導：4 単位」を含む）を 59 単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。（ただし、所属学系の工業の教科に関する科目が少ない場合は、前記の措置では 59 単位を充足しませんので、教職に関する科目あるいは他学系の工業の教科に関する科目を履修して単位を修得してください）

従ってこの措置で免許状の取得は可能ではありますが、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目であり、修得しているといないとでは、教職に就いた場合は勿論のこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異がでてくることがあります。こうした点からも、教員を志望する者は、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門、教育学概論、教育心理学、工業科教育法Ａ、工業科教育法Ｂを修得しておくことを勧めます。

教職課程の履修手続

1．履修登録

所定の時期に履修登録を行ってください。登録方法は、他の科目と同様です。

2．教職課程履修費の納入

教職課程の授業科目を履修するためには、履修登録の前に**教職課程履修願**を提出し、所定の**履修費（10,000 円：平成 27 年度実績）**を納入することが必要です。履修費を納入しないと下記の教職科目を履修することが出来ません。

これらの手続は前期は 4 月上旬頃、後期は 9 月中旬頃行いますので、DENDAI － UNIPA で確認をしてください。

教育課程論	道徳教育論
特別活動論	生徒・進路指導論
教育の方法と技術	教育相談
数学科教育法Ａ	教育実習セミナー
数学科教育法Ｂ	教育実習Ⅰ
数学科指導法Ａ	教育実習Ⅱ
数学科指導法Ｂ	教職実践演習（中・高）
工業科教育法Ａ	情報と倫理
工業科教育法Ｂ	職業指導
理科教育法Ａ	
理科教育法Ｂ	
理科指導法Ａ	
理科指導法Ｂ	
情報科教育法Ａ	
情報科教育法Ｂ	

◎在学中（学部・大学院）、１回の納入とする。

◎いずれの場合においても、一度納入したら履修費は返金しない。

3．教職課程履修券の交付

教職課程履修費を納入した者に、「教職課程履修券」を交付します。この履修券は卒業時に免許状を受領する際に必要となります。また、在学中有効ですが、再発行はしませんので、大切に保管してください。

4．履修カルテについて

教職課程を履修する学生は履修履歴を把握するために履修カルテを作成することになっています。履修カルテを作成しないと教員免許は取得できませんので、必ず説明会等に出席をして、履修カルテを作成するようにしてください。

教　育　実　習

教育実習は、4年次生になって、中学校は120時間以上（3週間～4週間）、高等学校は60時間以上（2週間）以上にわたり、教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。高校一種「工業」の免許状を取得する場合は、前記したように必ずしも行う必要はありません。尚、教育実習期間中の就職活動等での欠席は認められませんので注意してください。

1．教育実習履修の条件

本学においては従来より、教育実習を行う場合、教育実習を大学として許可するかどうかの判定基準を設けています。判定基準に合格しないと教育実習が行えませんので注意してください。皆さんに適用される判定基準については、決まり次第DENDAI－UNIPAでお知らせします。参考に昨年度の判定基準を掲載しておきます。

参考：平成27年度2年次生・3年次生教育実習許可判定基準について

＜2年次学年末許可判定基準＞

3年次に進級できる者であり、尚且つ2年次学年末の修得単位数（教職・自由科目除く）が正規進級者72単位以上、留年者80単位以上とする。

＜3年次学年末許可判定基準＞

以下の教職に関する科目において5科目以上が合格点に達していて、3年次後期配当科目「教育の方法と技術」の単位を修得し、かつ4年次へ進級した者（2年次学年末許可判定に合格しても、3年次学年末で不合格の場合は教育実習は行えません）。

科目名	配当学年	配当期
教職入門	全年次	前期
教育学概論	全年次	前期
教育心理学	2・3・4年次	前期
特別活動論	全年次	後期
教育課程論	全年次	前期
道徳教育論	全年次	前期
生徒・進路指導論	全年次	前期
教育社会学	全年次	後期
教科教育法A ※	2・3・4年次	前期
教職総合演習	全年次	前期・後期
教育相談	2・3・4年次	後期

※各教科教育法Ａとは、数学科教育法Ａ、工業科教育法Ａ、理科教育法Ａ、情報科教育法Ａ。ただし、教科教育法Ａは、複数教科の単位を修得しても１科目の合格扱いとなるので注意してください。

２．教育実習校

実習希望者は、２年次の後期（１月頃）の教育実習オリエンテーションに出席し、教務担当に「教育実習申込書」を必ず提出してください（留年した場合は再度提出）。そして、２年次終了の春休みから自分の出身中学・高校、または縁故のある学校へ出向いて依頼をしてください。なお本学部では１．の教育実習許可判定基準により、実習校への正式な依頼を認めています。

依頼するにあたっては、本学で発行する「教育実習依頼状」等を実習校へ提出する必要がありますので、教育実習を許可された者は DENDAI － UNIPA でお知らせします。

３．教育実習の手続き

① **「教育実習申込書」**（用紙は教務担当にあり）を、教務担当へ提出すること。

② 教育実習費・謝礼金が必要な場合は、大学ではなく各自の負担となりますので、直接実習校に納入すること。

③ 実習の際、次の必要書類を整えて、実習校へ携行すること。

イ）教育実習日誌（本学部所定のものを各自売店で購入すること）

ロ）出勤簿用紙（教務担当で用意する）

ハ）教育実習評価表用紙（教務担当で用意する）

ニ）教育実習終了証明書用紙（教務担当で用意する）

④ 実習終了後、ただちに教育実習日誌を「教育実習セミナー」の担当教員へ提出すること。

※ みなさんは実習が終了しましたら、必ず実習校へお礼状を送るようにしてください。

免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学部の場合は埼玉県の教育委員会となります。

申請方法には、大学が免許状の申請を一括して受付け、卒業式当日に免許状が交付される**一括申請**と、個人が直接教育委員会へ申請する**個人申請**があります。

1．一括申請

卒業式当日に免許状交付を希望する学生については、教務担当が事務を代行して、埼玉県教育委員会へ一括申請を行います。10 月上旬頃に一括申請説明会を行いますので、希望者は必ず出席し、申請手続きを行ってください。

審査合格者に対しては、卒業式当日に、**教職課程履修券**と引きかえに教員免許状を交付します。

2．個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ、個人で申請して交付を受ける方法です。詳しい事は各教育委員会へ各自で問い合わせてください。在学中適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わる事があります。その場合は取得しなくてはならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。

○　免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験する際に必要な「教育職員免許状取得見込証明書」は、現在履修中の授業科目を修得見込として扱い、教務担当で発行します。

○　免許状取得証明書

免許状を取得した後、「教育職員免許状取得証明書」が必要となった場合は、交付を受けた教育委員会へ請求してください。

2016年度 カリキュラム 教職科目 授業科目配当表

教職

科目群	分野	科目名	必選	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	単位	学年	前期 前前期	前期 前後期	後期 後前期	後期 後後期	備考	教職コード
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	選択	○			2	全	1	1				10100
		教育学概論	選択	○			2	全	1	1				10200
		教育心理学	選択	○			2	2	1	1				10200
		特別活動論	自由		○		1	全			1/4期1コマ			10300
		教育課程論	自由	○			2	全	半期１コマ					10300
		教育の方法と技術	自由	○			2	3			1	1		10300
		教育実習セミナー	自由	○			2	4	1	1				10500
		教育実習Ⅰ	自由			○	2	4	1	1	1	1	※1 通年科目	10500
		教育実習Ⅱ	自由			○	2	4	1	1	1	1	※2 通年科目	10500
		道徳教育論	自由	○			2	全	1	1				10300
		生徒・進路指導論	自由	○			2	全	1	1				10400
		教育社会学	選択	○			2	全			1	1		10200
		数学科教育法Ａ	自由	○			2	2	1	1			※１	10300
		数学科教育法Ｂ	自由	○			2	2			1	1	※１	10300
		数学科指導法Ａ	自由	○			2	3	1	1			※２	10300
		数学科指導法Ｂ	自由	○			2	3			1	1	※２	10300
		情報科教育法Ａ	自由	○			2	2	1	1				10300
		情報科教育法Ｂ	自由	○			2	2			1	1		10300
		工業科教育法Ａ	自由	○			2	2	1	1				10300
		工業科教育法Ｂ	自由	○			2	2			1	1		10300
		理科教育法Ａ	自由	○			2	2	1	1			※１	10300
		理科教育法Ｂ	自由	○			2	2			1	1	※１	10300
		理科指導法Ａ	自由	○			2	3	1	1			※２	10300
		理科指導法Ｂ	自由	○			2	3			1	1	※２	10300
		教育相談	自由	○			2	2			1	1		10400
		教職実践演習（中・高）	自由		○		2	4			1	1		10600
教科又は教職に関する科目		教職総合演習	選択		○		2	全	半期１コマ（但し前・後期開講）					10700
教科に関する専門科目		情報と倫理	自由	○			2	2			1	1		60100
		情報と職業入門	選択	○			1	全	1					60600
		情報と職業	選択	○			2	全			1	1	※３	60600
		職業指導	自由	○			4	3	1	1	1	1	通年科目	70200

※1中学・高校免許用　※2　中学免許用　※3　理学系のみ2年次配当

第４章

学籍と学費

学籍について

1．学籍とは

学籍とは、学生としての身分を有することを意味し、本学の入学試験に合格して入学手続きを完了し、入学を許可された者が、本学で教育・研究活動を行える学生としての学籍を取得できます。また卒業することにより本学の学生としての身分を終了します。

「在籍」とは本学の学籍を有していることであり、また「在学」とは本学の学籍を有する学期において修学していることをいいます。

2．学籍の異動

みなさんは入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業によりその身分を終了しますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。いったん入学した以上、卒業を望むのが当然ですが、どうしても退学せざるを得ない事情も生じますでしょうし、病気などのためやむなく休学しなければならない事態も起こってくるかもしれません。そのようなときには、学生厚生担当で次のような手続きを行ってください。（いずれも所定の願用紙を使用しなければなりません。）

項　目		内　容
休学	休学とは	傷病、その他やむを得ない理由で、一定期間（3 ケ月以上）修学しないことをいいます。
	願い出	所定の「休学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、届け出て許可を得なければなりません。 傷病の場合は、医師の診断書を添えて提出してください。
	期間	休学許可を受けた年度内。 休学期間は、前期・後期、または通年となります。 前期休学：4 月 1 日～同年 9 月 14 日まで 後期休学：9 月 15 日～翌年 3 月 31 日まで 通年休学：4 月 1 日～翌年 3 月 31 日まで 特別な事情があると認められた場合は、再休学を許可することがあります。 休学が可能な期間は通算で 3 年までとなります。
	学費	学費の納入は必要ありません。 ただし、在籍料として学期ごとに 60,000 円の納入が必要となります。
	その他	休学中は科目の履修ができません。したがって履修した科目は取消となります。 復学の際には改めて履修を行ってください。
復学	復学とは	休学期間を満了後に、在学状態に戻ることをいいます。
	願い出	所定の「復学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、届け出て許可を得てください。

項　目		内　　容
退学	願い出	所定の「退学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、届け出て許可を得なければなりません。 傷病の場合は、医師の診断書を添えて提出してください。
	その他	退学後は再入学が困難になります（再入学できない場合もあります）ので、慎重に検討してください。
除籍	除籍とは	次のいずれかに該当する場合は除籍となります。 ①最長在学年数（8 年）をこえたもの ②休学による場合を除き、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級・卒業できない者 ③学業成績が特に不良で改善の見込みがない者 ④通算 3 年の休学期間をこえてなお復学しない者 ⑤正当な理由がなく、無届で、引き続き 3 ケ月以上欠席した者 ⑥前期分学費を 7 月末日までに、後期分学費を 1 月末日までに納入しない者
転学部	転学部とは	転学部は学業上または経済的な理由に願い出た場合、受け入れ先に定員の余裕があれば、選考のうえ、許可することがあります。
	願い出	手続きについては 10 月中に学生厚生担当へ申し出てください。
	出願資格	①第 2 年次編入 第 1 年次終了時に 36 単位以上修得見込みであること。 ②第 3 年次編入 第 2 年次終了時に 60 単位以上修得見込みであること。 希望する学部（学科）において、単位修得済みの指定科目がある場合は、それを取得済みであること。
	その他	工学部第二部への転学部は、希望する理由が主に経済的による場合であって、工学部第二部の学科の定員に余裕がある場合に限り、選考のうえ、許可することがあります。
転学系	転学系とは	詳細については「コース制とコースの選択」の項を参照してください。
	時期	主コース、副コース変更の際に決定されます。
	その他	2 年次から学年が進行していく過程で真にやむを得ない理由で、理工学部の他の学系へ異動したい場合は、他の学系の定員に余裕がある場合に限り、選考のうえ、許可することがあります。事前に学生厚生担当窓口にてご相談ください。
再入学	再入学とは	退学または除籍となって、将来、再入学を希望する場合は、定員に余裕があれば、選考のうえ、再入学することができます。 ただし、懲戒による退学となった場合は、再入学が認められません。

※休学・退学の受付期間を過ぎて、学期の途中に休学または退学を願い出る場合は、その学期の学費が納入済であることが必要です。

※詳細は、学生厚生担当にて相談してください。

コース制とコースの選択

1．コース制とは

理工学部は「次世代モードの学び」として、自分に合った学びが自由に選択できるように15 種類の教育コースを開設しています。

コースとは、体系化された学問の最小ユニットです。みなさんは 2 年次に進級する際、自分にあった主コース（メインとなる学習コース）と副コース（サブとなる学習コース）の 2 つのコースを選択します。主コースと近い分野の副コースを選択する場合は、専門性をより一層高めることができ、主コースとは異なる分野から副コースを選択する場合は、 1 つの専門性にはとらわれずに将来に亘る広い視野と見識を養成することができます。

主コースは、自分が所属する学系のコースを必ず選択しなければなりません。副コースについては自分が所属する学系からも、自分が所属する学系以外の学系からも選択することが可能です。

各学系に開設されたコースは以下のとおりとなっています。

理学系
数学コース 物理学コース 化学コース 数理情報学コース

生命理工学系
生命科学コース 生物環境コース

情報システムデザイン学系
コンピュータソフトウェアコース ネットワークシステムコース アミューズメントデザインコース 社会コミュニケーションコース コンピュータサイエンスコース

電子・機械工学系
電子システムコース 機械システムコース

建築・都市環境学系
建築コース 都市環境コース

2．コース選択の時期と方法

2年次から主コースと副コースを選択します。コース説明などを1年次に行います。希望コース申告は1年次終了前の1月に行います。主コースについては希望先を申告し、原則的に第1希望が優先されます。主コースの人数に大きな偏りが生じた場合には、1年次のGPAに基づき選考されます。なおGPAと面接結果を基に選考するコースもあります。副コースについては本人の希望が優先されます。

3．コース変更について

主コースの変更は2年前期の申請期間に申告でき、受入コースの承諾を前提に認められます。

副コースの変更は上記同時期と2年後期の申請期間に申告でき、本人の希望が優先されます。

コース変更を行うと履修中の科目および既修得科目は、コース変更後の主コース・副コースに従います。また、進級条件も変更後のコースの条件に変わりますのでコース変更は十分に考えた上で申告してください。

くわしい日程は、DENDAI-UNIPAにて告知をしますので、必ず確認してください。

コース変更の時期

	2年次前期終了時	2年次後期終了時	3年次以降
主コース変更	○	×	×
副コース変更	○	○	×

学費について

1．納入期限（平成 28 年度）及び学費振込用紙の発送時期

新入生

納入期限		学費振込用紙の発送
前期	後期	
（入学手続時に前期分学費は納入済）	10 月末日	後期分の振込用紙を 7 月下旬に発送。

新入生以外

納入期限		学費振込用紙の発送
前期	後期	
4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後期の 2 枚）を発送。

※納入期限が金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

2．納入方法

本学所定の学費振込用紙を用いて銀行から振り込んでください。前期と後期の年 2 回払いです。事情により ATM やネットバンキングを使用する場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確に入力して振り込んでください。

3．学費振込用紙について

① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。

② 保証人住所及び氏名は、学生厚生担当に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は学生厚生担当にて手続きしてください。

③ 保証人以外の宛先を希望する場合は、経理部（会計担当）にて手続きしてください。

④ 紛失した場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをしてください。

※上記④は、電子メールでの手続きも可能です。

⇒ 経理部（会計担当）メールアドレス：gakuhi@jim.dendai.ac.jp

4．学費延納

① 経済的理由等により学費を納入期限内に納入できず延納を希望する場合は、納入期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。

② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由のご記入が必要です。納入期限日までに提出できるよう準備してください。用紙は学生厚生担当にて配付します。

③ 延納が許可される期間は、前期は 6 月末日、後期は 12 月末日迄です。

5．その他

① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は、学則により除籍となります。

② 留年者の学費は、当該学年の正規学年次生と同額となります。

③ 休学の場合は、半期 6 万円の在籍料がかかります（在籍料の振込用紙は、学生厚生担当で受け取ってください）。

※学費に関する情報はホームページにて確認できます。
http://web.dendai.ac.jp/campuslife/expenses/

第５章

学生生活について

事務取扱事項と取扱時間（埼玉鳩山キャンパス）

担当部署	主な事務取扱事項	場所，取扱時間
教務担当	・授業，試験，成績に関すること ・履修登録に関すること ・単位認定（資格等）に関すること ・授業の欠席に関すること ・教職課程に関すること ・学習サポートセンターに関すること ・科目等履修生に関すること ・大学院に関すること ・成績，卒業証明書等の発行 ・レポートボックスの管理	【本館 1 階事務室】 （月～土曜日） 9 時 20 分～ 11 時 30 分 12 時 30 分～ 17 時 00 分
学生厚生担当	・休学，復学，退学等学籍に関すること ・コース変更，転学系等に関すること ・学生相談に関すること ・学生証に関すること ・住所変更，保証人等の変更に関すること ・奨学金に関すること ・学費に関すること（学費延納を含む） ・課外活動に関すること ・施設利用に関すること ・バス運行に関すること ・拾得物，遺失物の取扱い ・在学証明書，学割の発行 ・学生教育研究災害傷害保険の取扱い	
就職担当	・就職，大学院進学等卒業後の進路相談 ・求人紹介，キャリア支援，就職活動支援 ・インターンシップ，アルバイト紹介	
庶務担当	・スチューデントアシスタント（ＳＡ），副手（ＴＡ）制度に関すること ・研究生，研究員に関すること ・入学試験に関すること ・学生募集に関すること ・環境保全に関すること ・構内の清掃，衛生に関すること ・火災予防，災害防止及び警備に関すること ・施設設備管理・建物の保全・校地整備に関すること ・電気，電話，ガス，水道施設の管理に関すること ・地域連携に関すること ・産官学交流に関すること	
健康相談室	・健康診断に関すること ・健康相談に関すること ・傷病応急処置 ・健康診断証明書発行	【本館 1 階】 （月～土曜日） 9 時 30 分～ 11 時 30 分 12 時 30 分～ 16 時 30 分 ※急患は随時
学生相談室	・学業，心身の健康，対人関係等の個人相談	【本館 1 階】 学生相談室の入口の掲示板でお知らせします。
国際センター鳩山ブランチ	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入に関すること ・日本人学生と留学生の交流に関すること	【12 号館 1 階 128 室】 （月～金曜日） 10 時～ 17 時

※日曜，祝日，夏季特別休暇，冬季特別休暇中等は窓口を取扱停止とします。

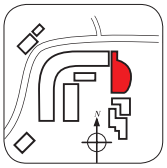
連絡・呼出し

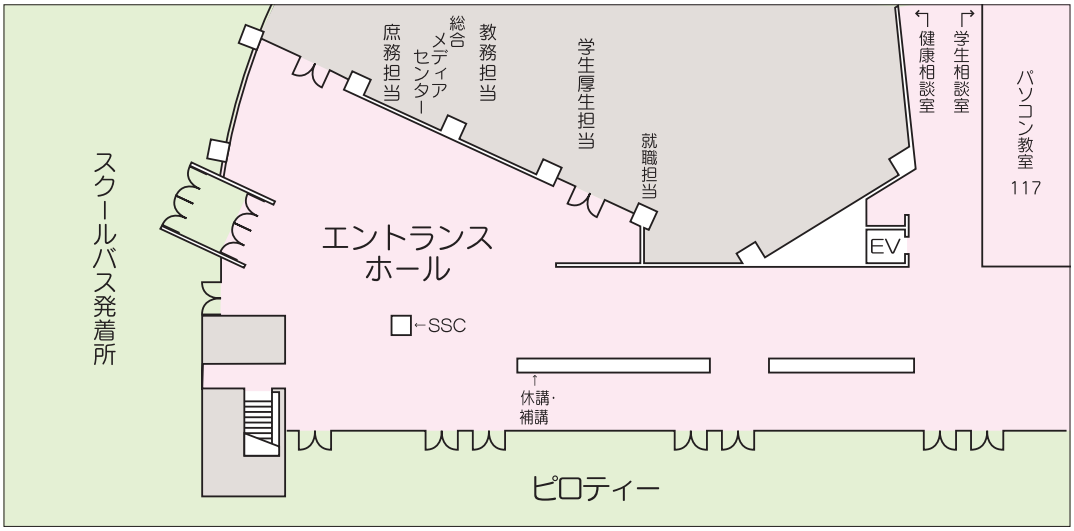
みなさんへの連絡、呼出し等は、DENDAI-UNIPA により指示します。（突然の休講等は紙の掲示も行います）

連絡事項の見落としがないように、**毎日 DENDAI-UNIPA を確認**するよう心がけてください。

DENDAI-UNIPA の掲示期間は原則として 1 週間以上ですが、一度 DENDAI-UNIPA で連絡した事項は周知したものとして扱います。DENDAI-UNIPA を見なかったからということは、理由になりませんので十分に注意してください。

全体図





※緊急時等にはみなさんが不利にならないように電話連絡をする場合があります。大学からの電話には必ず応答するようにしてください。

届け出・願い出

1．学籍異動に関する願

種　　別	取扱窓口	備　　考
退学願	学生厚生担当	学生証を添えて提出
休学願		
復学願		
転学部願		転学部を希望する場合は、10 ～ 11 月までに学生厚生担当窓口へ相談してください。
転学系願		コース選択とコース変更に伴なう転学系を認めています。「コース制とコースの選択」の頁を参照してください。

※「学籍について」の項も参照のこと

2．身上の変更に関する届

以下の項目に変更が生じた場合は変更届を提出してください。

事　　項	取扱窓口	備　　考
氏名	学生厚生担当	戸籍抄本（こせきしょうほん）の提出も必要となります。
現住所		学生証を添えて提出してください。
電話番号 （携帯電話番号含む）		
保証人住所		
保証人電話番号		
保証人		保証人の捺印が必要となります。

※「電話番号（携帯電話番号含む）」の変更は DENDAI-UNIPA 上でも申請できます。

3．その他

種　　別	取扱窓口	摘　　要　・　備　　考
欠席届	教務担当	傷病、その他のやむを得ない理由で授業を欠席した場合は、教務担当窓口にある欠席届に必要事項を記入の上、欠席を証明できる物（診断書等）を添えて提出してください。 なお、教務担当窓口で取り扱う欠席期間は連続して 7 日以上とします。 6 日以内の欠席は、直接授業科目担当教員に提出してください。
閉館時間中の正課授業実施願		卒業研究などで、21 時以降および休祭日に学内にいる場合には、必要事項を記入の上、指導教員・学系長の承認を受けて、実施当日の窓口取扱時間内に提出してください。**数日分をまとめての申請は受け付けません。**出席する学生名はその都度確認の上、記載するようにしてください。
学費延納願	学生厚生担当	詳細については「学費について」の項を参照
車両通学願		前期･後期に実施する「安全運転講習会」を受講し、指定期間内に車両通学願に必要書類を添えて提出してください。
学内集会願		課外活動で教室を使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とし、3 日前まで（自治会公認団体、自治会未公認団体、個人） ●休日は貸し出しません。
体育館・グランド使用願		課外活動で体育館またはグランドを使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とする。（自治会公認団体） ● 1 週間前を限度とする。（自治会未公認団体、個人）
テニスコート使用願		課外活動でテニスコートを使用する場合に提出してください。 ●テニスコート 1・2・3（自治会公認団体） ●テニスコート西 1、西 2（自治会未公認団体、個人ただし、1 人、1 日、1 面、3 時間まで）
学外活動願		学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合に提出してください。
石段広場		要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ提出してください。
食堂		要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ「錦電サービス」の許可を得た上で提出してください。

証明書の交付

1．証明書自動発行機から発行するもの

No.	証明書の種類	発　行 手数料	備　　考
1	在学証明書（和文）	200 円	
2	成績証明書	300 円	
3	卒業見込証明書	200 円	4 年次生のみ発行可能　※ 1
4	健康診断証明書（年度内に限る）	200 円	当該年度に学内定期健康診断を受診した学生のみ発行可能。
5	学割証（学生旅客運賃割引証）	無料	詳細についてはＰ 286 を参照
6	仮受験票	1,000 円	仮受験票についてはＰ 40 を参照

※1　3 年以上在学での卒業希望者に対しては、卒業を希望する学期の初めから発行します。

2．窓口に申請し、発行するもの

No.	証明書の種類	申請窓口	発　行 手数料	発行までの 期間 ※1	備　　考
1	学生証再発行	学生厚生担当	2,000 円	1 日	汚損、紛失の場合のみ発行可。 手続きには印鑑が必要となります。
2	在学証明書（英文）		700 円	3 日	
3	通学証明書		無料	即時	※ 2
4	成績証明書（英文）	教務担当	1,500 円	7 日	
5	卒業見込み証明書（英文）		1,200 円	7 日	
6	人物調査書		500 円	10 日	※ 3
7	教職免許状取得見込証明書		500 円	2 日	4 年次生の教職課程履修者のみ発行可。
8	大学院進学用調査書（他大学院宛）		500 円	10 日	本学の大学院へ進学する場合は必要ありません。※3
9	科目等履修生在籍証明書		200 円	2 日	
10	科目等履修生単位取得証明書		1,000 円	2 日	
11	JABEE 修了証明書		500 円	2 日	

※1　発行までの期間に事務の取り扱いがない日は含みません。

※2　通学定期券は、殆どの場合学生証の提示で購入出来ますが、バス・都電など、通学証明書を必要とする場合があります。

その場合には、通学証明書交付願に必要事項を記入し、申し込んでください。

通学区間は、学校最寄り駅と居住地最寄り駅との最短経路になります。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）は、通学定期券を購入することはできません。

※3　原則として、学生に身近な卒業研究指導教員又は、学生アドバイザーなどが記入します。申請が出てから教員へ作成依頼をしますので、余裕をもって申請してください。

※証明書自動発行機について

〇証明書自動発行機の利用時間は 9：00 ～ 21：00 です（月～土）。

〇在学生は学生証が無いと利用出来ません。

〇発行手数料の納入には、PASMO・Suica 等の交通系電子マネーが必要となります（現金での納入はできません）。

卒業後の各種証明書の申請についてはＰ320 参照

保険制度

本学では、正課中あるいは課外活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」への加入受付事務等をしています。新入生は入学手続時に 4 年間分の保険料を納入し、全員が加入しています。留年等で保険期間が切れた場合は、4 月はじめに学生厚生担当において所定の手続きをすることにより継続加入ができますので、在学中は必ず加入してください。

1．保険金が支払われる場合

1. 正課授業中
2. 学校行事中
3. 1、2 以外で学校施設内にいる間
4. 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間
5. 通学中（許可された方法での通学）

2．保険金の種類・金額

下記の一覧表を参照してください。

保険金種類 / 担保範囲	死　亡	後　遺　傷　害	医　療	入院（日額）
正　課　中 学 校 行 事 中	2,000万円	90万～ 3,000万円	0.3万～ 30万円	4,000円
上記以外で学校施設内にいる間	1,000万円	45万～ 1,500万円	3万～ 30万円	4,000円
学校施設以外で大学に届出た課外授業中	1,000万円	45万～ 1,500万円	3万～ 30万円	4,000円

※死亡保険金の支払いは、事故の日から 180 日以内に死亡したとき

※後遺障害保険金は、事故の日から 180 日以内に後遺障害が生じたとき

※医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療期間に応じて異なる。正課中および学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が 1 日から支払われ、学内での休憩中および課外活動中の事故は 14 日以上の場合に支払われる。

※事故の状況等によっては、保険金が支払われない場合があります。

3．保険料・保険期間

保険期間	保険料適用区分
	昼間部
1　年　間	1,000円
2　年　間	1,750円
3　年　間	2,600円
4　年　間	3,300円

※保険期間（4 年間）の切れた場合の加入受付については、3 月下旬～ 4 月上旬に DENDAI-UNIPA でお知らせします。必ず受付期間内に延長の手続きを行ってください。（追加の保険料が必要です。）

※その他、詳細は「学校教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。

※介護等体験、インターンシップ等へ参加する場合には、「学生教育研究災害障害保険」に加えて、対物賠償等も補償範囲となる「インターンシップ・介護体験活動・教育実習等賠償責任保険」へ加入の必要があります。

　加入は随時受け付けていますが、その際には本体となる「学生教育研究災害障害保険」へ加入している必要があります。留年等で保険期間（入学から 4 年間）を経過している場合には、予め 4 月上旬までに「学生教育研究災害障害保険」へ加入しておいてください。（詳細は、学生厚生担当窓口にて相談してください。）

奨学金制度

奨学金制度には、日本学生支援機構による奨学金をはじめ本学の奨学金、地方公共団体の奨学金、企業その他民間団体の奨学金があります。

奨学金の種類としては給付奨学金と貸与奨学金があります。給付奨学金は返還義務はありませんが、貸与奨学金は返還義務があります。

奨学金関係の事務取り扱いは学生厚生担当が行っています。募集をはじめ**連絡はすべてDENDAI − UNIPA にてお知らせしますので、十分に注意してください。**

1．日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優秀で経済的理由により修学困難な学生のうち、大学から推薦された学生について、日本学生支援機構で選考の上、次の奨学金が貸与されます。

日本学生支援機構奨学金の種類と募集について

●「第 1 種」（無利子）

貸与期間	奨学生に採用された月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	4 月上旬
貸与月額	自宅・・{30,000 円 / 54,000 円} ／ 自宅外・・{30,000 円 / 64,000 円}（平成 27 年度）
成績基準	1 年次生・・・・高校時評定平均値　3.5 以上 2 ～ 4 年次生・・クラス内学業成績順位　上位 1/3 以内

●「第 2 種」（有利子）

貸与期間	奨学生に採用された年度開始月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	4 月上旬
貸与月額	3 万、5 万、8 万、10 万、12 万の中から選択（平成 27 年度）
成績基準	1 年次生……高校時評価平均値　平均水準以上 2 ～ 4 年次生…クラス内学業成績順位　平均水準以上

平成 27 年度　　本学の日本学生支援機構奨学生数（2015.11 現在）

学部＼種類	第一種奨学金	第二種奨学金	合　　計
理　工　学　部	335	765	1100

2．特別奨学金（本学独自）（給付）

故　桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付および法人からの積立金等を基金として設立された奨学金です。

資　　格	2 ～ 4 年次生 学業成績・人物ともに優秀な者 学費支弁が困難な者
募集時期	6 月
採用者数 平成 27 年度実績	理工学部 8 名（年額 280,000 円／人）

3．学生救済奨学金

教育の機会均等の精神に基づき学業達成に意欲的でありながら、経済的事由が急変したために修学半ばにして断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与える奨学金です。

資　　格	大学院、学部に在籍する学生であって、経済的事由により学費の支弁が困難であると認められる者、かつ貸与することにより学業継続が可能である者（卒業年次生優先）
応募・採用時期	原則として 4 月・9 月（ただし、各校における在籍期間中 1 回）
奨　学　金　額	半期分の学費相当額とし、奨学金は学費に充当する。（無利子）
返　還　期　間	卒業後 5 年間（繰り上げ返還は可）
採　用　者　数 平成 27 年度実績	理工学部 2 名　前期 2 名、後期応募者なし

4．学生支援奨学金

海外英語短期研修への参加およびパーソナルコンピュータ・製図機器等の教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するための奨学金です。

資　　格	大学院、学部に在籍する学生（ただし、休学中、留学中、所定修業年限を超えて在籍している者を除く）
応募・採用時期	原則として 4 月・9 月（ただし、各校における在籍期間中 1 回）
奨　学　金　額	30 万円を上限とする（無利子）
返　還　期　間	卒業後 5 年間（繰り上げ返還は可）
採　用　者　数 平成 27 年度実績	理工学部 4 名（コロラド大学英語短期研修）

5．東京電機大学校友会奨学金（貸与）

東京電機大学校友会が昭和 59 年度より設立した制度で、家庭の経済的事情急変のために、学業継続が困難になった者に対して貸与される奨学金です。

資　　格	本学学生
貸 与 額	1 回に納入する学費等の相当額 卒業後 6 ヶ月を経過した月から起算し 5 年間で返還（無利子）
募集時期	学費納入期限以前
採 用 者 数 平成 27 年度実績	理工学部　応募者なし

6．大学院進学特別奨学金

資　　格	本学大学院修士課程の学内推薦入試に合格した者
給 付 額	当該年度の授業料相当
募集時期	9 月中旬～ 9 月下旬
推 薦 枠	各学系 1 名　ただし、RD 学系は 2 名までとする。

7．各種団体による奨学金

- 地方自治体、その他民間育英団体の奨学金は各種あります。内容の詳細については、募集の依頼があり次第 DENDAI － UNIPA で連絡します。
- 大学を通さずに募集する自治体等もあります。直接各団体へ問い合わせ、応募の方法等を確認してください。

平成 27 年度に募集依頼のあった各種奨学金の一例

奨学金名称	種別	月　額	応　募　資　格	出願時期
〈財団系〉				
あしなが育英会	貸与	一般　40,000 特別　50,000	保護者が病気・災害等で死亡又は後遺障害のために働けなくなった家族の子女	4 月下旬
交通遺児育英会	貸与	月額　40,000 50,000 60,000 から選択	保護者等が交通事故で死亡したり、著しい後遺障害で働けないため、教育費に困っている家庭の子女	第 1 次 6 月上旬 第 2 次 9 月上旬 最終 11 月上旬
中 村 積 善 会	給付	月額　30,000	人物・学業とも優秀な学部生	5 月上旬
ツツミ奨学財団	給付	月額　45,000	人物・学業とも優秀な学部 1 年生	5 月上旬
守 谷 育 英 会	給付	月額　100,000	東京都内に居住し人物・学業とも優秀な学生	4 月中旬
日揮・実吉奨学会	給付	年額　300,000	人物・学業ともに優秀な学生	4 月下旬
鷹野学術振興財団	給付	年額　600,000	科学技術を専攻している学生	4 月下旬
前澤育英財団	給付	月額　35,000	人物・学業ともに優秀な学生	4 月下旬
ﾌｼﾞｼｰﾙﾊﾟｯｹｰｼﾞﾝｸﾞ教育振興財団	給付	月額　50,000	工学系の学業優秀な学生	4 月下旬
種とまと財団	給付	月額　50,000	経済的理由により学費支弁困難 人物・学業ともに優秀な学生	9 月中旬

〔注〕1. 月額は平成 27 年度のもの
2. 隔年で募集される場合や出願時期が年度によって異なる場合があるので、必ず DENDAI － UNIPA で確認すること。

学　生　相　談

1．学生相談室

(1) 学生相談室とは

学生相談室は、みなさんが学生生活を送る上でのさまざまなことがらについて話し、相談出来るところです。

学生生活を送っていく間には、友人、先輩、両親などにも相談しかねる問題が生じることがあるでしょう。また、それほどではなくても、なんとなく心配だ、なんとなく不安だとか、ちょっとこのことがわからないなどといったようなこともあると思います。そのようなとき、いつでも遠慮なく気軽に「学生相談室」に立ち寄ってください。

カウンセラーはあなたが直面している問題について、あなたの気持ちを大事にしながら、ともに考え、話し合い、助言・協力します。必要があれば、他の部課や先生、学外の諸機関にも紹介します。また、希望により、精神科校医の相談も受けられます。

相談は個人でも、グループでも受けつけます。気軽にご相談ください。

(2) 相談内容

・学業について　・職業・進路について　・対人関係について
・性格について　・心身の健康について　・経済問題について
・人生・思想について　・生活全般について　・その他なんでも…

※相談内容についての秘密は厳守いたします。

(3) 相談したい時は

〇直接学生相談室に来てください。

〇あらかじめ時間を予約することもできます。

（精神科校医への相談はすべて予約制です。健康相談室・学生相談室・学生厚生担当窓口のいずれかに申し込んでください。原則として、カウンセラーとの面接を経て、予約できます。）

※各種心理テストなども用意しています。

(4) 相談室の場所・開室曜日・時間

本館１階にあります。

開室曜日・時間帯は、学生厚生担当に常備されているパンフレットを参照してください。

2．学生アドバイザー

所属する学系・学年別にクラスが編成されています。各種ガイダンス、学部行事への参加および専門科目の授業などは、これらのクラスを単位として行われることになります。

クラスには、学生アドバイザーとして数名の担任がおり、クラスで行う行事および各種手続き事項に関する指示や相談のほか、学習上の問題や個々の悩みなどの相談に応じています。

3．オフィス・アワー（Office Hour）

(1) オフィス・アワーとは

オフィス・アワーは、教員が学生との面談のために教員室で待機している時間のことです。オフィス・アワー中は教員室で自由に教員に質問や相談をすることができます。

(2) オフィス・アワーの利用方法

オフィス・アワーを利用して教員と話をするために特別な手続きは必要ありません。各教員のオフィス・アワーの詳細は、シラバスや教員室のドアなどに掲示されています。時間をチェックして、教員室で教員と話をしてみましょう。

オフィス・アワーは、全学年・全学系の学生に公開されています。オフィス・アワーは、自分が所属する学系以外の教員の話を聞く良い機会です。これからの技術者は専門を越えたより広い見識が必要です。他学系や共通教育群の先生方との接触はみなさんの知識の幅を広げることに役立ちます。

(3) オフィス・アワー利用の心得

オフィス・アワーは、あなた以外の学生も利用します。オフィス・アワーは学生がだらだらと教員室で過ごすための時間ではありません。言いたいことや質問項目を事前にちゃんと準備しましょう。自分の主張を順序立てて簡潔に表現することは社会人として重要なことです。このようにして、オフィス・アワーを利用することによって、自己表現能力をみがくこともできます。

学習サポートセンター

1．学習サポートセンター（通称：SSC）

みなさんが大学の授業をうける上では、高校までに学んできた数学、物理、化学、英語が基礎となり重要になってきます。

学習サポートセンターでは上記科目の基礎の復習、見直し、勉強を進める上での相談など学習の支援を行っています。

学習サポートセンターの指導スタッフは、高校で長年授業を行ってきたベテランの先生が、みなさんの希望により個別、グループのどちらでも対応をしています。（※予約も可能です）

基礎科目をもう一度勉強し直したい。勉強方法など相談したい。そう思った時は、親切丁寧に対応しますので、いつでも気軽に利用してください。

2．対応科目

数学、物理、化学、英語

3．場所、時間、曜日

数学、物理、化学、英語　　12 号館 1 階　127 室（ＳＳＣ）

開室曜日・時間は、本館 1 階にある掲示板のポスターを参照してください。

健　康　管　理

衣・食・住は私達が生活する上において欠くことのできないものです。これと同様に大切なのは健康であるということです。健康であるということは学生生活を送るうえでもとても大切なことです。本学でもみなさんの健康管理について十分配慮していますが、まずはみなさん自身が日頃から健康の保持に努めることが大切です。

更に、色々な感染症（インフルエンザ、麻疹、結核など）は本人だけの影響にとどまらず、周囲に及ぼす影響も大きく、大学閉鎖に繋がることもあります。ぜひご自身の母子手帳を確認し、事前に抗体価などを調べ必要時は早めにワクチン接種しておくことをお勧めいたします。

1．健康相談室

授業中・課外活動中等に学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたときは、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもと看護師がそれぞれの応急処置にあたっています。

健康相談室では身長や体重、血圧や体脂肪率を自動的に測定する健康管理システムを設置しています。学生の皆さんがこのシステムを定期的に利用することにより健康状態のバロメーターにすることができます。

そのほか、ここでは平常の健康相談にも応じていますので、何となく身体に異常を感じるといった症状のときなども、遠慮なく来室してください。

2．相談室の場所・開室時間

本館１階にあります。

開室時間は

月曜～土曜　9：30 ～ 16：30

（ただし、11：30 ～ 12：30 は休憩時間ですが、急患は随時受付けます。）

健康保険証について

急病等で医療機関を受診する際は必ず必要となります。個人管理で携帯するか手元に保管しておいてください。なお自宅外通学となる方は遠隔地被保険者証の交付を受けることをお勧めしております。保護者の加入している健康保険組合等に申請してください。

3．定期健康診断

毎年 4 月に学校保健安全法及び感染症法に基づき、全学生を対象に定期健康診断を実施しております。奨学金申請やクラブ活動、就職活動などで健康診断証明書が必要な場合は、受診記録に基づき作成しております。特にクラブ関係の団体活動を行う予定の学生はその団体全員の受診が必要となります。忘れずに毎年受診してください。

定期健康診断の実施項目は次のとおりです。

1. 胸部レントゲン間接撮影
2. 身体計測
   （身長、体重、日常視力）
3. 内科診察（検尿、血圧測定）

定期健康診断の日程は、事前に DENDAI-UNIPA にて詳細をお知らせします。再検査（精密検査）の詳細も同様に DENDAI-UNIPA にて連絡致します。

学内の定期健康診断を受診せず、学外で健康診断を受診した場合は、その証明書を健康相談室窓口に提出してください。その場合本学より健康診断証明書の交付はできません。

4．その他の健康診断について

クラブ活動（強化合宿・公式試合等参加）のために健康診断を受けたい場合は所定の健康診断受診申込書に記入の上、2 週間前に健康相談室に申し込んでください。

ただし、この健康診断では、レントゲン撮影などができないので、定期健康診断を受けなかった学生に対しては、診断による活動許可ができない場合があります。

5．健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。指定用紙での発行を希望する場合は 2 週間前までに健康相談室へご相談ください。

スポーツ施設

各種スポーツ施設は、理工学部の学生や教職員の健康や体力増進のために、体育館やグラウンドをはじめ多くの方の好みに合ったスポーツが実施できるようにつくられた施設です。効率よく、気持ちよく利用するために以下の利用方法に従ってください。

1．利用方法

体育の授業以外の時間帯に使用できます。利用可能な施設と時間帯を確認して利用計画を立て、学生厚生担当において所定の手続きをし、スポーツ施設の利用許可を受けてください。ただし、授業や学内行事が優先となります。

利用申込みは、**公認学生団体は使用日の 14 日前**、**一般学生は 7 日前**から可能です。**テニスコートの一般学生の利用は 1 人 1 回 3 時間まで**です。長期休業の際の申込みについては、別途 DENDAI − UNIPA でお知らせします。

テニスコート、多目的コートは許可を得た使用願を理工学部受付に提示し、鍵を借りて利用してください。

2．施設利用の心得

- 体育館　土足は禁止します。下足箱に靴をおき、館内は館内用シューズを履いてください。スリッパでの運動は禁止します。
- テニスコート　テニスシューズかそれに類する物を履いてください。使用後はネットをゆるめてください。
- グラウンド　雨天時や雨天後などグラウンド状態不良の場合は、原則、使用を禁止します。
- 更衣室　自由に使用できますが、ロッカーを私物化しないようにしてください。またロッカーには、**貴重品や高価な物は絶対に置かず各自で貴重品ロッカーを利用する**か携帯してください。ロッカーを含め体育館内に放置された私物は定期的に撤去します。
- ごみは必ず持ち帰るかごみ箱に入れてください。
- 施設使用後は、モップがけ、トンボ、コートブラシなどで必ず整備を行ってください。
- **盗難防止のため、貴重品等の管理には各自で十分に注意してください。**

学生生活支援

1．短期貸与金

短期貸与金制度は、みなさんの先輩方が設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用しているもので、みなさんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度です。取扱いは、学生厚生担当で行っています。

貸与金額　　10,000円以内

貸与期間　　1ヵ月以内　※貸付期間が1ヵ月を経過した場合は遅滞手数料として、1ヵ月毎に貸付額の1%を徴収します。

なお、**貸付を受ける際には学生証が必要となります。**

2．アパートの紹介

本学では、理工学部のアパート・貸間の斡旋を錦電サービス㈱に委嘱しています。斡旋される物件の大部分は駅より徒歩10分の範囲にあり、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）まで30分以内（待ち時間除く）で通学できます。

新入生の自宅外通学者のなかには、はじめての一人暮らしに不安を覚える方もいると思います。

―― 新しい環境に早く順応する ――これは、これからの希望に満ちた学生生活を送るうえで、大切な要素です。理工学部では、新入生は、同じような環境にある者が協力し合っていけるよう、できるだけ本学部の新入生が多い物件を斡旋するよう指導しています。

一般のアパート・貸間の申込みは

錦電サービス㈱　〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学　理工学部内

ＴＥＬ０４９ － ２９６ － ２９６２ ㈹

http://www.kinden-service.co.jp

課外活動

大学の課外活動の目的は、団体の活動に参加することによって、自主性を養い、協調精神を身につけ秩序を知り、自己の人間形成に役立てることにあります。しかし課外活動に必要以上のエネルギーを費やし、学生の本分である勉学がおろそかになるようであってはなりません。課外活動の趣旨目的を十分に理解した上で、課外活動に参加し、意義ある学生生活を過ごしてください。

種　　別	摘　　要　・　備　　考
学内集会願	課外活動で教室を使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とし、3 日前まで （自治会公認団体、自治会未公認団体、個人） ●休日は貸し出ししません。
体育館・グランド使用願	課外活動で体育館またはグランドを使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とする。（自治会公認団体） ● 1 週間前を限度とする。（自治会未公認団体、個人）
テニスコート使用願	課外活動でテニスコートを使用する場合に提出してください。 ●テニスコート 1・2・3（自治会公認団体） ● テニスコート西 1、西 2（自治会未公認団体、個人ただし、1 人、1 日、1 面、3 時間まで）
学外活動願	学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合に提出してください。
石段広場	要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ提出してください。
食堂	要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ「錦電サービス」の許可を得た上で提出してください。

学割証（学生旅客運賃割引証）

1．学割証の発行条件

修学のための旅行や、正課・課外教育活動、就職などのために遠距離の乗り物を利用する際に、乗車区間が片道100㎞を超える場合、学割証が利用できます。

2．学割証の申込方法

証明書発行機にて取得してください。（無料）

※発行枚数に制限はありませんが、日本学生支援機構が定める取扱要領に記載の使用目的の範囲内でのみ使用可能です。

3．団体旅行

学生団体運賃割引制度は、学生が一定の数（鉄道会社により異なる）以上で、引率者（教職員１名以上）がいれば利用できます。申込の際には、大学の証明が必要となります。「団体旅行申込書」（駅旅行センターにあり）に必要事項を利用者が記入し、学生厚生担当へ提示してください。

引率者とは、学生団体と往路または復路の行程もしくは全行程を同じくし、これに付き添って同行する教職員をいいます。

4．学割証利用上の注意

（1）学割証の使用は、記名人以外は使用できません。（不正使用をすると追徴金が科せられ、以降発行停止になります。）

（2）必ず学生証を携帯してください。

（3）学割証の有効期限は発効日から３ケ月間です。

アルバイト

アルバイトを希望するみなさんのために、学生厚生担当ではその紹介を行っています。原則的にアルバイトの実施期間は夏・冬・春の休業期間中の他、授業に支障のない範囲での勤務時間になります。教育関連等の職種についても、随時紹介を行っています。

求人の受入れから紹介にいたる取扱いにあたっては、学業などに支障があってはならないという教育的配慮と、事故防止上から職種を制限しています。

（後掲の一覧表を参照）

1．応募方法

掲示板の求人票から、自分の条件にあうアルバイトを選択し、各自で先方に申し込みをしてください。求人票の掲示は１ヵ月を目安としていますが、定員になり次第、取り下げます。

2．留意事項

求人内容・条件などが著しく違った場合は報告してください。病気・急用・その他突発的な理由で遅刻、欠勤などをする場合は、必ず勤務先へ連絡してください。安易な考えや行動は多大な迷惑をかけることになり、みなさん自身や大学の信用問題に及ぶことにもなりますので特に注意してください。

制　限　職　種　一　覧　表

	具体例	理由及び参考事項
危険を伴うもの	●プレス、ボール盤、旋盤、裁断機など自動機械の操作	危険事故が伴う。 （例外…理工系でその専攻に役立つもの）
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg以上）の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ、刑事責任まで負うことになる。
	●線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理）	
	●土木・水道工事現場作業	
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	●２階以上の高所での屋外作業（ガラス拭き、器具取りつけ等）	
	●ヘルメット着用が必要とされる作業	
	●警備員	会場整備、誘導、受付は除く。
人体に有害なもの	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（メッキ作業、白蟻駆除等）	健康上、人体に有害と考えられる。
	●特に高温度・低温度の作業	
	●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法 20 条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介斡旋	職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	●出来高払（一定額の賃金の保証のないもの）	労働基準法 27 条参照
	●募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	●募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
	●募集・採用に当たり、性別により異なる条件を付すもの	
教育的に好ましくないもの	●街頭でのチラシ配り、ポスター張り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	●競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	●バー、クラブ、マージャン、パチンコなど風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	●深夜作業	
	●選挙の応援に関連する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
	●スパイ行為、興信所業務に類する調査	
望ましくない求人	●人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	●人員の限定を条件とするもの	例えば 10 人中 1 人でもかけると他の 9 人を不採用とするようなもの。
	●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	
	●大学の判断により好ましくないもの	

留学・海外語学研修

本学では、学生諸君が海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3 週間程度の語学研修から 1 年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

(1) 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば、「海外英語研修」の単位として認定されます。

1) コロラド大学ボールダー校（米国）：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
2) シドニー大学（オーストラリア）　：3 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

1) 韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
2) 中国語研修：中原大学（台湾）にて、3 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃
3) インドネシア研修：ヌサンタラマルチメディア大学（インドネシア）にて、3 月に実施（約 2 週間）、募集は 10 月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

＊本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意すること。

(2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できるので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL（Test of English as a Foreign Language）などの受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、それを満たすためには通常半年から1年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学系および理工学部事務部（教務担当）の履修指導を受けてください。

(3) 国際センターについて

国際センター鳩山ブランチ（場所：12号館1階12128号室　10時～17時／月～金）

「国際センター鳩山ブランチ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

ハラスメント防止宣言

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。そのためには、すべての学生・教職員が教育・研究などの諸活動を進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において、相手を差別したり、性的な対象として心理的・身体的に傷つけたりすることは絶対にあってはならないことです。

埼玉鳩山キャンパスでは、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じて適切なハラスメント相談員を紹介します。キャンパス対策委員長は、必要に応じて、キャンパス調査委員会を設置して事実関係を調査し、ハラスメントの防止および問題解決に取組むことを宣言します。

TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

ハラスメント防止
鳩山キャンパス対策委員会

ハラスメント相談受付窓口は、
- 学生相談室
- 健康相談室
- 学生厚生担当
- 教務担当

です。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。
教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。

セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の２つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの？」、「子供はまだなの？」と聞く。

アカデミック・ハラスメントとは

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。
拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら

- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に居合わせたなら

周りの人にもできることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために

私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

第6章

総合メディアセンター

総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、各学系の教育課程および研究計画に沿った設備・機器、情報資源、ネットワークを整備し、各種情報メディアを有効に活用できるように様々なサービスを提供しています。

総合メディアセンターの計算機サービスと図書サービスは、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）はもとより東京千住キャンパス（工学部、未来科学部）と千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも、1 つの利用者 ID（学籍番号）とパスワードにより利用することができます。利用者情報を一元管理することにより、総合メディアセンターの各システムは、認証の共通化を実現しています。

パスワードについて

パスワードは、利用者ＩＤが他人に利用されることを防ぐ役目をする鍵です。個人データとシステムを守るために、パスワードを時々変更するようにしてください。

- 初期パスワードは必ず変更してください。
- 他人に推測されやすいパスワードに変更しないでください。
- 6 ～ 8 文字の英数字を混在させたパスワードにしてください。

＜ 利用上の注意事項 ＞

- 総合メディアセンター施設内での飲食や喫煙は厳禁です。清潔で静粛な環境を保つよう心掛けてください。※ただし、一部の施設内では、フタのできる密閉容器に入った飲み物に限り、持ち込みを認めています。
- 大きな声での話し合いは周りの迷惑になるため厳禁です。守れない場合は、総合メディアセンター施設から退出してもらいます。
- 携帯電話での通話は周りの迷惑となるため禁止します。どうしても使用する時は総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
- 機器類や図書資料は共有財産です。らくがきや破損等をしないよう、大切に使用してください。
- ユーザ端末、図書検索端末、プリンタ等の機器類に異常が発生した場合や、不測の事態が起きた場合は、直ちに総合メディアセンター員か係員に連絡してください。
- 利用者 ID の貸借や他人の利用者 ID を使った利用は絶対に行わないでください。第三者にパスワードが知られることがあり、不正利用に流用されたり、法令に触れる事件に巻き込まれる危険性があります。
- 印刷を実行するときは無駄のないように十分に検討を行った上で出力してください。また、学修に無関係な出力は厳禁です。
- 自分の出力したものは必ず持ち帰ってください。特に個人情報が載った出力結果等の取扱いには十分注意してください。

・ユーザ端末やサーバ等のシステム運用および利用上の変更については、総合メディアセンター内の掲示板とホームページでお知らせします。常に確認するようにしてください。
・総合メディアセンター施設内では、スタッフの指示に従って利用してください。

< 総合メディアセンターからのお知らせ >

ホームページまたは総合メディアセンターの掲示板にて、お知らせします。
総合メディアセンター（埼玉鳩山キャンパス）のホームページ
URL･･･http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

< 図書サービス >

(1) 図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。自動貸出機を利用して貸出手続きをすることもできます。また、他キャンパス所蔵の図書資料も、取り寄せて利用することができます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部 1 ～ 3 年生	5 冊	2 週間
卒業年次生（学部 4 年生）	10 冊	1 ヶ月
大学院生	10 冊	1 ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機を利用するか、または図書 Web ページから ID とパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

注意！

図書資料を延滞した場合、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。
なお、借用中の図書資料を紛失したり汚損したりした場合には、弁償していただきます。

■館内利用の資料

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌
3	修士論文および学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（DVD など）
5	貴重書

※上記 1 ～ 4 の他キャンパス資料は取り寄せが可能です。
カウンターで手続きをしてください。

■コピーについて

図書資料の複写は閲覧室内の複合機を利用してください。

著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第 31 条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。

図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

(2) 図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。返却はどのキャンパスでも可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。卒業・退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間にかかわらず即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。

(3) 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

(4) 図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。図書資料が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへ取りに来てください。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※資料が各キャンパスに届くまでの日数

東京千住　⇔　埼玉鳩山・千葉 NT　　1 ～ 2 日

埼玉鳩山　⇔　千葉 NT　　2 ～ 3 日

※状況によって日数が変更になる場合があります。

(5) 各種サービス

レファレンスサービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等 についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	OPAC で検索ができます。 閲覧室内の館内 OPAC 端末および総合メディアセンターの図書 Web ページからご利用ください。
当日貸出サービス	グループスタディの利用や、プロジェクター・ノートＰＣなどの各種機器、ＵＳＢ扇風機などの貸出を行っています。

Web によるお知らせとサービス（http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/）

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

- 資料検索
- 図書資料予約
- 返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
- 借用図書の貸出期間の更新
- 文献複写・図書資料貸借依頼〈有料〉
- 図書購入依頼（購入希望図書の申込）
- 新着図書情報
- ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
- オンラインジャーナル（IELOnline、ACMPortal、他多数）
- 各種データベース
- 電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。

以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

- 予約図書資料到着のお知らせ
- 貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
- 返却期限日のお知らせ（返却期限日の 1 日前に連絡）
- 延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
- 文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
- 購入希望図書到着・却下のお知らせ

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで

1 号館 3 階のカウンター

メール：h-library@mrcl.dendai.ac.jp

グループスタディ

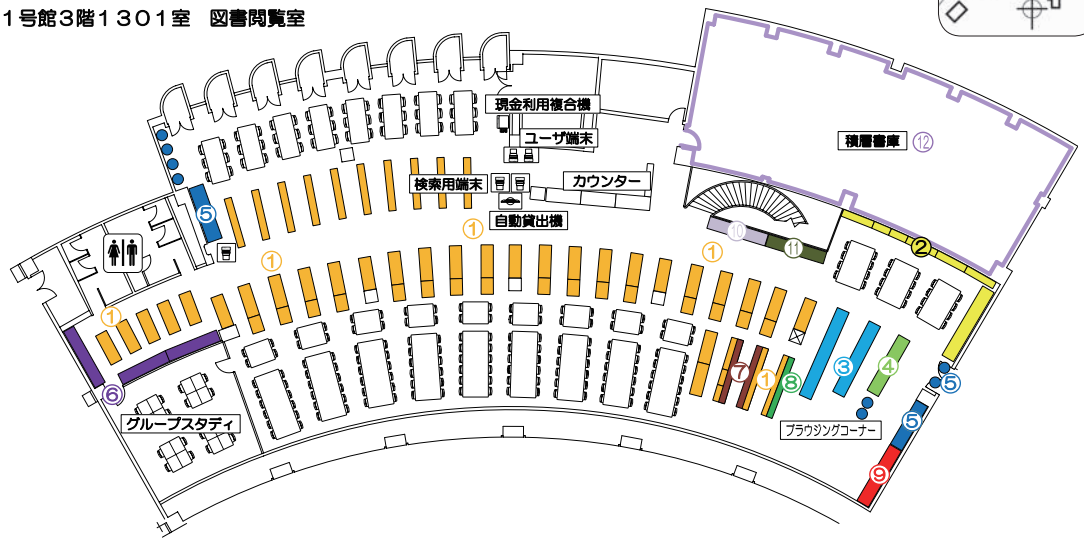
3 階閲覧室

エントランスホール

ブラウジングコーナー

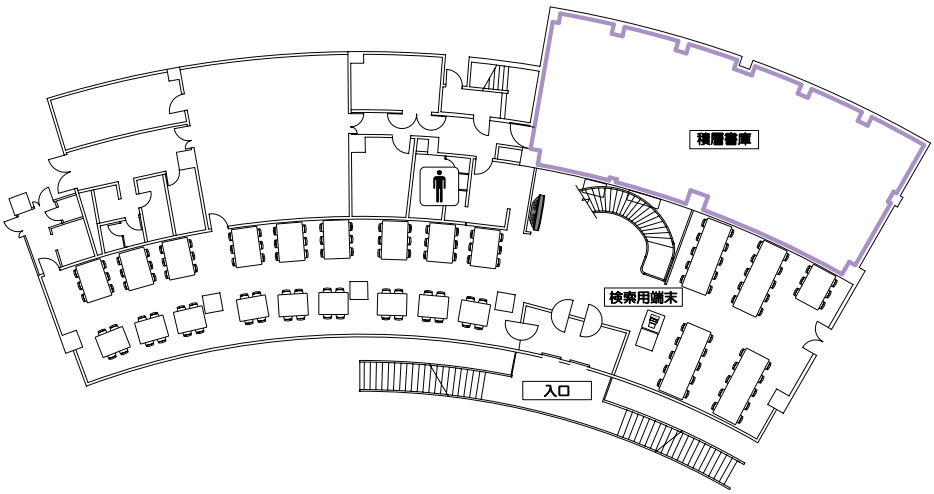
全体図

１号館３階１３０１室　図書閲覧室



1	一般図書	8	就職関係
2	参考図書	9	地図、ガイドブック
3	雑誌	10	ＡＶ資料
4	大学・企業紀要	11	展示コーナー（新着等）
5	文庫・新書	12	書庫１階　和書
6	大型本		書庫２階　洋書、新聞
7	受験書、資格試験等の参考資料		書庫３階　製本雑誌、博士・修士論文

１号館２階１２０１室　図書閲覧室



＜ 計算機サービス ＞

ここに掲載されていない具体的な設定値や詳しい利用方法については、Web ページや掲示等で案内しています。

総合メディアセンター（埼玉鳩山キャンパス） http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

○ 利用時間

		月～金	土	長期休業期間
パソコン教室	本館 1 階	9：15 ～ 19：20	閉室	
第 3 実習室	1 号館 1 階			
第 1・2 実習室	2 号館 1 階	9：15 ～ 20：00	9：15 ～ 16：50	
プリントルーム	2 号館 1 階			

- 休館日は、日曜・祝日・創立記念日（9 月 11 日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に本学法人または総合メディアセンターが特に必要と定めた日。
- 休日開館をすることもあります。また、システム作業等により変更になる場合もあります。Web ページで最新の予定表を確認してください。

◇ 基本サービス

総合メディアセンターの各システムと学内情報システムの多くは、利用者情報を一元管理することにより、認証の共通化を実現しています。これらのサービスを利用するためには「総合メディアセンター基本サービス」に登録されている必要があります。

- 本学の学生は入学時に基本サービスに登録され、ＩＤとパスワードが与えられます。
- ＩＤは学籍番号（学系等の英字は小文字）です。
- パスワードは自分で変更できます。定期的に、他人から容易に推測できないものに変更し、自分の責任で厳重に管理してください。最低限、毎年定める変更期間中に変更しなければなりません。

◇ ユーザ端末

○ ユーザ端末

- 「ユーザ端末」は本学の教育研究のためのパソコンです。本学の学生は誰でも利用できます。
- 主にコンピュータを利用した授業での利用を目的としていますが、授業以外の時間には自学自習のために利用することができます。各種ソフトウェアの利用のほか、総合メディアセンターのサービスと学内の様々なシステムへの入口としても機能します。
- 埼玉鳩山キャンパスには、各実習室とパソコン教室に約 300 台設置されています。他キャンパスのユーザ端末も同様に利用できます。
- プリントシステムを利用してカラー印刷、大判印刷、スキャン等が行えます。

●ユーザ端末は、ＤＶＤやＳＤカードのような外部媒体は利用できません（ＵＳＢメモリを除く）。これらを読み書きする必要がある時は、「メディア利用端末」を利用してください。

○　メディア利用端末

●メディア利用端末は、外部媒体を読み書きするための端末です。ＣＤ／ＤＶＤドライブの他、マルチカードリーダー／ライターを設置していますので、ＳＤカード等も読み書きできます。

○　リモートサービス

リモートサービスとは、学内 LAN に接続されているパソコン（情報コンセントや無線 LAN 等）およびインターネットに接続されているパソコン（自宅等の学外）から、パソコン教室、実習室に設置してあるユーザ端末と同様のパソコン環境を 24 時間いつでも利用できるサービスです。

本学の学生は誰でも利用できます。利用申請等は特に必要ありません。

利用方法等については、以下の Web ページを参照してください。

http://sunixsvr01.term.usmc.dendai.ac.jp/info1/RemoteService/RemoteService.html

◇　プリントシステム

パソコン教室、各実習室設置のユーザ端末をはじめ、学内 LAN に接続されているパソコン（情報コンセントや無線 LAN 等）から、利用できるオンデマンド方式の印刷環境で、カラー複合機、カラー大判プリンタ、モノクロ大判プリンタが利用できます。

本学の学生は誰でも利用できます。利用申請等は特に必要ありません。

利用方法等については、以下の Web ページを参照してください。

http://sunixsvr01.term.usmc.dendai.ac.jp/info1/Printsystem_manual_top.html

プリントシステムでは以下の機能が利用できます。

①パソコンからの印刷機能（学内 LAN に接続されたパソコンで Windows（32bit/64bit）、Mac、PC-UNIX）

② USB メモリからの直接印刷機能（対応ファイル：PDF、JPEG、TIFF、XPS、DocuWorks）

③コピー機能

④スキャナ機能

⑤大判印刷機能（A1 サイズ～ B0 サイズまで）

○ポイント制

●本システムはプリントポイントによる印刷管理を行っています。
プリントポイントは、全員に毎年度（年度初め）、初期ポイント（1,000 ポイント）を付与し、利用の度に利用種別に応じたポイントが消費されます。
プリントポイントがなくなると次年度まで利用ができなくなります。

●プリントポイントがなくなってしまった場合は、自己負担（有料）となりますがポイントを追加することができます。

●本システムは教育・研究を目的とするものです。学修に直接関係しない利用はできません。自己負担分であっても同様です。

●ポイント制は、利用者が印刷した枚数を認識し、資源の節約を意識してもらうことを目的としています。
必要のないポイント利用は控えて大切に利用してください。
環境や資源を守るためにも、なるべく規定の 1 ,000 ポイントの範囲内で利用してください。

利用種別	消費ポイント
複合機：モノクロ印刷	2 ポイント／用紙 1 面
複合機：カラー印刷	10 ポイント／用紙 1 面
複合機：スキャナ	消費しません
複合機：モノクロコピー	2 ポイント／用紙 1 面
複合機：カラーコピー	10 ポイント／用紙 1 面
モノクロ大判プリンタ	10 ポイント／ 1 印刷
カラー大判プリンタ	20 ポイント／ 1 印刷

※カラー印刷である必要のないものはモノクロで印刷することや、N アップ機能（用紙 1 面に複数ページを印刷する機能）を利用すれば消費ポイントを節約できます。

〇現金利用
図書館設置の複合機については、利用毎に料金を支払う現金利用専用（ポイント利用は不可）になります。
利用料金は以下となります。

利用種別	消費ポイント
複合機：モノクロ印刷	10 円／用紙 1 面
複合機：カラー印刷	50 円／用紙 1 面
複合機：モノクロコピー	10 円／用紙 1 面
複合機：カラーコピー	50 円／用紙 1 面

※図書館設置の複合機では、スキャナ機能は利用できません。

◇ メールシステム

●本学の学生は、" 学籍番号 @ms.dendai.ac.jp" のメールアドレスが付与されます。
● Web ブラウザを利用してメールの送受信ができる「Web メールシステム」が利用できます（https://webmail.dendai.ac.jp/ms/）。

◇ ファイルサービス

総合メディアセンターでは、ファイルサービスとして、授業の教材配布や課題の提出等に利用する「授業用ワークスペース」と各自の電子データを保存しておくための「ユーザ個人領域（1GB ／ 1 人）」を提供しています。

パソコン教室、各実習室設置のユーザ端末をはじめ、学内 LAN に接続されているパソコン（情報コンセントや無線 LAN 等）から利用できます。

◇　ソフトウェアライセンスサービス

総合メディアセンターで契約しているソフトウェアの一部は、総合メディアセンターが直接管理しているハードウェアのみならず、学生所有のパソコンにおいても、これらソフトウェアをインストールして利用できる様にソフトウェアライセンスサービスを提供しています。

利用できるソフトウェアや利用方法については、以下のWebページを参照してください。

http://www.mrcl.dendai.ac.jp/top/mm1/soft_index.html

◇　ネットワークサービス

● ＬＡＮポートと電源を備えた「情報コンセント」を学内各所に設置しています。

	設置場所
2 号館	1 階　第 2 実習室前
10 号館（本館）	1 階　情報端末コーナー 2 階　第 1・2 メディア教室，情報端末コーナー
12 号館	1 階　アトリウム情報端末コーナー，124 教室 2 階　221 教室 3 階　321 教室
3 号館	1 階　ＬＬ教室

● 学内の各教室及び以下の場所で無線 LAN が利用できます。

	設置場所
1 号館	2・3 階　総合メディアセンター図書閲覧室
4 号館	1 階　喫茶コーナー 2 階　学生食堂
9 号館	2 階　学生ラウンジ　4 階　談話室
10 号館（本館）	1 階　エントランスホール，中庭 2 階　プレゼンテーションホール
12 号館	1 階　アトリウム
5 号館	トレーニングルーム、ホール、剣道場、卓球場

● 利用に際してはユーザ認証を求められます。基本サービスのＩＤとパスワードで認証されます。

◇　プログラム相談

プログラム相談とは、機器の操作方法、課題の処理方法やプログラム技法、さらにはプログラム実行時のエラー等の問題について相談員の意見や解決方法のアドバイスを求めるために設けられています。プログラム相談は、大学院生のプログラム相談員が、第３実習室プログラム相談窓口で授業期間中に下記のように行っています。

期間	場所	時間
授業期間中	第３実習室	月～金　9：30 ～ 18：20

- 上記の時間帯で相談を行いますが、相談員がいない時間もあります。予めプログラム相談予定表（Web，掲示）を確認のうえご利用ください。

◇　諸注意

総合メディアセンターの設備は、皆が利用する共有設備です。利用マナー守って、皆が快適に利用できる環境を常に心がけてください。

○　ネットワークの利用について

インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外の他機関の資源を利用することでもあります。必要のない接続やデータ転送は行わないでください。

総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、接続状況をモニタリングすることがあります。

○　インターネットの利用について

著作権の侵害や不法なダウンロードは、社会人としての情報倫理に反するものであり、東京電機大学の構成員として許されるものではありません。法令またはネットワーク利用細則をはじめとする学内規程等に違反する行為は厳禁とします。

○　実習室の利用について

- 各実習室・パソコン教室等の設備や各種サービスは、教育研究のために提供されています。サークル活動や個人の趣味など、学修に直接関係のない目的では利用できません。
- 各実習室・パソコン教室・プリントルームは、図書閲覧室と同じように静かに利用してください。
- 濡れた傘は室内に持ち込まず、傘立てを使用してください。
- 各実習室・パソコン教室・プリントルームでの飲食は禁止します。飲食物は鞄にしまってください。
- 端末にログインしたまま、または荷物を置いたまま席を離れないでください。他の利用者が使えなくなったり、荷物を紛失する恐れもあります。
- 忘れ物に注意してください。特にＵＳＢメモリの忘れ物が絶えません。退出の際は、今一度、忘れ物のチェックをしましょう。

◇　問い合わせ

○　総合メディアセンター（埼玉鳩山キャンパス）窓口（本館１階事務室）

Ｗｅｂ：http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

メール：h-computer@mrcl.dendai.ac.jp

◇ 実習室設備一覧

○ パソコン教室（本館 1 階）

名称	設置機器	台数
パソコン教室	ユーザ端末（パソコン）	182 台（うち教員用 1 台）
	メディア利用端末（パソコン）	2 台
	カラー複合機（プリンタ）	4 台
	授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式

○ 第 3 実習室（1 号館 1 階）

※自学自習のための実習室です。授業は実施しません。

名称	設置機器	台数
第 3 実習室	ユーザ端末（パソコン）	74 台
	メディア利用端末（パソコン）	2 台
	カラー複合機（プリンタ）	4 台

○ 第 1・2 実習室（2 号館）

※各室間はパーティションにより分割・合同が可能です（最大 88 席）。

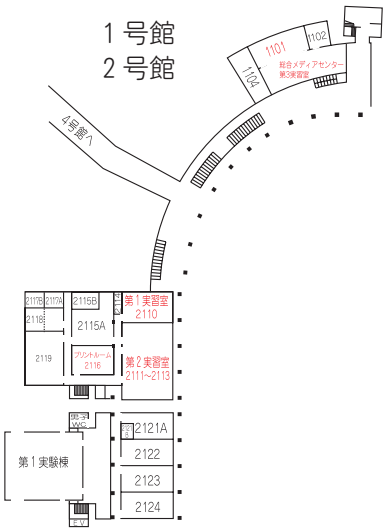
名称		設置機器	台数
第 1 実習室		ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式
第 2 実習室	第 2 実習室 A	ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式
	第 2 実習室 B	ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式
	第 2 実習室 C	ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式

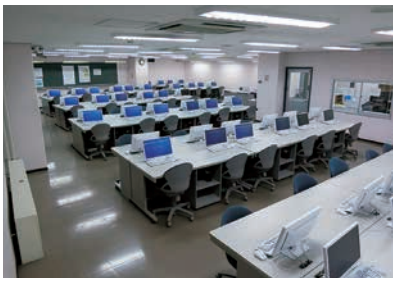
○ プリントルーム（2 号館）

※印刷のための部屋で、授業は実施しません。ここの端末は印刷指示専用です。

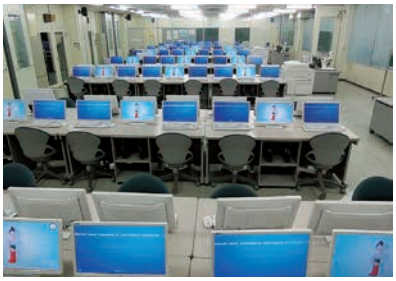
名称	設置機器	台数
プリントルーム	ユーザ端末（パソコン）	8 台
	カラー複合機（プリンタ）	1 台
	モノクロ大判プリンタ	1 台
	カラー大判プリンタ	2 台

全体図

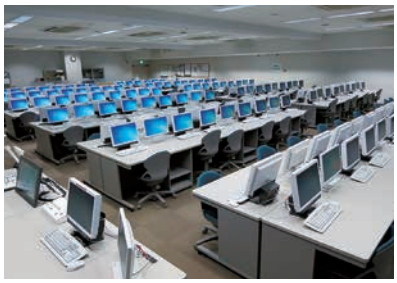




第3実習室



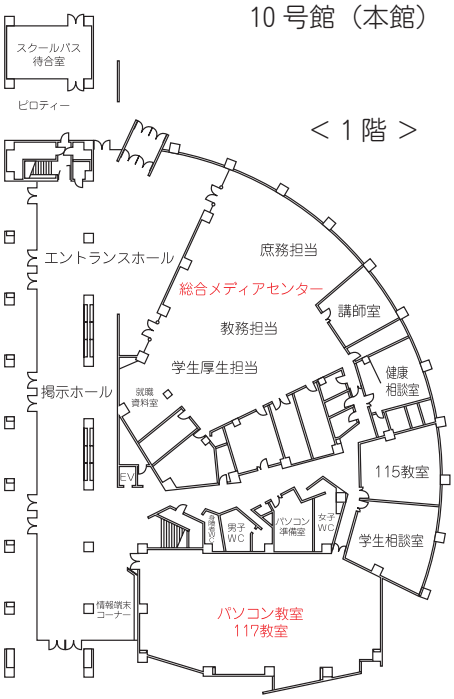
第1・2実習室



パソコン教室

プリントルーム

10号館（本館）



第７章

就職・進学

就　　職

卒業した後の進路として大多数の学生が就職を希望すると思いますが、満足な就職先を得るためには、日頃から就職に対する意識を持つことが大切です。例えば、何のために就職するのか、世の中にどんな仕事があって、どんな仕事がしたいのか、どんな仕事ができるのか等をよく理解しておくことです。

また、経済・産業・政治・文化・国際問題に関心を持って、広く世間を眺めるとともに、それらの情報を自分の就職活動に結びつけるように努めていきましょう。

1．就職指導

理工学部における就職指導体制については、就職活動全般について協議し、実行の中心となる組織として「就職協議会」を設置しています。企業等への推薦については学系長・就職担当教員が中心となり、必要に応じて「就職選考会議」を開催し、そこで求人側条件と求職学生の適性・能力を慎重に検討のうえ推薦者を決定していくことになっています。なお、理工学部の就職関係支援及び事務については、学生厚生・就職担当で行っています。

就職を希望するみなさんに対しては適宜、「就職ガイダンス」を開催します。その主な内容は、就職に対する心構えや、就職についての考え方、求人動向とその対策、就職登録や斡旋のための諸手続、就職活動への助言等です。

その他、就職に関する情報を提供すると共に、ＳＰＩ模擬テストや各種就職支援講座等を実施していますので積極的に参加してください。また､就職資料室（本館１階事務室内）では、就職に関する資料を収集し閲覧に供しています。なお、就職についての相談には常時応じています。

2．会社研究のために

参考文献

企業の事業内容・歴史・業績などを知るための主な参考文献としては、会社四季報・就職四季報・東洋経済（東洋経済新報社）、日経ビジネス（日経ＢＰ社）、週刊ダイヤモンド（ダイヤモンド社）等の他、各種就職情報誌があります。

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。今は実感がないかもしれませんが、社会に出てグローバルに仕事をする時がやってくるでしょう。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、皆さんの将来にとって非常に大切な事です。

私達（学生支援センター、理工学部事務部学生厚生・就職担当、情報環境学部事務部就職担当）は、皆さんの就職までの活動を側面から支援するスタッフです。皆さんに「生きがいのある将来」を目指し、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問が生じた場合は遠慮なく、先生方や私達スタッフに相談してください。

目標のある生活

大学生活を始めるにあたって、大学に進学した理由や学部、学科を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ…　今しかできないことを楽しんで経験することは、就職という「点」だけではなく「人生」という大きな流れにおいて非常に大切な事です。

キャリアを考える

キャリア career とは「経歴」「職業」の意で「人生」をもさす言葉です。キャリアは社会へ出たあと、会社で異動があるとき、自分で事業を始めるときなどに深く考える事になります。

将来の自分は「どんな人になっていたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。

皆さんの今後のステップとして、まず 1・2 年のうちから今後の「人生」を考え、3・4 年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として下記を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。

採用したい人物像　キーワード

- ・コミュニケーション能力があり、自分の考えを主張できる人（対人能力、思考力）
- ・学生時代に目的を持って行動し、成果を出した人（積極性）
- ・基礎学力をしっかりと身に付けている人（基礎学力、専門知識）
- ・ストレスに強く、環境変化に柔軟に対応できる人（適応力）

社会人基礎力の3つの能力

前に踏み出す力（アクション）
～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

考え抜く力（シンキング）
～疑問を持ち、考え抜く力～

チームで働く力（チームワーク）
～多様な人とともに、目標に向けて協力する力～

経済産業省「社会人基礎力」調査より

身につけよう！

今後の人生で直面する問題には**「一つの決まった答え」**というものはありません。

社会では、**「自分で考え、行動を起こす能力」**が求められています。

セルフチェックシート

それぞれの年次の目標とガイドを掲げます。
できた項目の□にチェックを入れよう。

First 1年目

自己発見
充実した学生生活を送る

□新しい目標を立てる
□授業中心の生活設計を完成
□読書・文章を書く習慣を身につける
□スポーツ、体力アップをはかる
□クラブ、課外活動に参加する

ガイダンスに参加しよう

Second 2年目

自分磨き
社会と自分の関係を考える

□興味を掘り下げ得意科目をつくる
□仲間をふやす
□研究したいことを見つける
□将来就きたい職業を見つける
□偏らず幅広い教養を身につける
□アルバイトで社会体験を拡げる
□英語力をつける
□社会奉仕活動（ボランティア）に参加する
□課外講座を活用する

ガイダンスに参加しよう

キャリア科目

専門知識や技術の修得だけではなく、社会環境の変化に対応できる強い人材（インテリジェントな技術者）を育成するため、右の3科目を新設しました。積極的に履修しましょう。

●フレッシュマンゼミ
「フレッシュマンゼミA」 少人数グループの授業で、学系の先生方と身近に接することができます。大学の生活や学問の方法・勉強の仕方など、新入生同士の活発な議論を通じて学んでいくことができます（前前期7回）。
「フレッシュマンゼミB」 高校までと違い、大学の講義ではレポートやディスカッションが大事になります。そのコツを伝授する講義の他、やがて来る就職活動や卒業後の職業意識を高めるためのレッスンもあります（前後期8回）。

●キャリアワークショップ
複数の学系の学生からなるグループで問題解決型の演習を行うことで、異なる専門分野のメンバーが協力し合って問題が解決できることを知り、社会で協働する能力を育成します。

取っておくと役立つ資格、目標としたい検定試験例

電気・通信

電気工事士／電気主任技術者／電気通信主任技術者／電気工事施工管理技士／工事担当者／家電製品エンジニア／無線従事者（陸上特殊無線技士・海上特殊無線技士など）／ラジオ・音響技能検定

情　報

パーソナルコンピュータ利用技術認定／ITパスポート／ITストラテジスト／基本情報技術者／応用情報技術者／データベーススペシャリスト／システム監査技術者／ITサービスマネージャ／情報セキュリティスペシャリスト／プロジェクトマネージャー／システムアーキテクト／ネットワークスペシャリスト／エンベデットシステムスペシャリスト／ORACLE MASTER／MCP／MOT／CCNA／Java 認定資格／CompTIA／CIW

4年間の設計図を描いていこう！

Third 3年目

社会への跳躍
コミュニケーション能力をつける

□プレゼンテーション技術を習得する
□就職支援行事に積極的に参加する
□将来の目標となるエンジニア像を抱く
□留学や課外活動など幅広い活動をする
□特技や得意分野をさらに拡げる
□主体的に計画や実験に関わり成果を出す
□新聞を読む習慣はついているか
□良き相談相手を持つ
□文章、英語による自己表現力を磨く
□実験・研究テーマを掘り下げる
□インターンシップに参加する

仕事研究や就職支援行事が本格化。3年終わりから就活開始。

●TDUプロジェクト科目
原則として、産学連携でプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクト遂行を通して問題解決能力の向上および任務遂行の責任感を養成します。

Fourth 4年目

夢の実現へ
4年間の集大成

□武器となる工学の専門知識がある
□専門家としての具体的なプランを持つ
□誰にも負けないスキルを持つ
□次世代技術についての知識がある
□プレゼンテーションが特技だ
□学生時代に弱点を強みに変えた
□英語でコミュニケーションできる
□研究レポートをまとめるのが得意だ
□明るく、プラス思考である
□体力には自信がある
□研究テーマと社会との関わりを考えている
□社会人としての知識やマナーを身に付ける

進路が決まった。
さぁ、卒業まで最後の追い込みだ！

進路決定！ 就職決定者は内定報告書をすみやかに所属学系に提出

大学院進学
より高度な研究者をめざして

機械・デザイン
自動車整備士／航空整備士／機械設計技術者／ガス溶接作業主任者／画像処理エンジニア検定／消防整備士／冷凍空調技士／ CAD 利用技術者／CAD トレース技能審査／ DTP エキスパート／マルチメディア検定／ CG エンジニア検定

建築・土木
建築士／土木施工管理技術士／管工事施工管理技術士／測量士（補）／設備士／インテリアコーディネーター／インテリアプランナー／福祉住環境コーディネーター検定／宅地建物取引主任者／土地家屋調査士

その他
技術士（補）／ FE ／ EIT ／ PE ／危険物取扱者／ボイラー技士／公害防止管理者／エックス線作業主任者／エネルギー管理士／ TOEIC ／ TOEFL ／工業英語検定

ＴＤＵ求人情報（企業検索システム）

本学に求人依頼のあった企業情報をデータベース化し、インターネット上で閲覧できるシステムです。各コンピュータ教室や各研究室等、学外のパソコンからアクセスが可能です。また、卒業生が書き残していった「就職活動体験記」も閲覧出来ますので大いに活用しましょう。

このシステムのアドレスは

http://cweb.dendai.ac.jp/

（アクセスにはパスワードが必要です。認証用の ID とパスワードは総合メディアセンターを利用するときに使用するものと同じです。）

埼玉鳩山キャンパス就職資料室

埼玉鳩山キャンパス就職資料室は本館１階事務室内にあり、求人票、会社資料等がファイルされています。個々の会社案内等の資料は、本学に求人の依頼があった企業のものが主体ですが、参考資料その他も取り揃えてあります。

開室時間　　月～土　9：20 ～ 17：00

東京千住キャンパス就職資料室

東京電機大学東京千住キャンパスにある就職担当部署の学生支援センターを利用することも可能です。埼玉鳩山キャンパスと同じ就職関連資料の閲覧や就職について相談することが出来ます。就職活動で都内に行った際は、学生支援センターに立ち寄ってみましょう。

開室時間　　月～金　8：50 ～ 20：00
　　土　　8：50 ～ 17：00

３．公立学校教員志望者

公立学校の教員採用試験は、教職教養・一般教養・専門教科・面接等で構成されています。この試験で留意しなければならないことは、合格イコール採用ではないことです。ここでの合格とは「公立学校教員採用候補者名簿」に成績順に登載されるということであり、採用は名簿登載者の中から諸条件を考慮して決定されます。したがって、高位で合格することが、採用を確実にする第一の方策となります。

ところで、この試験を高位で突破するということについてですが、教員養成の専門大学ではない一般の大学の場合はカリキュラムそのものが教員養成を直接に目的としていないた

め、不十分となることはやむを得ません。したがって試験の内容にあわせて、自分で補充、努力していかねばなりませんが、このための参考書、雑誌、問題集等は、一般の書店で容易に手に入りますし、通信講座や公開模試を行うところもありますので、これらを利用するとよいでしょう。

教職につこうとする人は早い段階から問題意識をもって取り組み、しかも、単に知識のみをつめこむだけではなく、教師としての真の情熱をも併わせもつ人材たるべく努力してほしいものです。なお、教員採用試験の倍率が高い教科もあるので、その動向については、十分留意することが必要です。

4．公務員志望者

公務員は、国または地方公共団体で公務を行う、国家公務員と地方公務員の大きく 2 つに分けられます。その中でも行政職、技術職、公安職、資格免許職など非常に幅広い職務内容があります。また、公務員として採用されるには、公務員試験に合格しなければなりません。

国や多くの地方自治体では、行政運営の効率化を図るために行政組織の統廃合、経費の削減など取り組んでおり、さらに少子高齢化対策、災害等に対する危機管理なども期待されるなど、公務員を取り巻く環境も変化しています。また、今後の社会情勢により、新規学卒者の公務員志望数が増加し、競争倍率が厳しいものになることも予想されます。これに加えて、試験問題の難度が高いことは、従来から定評のあるところです。したがって公務員試験の難関を突破するためには、相当の心構えを持ち、試験までの短い期間を受験準備のために有効に活用するために、入念な対策を立てて、万全の態勢で試験に臨むことが必要です。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座等を実施しますので、各自が充分な学習や対策を講じるとともに、これらの行事に積極的に参加をして実力を養うことを心がけてください。

公務員試験

資　格	取　得　条　件	取扱い機関
国家公務員（総合職）	院卒者試験：30 歳未満で大学院修了及び大学院修了見込みの者 大卒程度試験：21 歳以上 30 歳未満の者 （政策の企画立案等の高度の知識、技術又は経験を必要とする業務）	人事院 各事務局
国家公務員（一般職）	大卒程度試験：21 歳以上 30 歳未満の者 （事務処理等の定型的な業務）	人事院 各事務局
地方公務員（上級）	学歴等に制限なく各都道府県、市町村職員の採用試験を受験できる。	各地方人事委員会 事務局
＜東京 23 区＞ 特別区職員（Ⅰ類）	採用予定年 3 月 31 日現在 22 歳以上 28 歳未満なら男女・学歴を問わず受験できる。	特別区人事委員会 事務局

5．各種学内講座

本学では、学生の資格取得又は公務員試験合格を支援するために各種講座を開いています。昨年度募集した講座は以下の通りです。今年度の日程につきましては、別途掲示致します。

（1）2 級建築士講座

期　間：期間開始月は未定

費　用：有料

授業数：105 分授業 1 日 2 コマ、計 7 日間 14 コマ

（2）公務員試験紹介イベント

期　間：5 月末～ 10 月まで（予定）

費　用：無料

授業数：90 分授業 1 日 2 コマ、計 9 日間 18 コマ

6．学内 TOEIC 試験

TOEIC とは、アジアやヨーロッパなど世界 50 カ国で実施されている英語能力試験です。ビジネスにおける英語のコミュニケーション能力を測る試験としての特徴があり、多くの企業が採用時に TOEIC 試験の得点を重要視しています。在学中に各企業に求められる得点を得ることが就職に有利であることは言うまでもありません。従いまして、本学では、格安で受験できる学内 TOEIC 試験（TOEIC IP テスト）の受験を薦めています。

〇学内 TOEIC 試験実施について

☆学内 TOEIC 試験の実施要領については、DENDAI － UNIPA にて連絡しますので見落とさないように注意してください。（必要に応じて、本館エントランスに掲示も出します）

申し込みは証明書自動発行機で行います。期間に申し込めなかった場合はいかなる理由においても受け付けられませんので注意してください。

埼玉鳩山キャンパスにて実施する TOEIC 試験のうち、「学内 TOEIC」の名称で実施する試験については「TOEIC IP テスト」と呼ばれるもので、「TOEIC 公開テスト」とは区別されます。

詳細については一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会のホームページにてご確認ください。

※どちらの試験結果についても基本的には等しく評価されますが、就職活動等で利用する場合、提出先によっては「TOEIC 公開テスト」の試験結果を求められる場合がありますのでご注意ください。

進　学

大学院理工学研究科には修士課程5専攻が設置されています（下表参照）。また修士課程修了者は、先端科学技術研究科博士課程（後期）へ進学する者もいます。

修士課程の入学試験は、学内推薦入試（5月頃・9月頃）、一般入試（6月頃・2月頃）、3年次以上の在学での卒業生に対する入試（9月頃・3月頃）等が行われます。

なお、学内推薦入試の場合は、3年次終了時点の成績が被推薦基準となっています。

上記入学試験の詳細については、各入学試験の「学生募集要項」をご参照願います。

（問い合わせ先：本学入試センター（東京千住キャンパス　1号館4階）TEL 03-5284-5151）

また、他大学大学院の募集要項が学生厚生担当で保管されていますので、それらをよく見て進路を決定してください。現在では、研究所やそれに類する研究機関を持っている企業も多く、大学院修了生の求人も増加しています。

特に公的研究機関に就職を希望する場合は大学院への進学を勧めます。

大学院（理工学研究科）

修士課程
理学専攻
生命理工学専攻
情報学専攻
電子・機械工学専攻
建築・都市環境学専攻

※大学院についての詳細は「第8章 大学院」を参照してください。

「東京理工系４大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく他大学院推薦入試制度

「東京理工系４大学による学術と教育の交流に関する協定」（協定校：芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学、本学）の一環として、４大学による大学院修士課程への特別推薦入試制度があります。

この制度は、各大学の学部学生に対して各大学の各研究科各専攻が、他大学から推薦された学生（出身大学内の学内推薦基準を満たしている学生）を１名ずつ受入れ、相互の交流をはかることを目的としております。

詳細については、本学入試センター（東京千住キャンパス１号館４階）又は教務担当までお問い合わせください。

科目等履修生（卒業生・その他）

本学において、特定の授業科目について、さらに学習してみたい場合や、各種資格免許の取得、あるいは職務上の必要などから単位が必要となった場合には、科目等履修生として履修することが出来ます。

卒業後このような必要性が生じたら、教務担当に問い合わせてください。

〒350－0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
TEL　049－296－0430

編入学者

他大学、専門学校等からの編入学者は、単位認定方法が個人により異なりますので、編入学時に教務担当窓口まで問い合わせてください。

卒業後の各種証明書の申請について

卒業後に証明書が必要となることがよくあります。次の事項によく注意して申請をしてください。

1．請求方法

教務担当窓口まで来校するか、または郵送によって申し込んでください。（電話での申し込みは受け付けいたしません。）

2．請求に際しての必要事項（郵送の場合）

・卒業年月
・学系名・学籍番号
・氏名・生年月日・本籍地（都道府県のみ）
・証明書の種類と必要部数
・交付手数料相当の現金または郵便局の小為替・返送用郵便料相当の現金または切手
・返送先の郵便番号・住所・氏名・連絡先（電話番号）
・返送を速達で希望する場合はその旨
※身分証明書のコピーを必ず添付してください。

3．交付手数料

卒業証明書	500円
成績証明書	500円
JABEE 修了証明書（2007 年卒以降）	500円
卒業証明書（建築士プログラム）	500円
人物調査書	1,000円
大学院進学用調査書	1,000円
学力に関する証明書（教職関係）	1,000円
英文卒業証明書	1,200円
英文成績証明書	2,000円
元在学成績証明書	1,000円
元在学証明書	500円

（学生厚生担当扱い）

4．問い合わせ・請求先

〒 350－0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
ＴＥＬ 049（296）0430
（在学生の問い合わせは受付ません。）

本学のホームページ　理工学部事務部教務担当に証明書申込み方法が記載してあります。

http://www.cse.dendai.ac.jp/graduates/certificate.html

後　援　会

1．後援会について

後援会は学生の父母（または、保証人）と教職員が会員となり、会員の中から選出された役員により、学生が充実した楽しいキャンパスライフを過ごせるように様々な事業をおこなっています。

また、後援会の事業は会員の皆様からの会費によって運営されています。

2．後援会の事業

・父母懇談会の開催

各キャンパス及び全国各地（10 会場・H 27 年度実施) で開催をしています。父母懇談会では、会員へ大学の現況報告をお知らせし、教職員と面談する機会を設けています。父母懇談会は父母同士の意見交換や懇親の場でもあります。

・『父母のための東京電機大学ガイド』の発行

・会誌『学苑』の発行

年に 3 回、会員へ郵送しています。学苑には、学生生活の報告、教育・事業の報告、大学行事の報告等が掲載されています。

・メールマガジン配信

『学苑』でお伝えしきれない内容や緊急連絡等をメールマガジン登録会員 (父母) へ配信しています。

・クラブ活動への補助

委員会・クラブ・同好会の課外活動に対し、補助金による支援を行っています。

・学園祭・体育祭への補助

旭祭（東京千住キャンパス）、鳩山祭（埼玉鳩山キャンパス）、秋葉祭（千葉ニュータウンキャンパス）及び全キャンパスが一同に集う合同体育祭に補助金による支援を行っています。

・キャリア・就職支援

学生と本学卒業生が懇談し、卒業生の活動状況と将来計画の相談等を行う『仕事研究セミナー』の開催に対して補助金による支援を行っています。

・国際交流への補助

学生と留学生との交流をはかるため、特に国際センターＨＰの留学促進ページの更新など、学生へ海外留学の魅力を広報することに対して補助金による支援を行っています。

後援会のホームページ

http://www.soe.dendai.ac.jp/gakusei/G_supporter_association/supporter_association.html

校　友　会

みなさんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を耳にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

1．校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生のみなさんへの支援も行っています。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

2．校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校、電機学校）の同窓会、各県支部（みなさんの出身地にもあります）や公認団体として職域電機会（同じ職種や企業内同窓会）があります。将来、これらの組織が就職活動等でみなさんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しています。

3．東京電機大学校友会新電気奨学金

この奨学金制度は、各学期の学費納入期限までに募集しています。学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた場合に、書類審査及び面接により校友会が貸与するものです。

貸与を希望する方は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の 1 ／ 2 相当額

返　還：卒業後半年据え置いた後、5 年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済
（一括返済可・無利息）

4．大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後の OB ／ OG 会やクラス会の開催の援助はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大で約 11 万名に達しています。

また、在学生の就職進路におけるキャリア支援事業に対しても支援をしています。大学同窓会では学園と協力して“仕事研究セミナー”の開催及び、産業界で活躍している先輩方による就職進路相談などの行事に対しても協力しています。社会の第一線で活躍する卒業生による「仕事」に対してのアドバイスは、就職活動中の学生には好評を得ています。

さらに、各キャンパスにおいて学園祭に合わせて、「OB 交歓会」を開催しています。開催日同日には、優秀な学生団体に対して丹羽賞及び、同窓会奨励賞の授与式を実施するなど、卒業生と在学生との交流を図る行事を開催しています。

①丹羽賞

初代学長の丹羽保次郎先生が、生前に大学同窓会に対して寄付をしていただいた基金を基にして創設されたものです。在学会員(在学生)のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去 1 年間に優秀な課外活動成果をあげた学生団体を表彰します。

②同窓会奨励賞

昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を続けている団体を表彰します。

5．校友会を訪ねてください

校友会の事務室は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたら気軽に相談してください。

一般社団法人　東京電機大学校友会
〒 120-8551　東京都足立区千住旭町 5 番
東京電機大学東京千住キャンパス 1 号館 2 階 1203 室
TEL：03-5284-5140　E-mail：kouyukai@jim.dendai.ac.jp
FAX：03-5284-5187　URL：http://www.tduaa.or.jp/
業務時間 9：00 ～ 17：00

第8章

大学院

大学院入学のすすめ

大学院の特徴

時代をリードする最先端の研究体制

東京電機大学は、全学的研究機関である「総合研究所」を設置し、付属施設である「埼玉共同利用施設」（埼玉鳩山キャンパス）、「千葉共同利用施設」（千葉ニュータウンキャンパス）に、それぞれ高度先端機器装置を有し、本学の教員・学生の研究活動を支援しています。また、独自の研究・開発テーマのもとで優れた成果をあげると同時に、国家プロジェクトとの連携、地域の企業・大学・研究所との共同研究も積極的に推進し、科学技術の発展に寄与しています。

国際学会への参加を積極的に促進

研究で十分な成果を出す学生へ、国内外での学会に参加し、発表する機会を積極的に設けています。さまざまな専門分野の最先端の研究成果にふれ、また人との交流を通して、研究テーマへの関心が深まり、視野も広くなります。東京電機大学大学院の学生は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどで107件の国際学会において研究発表し、貴重な経験をしています。（平成26年度実績）。

時代の先端を行く教員の指導と理想の研究環境

東京電機大学大学院では研究領域の多様化と研究内容の拡大を目的に、学外の研究機関と連携して院生の研究指導を行う「連携大学院方式」を導入。院生は協定先のさまざまな研究機関、客員教員として迎えた連携先研究者のもとで、高度な研究指導を受けることができます。さらに、国内35大学（平成26年度現在）との「学術交流協定」により、他大学の科目履修や研究指導を受けることができ、多くの院生が積極的に協定を活用することで、自らのスキルアップに努めています。

公開式の学位論文発表会

東京電機大学大学院の「学位論文発表会（修士・博士）」は、教職員や院生・学部生はもとより、一般の企業や研究機関など外部の人々にも公開しています。その目的は、院生が自らの研究を世に問い、科学技術者・研究者としての資質を磨いていくためにほかなりません。発表会はポスター形式、口頭発表形式など、研究科・専攻ごとに異なったスタイルで行われていますが、社会的な注目度も高く、毎年熱い議論が交わされています。

大学院生をサポートする奨学金制度と教育訓練給付制度

東京電機大学では、国や地方公共団体、民間育英団体の奨学金制度とは別に、本学独自の奨学金制度を用意しています。また、大学院修士課程全13専攻は、厚生労働省が運営している教育訓練給付制度の対象講座であり、社会人入試で入学し、一定の条件を満たす学生は、給付金を受けることができます。いずれも人材の育成を目的に、大学院生を経済面から支援する制度ですので、積極的にご応募ください。

従業員1,000名以上の大企業に約6割の大学院生が就職

本学園が世に送り出した卒業生はおよそ20万人。その多くが刻々と変化する現代社会のニーズに対応した科学技術者・研究者として高い社会的評価を受けています。企業や研究機関の新卒採用において研究開発要員として本学大学院修了者を指名するケースも少なくありません。こうした長年の信頼と確かな実績から、約6割の大学院生が従業員1,000名以上の大企業に内定しています。また、博士課程では修士課程を横断的に統合したユニークな教育を展開しており、キャンパス・分野にとらわれない広く深い学びを実現しています。

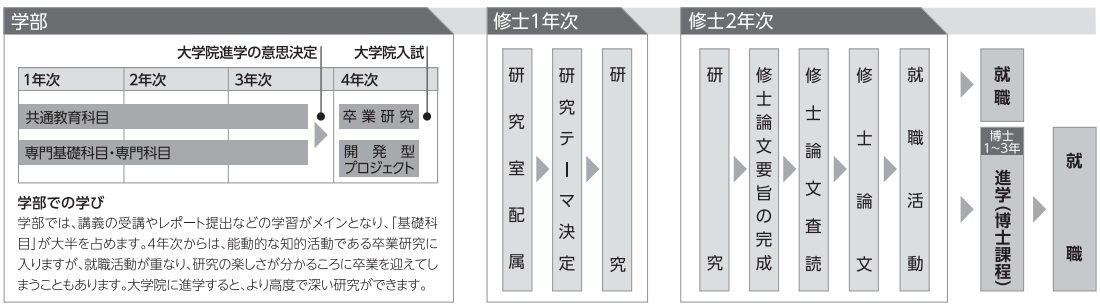
大学院でのステップアップ

大学院での学びと生活

大学院に進学すると、「正解」を導く学習から「問い」や「発見」を探す能動的な研究活動に大きくシフトします。指導教授のもと研究テーマを決め、修士課程で2年間、博士課程ではさらに3年間かけて研究に専念します。大学院生は、研究室での研究活動や、最先端の研究施設を使用した実験そして論文作成などが中心になりますが、各自が時間管理をしっかり行い、ディスカッションや研究の進捗状況報告、学会への参加、後輩指導、さらに就職活動まで、さまざまな活動を行います。

副手制度　学部の授業において教員を補助して後輩を教えることにより、人を指導する力を身につけると同時に、自分自身の理解も深めることができます。この副手制度は、月額で手当が支給され、大学院生の経済的支援にもなっています。

就職活動　きめ細かいキャリア支援や、これまで世に送り出した約20万人の卒業生に対する高い評価などが、大学院生の就職を強力に後押しします。毎年、企業から引く手あまたで約6割の大学院生が従業員1,000名以上の大企業に就職しています。



研究の成果・実績

院生の学会での受賞・表彰の実績

27件（平成26年度実績）

■電気学会　■日本生体医工学会
■人工知能学会　■IEEE
■日本セキュリティ・マネジメント学会

院生の国際学会への参加

107件（平成26年度実績）

■アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、中国、韓国、台湾　など

■国際学会への参加に対する補助金制度もあります（「学費・奨学金・副手制度など」参照）

科学研究費補助金の採択件数（文部科学省、日本学術振興会）

99件（平成25年度実績）

科学技術研究費補助金は、人文・社会・科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までの独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。その研究成果はノーベル賞をはじめ研究者の国内外のさまざまな受賞につながっています。

受託・共同研究および公的研究費の受け入れ件数

136件 ¥247,307,650（平成25年度実績、継続を含む入金額）

■企業などからの受託研究の受け入れ件数と金額です。

研究奨励寄付金の受け入れ件数

68件 ¥99,838,782（平成25年度実績、継続を含む入金額）

■企業などからの研究奨励寄付金の受け入れ件数と金額です。

理学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

理学専攻は数理科学部門、物質科学部門の 2 部門から成っています。数理科学部門では、解析学・代数学・幾何学の数学 3 分野と数理情報学分野を中心に、その諸科学への応用までを視野に入れた研究を行います。物質科学部門では、物理学と化学を基軸とし、物質の構造・性質・反応性を中心に、実験および理論面から掘り下げて研究します。また専攻共通科目として両部門の共通基盤科目が用意されており、自らの研究の動機付けが得られるようになっています。

〈研究部門・テーマ〉

■数理科学部門：関数解析学、偏微分方程式論、代数幾何学、不変式論、楕円曲線論、ホッジ理論、整数論、ガロア表現論、微分幾何学、曲線曲面設計論、マシンビジョン、人工知能、数理システム論、学習理論

■物質科学部門：燃料電池、溶液化学、非平衡統計力学、つながりの科学、社会物理学、ナノ粒子の物理、磁性物理、スピン系の統計力学、多孔性固体による物質の吸着、ソフトマテリアルの熱物性、化学振動

〈開設科目〉

■数理科学部門

解析学Ａ	解析学Ｂ	代数学Ａ
代数学Ｂ	幾何学Ａ	幾何学Ｂ
解析学特論Ａ	解析学特論Ｂ	代数幾何学特論Ａ
代数幾何学特論Ｂ	代数学特論Ａ	代数学特論Ｂ
離散幾何学Ａ	離散幾何学Ｂ	数理システム理論
ロバストシステム理論	情報数学	人工知能
応用代数学	確率システム理論	確率過程論
情報理論	計算機ネットワーク特論	計算量理論特論
情報数理特論	応用確率統計特論	数理科学セミナーⅠ
数理科学セミナーⅡ	数理科学特別研究Ⅰ	数理科学特別研究Ⅱ

■物質科学部門

溶液化学	物性化学特論	反応化学特論
電気化学特論	界面化学特論	コロイド科学特論
有機合成化学特論	高分子合成化学特論	錯体化学特論
計算化学特論	生理活性有機化合物特論	植物細胞工学
分子細胞生物学	物性物理学特論	物理学特論Ａ
物理学特論Ｂ	物理学特論Ｃ	物理学特論Ｄ
物質科学輪講Ⅰ	物質科学輪講Ⅱ	物質科学セミナーⅠ
物質科学セミナーⅡ	物質科学特別研究Ⅰ	物質科学特別研究Ⅱ

■共通科目

数理科学基礎	化学熱力学特論	統計物理学特論
数理物理学	理学インターンシップ	

理学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
数理科学部門	荒牧　淳一＊	教　授	関数解析学、偏微分方程式論
	大塚　尚久＊	教　授	システム理論、制御理論
	勝野　裕文	教　授	人工知能、知識表現、データベース
	狩野　弘之＊	教　授	自律ロボット、視覚情報解析、曲線曲面の設計論
	中野　哲夫＊	教　授	射影多様体への群作用、不変式論、代数曲線のモジュライ空間
	硲　　文夫＊	教　授	楕円曲線論、ホッジ理論
	山形　周二	教　授	ガロア表現、形式群
	石原　聖司＊	准教授	学習理論、画像情報処理
	小黒　　隆	講　師	微分幾何学
	髙橋　秀慈	講　師	偏微分方程式論
	日高　章理	助教Ａ	統計的パターン認識と機械学習の研究
物質科学部門	安食　博志＊	教　授	量子光の生成などの非線形光学応答、光による物質（ナノ系）の励起状態
	☆小川　英生＊	教　授	生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、生命および環境化学物質を含む溶液の物性論的研究、超臨界流体の熱力学的研究
	足立　直也＊	准教授	機能性有機・高分子化合物の創出と物性に関する研究
	井上　　真	准教授	統計物理学、磁性体のスピン模型
	細田真妃子＊	准教授	液体の構造をミクロに観測する装置の開発、液体の物性測定装置の汎用化への試み
	向山　義治＊	准教授	燃料電池の電極触媒の研究、水の電気分解の研究、化学振動の研究
	山岸　日出＊	准教授	楕円曲線におけるモーデル・ヴァイユ群、代数多様体の有理点の分布
	山室　憲子	准教授	溶液およびソフトマテリアルのダイナミクスと熱力学的研究
	類家　正稔	准教授	多孔性固体による物質の吸着
	石井　　聡	助教Ａ	ナノデバイス、ナノ材料物性
	宮里　裕二	助教Ａ	機能性金属錯体の開発に関する研究
	山田　祐理	助教Ａ	分子動力学法による相境界の観察、初学者のための分子動力学プログラムの開発

☆専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

生命理工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

生命理工学専攻では、生命現象を論理的に考察する力をそなえるとともに、医療・環境・食料領域における様々な課題を専門的な学識・技術を統合して先導的に解決できる人材を養成することを目指しています。生命理工学分野における専門性の涵養を図るために、体系的な教育課程を提供します。また、思考の過程を伝達するためのプレゼンテーション・コミュニケーション能力を養い、問題解決能力を身につけるために、実践的研究活動の機会を提供します。このために、生命科学と環境科学の二つの部門において専門性の深化をはかる教育研究を行います。

〈研究部門・テーマ〉

■生命科学部門：抗がん物質の構造活性相関、タンパク質の細胞内局在化と品質管理機構、運動器系および呼吸器系器官の組織再生に関する研究、細胞死の誘導機構の研究、生物学関連データの情報科学的解析手法への開発

■生物環境部門：植物培養細胞の超低温保存、レオロジーや生体調節に影響を与える食品中の化学成分の構造と機能解析、高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、植物における葉から根への光情報伝達機構

〈開設科目〉

■生命科学部門

生理活性有機化合物論	化学熱力学特論	界面化学特論
コロイド科学特論	物性化学特論	物性物理学特論
生体組織工学	生体システム科学	バイオデータ解析
生命科学セミナーⅠ	生命科学セミナーⅡ	生命科学特別研究Ⅰ
生命科学特別研究Ⅱ		

■生物環境部門

低温生物工学	食品バイオ工学	環境生物学
植物環境工学	植物細胞工学	生物環境セミナーⅠ
生物環境セミナーⅡ	生物環境特別研究Ⅰ	生物環境特別研究Ⅱ

■専攻共通科目

分子細胞生物学	生理化学	臨床医学
生命理工学インターンシップ		

生命理工学専攻　教員一覧

教育・研究部門	氏　　名	職　名	現　在　の　研　究　テ　ー　マ
生命科学部門	川井　　悟＊	教　授	がん細胞増殖抑制物質の構造活性相関に関する研究、酵素阻害物質の構造活性相関に関する研究、多剤耐性化阻害物質の探索的合成研究
	☆田中　眞人＊	教　授	タンパク質の細胞内局在化と品質管理の研究、蛍光タンパク質や抗体の高度利用法に関する研究、低酸素応答に関わる細胞内情報伝達機構の研究
	村松　和明＊	教　授	骨・軟骨組織の再生、体性幹細胞の分化制御と細胞移植療法、機能性生体材料の開発に関する研究
	刀祢　重信＊	特　任 教　授	発生や精子形成でのプログラム細胞死の解明、母体はなぜ胎児を排除しないのか
	長原　礼宗＊	准教授	細胞死・細胞分化の誘導機構の研究、抗癌剤の作用機序の研究、自然免疫機構の研究
	根本　　航＊	准教授	生物学関連データの情報科学的解析手法の開発、及び、医薬・食品分野への応用研究
生物環境部門	栗山　　昭＊	教　授	植物培養細胞の超低温保存、組織培養による植物の生産、植物細胞の低温・乾燥耐性
	椎葉　　究＊	教　授	小麦グルテニンサブユニットやアラビノキシランの構造と機能に関する研究、バイオレメディエーション技術と微生物フローラの遺伝子解析に関する研究
	村勢　則郎＊	教　授	高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、クモの糸の氷核活性とその利用、線虫の凍結保存
	安部　智子	助教Ａ	微生物酵素を用いた有用物質生産、難分解性化合物質化性菌のスクリーニングとその解析

☆専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

情報学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

情報学専攻においては、多様化する高度情報化社会の要請に応え、その基盤となる情報学の発展に貢献できる科学技術者・職業人の養成を目的とします。幅広い専門知識をもち、多角的で総合的な判断能力と問題解決能力を有する高度かつ先端的な人材を養成します。産業界からさまざまな学術・文化活動にまで影響を及ぼしている高度情報化社会に対応するため、理工学から社会科学・人文科学の領域にまで拡大した学際的な学術分野である情報学の各分野の、分野横断的・文理複合的な教育研究を行います。この目的を達成するため、情報システムと情報デザインの 2 部門を設置しています。

〈研究部門・テーマ〉

■情報システム部門：情報やコンピュータの基礎と応用を研究し、効率的・創造的な情報システムを開発することができるよう教育研究を行います。研究テーマは、情報の数理的基礎、アルゴリズム科学と工学、人工知能、画像解析、組み込みシステム、システム制御、ネットワーク工学、ゲーム情報学、確率システム、バイオインフォマティクスなどの分野を含みます。

■情報デザイン部門：人間の知覚・感性・知性や社会的行動を洞察し、それに基づく情報デザインを開発することができるよう教育研究を行います。研究テーマはパターン認識、視覚情報工学、感性工学、感性文化学、認知科学、社会心理学、コミュニケーション、情報メディア学、教育工学、コンピュータ音楽、音楽情報科学、内部観測、ソフトコンピューティングなどの分野を含みます。

〈開設科目〉

■情報システム部門

組込みシステム特論	論理プログラミング	制御系設計論
ゲームとシミュレーション	情報理論	確率ネットワーク特論
応用サイバースペース論	画像情報処理論	計算量理論特論
図形処理特論	情報数理特論	情報システムセミナーⅠ
情報システムセミナーⅡ	情報システム特別研究Ⅰ	情報システム特別研究Ⅱ

■情報デザイン部門

感性工学特論	データマイニング	ヒューマンインターフェース
視覚情報工学特論	情報コミュニケーション心理学	言語・非言語情報特論
科学技術社会論	情報倫理学	音楽とデザイン
知能と認知	空間演出デザイン特論	情報デザインセミナーⅠ
情報デザインセミナーⅡ	情報デザイン特別研究Ⅰ	情報デザイン特別研究Ⅱ

■専門共通科目

応用代数学	情報数学	離散幾何学Ａ
離散幾何学Ｂ	解析学Ａ	解析学Ｂ
システム設計論	ソフトウェア開発工学特論	情報産業論
計算機アーキテクチャ特論	計算機ネットワーク特論	ゲームと計算
ＣＡＤシステム特論	アルゴリズム特論	オートマトン
プログラム言語論	コンパイラ理論	確率過程論
数理システム理論	ロバストシステム理論	データ工学特論
確率システム理論	人工知能	情報学インターンシップ

情報学専攻　教員一覧

教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
情報システム部門	神戸　英利＊	教　授	組み込みシステム・ソルーション
	佐藤　定夫＊	教　授	マルコフ過程論、ソフトウェアシステム
	陳　致中＊	教　授	アルゴリズムの理論、計算量の理論、バイオインフォマティクス
	町原　文明＊	教　授	通信理論、待ち行列理論、トラヒック理論
	細村　宰	特任教授	衛星画像の土地被覆分類、カメラを用いた３Ｄ画像計測、ＣＧを用いた情報の可視化に関する研究
	泉　智紀	准教授	制御工学、通信技術を用いた人の動態観測
	築地　立家＊	准教授	計算理論、ゲームプログラミング
	松浦　昭洋＊	准教授	アルゴリズム論、ゲーム情報学、情報可視化
	徳田　太郎	講　師	グラフ理論、組み合せ論
	稲村　勝樹	助教Ａ	新しい暗号・電子署名アルゴリズム提案、攻撃を考慮したセキュリティシステム構築
	上浦　基	助教Ａ	ソフトコンピューティング、データマイニング、複雑系科学
	笹川　隆史	助教Ａ	複合型学習モデルの開発と応用
情報デザイン部門	石塚　正英＊	教　授	身体に関する複合科学的研究、フェティシズムに関する比較文明論的研究、情報社会に関する社会思想史的研究
	柏﨑　尚也＊	教　授	感性パラメータにより芸術作品等の感性評価、ミュージックパズルの研究、新しい表示デバイスの開発研究
	勝又　洋子＊	教　授	空間演出デザイン／演劇論、建築とアートワークの関係についての研究、空間レイアウトの感性評価研究、ヴェネツィアの仮面の印象評価研究
	小林　春美＊	教　授	環境と人間の言語・認知の関係についての研究、言語発達における環境情報の役割に関する研究
	中山　洋＊	教　授	高等学校対応のグループウェアの開発、ＶＲを用いた深層心理アナライザーの開発、香り（アロマ）と作業効率の関係
	☆山口　正二＊	教　授	認知や動機づけに関する研究、学校教育における生徒と教師の心理的距離、教師の聖職性に関する実証的研究
	磯野　春雄＊	特任教授	人にやさしい情報メディア、情報のバリアフリーデザイン、立体映像システム
	高橋　達二＊	准教授	内部観測、対称性推論、音楽情報科学
	柴山　拓郎＊	准教授	作曲、現代音楽、コンピュータ音楽

☆専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

電子・機械工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

電子・機械工学専攻には機械、電気・電子、医用工学分野が含まれますが、目指すのは工学的基礎力を向上させ、具体的なもの作りであり、生命現象に関する専門知識を前提に、機械、電気・電子・情報工学の知識・技術と融合させ、医療技術に貢献できる応用電子システムや、機械工学に関する高度専門知識を前提に、電気・電子工学の知識・技術を活かし、幅広い分野で活躍できる機械システムのような高度な電子・機械工学の素養を身につけた技術者・研究者の育成を行います。そして、電気・電子工学と機械工学とを基盤として、豊かな人間性、高い倫理観や国際的視野を持った高度な専門能力を培います。

〈研究部門・テーマ〉

■応用電子工学部門：生体計測に関する研究、信号処理・画像処理に関する研究、再生医工学に関する研究、人工臓器に関する研究、生命支援および手術支援技術に関する研究、太陽光発電およびモータ駆動制御に関する研究、数値解析の理論と応用、電磁現象の解析と応用

■機械システム部門：軽量金属材料の塑性加工および溶融加工、内燃機関の排気系、流れの可視化技術、人間－機械系のインタフェース設計、工作機械の送り駆動系、高温気体力学、工業技術の標準化に関する研究

〈開設科目〉

■応用電子工学部門

電磁場計測論	モーションコントロール特論	パワーエレクトロニクス特論
システム制御論	生体情報工学特論	生体材料工学特論
臨床医学	数値解析工学	応用電磁気学
医用工学	レギュラトリーサイエンス特論	産業電子工学
情報回路設計	画像情報工学	応用電子工学セミナーⅠ
応用電子工学セミナーⅡ	応用電子工学特別研究Ⅰ	応用電子工学特別研究Ⅱ

■機械システム部門

材料科学特論	先端材料特論	医用福祉工学
工作機械システム特論	材料力学特論	熱工学特論
気体力学特論	ロボット工学特論	機能設計工学特論
航空宇宙工学特論	福祉工学特論	品質工学特論
工業技術標準特論	機械システムセミナーⅠ	機械システムセミナーⅡ
機械システム特別研究Ⅰ	機械システム特別研究Ⅱ	

■専門共通科目

バイオメカニクス特論	再生医工学	ＬＳＩ工学特論
技術と経営	電子・機械工学インターンシップ	

電子・機械工学専攻　教員一覧

教育・研究部門	氏　　名	職　名	現　在　の　研　究　テ　ー　マ
応用電子工学部門	内川　義則＊	教　授	生体電磁場計測に関する研究、信号処理・画像処理システムの開発に関する研究、人間適応型インタフェース技術に関する研究
	羽根吉寿正＊	教　授	電子制御工学、パワーエレクトロニクス、電動機駆動システム、環境エネルギー変換システムに関する研究
	本間　章彦＊	教　授	人工心臓システムに関する研究開発、人工心臓システムの性能・耐久試験に関する研究、人工心臓の制御方法に関する研究、人工臓器の解剖学的適合性評価技術に関する研究
	☆宮脇富士夫＊	教　授	器械出し看護師ロボットシステムの開発・研究、遺伝子組換え支援技術の開発に関する研究、心収縮性に関する研究、心機能回復促進型補助人工心臓の開発、補助人工心臓が自己心に及ぼす影響の研究
	荒船　龍彦	准教授	ジェットメスを用いた外科用治療機器開発、画像解析による血流診断機器開発、不整脈発生・除細動メカニズムの解明に関する研究
	大越　康晴＊	准教授	医療材料としての非晶質炭素膜の合成・評価に関する研究、プラズマ CVD 法による薄膜形成技術に関する研究
	田中　慶太＊	准教授	高次脳機能に関する研究、BCI・BMI に関する研究、生体信号処理に関する研究
機械システム部門	内田　干城	教　授	皮膚の老化度の測定に関する研究、色測定による皮膚の診断に関する研究、筋ジストロフィー患者のためのＴＶゲームコントローラーの開発に関する研究、車椅子用クッションの蒸れの測定に関する研究
	遠藤　正樹＊	教　授	内燃機関の排気系に関する研究、高温高圧配管の損傷に関する研究、超音速噴流に関する実験的研究
	榊原　洋子＊	教　授	流れの可視化技術に関する技術
	渡利　久規＊	教　授	軽量金属材料の塑性加工および溶融加工に関する研究
	大西　謙吾＊	准教授	医療福祉メカトロニクス、人間機械システム、制御アクチュエータ、義肢装具の開発と評価に関する研究
	山崎　敬則＊	准教授	工作機械の送り駆動系に関する研究、作業工具の刃付に関する研究
	武田　英次＊	客員教授	半導体の開発および評価に関する研究、ＭＯＴシステムに関する研究
	立石　哲也＊	客員教授	バイオニックデザインに関する研究
	中島　建夫	客員教授	技術開発システムの研究、生産システムの研究、多次元データ評価システムの研究
	久保田弘敏＊	客員教授	高温気体力学の研究、将来型宇宙輸送システムの研究、小型人工衛星の研究
	堤　　正臣＊	客員教授	工業技術の標準化に関する研究

☆専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

建築・都市環境学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

建築・都市環境学専攻には土木、建築、環境、情報と幅広い分野が含まれていますが、それは人間と自然界が共生でき、持続可能な社会を構築し、地域から地球規模にいたる環境評価・予測・保全に必要な技術、さらには高度な社会的要請にも対応でき、即戦力となる建設技術者を育成するためです。本専攻では土木・建築・環境、さらに情報技術に関する専門的知識・技術の涵養を図り、生活基盤施設、社会基盤施設、国土保全施設に関する分野において寄与できる技術者・研究者の育成を行います。

〈研究部門・テーマ〉

■建築・都市環境部門：湖沼・河川の水質改善、水生植物群落の機能、環境影響評価、画像処理、画像計測、３Ｄモデリング、地理情報の空間分析、骨組みおよびシェル構造物の非線形解析、鋼構造物の解析・設計法、鋼構造物の疲労と破壊、鋼構造物の耐震設計、地震時の地盤の液状化、地震防災、建築および都市空間の形態分析、都市・地域計画

〈開設科目〉

■建築・都市環境学部門

応用水理学Ａ	応用水理学Ｂ	環境流体力学Ａ
環境流体力学Ｂ	流体力学特論	弾性論
有限要素法	構造設計論	鋼構造学特論
振動論	鉄筋コンクリート工学特論	メンテナンス工学特論
地盤工学特論	地盤防災工学特論	地震防災工学特論
画像計測Ａ	画像計測Ｂ	交通計画学特論
プロジェクト評価特論	リモートセンシング特論Ａ	リモートセンシング特論Ｂ
建築空間論	建築設計論	建築設計演習Ａ
建築設計演習Ｂ	建築インターンシップ	建築・都市環境学インターンシップ
建設環境デザイン工学セミナーⅠ	建設環境デザイン工学セミナーⅡ	建設環境デザイン工学特別研究Ⅰ
建設環境デザイン工学特別研究Ⅱ		

建築・都市環境学専攻　教員一覧

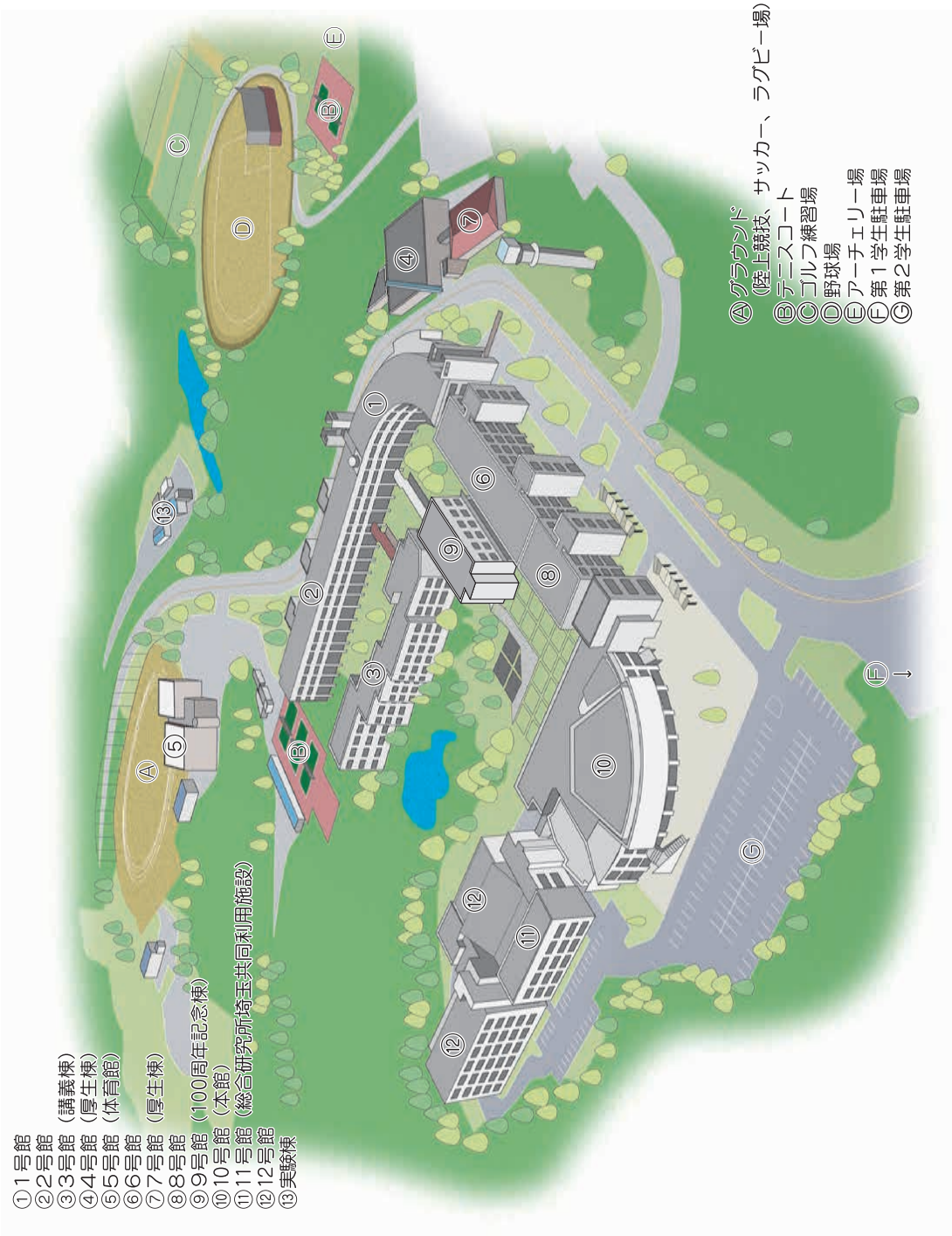
教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
建築・都市環境学	☆井浦　雅司＊	教　授	骨組およびシェル構造物の非線形解析
	岩城　和哉＊	教　授	建築および都市空間の形態分析
	島田　政信＊	教　授	衛星や航空機搭載多偏波合成開口レーダ（SAR）データを高精度映像化すること、（時系列）干渉処理により、地殻変動・地形・森林分類や構造とその変化を抽出すること、電離層や外来雑音の分布、レーダ校正等の研究
	高田　和幸＊	教　授	プロジェクト評価
	近津　博文＊	教　授	画像処理、画像計測、３Ｄモデリング、地理情報の空間分析
	中井　正則＊	教　授	水生植物群落の機能、風侵食現象の解明
	見波　　進＊	教　授	鋼材・接合部の力学特性、既存建物の耐震性
	安田　　進＊	教　授	地震時の地盤の液状化、斜面崩壊、地盤改良、ハザードマップ
	石川　敬祐	助教Ａ	海溝型巨大地震時の液状化被害の予測、様々な土の強度や変型特性に関する実験
	佐藤　大作	助教Ａ	環礁州島の持続的な州島保全に関する研究、停滞性水域の水質浄化手法に関する研究

☆専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

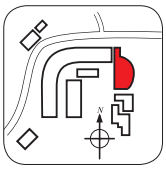
第９章

埼玉鳩山キャンパス案内図

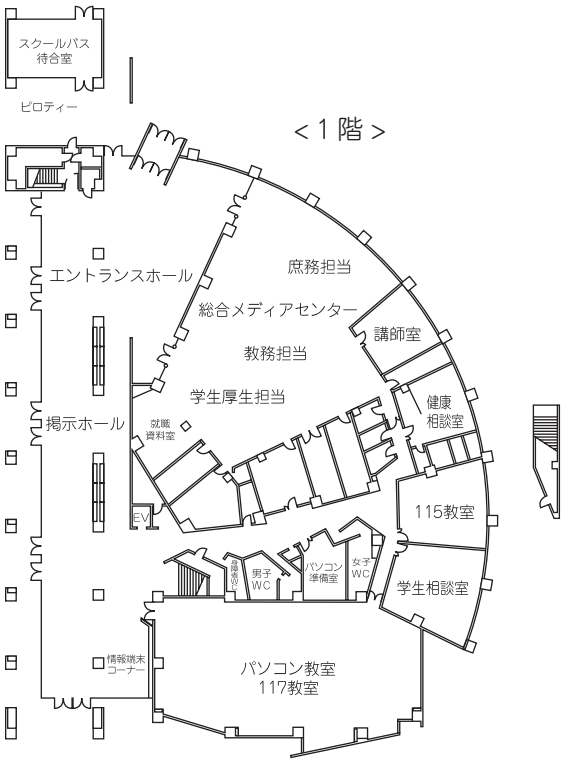
埼玉鳩山キャンパス案内図

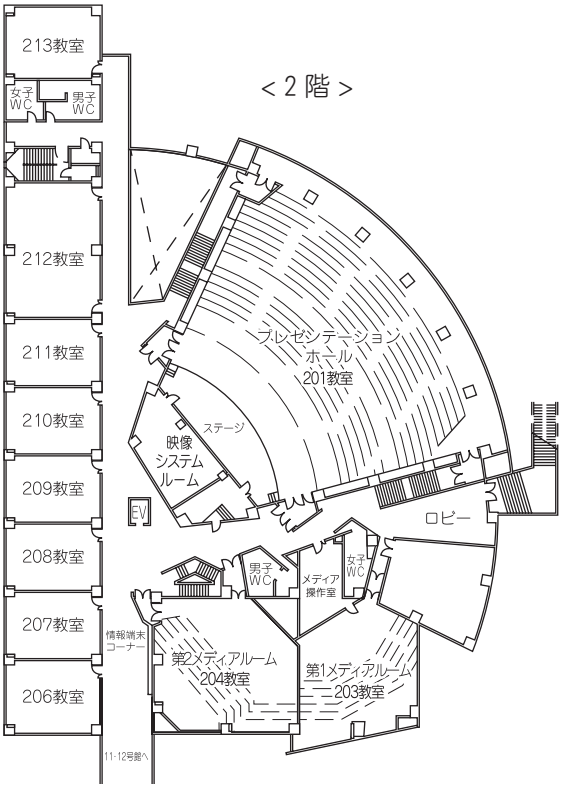


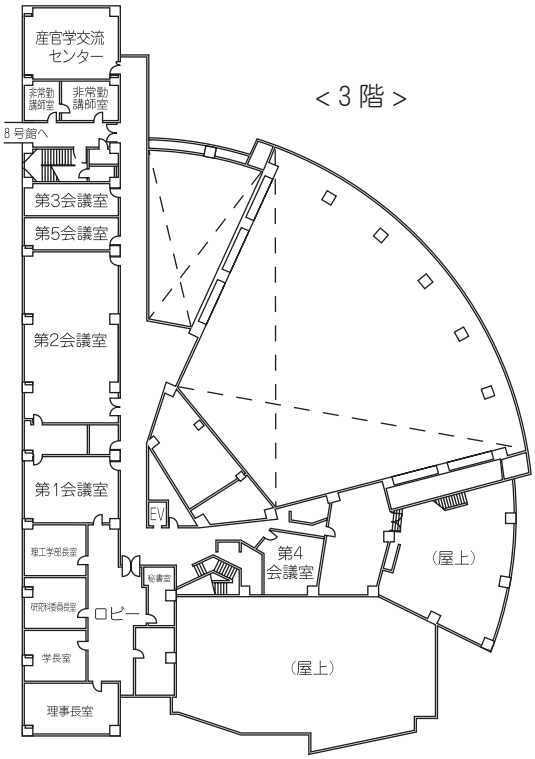
全体図



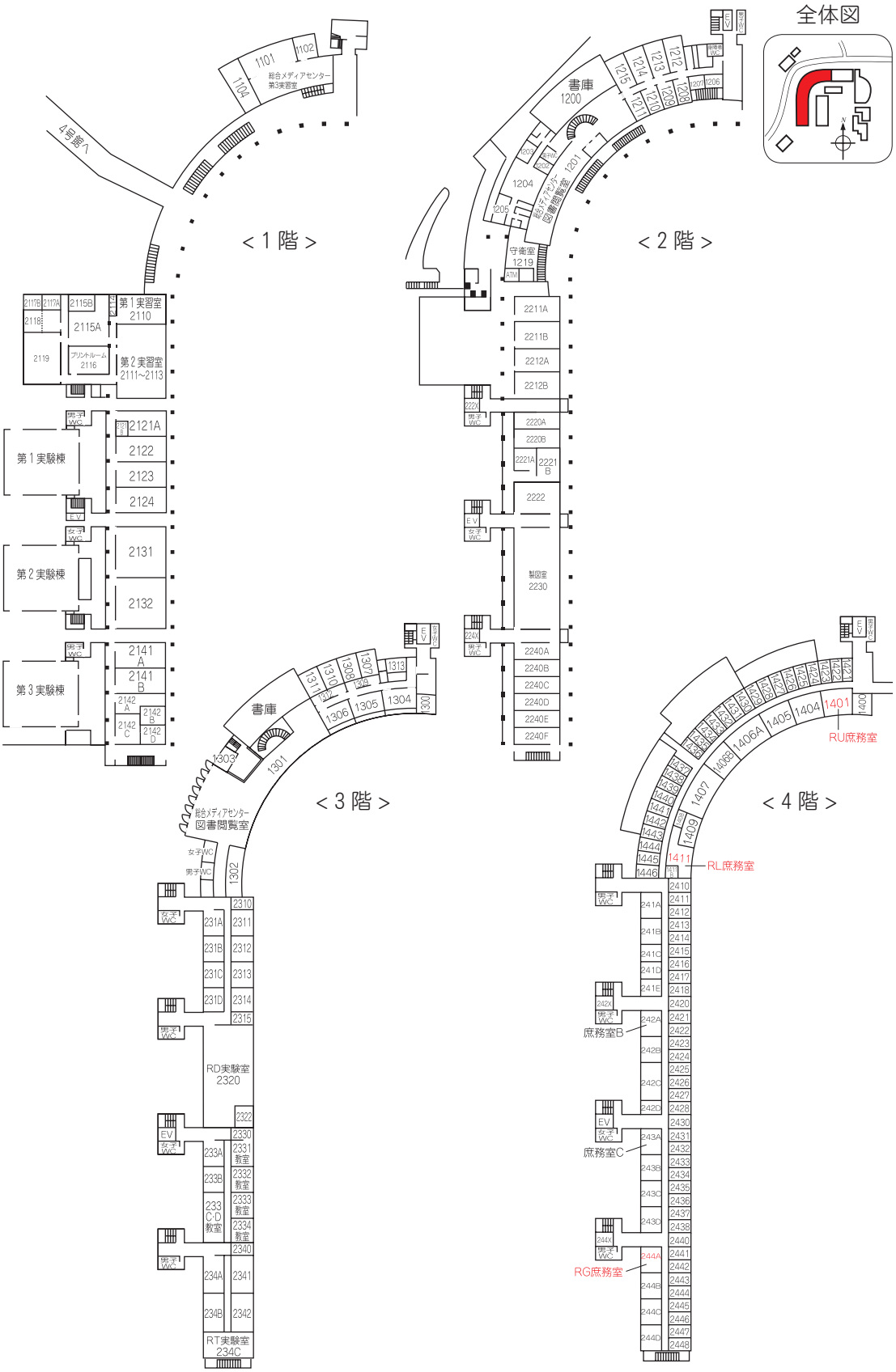
10 号館（本館）


スクールバス待合室
ピロティー
< 1 階 >
エントランスホール
掲示ホール
庶務担当
総合メディアセンター
講師室
教務担当
学生厚生担当
健康相談室
就職資料室
EV
115教室
男子WC
パソコン準備室
女子WC
学生相談室
情報端末コーナー
パソコン教室
117教室

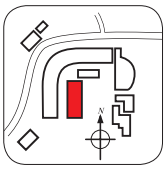

< 2 階 >
213教室
女子WC
男子WC
212教室
211教室
210教室
209教室
208教室
207教室
206教室
プレゼンテーションホール
201教室
ステージ
映像システムルーム
EV
ロビー
男子WC
女子WC
メディア操作室
情報端末コーナー
第2メディアルーム
204教室
第1メディアルーム
203教室
11-12号館へ


産官学交流センター
非常勤講師室
非常勤講師室
< 3 階 >
8 号館へ
第3会議室
第5会議室
第2会議室
第1会議室
EV
理工学部長室
研究科委員長室
学長室
理事長室
秘書室
ロビー
第4会議室
（屋上）
（屋上）

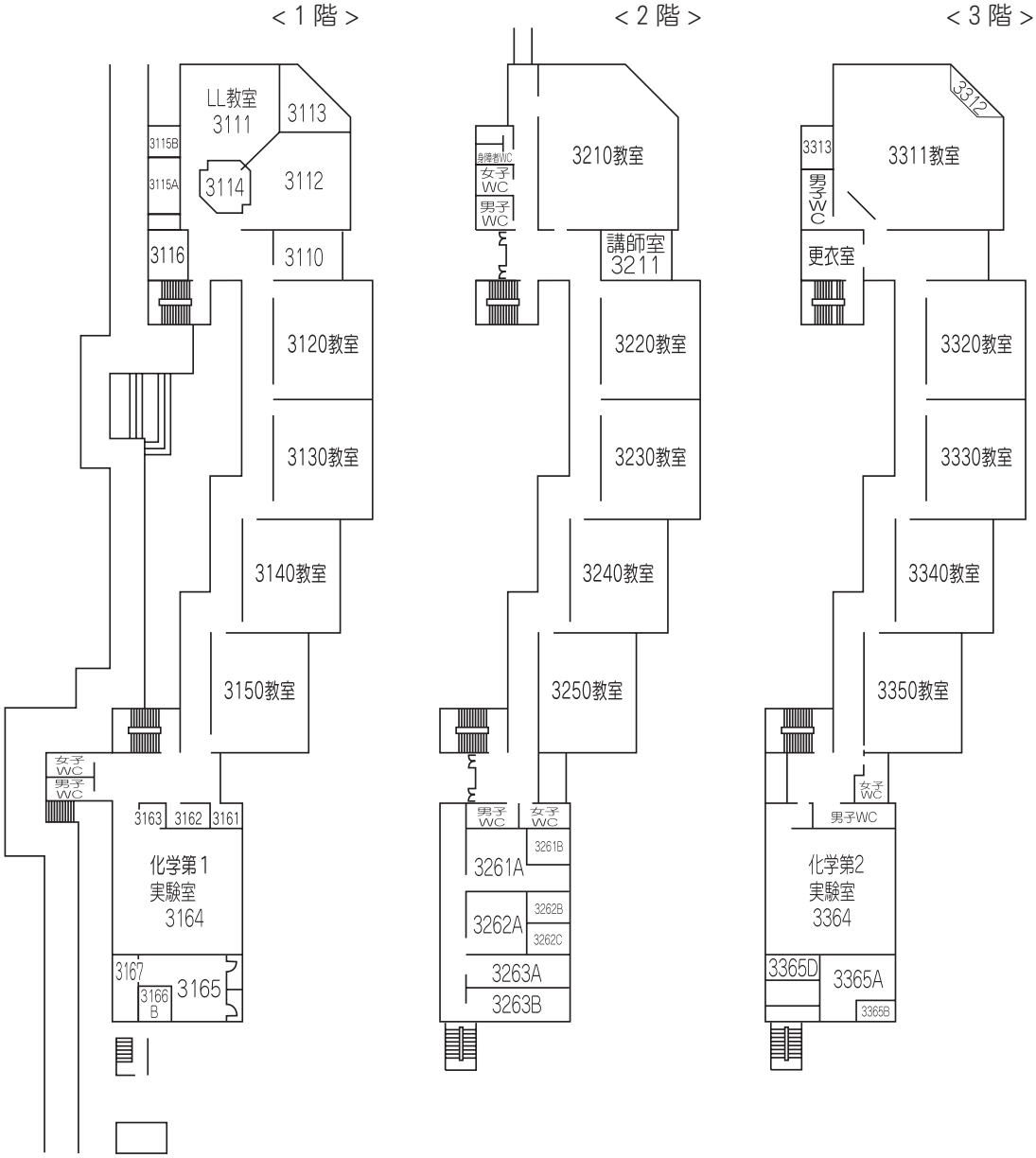
1号館・2号館


全体図
< 1 階 >
< 2 階 >
< 3 階 >
< 4 階 >
4号館へ
総合メディアセンター 第3実習室
1101
1102
1104
第1実習室 2110
2115A
2115B
2117A
2117B
2118
2119
プリントルーム 2116
第2実習室 2111~2113
第1実験棟
第2実験棟
第3実験棟
2121A
2122
2123
2124
2131
2132
2141 A
2141 B
2142 A
2142 B
2142 C
2142 D
書庫 1200
1201
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
総合メディアセンター 図書閲覧室
守衛室 1219
ATM
2211A
2211B
2212A
2212B
2220A
2220B
2221A
2221 B
2222
製図室 2230
2240A
2240B
2240C
2240D
2240E
2240F
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1313
総合メディアセンター 図書閲覧室
女子WC
男子WC
2310
2311
2312
2313
2314
2315
231A
231B
231C
231D
RD実験室 2320
2322
2330
2331 教室
2332 教室
2333 教室
2334 教室
2340
2341
2342
233A
233B
233 C·D 教室
234A
234B
RT実験室 234C
1400
1401
1403
1404
1405
1406A
1406B
1407
1409
1411
1442
1443
1444
1445
1446
RU庶務室
RL庶務室
庶務室B
庶務室C
RG庶務室
2410
2411
2412
2413
2414
2415
2416
2417
2418
2420
2421
2422
2423
2424
2425
2426
2427
2428
2430
2431
2432
2433
2434
2435
2436
2437
2438
2440
2441
2442
2443
2444
2445
2446
2447
2448
241A
241B
241C
241D
241E
242A
242B
242C
242D
243A
243B
243C
243D
244A
244B
244C
244D

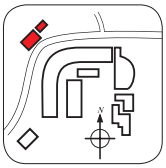
全体図



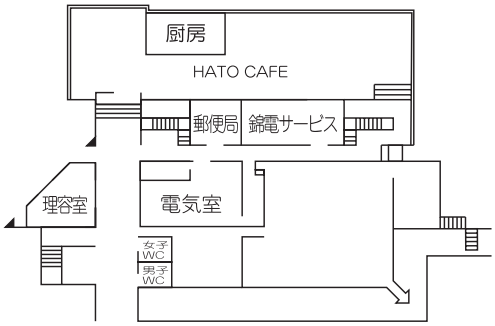
3号館（講義棟）


< 1 階 >
LL教室
3111
3113
3115B
3115A
3114
3112
3116
3110
3120教室
3130教室
3140教室
3150教室
女子WC
男子WC
3163
3162
3161
化学第1
実験室
3164
3167
3166B
3165
< 2 階 >
3210教室
障害者WC
女子WC
男子WC
講師室
3211
3220教室
3230教室
3240教室
3250教室
男子WC
女子WC
3261B
3261A
3262A
3262B
3262C
3263A
3263B
< 3 階 >
3312
3313
3311教室
男子WC
更衣室
3320教室
3330教室
3340教室
3350教室
女子WC
男子WC
化学第2
実験室
3364
3365D
3365A
3365B

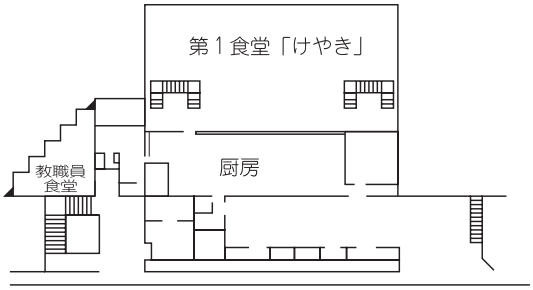
全体図



4号館（厚生棟）

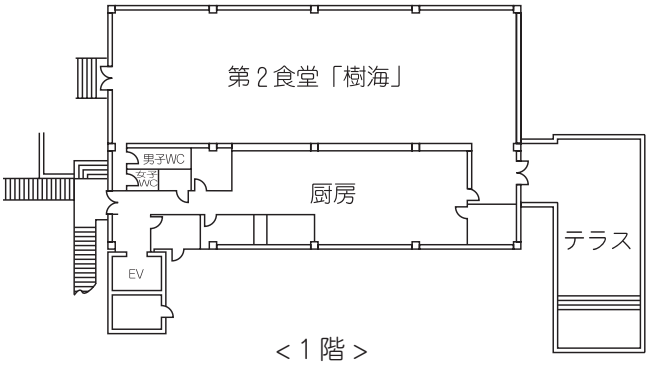


＜1階＞



＜2階＞

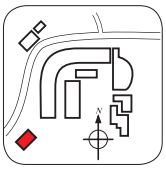
7号館（厚生棟）

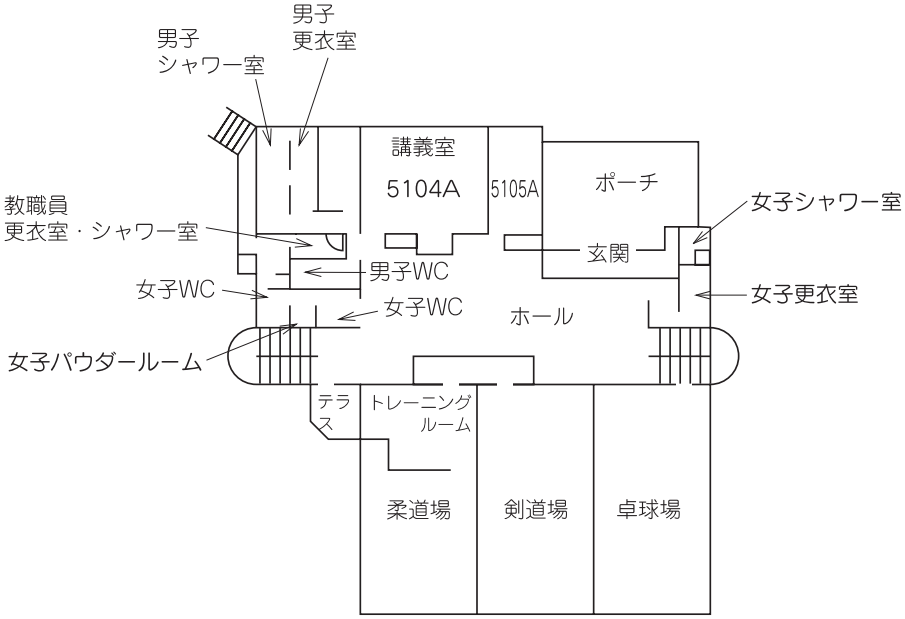


＜1階＞

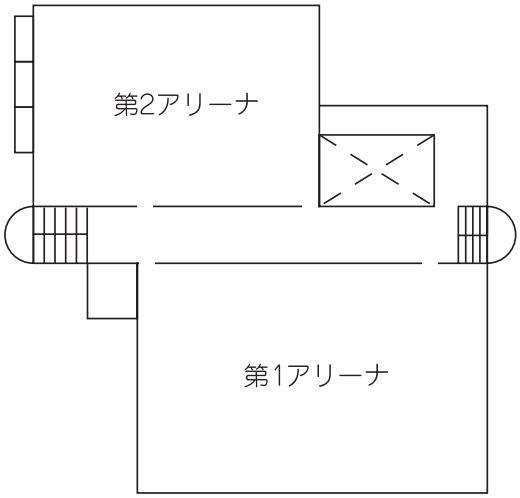
5号館（体育館）

全体図



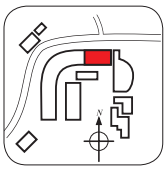


＜1階＞

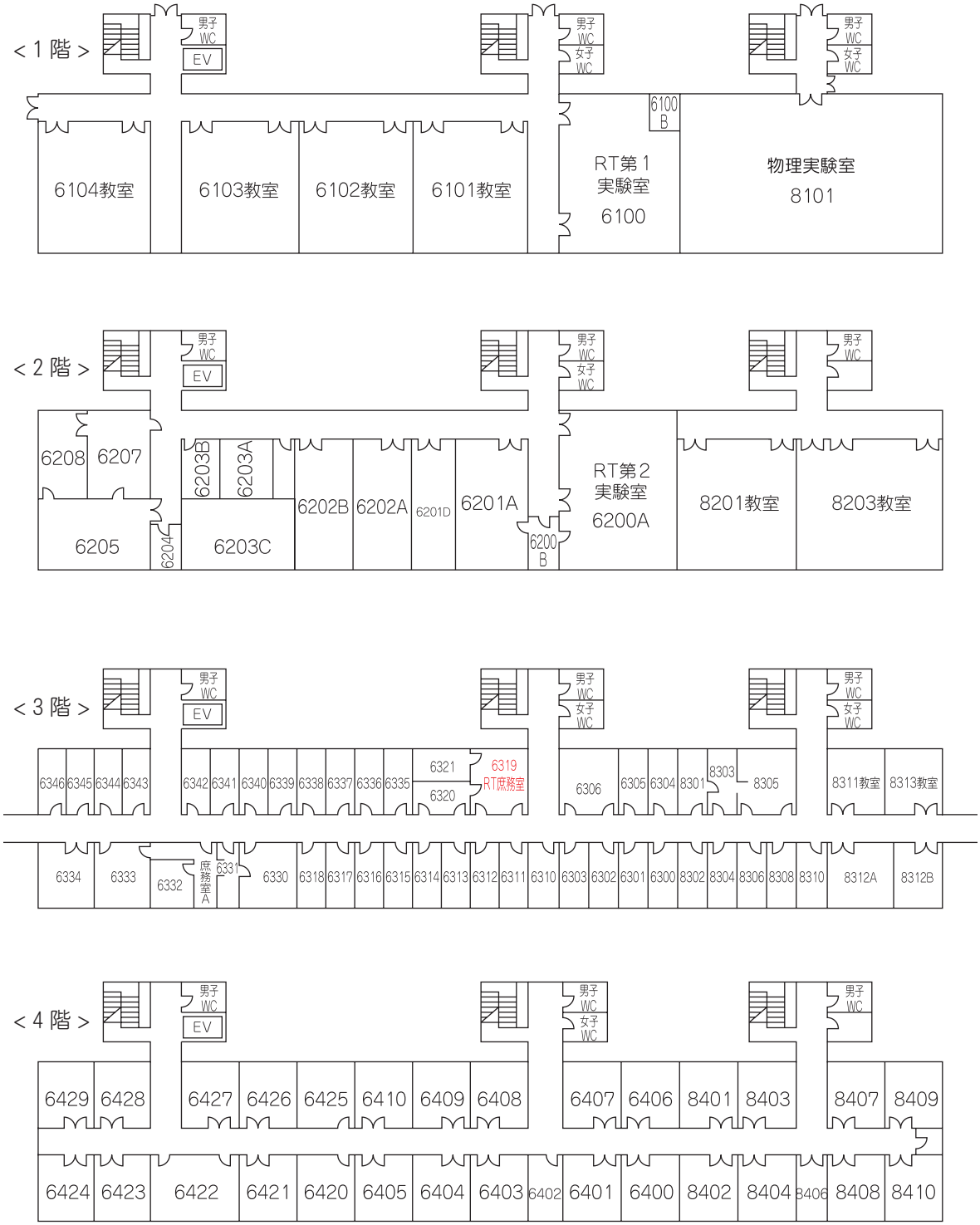


＜2階＞

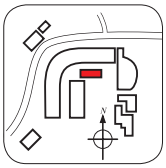
全体図



6号館・8号館

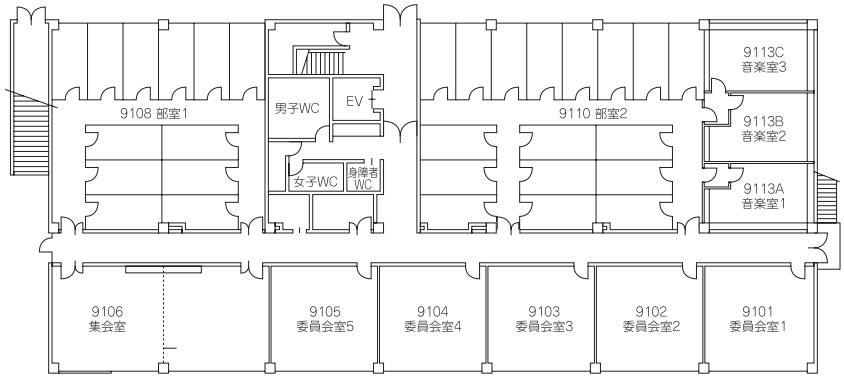

<1階>
男子WC
EV
男子WC
女子WC
6100B
6104教室
6103教室
6102教室
6101教室
RT第1実験室
6100
物理実験室
8101
<2階>
6208
6207
6203B
6203A
6205
6204
6203C
6202B
6202A
6201D
6201A
6200B
RT第2実験室
6200A
8201教室
8203教室
<3階>
6346 6345 6344 6343
6342 6341 6340 6339 6338 6337 6336 6335
6321
6320
6319
RT庶務室
6306 6305 6304 8301 8303 8305
8311教室
8313教室
6334 6333 6332 庶務室A 6331 6330 6318 6317 6316 6315 6314 6313 6312 6311 6310 6303 6302 6301 6300 8302 8304 8306 8308 8310 8312A 8312B
<4階>
6429 6428 6427 6426 6425 6410 6409 6408 6407 6406 8401 8403 8407 8409
6424 6423 6422 6421 6420 6405 6404 6403 6402 6401 6400 8402 8404 8406 8408 8410

全体図

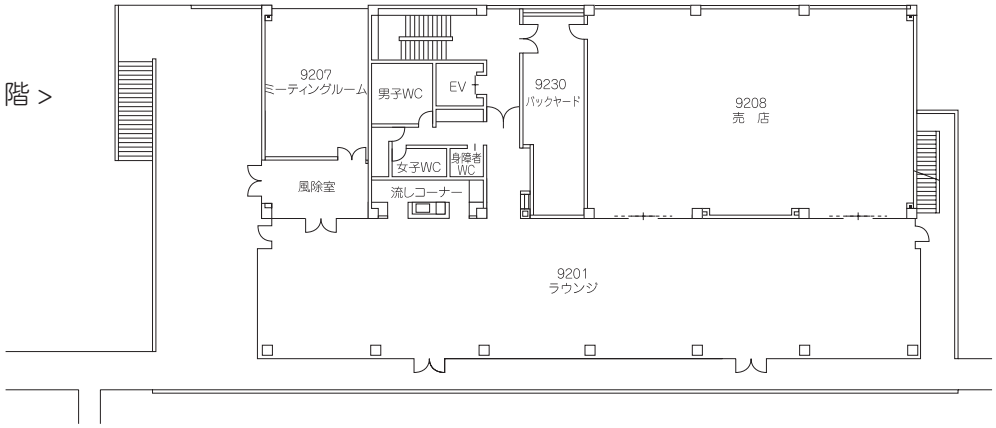


9 号館

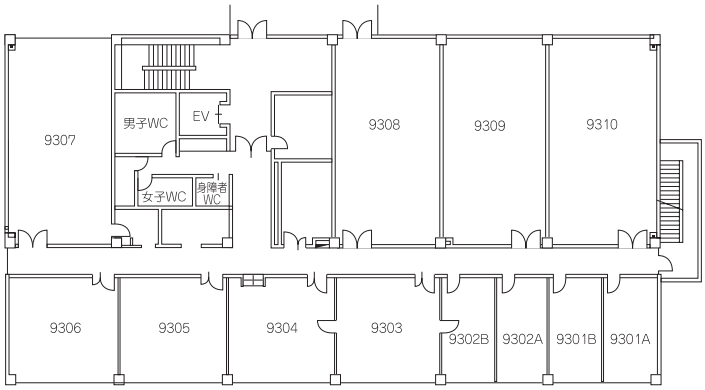
< 1 階 >



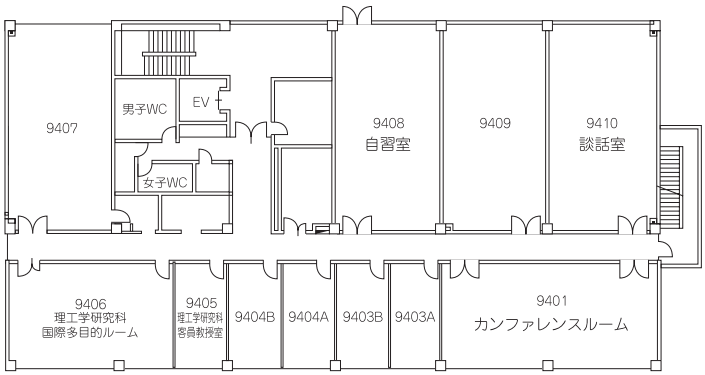
< 2 階 >



< 3 階 >

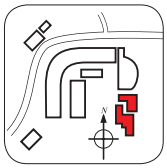


< 4 階 >

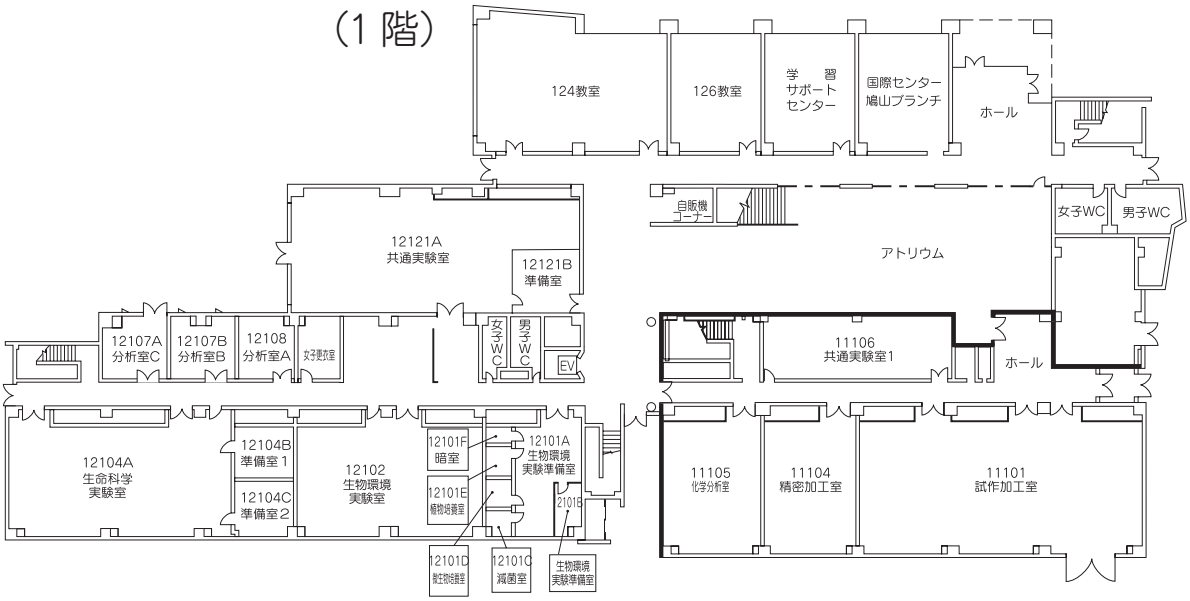


11 号館（総合研究所埼玉共同利用施設）・12 号館

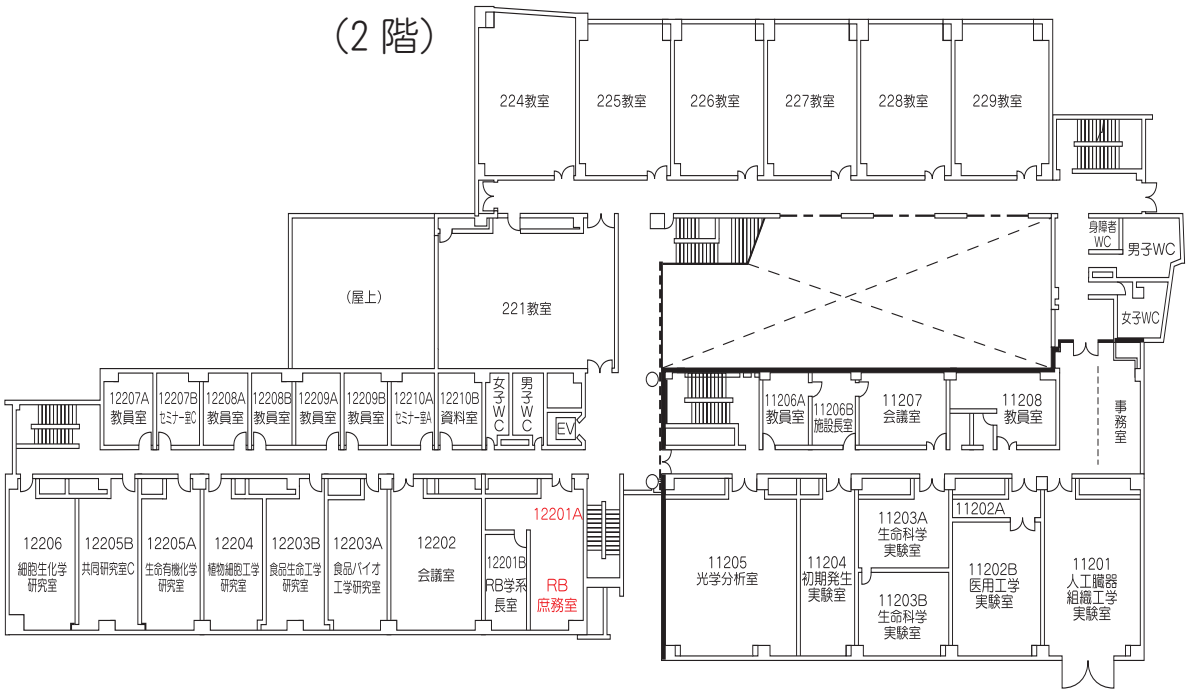
全体図



（1 階）

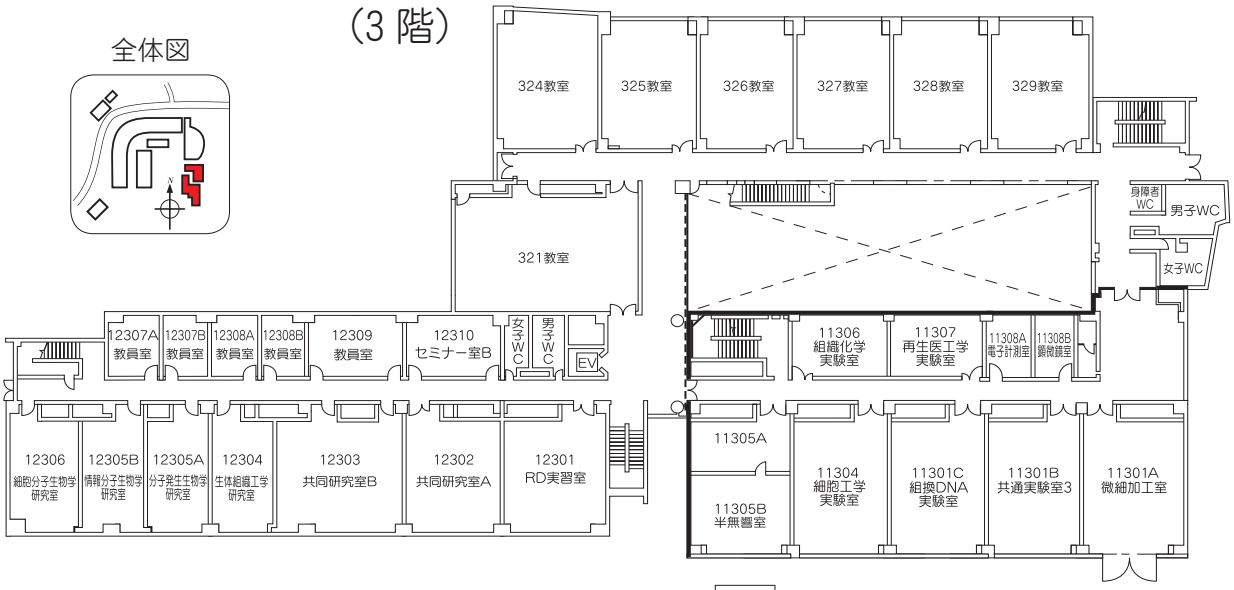


（2 階）

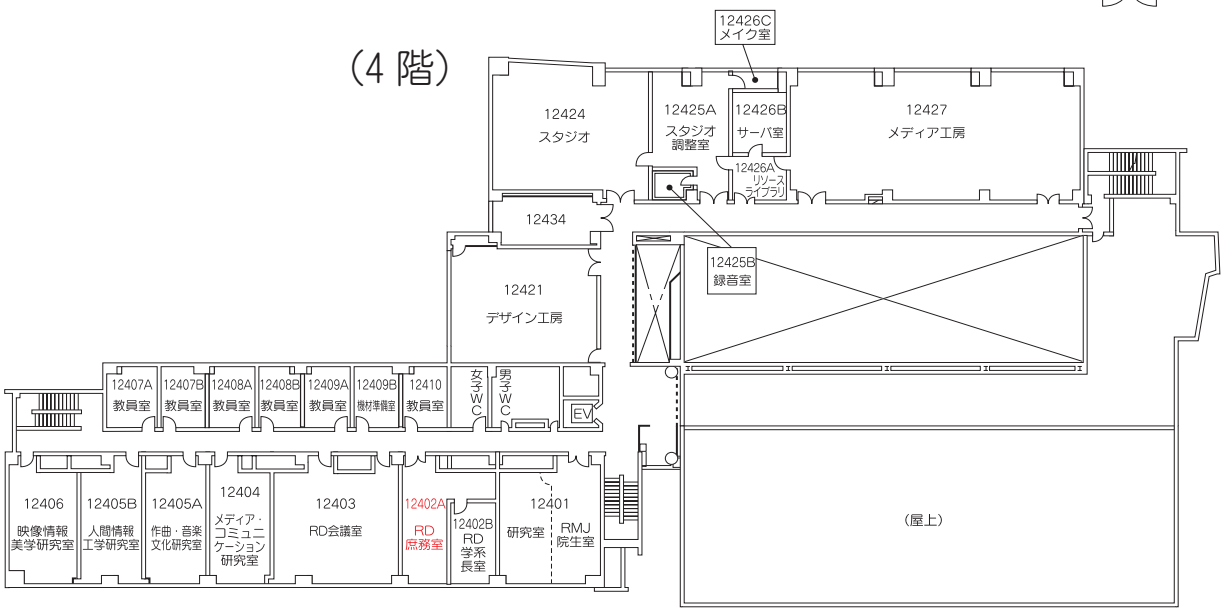


全体図

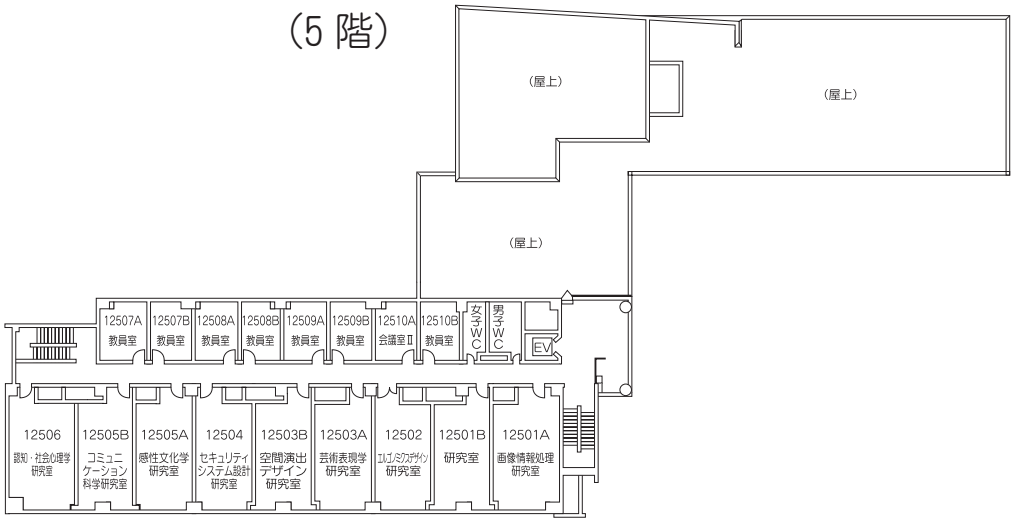
(3 階)


324教室
325教室
326教室
327教室
328教室
329教室
321教室
身障者WC
男子WC
女子WC
12307A 教員室
12307B 教員室
12308A 教員室
12308B 教員室
12309 教員室
12310 セミナー室B
女子WC
男子WC
EV
11306 組織化学実験室
11307 再生医工学実験室
11308A 電子計測室
11308B 顕微鏡室
12306 細胞分子生物学研究室
12305B 情報分子生物学研究室
12305A 分子発生生物学研究室
12304 生体組織工学研究室
12303 共同研究室B
12302 共同研究室A
12301 RD実習室
11305A
11305B 半無響室
11304 細胞工学実験室
11301C 組換DNA実験室
11301B 共通実験室3
11301A 微細加工室

(4 階)

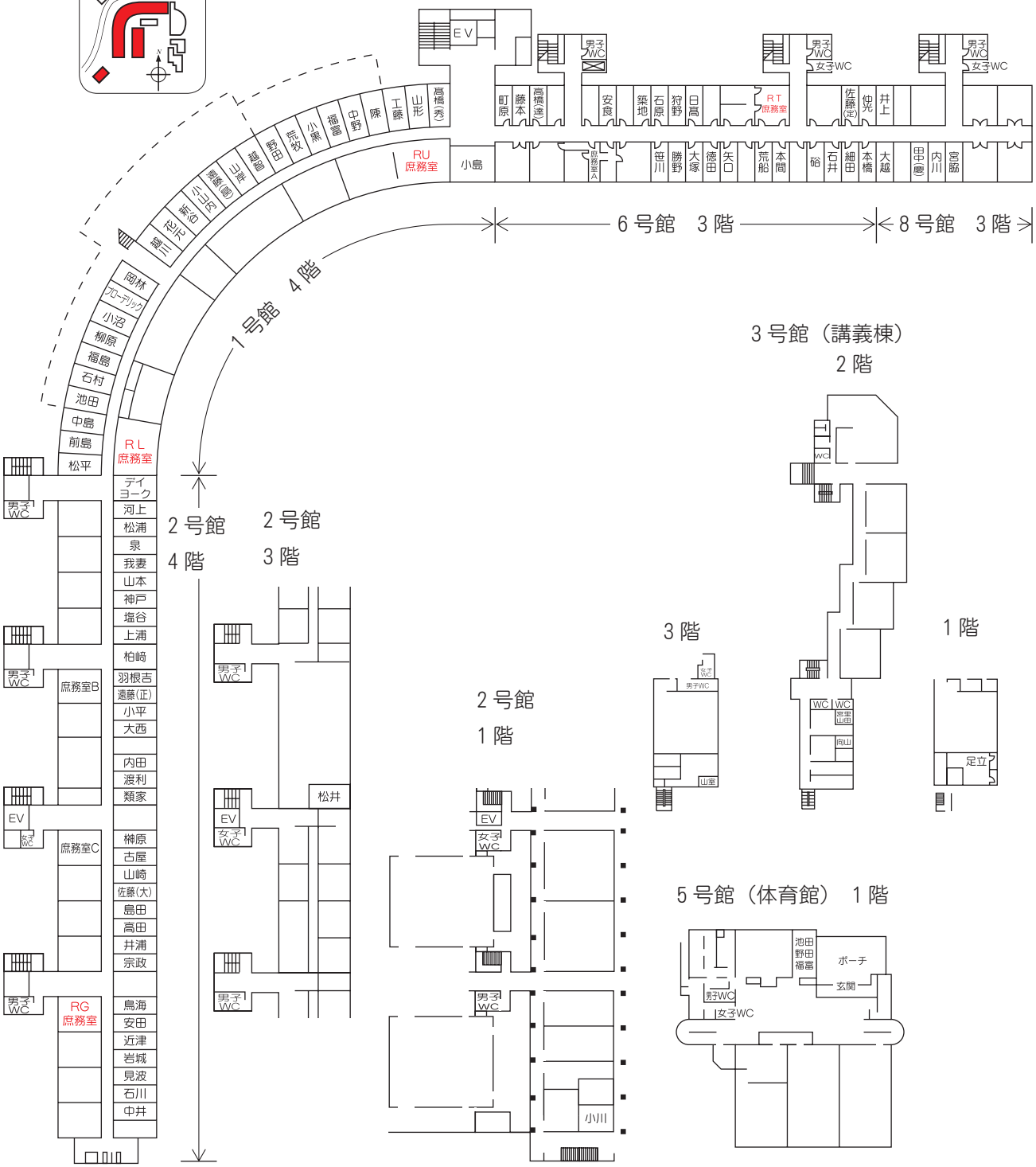

12426C メイク室
12424 スタジオ
12425A スタジオ調整室
12426B サーバ室
12427 メディア工房
12426A リソースライブラリ
12434
12425B 録音室
12421 デザイン工房
12407A 教員室
12407B 教員室
12408A 教員室
12408B 教員室
12409A 教員室
12409B 機材準備室
12410 教員室
女子WC
男子WC
EV
12406 映像情報美学研究室
12405B 人間情報工学研究室
12405A 作曲・音楽文化研究室
12404 メディア・コミュニケーション研究室
12403 RD会議室
12402A RD庶務室
12402B RD学系長室
12401 研究室
RMJ 院生室
(屋上)

(5 階)

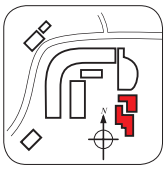

(屋上)
(屋上)
(屋上)
12507A 教員室
12507B 教員室
12508A 教員室
12508B 教員室
12509A 教員室
12509B 教員室
12510A 会議室Ⅱ
12510B 教員室
女子WC
男子WC
EV
12506 認知・社会心理学研究室
12505B コミュニケーション科学研究室
12505A 感性文化学研究室
12504 セキュリティシステム設計研究室
12503B 空間演出デザイン研究室
12503A 芸術表現学研究室
12502 エルゴノミクスデザイン研究室
12501B 研究室
12501A 画像情報処理研究室

埼玉鳩山キャンパス教員室一覧

全体図

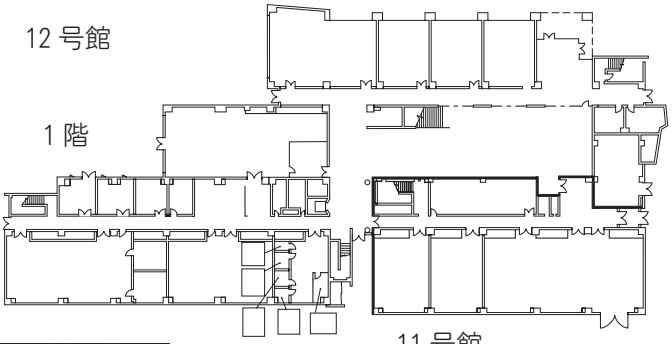


全体図



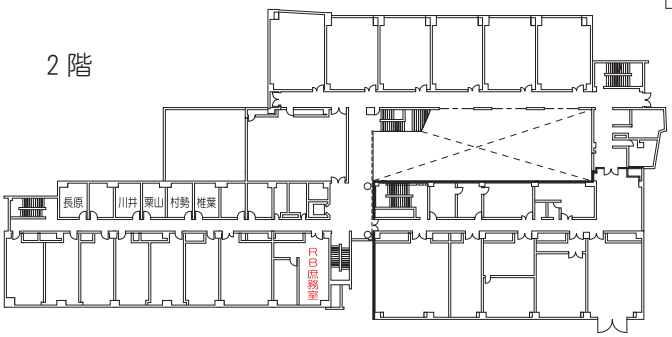
12 号館

1 階

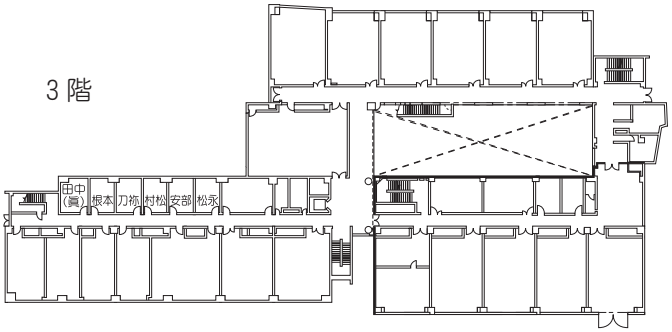


11 号館

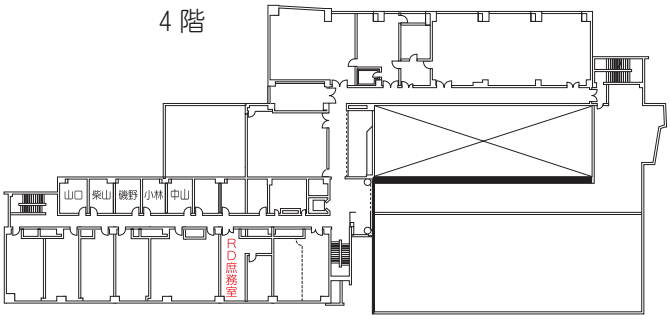
2 階



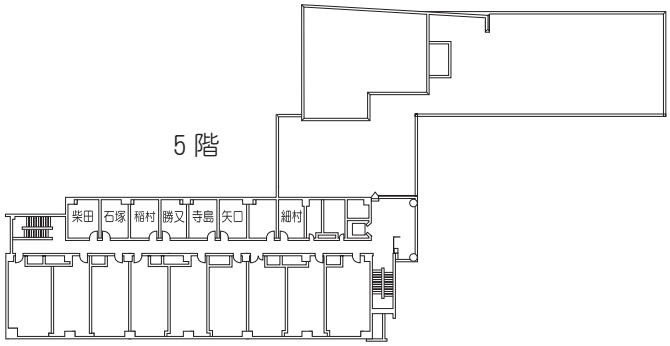
3 階



4 階



5 階



教　員　一　覧

（平成 28 年 4 月 1 日現在）

＊は学系長、群主任
（平成 29 年度以降は変更する場合があります。）

理　学　系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊　大　塚　尚　久	教　　授	6316
安　食　博　志	教　　授	6341
荒　牧　淳　一	教　　授	1428
小　川　英　生	教　　授	2142 D
勝　野　裕　文	教　　授	6317
狩　野　弘　之	教　　授	6337
中　野　哲　夫	教　　授	1425
硲　　文　夫	教　　授	6303
山　形　周　二	教　　授	1422
足　立　直　也	准　教　授	3165
石　原　聖　司	准　教　授	6338
井　上　　真	准　教　授	8301
越　智　禎　宏	准　教　授	1430
仲　光　邦　昭	准　教　授	6304
細　田　真妃子	准　教　授	6301
向　山　義　治	准　教　授	3262 B
本　橋　　章	准　教　授	6300
山　岸　日　出	准　教　授	1431
山　室　憲　子	准　教　授	3365 B
類　家　正　稔	准　教　授	2428
小　黒　　隆	講　　師	1427
髙　橋　秀　慈	講　　師	1421
石　井　　聡	助　　教	6302
日　髙　章　理	助　　教	6336
宮　里　裕　二	助　　教	3261 B
山　田　祐　理	助　　教	3261 B

生命理工学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊ 椎　葉　　究	教　　授	12209 B
川　井　　悟	教　　授	12208 A
栗　山　　昭	教　　授	12208 B
田　中　眞　人	教　　授	12307 A
村　勢　則　郎	教　　授	12209 A
村　松　和　明	教　　授	12308 B
刀　祢　重　信	特任教授（生命理工学専攻）	12308 A
長　原　礼　宗	准　教　授	12207 A
根　本　　航	准　教　授	12307 B
安　部　智　子	助　　教	12309
上　原　　歩	助　　教	12205 B
松　永　直　樹	助　　手	12309

情報システムデザイン学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊ 佐　藤　定　夫	教　　授	6305
石　塚　正　英	教　　授	12507 B
柏　﨑　尚　也	教　　授	2420
勝　又　洋　子	教　　授	12508 B
神　戸　英　利	教　　授	2416
小　林　春　美	教　　授	12408 B
陳　　致　中	教　　授	1424
寺　島　悦　恩	教　　授	12509 A
中　山　　洋	教　　授	12409 A
町　原　文　明	教　　授	6346
山　口　正　二	教　　授	12407 A
細　村　　宰	特 任 教 授	12510 B
磯　野　春　雄	特任教授（情報学専攻）	12408 A
泉　　智　紀	准　教　授	2413
柴　田　良　二	准　教　授	12507 A
柴　山　拓　郎	准　教　授	12407 B
高　橋　達　二	准　教　授	6344
築　地　立　家	准　教　授	6339
藤　本　　衡	准　教　授	6345

氏　　名	職　　名	室　番　号
松　浦　昭　洋	准　教　授	2412
矢　口　博　之	准　教　授	12509 B
徳　田　太　郎	講　　師	6315
稲　村　勝　樹	助　　教	12508 A
上　浦　　基	助　　教	2418
笹　川　隆　史	助　　教	6318
松　井　加奈絵	助　　教	2322
我　妻　伸　彦	助　　教	2414

電子・機械工学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊　内　川　義　則	教　　授	8308
内　田　干　城	教　　授	2426
遠　藤　正　樹	教　　授	2422
榊　原　洋　子	教　　授	2431
羽根吉　寿　正	教　　授	2421
本　間　章　彦	教　　授	6311
宮　脇　富士夫	教　　授	8310
渡　利　久　規	教　　授	2427
荒　船　龍　彦	准　教　授	6312
大　越　康　晴	准　教　授	8302
大　西　謙　吾	准　教　授	2424
田　中　慶　太	准　教　授	8306
古　屋　　治	准　教　授	2432
矢　口　俊　之	准　教　授	6314
山　崎　敬　則	准　教　授	2433
小　平　和　仙	講　　師	2423

建築・都市環境学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊　高　田　和　幸	教　　授	2436
井　浦　雅　司	教　　授	2437
岩　城　和　哉	教　　授	2444
島　田　政　信	教　　授	2435
近　津　博　文	教　　授	2443

氏　　名	職　　名	室　番　号
中　井　正　則	教　　授	2447
見　波　　進	教　　授	2445
安　田　　進	教　　授	2442
鳥　海　吉　弘	准　教　授	2441
石　川　敬　祐	助　　教	2446
佐　藤　大　作	助　　教	2434
宗　政　由　桐	助　　教	2438

共通教育群

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊　前　島　康　男	教　　授	1445
石　村　多　門	教　　授	1442
岡　林　　茂	教　　授	1437
越　川　邦　夫	教　　授	1436
小　島　　勇	教　　授	1400
松　平　圭　一	教　　授	1446
工　藤　　豊	特任教授	1423
池　田　瑞　音	准　教　授	1443・5105Ａ（体育館）
遠　藤　晶　子	准　教　授	1432
小山内　　大	准　教　授	1433
河　上　　睦	講　　師	2411
小　沼　史　彦	講　　師	1439
ジェフ・ブローデリック	講　　師	1438
塩　谷　奈緒子	講　　師	2417
新　谷　真　由	講　　師	1434
デイ・マシュー・マーティン	講　　師	2410
野　田　達　也	講　　師	1429・5105Ａ（体育館）
花　元　宏　城	講　　師	1435
福　富　信　也	講　　師	1426・5105Ａ（体育館）
ジェームス・ヨーク	助　　教	2410
中　島　浩　貴	助　　教	1444
福　島　祥一郎	助　　教	1441
柳　原　良　江	助　　教	1440
山　本　宏　樹	助　　教	2415

第 10 章

学則および諸規程

- 大学則
- 理工学部規則
- 学生生活についての規程
- 部室使用に関する内規
- 試験に関する細則
- 特別奨学生規程
- 理工学部学生の車両通学に関する取扱細則
- 東京電機大学　校歌・学生歌・理工学部讃歌

東京電機大学学則

第1章　総　　則

（目的・使命）

第1条　本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

2　本大学は、第3条第1項に定める学部及び学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部の学部規則に定める。

（自己評価等）

第2条　本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2　前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3　本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章　組　　織

（学部・学科の組織）

第3条　本大学に、次の学部及び学科を置く。

工学部
　電気電子工学科
　環境化学科
　機械工学科
　情報通信工学科
工学部第二部
　電気電子工学科

機械工学科

情報通信工学科

理工学部

理工学科

情報環境学部

情報環境学科

未来科学部

建築学科

情報メディア学科

ロボット・メカトロニクス学科

2　前項の各学科の入学定員、編入学定員および収容定員は、別表第１とする。

3　第１項に定める各学部に学部規則を定める。

4　前項の学部規則に、次の事項を定める。

①　学部・学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

②　学年・学期に関する事項

③　教育課程及び単位に関する事項

④　成績及び卒業に関する事項

⑤　その他、大学則施行上の必要事項

（大学院）

第４条　本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

（総合メディアセンター・研究推進社会連携センター等）

第５条　本大学に、総合メディアセンターを置く。

2　本大学に、研究推進社会連携センターを置く。

①　研究推進社会連携センターに総合研究所を置く。

3　本大学に、国際センターを置く。

4　前３項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第３章　運営の機関及び教職員

（学長・副学長・学部長等）

第６条　本大学に、学長を置く。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。

2　本大学に、副学長を置くことができる。副学長は学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

3　副学長に関する規則は、別に定める。

4　各学部に、学部長を置く。学部長は当該学部に関する校務をつかさどる。

5　前 4 項のほか、教育・研究の運営上必要な職を置く。

（職　員）

第 7 条　教育職員として、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

2　事務職員、技術職員及び必要な職員を置く。

（大学評議会）

第 8 条　大学に、大学評議会（以下、「評議会」という。）を置く。

2　評議会は、学長、理事若干名、副学長、学部長、研究科委員長、その他学長が必要と認めた者をもって組織する。ただし、必要があるときは、学長が評議会の了承を得て、構成員を追加することができる。

3　評議会は、学長が招集する。

4　評議会の運営その他は別に定める。

（学部教授会）

第 9 条　各学部に、教授会を置く。

2　教授会は、その学部の教授をもって組織する。ただし、必要があるときは、その学部の准教授及び専任の講師を、教授会構成員とすることができる。

3　教授会は、学部長が招集する。

（連合・合同教授会）

第 10 条　工学部及び工学部第二部については、その連合教授会を開くことができる。

2　学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。

3　教授会は、学長に全学部の合同教授会の開催を要請することができる。

（教授会の役割、審議事項）

第 11 条　教授会は、次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べるものとする。

①　学生の入学・卒業に関する事項

②　学位授与に関する事項

③　前 2 号の他、大学に関する重要事項で、その学部の教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2　前項第 3 号の学長が教授会に意見を聴くと定める事項は、別に定める。

3　教授会は、第 1 項の他、学長及び学部長がつかさどる大学等に関する次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、意見を述べることができる。

①　学生の進級・休学・退学等に関する事項

②　教育課程及び授業に関する事項

③　履修・試験・成績等に関する事項

④　学生の厚生補導及び賞罰に関する事項

⑤　学部規則の改正に関する事項

⑥　学部長候補者の推挙に関する事項

⑦　学科長等及び系列主任等の選定に関する事項

⑧　人事のうち教員の教育研究等の業績審査に関する事項

⑨　その他大学に関する事項

4　教授会は、大学校務全般にわたる若しくは各学部に共通する次の事項について審議し、意見を述べることができる。ただし、必要があるときは、全学部の合同教授会においてこれを行う。

①　大学則の改正に関する事項

②　学長室長、学長補佐、教育改善推進室長、入試センター長、学生支援センター長、国際センター長、研究推進社会連携センター長及び総合メディアセンター長の選定に関する事項

③　その他の重要な事項

5　教授会は、前 4 項の他、学長及び学部長が諮問した事項を審議する。

6　学長は、別に定める事項で通常の教育研究に関する教授会における審議結果を追認することにより、決定することができる。

第 4 章　　修学期間及び授業

（修業年限）

第 12 条　修業年限は、4 年とする。

（最長在学年限）

第 13 条　最長在学年限は、8 年とする。ただし、編入学、転入学及び再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の 2 倍に相当する年数とする。

（学年・学期・授業期間）

第 14 条　学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

2　学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各学部において定める。

3　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

4　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（休業日）

第 15 条　休業日は、次の通りとする。

日 曜 日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

創立記念日　9 月 11 日

夏季休業

冬季休業

春季休業

2　夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各学部においてその都度定める。

3　必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

4　休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

（授業の時）

第 16 条　工学部、理工学部、情報環境学部及び未来科学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第 5 章　　教育課程及び単位

（教育課程の編成方針）

第 17 条　本大学においては、学部及び学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2　教育課程の編成に当たっては、当該学部及び学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

3　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

4　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

（授業科目）

第 18 条　授業科目については、各学部規則において定める。

2　各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

3　共通教育科目として、特定の主題について 2 以上の科学の分野にわたる内容を総合した科目を設けることができる。

（履修の要件）

第 19 条　履修の要件については、各学部規則において定める。

2　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、 1 年間または 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部において定めるものとする。

3　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、各学部において定めるものとする。

（他学部等の科目履修）

第 20 条　本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項により修得したものとみなすことのできる科目及び単位数等は、各学部において定めるものとする。

（教員の免許状授与の所要の資格の取得）

第 21 条　教育職員の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。

2　本大学において取得できる免許状の種類は別表第 2 とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は各学部規則において定める。

（単位の算定基準）

第 22 条　各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

2　授業科目の単位数の算定に当たっては、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。

①　講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。

②　実験、実習、製図及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもっ

て１単位とする。

3　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第６章　　試験、成績、進級、卒業及び学位授与

（履修届）

第 23 条　学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

（試　験）

第 24 条　授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。ただし、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

（試験の方法・時期）

第 25 条　試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

2　試験の時期は、学期末とする。ただし、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

（受験資格）

第 26 条　学生は、本学則及びこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

（成績評価・単位認定）

第 27 条　授業科目の成績評価は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ及びＤとし、Ｓ、Ａ、Ｂ及びＣを合格とし、Ｄを不合格とする。

2　試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

3　本学は、第１項に係る成績評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行なうものとする。

（他の大学等における授業科目の履修等）

第 28 条　本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合及び外国の

大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第 29 条　本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第 30 条　本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前 2 項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第 1 項及び第 2 項並びに前条第 1 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（進　級）

第 31 条　本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2　前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

（卒　業）

第 32 条　本大学は、4 年以上在学し、学生が所属する学部における履修要件を満たした者を卒業と認定する。

2　本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として 3 年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

（学位の授与）

第 33 条　本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

2　前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工　学　部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	環境化学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
工学部第二部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
理 工 学 部	理工学科	学士（理学）（東京電機大学）
		学士（工学）（東京電機大学）
		学士（情報学）（東京電機大学）
情報環境学部	情報環境学科	学士（情報環境学）（東京電機大学）
未 来 科 学 部	建築学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）（東京電機大学）
	ロボット・メカトロニクス学科	学士（工学）（東京電機大学）

第 7 章　入学、学籍の異動及び賞罰

（入学の時期）

第 34 条　入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

（入学資格）

第 35 条　本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

①　高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

②　外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

③　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

④　専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑤　文部科学大臣の指定した者

⑥　高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

⑦　その他、本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願手続）

第 36 条　入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

（入学者の選考）

第 37 条　本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2　入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

（入学手続）

第 38 条　入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第 3 に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（保証人）

第 39 条　学生は、在学中、保証人がなければならない。

2　保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

（変更の届）

第 40 条　学生は、氏名、本籍、住所及び保証人もしくはその住所に変更があったときは、すみやかに届出なければならない。

（編入学・転入学）

第 41 条　次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、工学部第二部においては、編入学定員に基づき、選考のうえ、許可する。

①　大学を卒業した者

②　短期大学を卒業した者

③　高等専門学校を卒業した者

④　他の大学で 1 年以上を修了した者

⑤　その他法令により編入学を認められた者

2　他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場

合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

3　前 2 項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

4　本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

（転学部・転学科）

第 42 条　本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

2　転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

（休　学）

第 43 条　傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き 3 ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

（休学期間）

第 44 条　休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。ただし、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

2　休学期間は、通算して 3 年をこえることができない。

3　休学期間は在学年数に算入しない。

4　工学部、理工学部、情報環境学部及び未来科学部においては、休学者は学期ごとに 60,000 円の在籍料を納入する。工学部第二部においては、休学者は学期ごとに 30,000 円の在籍料を納入する。

（復　学）

第 45 条　休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、学部長の許可を受けて、復学することができる。

2　復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

（退　学）

第 46 条　傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

（除　籍）

第 47 条　次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

①　最長在学年数をこえた者

② 工学部、工学部第二部及び未来科学部においては、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級できない者。また、理工学部においては、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級・卒業できない者

③ 学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者

④ 第 44 条第 2 項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者

⑤ 正当な理由がなく、無届で、ひき続き 3 ヶ月以上欠席した者

⑥ 工学部、理工学部、工学部第二部及び未来科学部において、前期分学費を 7 月末日までに、後期分学費を 1 月末日までに納入しない者。情報環境学部においては、前期分学費を 7 月 15 日までに、後期分学費を 12 月 15 日までに納入しない者

（再入学）

第 48 条　本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

（留　学）

第 49 条　本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2　留学期間は 1 年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、1 年未満であっても特別に留学を認めることができる。

3　前項により認められた留学期間については、 1 年を限度として第 12 条に定める修業年数に算入することができる。

4　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

（表　彰）

第 50 条　学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

（懲　戒）

第 51 条　本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2　懲戒の種類は、その情状により、退学、停学及び訓告とする。

3　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行なう。

① 性行不良で改善の見込みがない者

② 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分にいちじるしく反した者

第 8 章　学費及びその他の費用

（学費及びその他の費用）

第 52 条　入学検定料、学費及び科目等履修費は、別表第 3 とする。

2　学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。

3　学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

4　すでに納入した学費及びその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。

5　入学金を除く学費は分納することができる。

第 9 章　研究生、研究員、科目等履修生及び外国人留学生

（研究生・研究員）

第 53 条　本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。

2　本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

（科目等履修生）

第 54 条　本大学の学生以外の者で、本大学で開設している 1 または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

2　科目等履修生については、別に定める。

（外国人留学生）

第 55 条　外国人で第 35 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。

2　外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。

3　外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

（社会人特別学生）

第 56 条　社会人で第 35 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2　社会人特別学生は、企業依託学生及び工学部第二部社会人コース学生とする。

3　社会人特別学生についての事項は、別に定める。

（準　用）

第 57 条　前 3 条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生及び社会人特別学生に準用する。

第 10 章　改正及び雑則

（改　正）

第 58 条　本学則の改正は、評議会の議を経なければならない。

（施行細則その他）

第 59 条　本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

東京電機大学理工学部規則

第1章　総　　則

（趣　旨）

第1条　この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第3条第3項に基づき、理工学部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程及び単位、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

第2条　本学部の教育理念は、「人間性豊かな社会人の育成」と「未来型科学技術者の養成」である。すなわち、理学・工学・情報・生命それぞれの教育研究分野の相乗的融合を図ることにより、倫理性・コミュニケーション能力を備えた人材を育成すると共に、創造的かつ自由な発想と自立性を有する科学技術者を養成する。

2　本学部の理工学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、前項と同様とし、理工学科の各学系においては、次のとおりとする。

(1) 理学系では、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を学び、考察を重ね、それが問題解決のためにどのように用いられるかを学ぶことで、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を育成する。理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門コースを置き、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら深く専門を学ぶことで、高度な専門性と実践力を併せ持った人材を養成する。

(2) 生命理工学系では、生物の持つ高度な機能の本質を理解し、その機能を真に人類のために活用することを目指し、生命科学と生物環境に基礎をおいた教育と研究を行う。生命理工学分野の教育と研究を通じて、適切な基礎知識を養うとともに、今後の人間社会の変化に対して柔軟に対応できる応用力を醸成する。これにより生命に関わる正しい倫理観を具有し、生命の精緻なメカニズムを探究し環境や医療などの諸問題に取り組む力を備えた人材を養成する。

(3) 情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的観点から幅広い分野の教育研究を行う。これにより、複雑化・高度化する社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自

律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成する。

(4) 電子・機械工学系では、技術者として豊かな人間性と電子・機械工学の知識と技術を有し、自動車、ロボット、電子機器、医療機器、福祉機器などのものづくりを通して未来の人間社会に貢献できる技術者を養成する。

(5) 建築・都市環境学系では、21 世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある社会の実現を目指して建築及び都市環境の創造と保全に寄与できる建設技術者を養成する。

第 2 章　学年及び学期

(学年・学期)

第 3 条　学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

2　学年を次の 2 つの学期に分ける。

前学期　4 月 1 日から 9 月 14 日まで

後学期　9 月 15 日から翌年 3 月 31 日まで

第 3 章　教育課程及び単位

(授業科目)

第 4 条　授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第 1 のとおり開講する。

(履修の要件)

第 5 条　本学部における履修の要件については、別表第 2 のとおりとする。

(履修単位の制限)

第 6 条　本学部では、1 年間に履修できる単位数を 48 単位までとする。ただし、自由科目及び学部で指定した科目は、履修できる単位数の上限に含まない。

2　所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて、科目を履修することができる。履修方法は別に定める。

(教員の免許状授与の所要の資格の取得)

第 7 条　本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第 2 とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第 3 とする。

第 4 章　成績及び卒業

（成績評価・単位認定）

第 8 条　本学部は大学則第 27 条に基づき、科目の成績評価を行う。

2　本学部における、成績評価及び GPA（Grade Point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	ＧＰＡポイント
90 ～ 100	S	4
80 ～ 89	A	3
70 ～ 79	B	2
60 ～ 69	C	1
0 ～ 59	D	0
放棄	―	0

（卒　業）

第 9 条　本学部は、4 年以上在学し、第 5 条別表第 2 に規定する履修の要件に従い、合計 124 単位以上を修得した者を卒業と認定する。

2　本学部は、大学則第 32 条第 2 項に定める卒業の基準を別に定める。

（退学勧告等）

第 10 条　学系長は、本学部が定める基準を満たさない者で、学修意欲が継続して欠如していると判断した場合、口頭にて教育的指導を行うとともに、退学予備勧告を行うことができる。

2　学部長は、退学予備勧告を受けた者が、本学部が定める基準をさらに満たさず、学修意欲が認められないと判断した場合、教授会の議を経て、退学を勧告することができる。

3　前各項の基準は、別に定める。

第 5 章　改　　正

（改　正）

第 11 条　この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

学生生活についての規程

（目　的）

第１条　この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

（学生に対する通知・連絡）

第２条　学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて１週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

（学生証）

第３条　学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年４月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

2　学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

3　学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。

4　学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

（保証人）

第４条　学生は、入学手続き時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。

保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

（現住所及び連絡先）

第５条　学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。

（学生による掲示）

第 6 条　学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

2　学内における学生の掲示場所は所定の学生掲示板とする。

3　掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

4　新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。

5　期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

（学生による印刷物の発行・配布）

第 7 条　学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

（学生の学内集会）

第 8 条　学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。

ア　団体名
イ　団体の責任者の氏名
ウ　集会の目的
エ　集会の場所
オ　集会の日時
カ　参加者の人数
キ　学外者参加団体名及び人数
ク　その他

提出期限は原則として、開催日の 1 週間前とする。

2　集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。

3　集会は、東京千住キャンパスにおいては 22 時 20 分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては 21 時までとする。

ただし、東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、他のキャンパスにおいては各学部事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。

4　学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

ア　団体名及び宿泊責任者の氏名

イ　宿泊場所

ウ　宿泊の目的

エ　宿泊人数

オ　宿泊する学生の氏名及び連絡先

カ　宿泊する学生の保証人の連絡先

5　本条で認められている事項は、第 10 条で定める手続きを行っている団体に適用される。なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

（学生の学外における正課外活動）

第 9 条　学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の 1 週間前までに、所定の学外活動願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

（団体の結成）

第 10 条　学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに願い出ること。

2　団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

3　学生の団体の継続については、毎年 5 月末日現在における所属学生の名簿を、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体については、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長が、他の学部においては、各学部事務部長が解散したものとみなす。

部室使用に関する内規

（目的）

第１条　この内規は、東京電機大学がその教育方針に基づき、課外活動の健全な育成、発展をはかるために学生団体に貸与する専用部室の使用に関し、必要な事項を定める。

（使用者）

第２条　部室を使用できる者は、学生生活についての規程が定める学生団体及びそれに所属する学生とする。また、部外者が、みだりに立ち入ることを禁止する。

（施設等管理者及び指導）

第３条　部室の施設等管理者は、学生支援センター長、管財部長、総合メディアセンター長、部顧問とし、部室の管理運営上の指導を行う。

2　前項に加え、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部長、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部長も施設管理者となる。

3　施設・設備の管理上及び防災上等で必要な場合に、施設等管理者及び施設等管理者の命を受けた者が部室に立ち入ることがある。

（遵守事項）

第４条　部室を使用する者は、次の事項を遵守し、施設等管理者の指示に従わなければならない。

(1) 本来の目的のみに使用し、通常の課外活動に必要としない物品は持込まないこと。
(2) 施設設備の改装等を行わないこと。
(3) 整理整頓に心掛け、特に火災・盗難の予防ならびに衛生に留意すること。
(4) 建物内では、下駄、スパイク等を使用しないこと。
(5) 活動上不必要な掲示を行わないこと。
(6) 部室内で飲酒・喫煙を行わないこと。
(7) 暖房・電灯・水道及び電話等の使用について節約に努めること。
(8) 使用時間内といえども、教育研究に支障をきたすような活動を行わないこと。
(9) 使用が終わったときは、火気・戸締り等を点検の上、異常のないことを確認すること。
(10) その他学生としての良識に従って使用すること。

（使用期間）

第５条　部室を使用できる期間は１年間とし、学生生活についての規定が定める学生団体の継続手続をもって更新手続とする。新規使用については、部室の空室状況に応じて検討する。

（使用時間）

第６条　部室を使用できる時間は、東京千住キャンパスの部室においては学生支援センター、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部において別に定める。

（使用責任）

第７条　部室を使用する者は、この内規の定めるところに従って日常これを使用し、一切の使用上の責任を負うものとする。

（破損の修理）

第８条　施設、備品等を破損、汚損等した場合は、次に掲げる施設等管理者に速やかに届け出なければならない。

(1) 東京千住キャンパスの施設、備品等　　学生支援センター長
(2) 埼玉鳩山キャンパスの施設、備品等　　理工学部事務部長
(3) 千葉ニュータウンキャンパスの施設、備品等　情報環境学部事務部長

2　正規の使用中で正当な行為による場合の他は、その学生団体又は個人がこれを修復又は弁償する。

（使用の禁止等）

第９条　部室を使用する者が、この内規に違反し、または施設等管理者の指示に従わないときは、部室の使用を禁止することができる。

（内規の改廃）

第10条　本内規の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経て、学生支援センター長が決定する。

試験に関する細則

（目的）

第１条　本細則は、大学及び大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

（試験の種類）

第２条　試験は学期末試験、中間試験、追試験とする。

2　学期末試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末又は学年末に履修終了の認定のために行う試験をいう。

3　中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。

4　追試験は急病等真にやむを得ない事情により、学期末試験又は中間試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。

5　第１項に定めるほか再試験を加えることができる。

（再試験）

第３条　再試験は前条第２項に定める試験の成績不良のため履修終了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修終了の認定にあてることができる。

（受験資格）

第４条　学期末試験又は中間試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修登録を行い、かつ、その授業に常時出席していなければならない。

2　第２条第１項に定める試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。

3　追試験は学期末試験の受験資格をみたし、かつ、学部事務部が指定する期間内に所定の手続きをした学生につき考慮するものとする。なお、中間試験における追試験については科目担当者の指示によるものとする。

（追・再試験の手続き）

第 5 条　追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて追試験願を学部事務部に提出し、受験票の交付を原則受けなければならない。

2　特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続きをしなければならない。

（学生証、受験票の提示）

第 6 条　学期末試験の受験者は定刻までに試験室に入り、つねに学生証を机の上に置かなければならない。

2　追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

（遅刻及び退室）

第 7 条　受験者の遅刻は、試験開始後 30 分以内は認める。ただし、試験時間は延長しない。

2　受験者の退出は、試験開始後 40 分を経過してから許可する。

3　前 2 項については、当該学部教授会または研究科委員会の議を経て、取扱いを変更することができる。

（試験監督者）

第 8 条　試験監督者は、当該試験実施について一切の権限を有する。

2　試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

3　試験監督者については、前 2 項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

（不正行為）

第 9 条　試験監督者は、試験中に不正行為を行った学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

2　試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときは、その答案を取上げた上退室を命ずることができる。

3　前 2 項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

（不正行為に対する処置）

第 10 条　前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

(1) 当該試験の属する学期末試験の一部又は全部を無効とする。

(2) 当該試験を無効とする。

特別奨学生規程

（目　的）

第１条　この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ、学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

（基　金）

第２条　この奨学金の基金は、次の各号の基金をもって構成する。

(1) 桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金

(2) その他の基金

（奨学金）

第３条　奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

2　奨学金の各校への配分は、当該年度の予算に計上して行う。

（給付額）

第４条　奨学金の給付額は、各学校の学則に定める当該年度の学費の一部若しくは全額とする。

2　給付金は、学費に充当しなければならない。

（奨学生の選考、決定、採用等）

第５条　奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

2　前項により奨学生を採用したときは、学校の長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

（奨学生の資格の喪失）

第６条　奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

(1) 学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

(2) 成績不良若しくは素行不良のとき。

(3) 学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

2　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

（事務）

第 7 条　奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。

2　前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

（実施）

第 8 条　この規程の実施についての必要事項は別に定める。

理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

（目　的）

第１条　この取扱細則は、理工学部学生の車両通学及び埼玉鳩山キャンパスにおいて学生が運転する車両の駐車に関し必要な事項を定める。

（車両の定義）

第２条　この取扱細則でいう車両とは、道路交通法に基づく運転免許を要する車両をいう。

（車両通学の許可願）

第３条　車両を運転して通学を願い出る者（以下「車両通学者」という。）は、別紙により必要事項記入の上理工学部長あてに申請しなければならない。

（許　可）

第４条　理工学部長は申請があった者の内で、次の条件を具備若しくは合致している場合は駐車許可証（以下「許可証」という。）を発行する。許可証の発行を受けていない者の車両による通学は認めない。

(1) 公共の交通機関を利用して通学することが客観的判断に照らして著しく困難な者

(2) 原則として運転免許証取得後６カ月以上を経過していること。

(3) 自動車損害賠償責任保険及び次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対　人　賠　償	対　物　賠　償	搭 乗 者 賠 償
四　　輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

(4) 道路運送車両法による１年毎の定期点検整備を受けていること。

（許可証の有効期間）

第 5 条　許可証の有効期間は当該年度内とする。

（順守事項）

第 6 条　車両通学者は、道路交通法等の関係法令及び学内諸規程を順守し、安全運転の励行に努めなければならない。

（許可の取消及び違反者の処置）

第 7 条　車両通学者が道路交通法等の関係法令及び学内諸規程に違反した場合並びに第 4 条の条件を具備若しくは合致しない場合は、理工学部長は車両通学許可を取消すことができる。

2　前項における違反者に対しては、次のとおり段階的に処置することとする。

①　本人に対する警告

②　前号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、学部長より厳重に訓戒する。

③　第 2 号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、車両通学許可を取消すこととする。

3　前項第 3 号により車両通学許可を取消された者が車両で通学した場合、学則第 46 条に則り、停学または退学処分とすることができる。

（事故処理）

第 8 条　車両通学者が運転中に起こした事故について大学は一切責任を負わない。

2　埼玉鳩山キャンパスに車両を駐車している間に生じた破損、盗難等の事故について大学はその補償を行わない。

3　前各項の事故が発生したときは当事者はその内容を理工学部事務部（学生厚生担当）に連絡しなければならない。

（安全運転講習会）

第9条　大学は車両通学者を対象にした安全運転講習会を必要に応じて実施することとする。

2　車両通学者は前項の講習会に出席しなければならない。理由なく欠席した者には駐車許可を取消すことがある。

（その他の事項）

第10条　駐車中は許可証を車内の見えやすいところにおかなければならない。

2　許可証は他人に貸与してはならない。

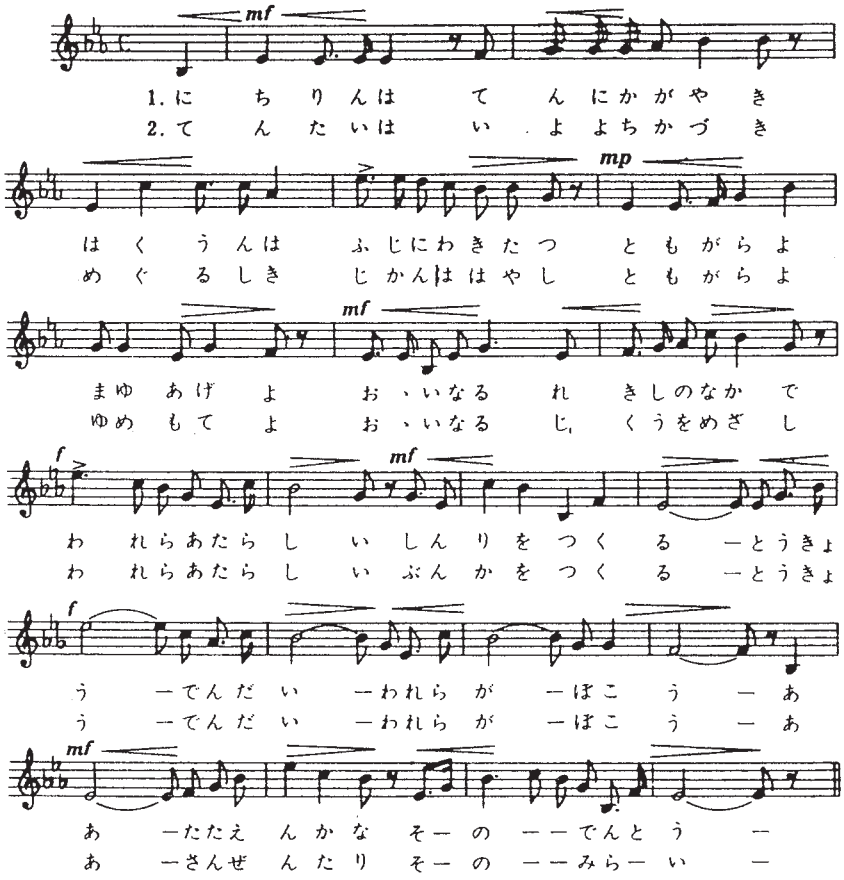
3　許可証を紛失したときは理工学部事務部（学生厚生担当）に直ちに届け出なければならない。

4　指定の駐車場以外には駐車をしてはならない。

東京電機大学　校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



東京電機大学校歌

一

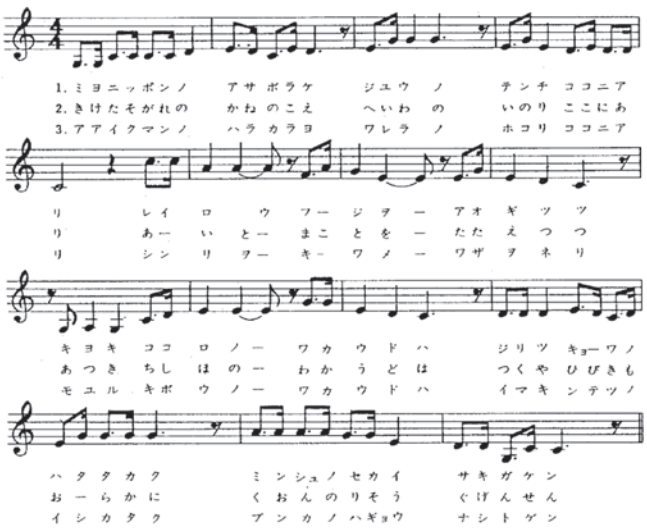
日輪(にちりん)は　天にかがやき
白雲(はくうん)は　富士に沸(わ)きたつ
朋(とも)がらよ　眉(まゆ)あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創(つく)る
東京電大　われらが母校
あゝ讃(たた)えん哉(かな)
その伝統

二

天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋(とも)がらよ　夢もてよ
大いなる　時空(じくう)をめざし
われら新しい　文化を創(つく)る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然(さんぜん)たり
その未来

東京電機大学　学生歌

望月直文 作詞
田辺尚雄 作曲



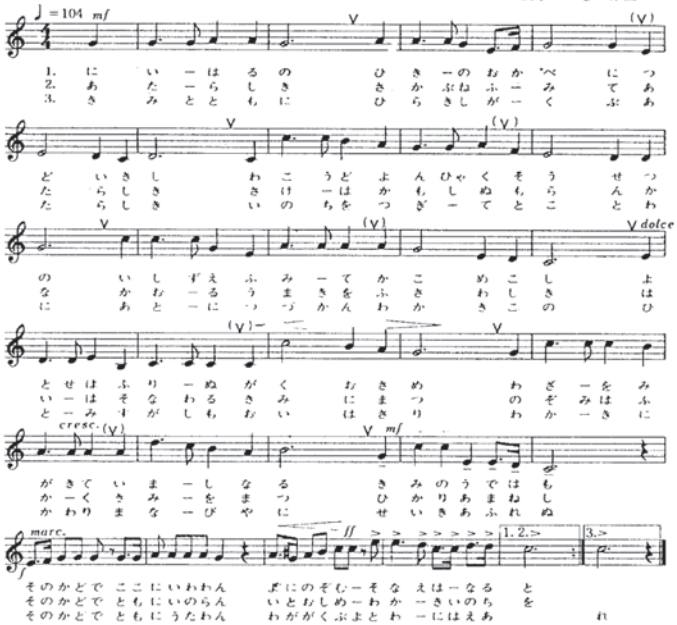
一、見よ日本のあさぼらけ
自由の天地ここにあり
玲瓏富士を仰ぎつつ
高潔き心の若人は
自律協和の旆高く
民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音
平和の祈願ここにあり
信愛と誠実をたたえつつ
熱き血潮の若人は
撞くや響もおほらかに
久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ
我等の誇りここにあり
真理を究め技術を錬り
燃ゆる希望の若人は
今金鉄の意志かたく
文化の覇業なしとげん

東京電機大学理工学部　讃歌

小泉　馨夫 作詞
橋本　忠 作曲



一、新春の比企の丘辺に
集い来し若人四百
創設の礎踏みて
固め来し四年は経りぬ
学修め業を磨きて
今し鳴る君の腕はも
その門出茲に祝わん
世に臨む備は成ると

二、新しき酒槽踏みて
新しき酒は醸しぬ
盛らん哉香る甘酒を
ふさわしき杯は備る
君に待つ望は深く
君に待つ光汎し
その門出共に祈らん
自愛しめ若き命を

三、君と共に拓きし学部
新しき生命を継ぎて
永遠に後に続かん
若き等の瞳清しも
老は去り若きに代り
学舎に生気溢れぬ
その門出共に唱わん
「吾が学部よとわに栄あれ」

埼玉鳩山キャンパス

理工学部

理工学研究科（修士）、先端科学技術研究科（博士）

〒 350 － 0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

【理工学部事務部窓口取扱い時間】

月～土　　9：20 ～ 17：00

（休憩時間）　11：30 ～ 12：30

東京千住キャンパス

工学部、工学部第二部、未来科学部

工学研究科（修士）、未来科学研究科（修士）、

先端科学技術研究科（博士）

〒 120 － 8551 東京都足立区千住旭町 5 番

千葉ニュータウンキャンパス

情報環境学部

情報環境学研究科（修士）、先端科学技術研究科（博士）

〒 270 － 1382 千葉県印西市武西学園台 2 － 1200

本冊子は新入生のみ配布されます。
卒業するまで大切に取扱いください。

平成 28 年 4 月 1 日　発行

編　者　　理工学部事務部教務担当
発行者　　東京電機大学理工学部
〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
電話　049（296）0430

印刷所　　関根印刷所
〒360-0113　埼玉県熊谷市御正新田 413-5
電話　048（536）0162

〔非売品〕

TDU